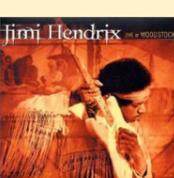
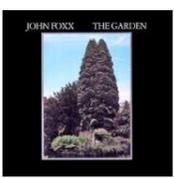
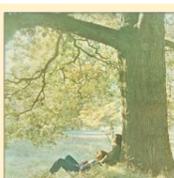
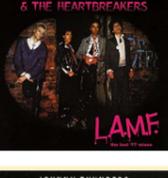
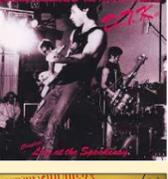
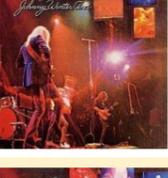
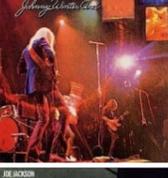
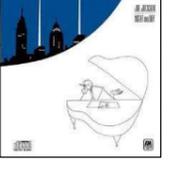
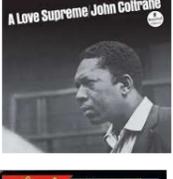
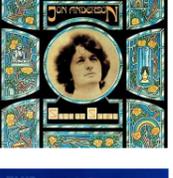


| | | | | | | | | | |
|--------------------------|------------|---|-------|---------|------|-----|---|---|---|
| JAMES WHITE & THE BLACKS | オフ・ホワイト |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 70年代後期のノーウェーブ・シーンを代表するバンド、コンソーシアムを率いた白人「ジェームス・ホワイト」が「アンド・ザ・ブラックス」名義でリリースした79年アルバム。ニューヨーク・アンダーグラウンド・シーンにおけるファンク/ディスコ・サウンドを追求したダンスアルバムでスリリングな名曲満載の作品で、「Comfort Yourself」(Tropical Heatwave)などを含むTalking HeadsやDevoのファンにオススメ。チャンス以外のメンバーがヴォーカルを取る楽曲もあり、コンソーシアム名義作品よりもヴァリエーションに富んだ、よりフリーキーなサウンドが楽しめる。 | Side A 1. コントラ・ユアセルフ 2. ヨコシタ・シート 3. ヒート・ウェーブ 4. オールモスト・ブラック Part 1 Side B 1. ホワイト野蠻人 2. オフ・ブラック 3. オールモスト・ブラック Part 2 4. ホワイト・デヴィル 5. プリーチッド・ブラック | |
| JANIS IAN | 愛の回想録 |  | 1975 | ポップス | レコード | 日本 | NY出身。弱冠15歳でデビューした早熟な天才少女が、紆余曲折を経て24歳の時にリリースした7作目で、全米アルバム・チャート1位を獲得。私小説のような省的な歌詞、ジャズやボサノヴァの要素を取り入れたアレンジ、室内楽を思わせる静かなアンサンブルに心が洗われるような作品。自身の経験をもとにしたとされる「17歳の頃」、全米シングル・チャート3位の大ヒットになった他、最近でも携帯電話のテレビCMで使用されリバイバル・ヒットした。グラミー賞で最優秀女性ヴォーカル賞にも輝き、彼女の代表作といわれる。本作以降「恋は盲目(ラヴ・イズ・ブラインド)」「ウィル・ユー・ダンス?」など大ヒットが続き、日本では高い人気を集めた。(1975年作品) | Side A 1. パーティが終わったら 2. 17歳の頃 3. 置き手紙 4. 約束事 5. 冬の部屋 6. 思い出の水彩画 | Side B 1. 愛の回想録 2. 一晩だけの恋人 3. 灯りを下さい 4. お茶と同情 5. 愛する人の子守唄 |
| JANIS IAN | 愛の余韻 |  | 1976年 | ポップス | レコード | 日本 | 1976年リリース。繊細な感性と柔らかな歌声で人気を博した彼女の8枚目のアルバム。全米チャートで12位を記録した。日本では「恋は盲目(ラヴ・イズ・ブラインド)」がテレビドラマ「グッド・バイ・ママ」の主題歌に起用されて大ヒットし、本作もオリコン・チャートの1位を獲得するなど本国以上の支持を得た。彼女らしい愛いを含んだメランコリックな曲調の楽曲のほかにサルサを取り入れるなどシンガー・ソングライターとして飛躍作となった。暖かさ、やさしさに満ちた彼女の楽曲は、いつものように平易な言葉で表現されるが、デリケートで女性ならではの見方があり都会的なクールさをたたえて迫ってくる。彼女の大きく飛躍した本作は尊敬するオデッタやフィービー・スノウの参加もあり、ラテンの要素なども取り入れたもので意欲と進境が聴くものの中に | Side A 1. 愛の余韻 2. 踊りたいのに 3. 恋は盲目 4. パラの少女 5. ブルースの華 | Side B 1. 朝にお別れを 2. 酔いに身をまかせて 3. 悪い夢 4. 疲れ果てた心 5. 聖なる歌 |
| JANIS IAN | 奇跡の街 |  | 1977年 | ポップス | レコード | 日本 | 1977年発表の9枚目のアルバム。室曲彼女のオリジナル作品。このアルバムからはTBSテレビのドラマ「崖辺のアルバム」に主題歌として「ウィル・ユー・ダンス」が起用され、そのシングルやLPも大ヒットを記録。敏感な日本のファンはどこか東洋的な彼女のなかに日本人の感覚と一致する細やかな情感を感じたのだ。このアルバムの特色は若々しく意欲的なサウンド作り。プロデューサーはこれまでと違いロン・フランジベーン。いままでのように厚味のあるものではなくシンプルなサウンド作りを志向している。メロディー・ラインも変化に富んだ複雑なもの。ひとつひとつとどまることを嫌い、変化し、より音楽的な高みを目指す彼女の意欲の現れだ。ストリングスを配した前作までの暖かいサウンドを離れ、エレキギター、ベース、ドラム、キーボードのバンドアレンジで全曲を通し、とてもドライなサウンドになった。私的には彼女の作品で一番好きなアルバム | Side A 1. パーティー・ライツ 2. あなたの微笑 3. サンセット・オブ・ユア・ライフ 4. テイク・トゥ・ザ・スカイ 5. キャンドルライト | Side B 1. 一人にして 2. スローダンス・ロマンス 3. ウィル・ユー・ダンス 4. アイル・クライ・トゥナイト 5. 奇跡の街マリア |
| JANIS IAN | ジャンスの部屋 |  | 1977 | ポップス | レコード | 日本 | この時期、新しくアメリカを代表とするシンガーとなった「ジャンスイアン」のこれまでリリースしたオリジナルアルバム4枚から本人が選曲したベスト11曲をアルバムにしてリリース。名曲「ラブ・イズ・ブラインド」「ウィル・ユー・ダンス」「愛の回想録」「スターズ」など含む。 | Side A 1. ウィル・ユー・ダンス 2. ラブ・イズ・ブラインド 3. 我が心のジェシー 4. 踊りたいのに 5. 冬の部屋 6. スターズ | Side B 1. 17歳の頃 2. 愛の回想録 3. 我が心のジェシー 4. 約束事 5. 奇跡の街マリア |
| JANIS JOPLIN | チープ・スリル |  | 1968 | ポップス | レコード | 日本 | 1968年8月には「Cheap Thrills」をリリース。10月にはビルボードチャートでNo.11になり、合計8週間1位を記録。1968年の終わりに100万枚を売上、その年の最も成功したアルバムの一つとなった。彼女の大ヒット曲である「Piece of My Heart」を収録。ジャケットは当初メンバー全員が裸でベッドに横たわっている写真をジャケットとして使う、というものだったが、レコード会社が却下され、漫画家ロバート・クラムによる絵が使われている。このアルバムはライブ・レコーディングであるかのように観客の歓声が聞こえてくるが、これはあとからオーバーダブで付け加えられたもので、収録曲のほとんどがスタジオ録音であり、ライブ録音されたのは最後のトラック「Ball and Chain」のみである。元々ライブに定評があったバンドであったため、前年のデビューアルバムはジャンス本人も「裏レコード」として香港発の4枚目のアルバム。本作が完成する前の1970年10月4日に27歳の若さでジャンスが亡くなり(薬物の過剰摂取で急死)、1971年1月に遺作として発表された。アルバム・タイトルは、ジャンスの愛称になんている。シングル「ミー・アンド・ボビー・マギー」、アルバム共に全米1位(『ビルボード』誌のチャート)を記録。特にアルバムの方は、9週連続で1位だった。ジャンスの新たなバック・バンドであるフル・ティール・ブギー・バンドを従えて制作された。ピアノ奏者とオルガン奏者がいる、ツイーン・キーボード体制ということもあって、ゴスペル色の濃い仕上がりとなった。プロデューサーは、長い間アーズを手掛けてきたポール・A・ロスチャイルド。当日にボーカルを録音する予定だった「生きながらブルースに葬られ」は人生を猛スピードで駆け抜けた彼女へのレクイエムでインストゥルメンタルとして収録。「恋は盲目」は、忘れぬべき振替のままで収録本 | SIDE A 1. ふたりだけで 2. 愛する人が欲しい 3. サマータイム 4. 心のカケラ | SIDE B 1. タートル・ブルース 2. オー、スウィート・マリー 3. ポールとチェリー |
| JANIS JOPLIN | パール |  | 1971 | ポップス | レコード | US | ジャンスの若さでジャンスが亡くなり(薬物の過剰摂取で急死)、1971年1月に遺作として発表された。アルバム・タイトルは、ジャンスの愛称になんている。シングル「ミー・アンド・ボビー・マギー」、アルバム共に全米1位(『ビルボード』誌のチャート)を記録。特にアルバムの方は、9週連続で1位だった。ジャンスの新たなバック・バンドであるフル・ティール・ブギー・バンドを従えて制作された。ピアノ奏者とオルガン奏者がいる、ツイーン・キーボード体制ということもあって、ゴスペル色の濃い仕上がりとなった。プロデューサーは、長い間アーズを手掛けてきたポール・A・ロスチャイルド。当日にボーカルを録音する予定だった「生きながらブルースに葬られ」は人生を猛スピードで駆け抜けた彼女へのレクイエムでインストゥルメンタルとして収録。「恋は盲目」は、忘れぬべき振替のままで収録本 | SIDE A 1. ジャンスの祈り - Move Over (Janis Joplin) 2. クライ・ベイビー - Cry Baby (Jerry Ragovoy, Sam Bell) 3. 寂しく待つ私 - A Woman Left Lonely (Dan Penn, Spooner Oldham) 4. ハーフ・ムーン (John Hall, Johanna Hall) 5. 生きながらブルースに葬られ - Buried Alive In The Blues (Nick Gravenites) | SIDE B 1. マイ・ベイビー (J. Ragovoy, Mort Shuman) 2. ミー・アンド・ボビー・マギー (Kris Kristofferson, Fred Foster) 3. ベンツが欲しい Mercedes Benz (J. Joplin, Bob Neuwirth) 4. トラスト・ミー (Bobby Womack, Michael McClure) 5. 愛は生きているうちに - Get It While You Can (J. Ragovoy, M. Shuman) |
| JAPAN | 果てしなき反抗 |  | 1978 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | シニカルな世界観に貫かれたポップ・サウンドでUKだけでなく日本でも多くのファンを獲得したデヴィッド・シルヴィアン率いるJapan 78年発表の記念すべきデビューアルバム。プロデューサーにプリティッシュ・サイケグループのニルヴァーナのオリジナル・メンバーだったギタリストのレイ・シンガーを迎えた本作は、黒人音楽を独特の解釈で消化した70年代のグラム・ロック的なチャミングさとバンドの個性が光る1枚。 | Side A 1. 魅惑への招待 04:46 2. 奇しい絆 03:03 3. 黒人ならば 04:50 4. 美しき愛欲 04:37 5. 表通りの愛人達 04:09 6. バレードに雨を降らせないで 02:56 | Side B 1. 愛の回転木馬 07:28 2. 果てしなき反抗 03:47 3. コミュニスト・チャイナ 02:44 4. 誘惑のスクリーン 09:14 |
| JAPAN | 果てしなき反抗 |  | 1978 | ニューウェイブ | レコード | UK | | | |
| JAPAN | 果てしなき反抗 |  | 1978 | ニューウェイブ | CD | ドイツ | | | |
| JAPAN | 苦悩の旋律 |  | 1978 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 78年作、ジャパンのセカンド・アルバム。特筆すべきはその音楽性で、このバンドの急激な進化を物語るサウンドには、今聴いても驚かされる。前作でのファンクとハード・ロックが融合したユニークなバンド・サウンドも見られますが、時代がニュー・ウェイブを欲していた事とリンクするかの様に、レゲエの導入、デヴィッド・ボウイ、ブライアン・フェリー以降の欧州的ダンス・ミュージックに目覚めているのが、新たな個性となっています。アイドル・バンドとしての認知が先行する中、こんなにもアヴァンギャルドな音を出していた事実、改めて驚かされる傑作。本人達は失敗作としているようですが、かなり魅力的なアルバムで、個人的にはグラム・パンク・メタルでも呼びたい大名盤です。特筆的なのは劇的な音楽的進化を遂げたこのバンドの最大の魅力である、そのアルバム『QUIET LIFE』。それまでのグラム・ロック・サウンドからより深みのあるヨーロッパ的なテイストを持つサウンドへと方向性を推し進めていったアルバム。新しい10年を定義するような全く新しいサウンドのレコードをリリースしようとしていたバンドには、他に類を見ないほどふさわしいものだったと言え、80年代初頭のオルタナティブ、ニュー・ウェイブ、ニュー・ロマンティック・サウンドの先駆けとなった作品だと言えるであろう。今作はイギリスのトップ50には入らなかったが、その永続的な影響力は何10年にもわたって感じられ、今では普遍的に、この時代の偉大なイギリスのクラシック・アルバムの一つとして認められているのだ。キーボード奏者のリチャード・バルビエリは、「大きな変化は、デヴィッド・シルヴィアンが、これまで多くの曲を作曲して書き始めたことだ。このことは、より多くのファンと | Side A 1. オートマティック・ガン 2. 熱きローデシア 3. 愛の伝染 4. 孤独な安らぎ | Side B 1. 苦悩の旋律 2. 果てしなき反抗 3. 郊外ベルリン 4. 愛の住人 |
| JAPAN | クワイエット・ライフ |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 78年作、ジャパンのセカンド・アルバム。特筆すべきはその音楽性で、このバンドの急激な進化を物語るサウンドには、今聴いても驚かされる。前作でのファンクとハード・ロックが融合したユニークなバンド・サウンドも見られますが、時代がニュー・ウェイブを欲していた事とリンクするかの様に、レゲエの導入、デヴィッド・ボウイ、ブライアン・フェリー以降の欧州的ダンス・ミュージックに目覚めているのが、新たな個性となっています。アイドル・バンドとしての認知が先行する中、こんなにもアヴァンギャルドな音を出していた事実、改めて驚かされる傑作。本人達は失敗作としているようですが、かなり魅力的なアルバムで、個人的にはグラム・パンク・メタルでも呼びたい大名盤です。特筆的なのは劇的な音楽的進化を遂げたこのバンドの最大の魅力である、そのアルバム『QUIET LIFE』。それまでのグラム・ロック・サウンドからより深みのあるヨーロッパ的なテイストを持つサウンドへと方向性を推し進めていったアルバム。新しい10年を定義するような全く新しいサウンドのレコードをリリースしようとしていたバンドには、他に類を見ないほどふさわしいものだったと言え、80年代初頭のオルタナティブ、ニュー・ウェイブ、ニュー・ロマンティック・サウンドの先駆けとなった作品だと言えるであろう。今作はイギリスのトップ50には入らなかったが、その永続的な影響力は何10年にもわたって感じられ、今では普遍的に、この時代の偉大なイギリスのクラシック・アルバムの一つとして認められているのだ。キーボード奏者のリチャード・バルビエリは、「大きな変化は、デヴィッド・シルヴィアンが、これまで多くの曲を作曲して書き始めたことだ。このことは、より多くのファンと | 1. Quiet Life 2. Fall in Love with Me 3. Despair 4. In Vogue 5. Halloween 6. All Tomorrow's Parties 7. Alien 8. The Other Side of Life | |
| JAPAN | 孤独の影 |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ヴァージンに移籍してリリースされた通算4作目。前作『クワイエット・ライフ』で見せたヨーロッパ的耽美主義を推し進め、唯一無二のジャパン・サウンドが確立された作品。坂本龍一と共作した「テイキング・アイランズ・イン・アフリカ」、エリック・サティの「ジノベティ」にインスパイアされた「ナイトポーター」などを収録。 | 1. 孤独な影 2. スウィング 3. パーニング・ブリッジ 4. マイ・ニュー・キャリアー 5. ストックス・オブ・ダンス 6. エイント・ザット・ベキュリアー 7. ナイトポーター 8. テイキング・アイランズ・イン・アフリカ | |
| JAPAN | 鍼力の太鼓 |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | JAPANの通算5作目となるラスト・アルバムにして、自身の最高傑作といわれるアルバム。E.U.的な美意識とアフリカ〜中近東、アジアに対するオリエンタリズムが融合。ジャパン独特のファンクネスとアンビエントな感覚と交錯した高い完成度を誇る作品。全英チャート5位を記録した「ゴウツツ」、同じく32位とスマッシュ・ヒットした「ヴィジョンズ・オブ・チャイナ」などを収録。アルバムもキャリア・ハイとなる12位をマークした。 | 1. ジ・アート・オブ・パーティーズ 04:12 2. トーキング・ドラム 03:35 3. ゴウツツ 04:36 4. カントン 05:35 5. スティル・ライフ・イン・モウビル・ホームズ 05:35 6. ヴィジョンズ・オブ・チャイナ 03:39 7. サンズ・オブ・バイオニアズ 07:09 8. カントニーズ・ボーイ 03:51 | |
| JAPAN | ザ・シングルズ |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 未発表曲「ステイトライン」を含むJAPAN、シングル・ベスト・コレクション。 | Side A 1. ライフ・イン・トーキョー 2. ヨーロピアン・サン 3. ステートライン Side B 1. 奇しい絆 2. クワイエット・ライフ 3. セカンド・ザット・エモーション | |

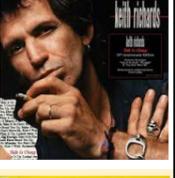
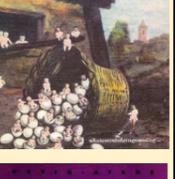
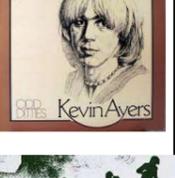
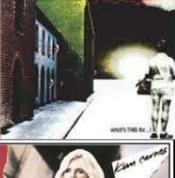
| | | | | | | | | |
|----------------------------------|------------------------|--|---------|----------|------|--------------|---|--|
| J.D. SOUTHER | ユア・オンリー・ロンリー | | 1979 | AOR | レコード | US | 1979年作品。今作は、大ヒット「ユア・オンリー・ロンリー」を収録した三枚目のソロアルバムになる。JD独特の歌心に溢れたメロディー、シンプルなロックンロールなどアーティスト性と興行性が感じられる出来上がりで、彼の長年の友人がゲストとして参加し彩りを与えている。他にも「ティル・ザ・バーン・ダウン」「ザ・ムーン・ジャスト・ターンド・ブルー」「トラブル・イン・パラダイス」とカントリー・ロックの軽快な曲が有ったり、「ラスト・イン・ラヴ」「ソングス・オブ・ラヴ」のようなバラード曲が有り。全9曲 | 01. You're Only Lonely 02. If You Don't Want My Love 03. The Last in Love 04. White Rhythm and Blues 05. Til the Bars Burn Down 06. The Moon Just Turned Blue 07. Songs of Love 08. Fifteen Bucks 09. Trouble in Paradise |
| Jeff Beck Group | トゥルース | | 1968 | ハードロック | レコード | UK | 1968年に発表されたデビュー作。参加メンバーのロッド・スチュワート、ロッド・ワットにとってはキャリア初の出世作となった。ビルボード200での最高位15位。このアルバムはレッド・ツェッペリン結成における最大のヒントとなったといわれている。収録曲の大半はブルース・カヴァーであり、ジェフリー・ロッド名義のオリジナルもブルース・ナンバーの改作であった。しかしながら、プロデューサーのミック・モストの意向はドノヴァンのレコーディングと重なったため反映されず、本作はベックの意向が十分に反映されたアルバムとなった。今でこそしわがれ声のロック・ボーカリストは珍しくもないが、ベックの歪んだギターにロッドの歪んだ声を拮抗させる、という発想はそれまでになかった。アメリカでは発売3日で初回プレスが4万枚が売り切れ、追加プレスされることとなる。この頃、ゲスト参加したニック・ホプキンスが正式メンバーとなっている。バロックなボーカルとよき需 | Side 1 シェイプス・オブ・シングス - Shapes of Things (Chris Dreja, Jim McCarty, Keith Relf and Paul Samwell-Smith) 3:19 レット・ミー・ラヴ・ユー - Let Me Love You (Jeffrey Rod Jeff Beck & Rod Stewartの共作という意の言葉遊び) 4:42 モーニング・デュ - Morning Dew (Bonnie Dobson and Tim Rose) 4:41 ユー・ショク・ミー - You Shook Me (Willie Dixon and J. B. Lenoir) 2:30 |
| Jeff Beck Group | トゥルース | | 1968 | ハードロック | CD | 日本 | | |
| Jeff Beck Group | ベック・オラ | | 1969 | ハードロック | レコード | UK | 1969年にリリース、イギリスではEMI、アメリカではエピック・レコードからリリース。ジャケットに使用された絵はルネ・マグリットの「La Chambre d'écoute」という1952年の作品。リリース後にミック・ウオーラーとロン・ワットに解雇し、新たにドラーマンにトニー・ニューマン、ベースにダグラス・ブレイクが加入したが、ダグラスの力量の低さに再びロンワットを加入。本作はロンドンのキングスウェイ・スタジオで制作。収録曲は前作と変わってオリジナルが大半を占め、カヴァーは「オール・シュック・アップ」「監獄ロック」の二曲のみである。 | Side A オール・シュック・アップ - All Shook Up (Otis Blackwell) 4:53 スパニッシュ・ブーツ - Spanish Boots (Jeff Beck, Rod Stewart and Ron Wood) 3:37 ガール・フロム・ミル・ヴァレー - Girl From Mill Valley (Nicky Hopkins) 3:49 監獄ロック - Jailhouse Rock (Jerry Leiber and Mike Stoller) 3:14 Side B プリンス - Plynth (Water Down the Drain) (Nicky Hopkins, Rod Stewart and Ron Wood) 3:08 |
| Jeff Beck Group | ベック・オラ | | 1969 | ハードロック | CD | 日本 | | |
| Jeff Beck Group | ラフ・アンド・レディ | | 1971 | ハードロック | レコード | 日本 | 1971年にリリース、再びメンバーを代えて第二期ジェフ・ベック・グループとしてのアルバム。ロンドンのアイランド・スタジオで制作。本作ではブラック・ミュージックからの多大な影響が見て取れる。メンバーにボブ・テンチ、クワイヴ・チャーマンといった黒人アーティストを加えた点からも、ベックがブラック・ミュージックに対するこだわりを持っていたことが窺える。 1970年代のレコードには4チャンネル・ステレオ盤が存在し、本作も4チャンネル盤がリリースされたが、ミックスが異なっており、中にはテイクが異なる曲も存在している。 | Side A 1. ガット・ザ・フィーリング (J. Beck) 4:46 2. シチュエーション (J. Beck) 5:26 3. ショート・ビジネス (J. Beck) 2:34 4. マックス・チューン (Raynes Park Blues) (M. Middleton) 8:24 Side B 1. アイヴ・ビーン・ユーズド (J. Beck) 3:40 2. ニュー・ウエイズ/トレントレイン (J. Beck) 5:52 3. ジョディ (J. Beck-B. Short) 6:06 |
| Jeff Beck Group | ジェフ・ベック・グループ | | 1972 | ハードロック | レコード | ホーランド? UKか不明 | 1972年にリリース。ジャケットデザインにオレンジがアップされ、通称『オレンジ・アルバム』と呼ばれる。本作でブッカー・T&ザ・MG'sのギタリストであるスティーヴ・クロッパーにプロデュースを依頼する。この人選はブラック・ミュージックに対する理解がより明確に現れた。レコーディングはメンフィスのTMIスタジオで行われた。本作も前作同様4チャンネル・ステレオ盤が存在し、全曲のミックスが異なっている。数曲でギターのテイクが異なる曲も存在している。 | Side A 1. アイスクリーム・ケーキ (Beck) 5:40 2. グラッド・オール・オーヴァー (Bennett, Schroeder, Tepper) 2:58 3. 今宵はきみと Tonight I'll Be Staying Here With You (Dylan) 4:59 4. シュガー・ケイン (Beck, Cropper) 4:07 5. 燃らぬ愛 - I Can't Give Back the Love I Feel for You (Ashford, Holland, Simpson) 2:42 Side B 1. ゴーイング・ダウン (Nix) 6:51 |
| (Jeff Beck)Beck, Bogert & Appice | ベック・ボガート・アンド・アピス | | 1973 | ハードロック | レコード | 日本 | 73年リリース作。ジェフ・ベック、ティム・ボガード、ボニー・アピスによる「クリーム」以来の最強ロック・トリオと言われたBBAの唯一のスタジオ・アルバムです。元々ヴァニラ・ファッジにいたリズム隊の二人をベックに紹介したのがジョン・ポナムという事で、歴史が大きく動くこととなりますが、様々な要因でこの3人がその時点では組む事はなかったそうです。後に第二期ジェフ・ベック・グループの解体、そしてカクタスでの活動を終了したボガートとアピスが念願のバンド結成を果たします。強力なヴォーカリストこそ不在ですが、アピスのドタバタしたパワフルなドラム、ボガードのグイグイ引く張るベース、そしてベックのキャリア史上最もハード・ロック色が強いギターが絡む、壮麗なサウンドは余韻にたもたもたが来ます。 | 01. 黒猫の叫び 02. レディ 03. オートウ・ラヴ・ユー 04. 迷信 05. スウィート・スウィート・サレンダー 06. ホワイ・シュッド・アイ・ケアー 07. 君に言っただけ 08. リヴィン・アローン 09. アイム・ソー・ブラウド |
| (Jeff Beck)Beck, Bogert & Appice | ベック・ボガート・アンド・アピス | | 1973 | ハードロック | CD | 日本 | | |
| (Jeff Beck)Beck, Bogert & Appice | ベック・ボガート・アンド・アピス ライヴ | | 1974 | ハードロック | レコード | 日本 | ジェフにどうでも初来日だったBBAの73年5月18、19日、大阪厚生年金会館でのライブを収録！ 当時は2枚組のLPで、日本でのみ発売された貴重盤だった。ハード・ロック・ギタリストとしてのベックを一番いい形で聴くことのできる最高のライブ盤であり、「世界最高のギタリスト」の呼び名に相応しいプレイを随所に聞かせてくれる。「ジェフズ・ブギー」はライブならではのアドリブ多用の驚愕プレイをみせつけ、「黒猫の叫び」ではトーンキング・モジュレーターを併用しながらの、珍しいベックのヴォーカルも聴ける。カーマインとティムの重量リズム・セクションに乗せて自由奔放に弾きまくるジェフ・ベックのギター、緊張感溢れる白熱のライブ盤である！ 素晴らしいステージを日本で披露してくれた3人であったが、翌'74年には2作目のスタジオ・アルバム「モンゴ」に入らなかったという知らせの後に解散してしまっ | [DISC 1] A面 1. SUPERSTITION / 迷信 2. LOSE MYSELF WITH YOU / 君に言っただけ 3. JEFF'S BOOGIE / ジェフズ・ブギー B面 1. GOING DOWN / ゴーイング・ダウン 2. BOOGIE / ブギー 3. MORNING DEW / モーニング・デュ [DISC 2] A面 1. SWIFT, SWIFT, SWIFTENDEER / スウィフト・ブ Side A 1. 分かってくるかい - You Know What I Mean (Beck, Middleton) 4:05 2. シーズ・ア・ウーマン (Lennon-McCartney) 4:31 3. コンスティテテッド・ダック (Beck) 2:48 4. エアー・プロワー (Bailey, Beck, Chen, Middleton) 5:09 5. スキッターブレイン (Beck, Middleton) 5:39 Side B 1. 哀しみの恋人達 - Cause We've Ended as Lovers (Wonder) 5:42 |
| Jeff Beck | ギター殺人者の凱旋 (プロウ・バイ・プロウ) | | 1975 | ハードロック | レコード | 日本 | 1975年にリリース。プロデューサーは、当時ジョン・マクラフリン率いるマハヴィシユス・オーケストラの『黙示録 Apocalypse』をプロデュースしたジョージ・マーティン。ジェフはマハヴィシユス・オーケストラのジャズ・ロック的なアプローチに傾倒し、そこからマーティンにプロデュースを依頼したのであった。レコーディングはロンドンのエア・スタジオで行われた。 『プロウ・バイ・プロウ』は、ビルボード・チャートで4位を獲得している。6曲目の「哀しみの恋人達」はスティーヴィー・ワンダの作曲で[注釈 1]、ロイ・フキャナンに捧げられている。本作もまた4チャンネル・ステレオ盤が存在し、全曲でミックスが異なっている。 | Side A 1. レッド・ブーツ 4:03 2. カム・ダンシング (Narada Michael Walden) - 5:55 3. グッド・バイ・ボーク・バイ・ハット (Charles Mingus) - 5:31 4. ヘッド・フォー・バックステージ・パス (Wilbur Bascomb, Andi Clark) - 2:43 Side B 1. 蒼き風 (Jan Hammer) - 5:54 2. ソフィー (Walden) - 6:31 3. プレイ・ウィズ・ミー (Walden) - 4:10 |
| Jeff Beck | ワイアード | | 1976 | ハードロック | レコード | 日本 | 1976年にリリース。ジェフはスタンリー・クラークのアルバム『ジャーニー・トゥ・ラヴ』のレコーディングに参加し、スタンリーとのセッションでジャズ/フュージョンへの傾倒はより強まることになった。プロデューサーは引き続きジョージ・マーティンが担当。録音は半年間で終了し、1976年5月にリリースされた。収録曲は「グッド・バイ・ボーク・バイ・ハット」のカヴァー以外参加メンバーによる作品で占められた。前作よりもハードでダイナミックなプレイが繰り返されている。本作にも4チャンネル・ステレオ盤が存在するが、そのリリースは本作が最後となった。全曲のミックスが異なっており、ギターのテイクが異なる曲も存在している。 | Side A 1. スター・サイクル 2. トゥ・マツチ・トゥルーズ 3. ユー・ネバー・ノウ 4. ザ・ハンブ Side B 1. エル・ベッコ 2. ゴールデン・ロード 3. スペース・ブギー 4. ザ・ファイナル・ピース |
| Jeff Beck | ゼア・アンド・バック | | 1980年6月 | ハードロック | レコード | US | 当初3曲レコーディングしただけでその仕上がりに満足がいかなかったジェフはリリースを見合わせ中断。残りをベックの右腕として活躍するトニー・ハイマスと仕上げる。全体にスペース・ロック的な色合いが強く出た作品で、シンセ・リアのイントロとベックの流れるようなギターが印象的な「スター・サイクル」、ドラマチックで情熱的な出だしから一転ハードに展開していく「エル・ベッコ」、サイモン・フィリップスのツアー・バス炸裂の高速ドラミングが圧巻の「スペース・ブギー」は特に必聴！ 地味だけどモ・フォスターもイ仕事をしており、前作「ワイアード」ほどのインパクトはないものの、ベックらしさが存分に感じられる充実した好盤である。繊細かつダイナミック、そしてスリリングな演奏を聴かせるジャズ・ロック期の集大成。特に楽曲「El Becco」は傑出した作品。 | 1. おかしな車 2. あなただけを 3. マイ・ベスト・フレンド 4. ヴァイ 5. 帰っておいで 6. 恋して行こう 7. C.B.A.-25 8. 素敵なあの娘 9. 旅する前に 10. ホワイト・ラビット 11. プラスティック・ファンタスティック・ラヴァー |
| JEFFERSON AIRPLANE | シュールリアリスティック・ピロー | | 1967 | アメリカンロック | レコード | 日本 | 1965年に結成、翌年にデビューを果たした彼らが、女性ヴォーカリストのグレイス・スリックを迎えるなどのメンバー・チェンジを経てリリースしたセカンド・アルバム。全米5位に輝いた「あなただけを」や同8位を記録した「ホワイト・ラビット」といった大ヒット・シングルをフィーチャーした本作も全米3位を獲得。彼らの人気を不動のものにするだけでなくサンフランシスコの音楽シーンが一躍注目されるきっかけにもなった。ヒット・シングル「あなただけを」「ホワイト・ラビット」他を収録。 | 1. おかしな車 2. あなただけを 3. マイ・ベスト・フレンド 4. ヴァイ 5. 帰っておいで 6. 恋して行こう 7. C.B.A.-25 8. 素敵なあの娘 9. 旅する前に 10. ホワイト・ラビット 11. プラスティック・ファンタスティック・ラヴァー |
| JEFFERSON AIRPLANE | シュールリアリスティック・ピロー | | 1967 | アメリカンロック | CD | 日本 | 1965年に結成、翌年にデビューを果たした彼らが、女性ヴォーカリストのグレイス・スリックを迎えるなどのメンバー・チェンジを経てリリースしたセカンド・アルバム。全米5位に輝いた「あなただけを」や同8位を記録した「ホワイト・ラビット」といった大ヒット・シングルをフィーチャーした本作も全米3位を獲得。彼らの人気を不動のものにするだけでなくサンフランシスコの音楽シーンが一躍注目されるきっかけにもなった。ヒット・シングル「あなただけを」「ホワイト・ラビット」他を収録。 | 1. おかしな車 2. あなただけを 3. マイ・ベスト・フレンド 4. ヴァイ 5. 帰っておいで 6. 恋して行こう 7. C.B.A.-25 8. 素敵なあの娘 9. 旅する前に 10. ホワイト・ラビット 11. プラスティック・ファンタスティック・ラヴァー |

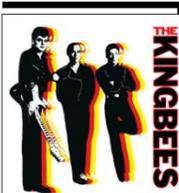
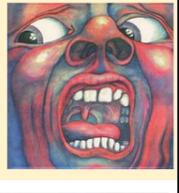
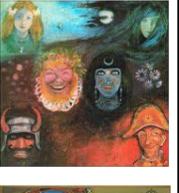
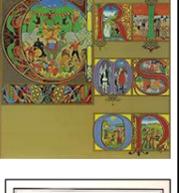
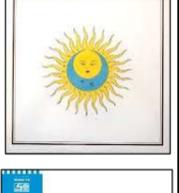
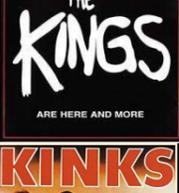
| | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|-----------------------|-------------|------|----|---|--|---|
| JIMI HENDRIX EXPERIENCE | スマッシュ・ヒッツ |  | 1968年4月 (US) | ハードロック/ブルース | レコード | 日本 | 空前にリリースされた唯一のベスト(ゴジビレーシング)・アルバムであり、主にシングル盤の1.2面に収められていたナンバーから構成されている。デビュー曲の「ヘイ・ジョー」とB面の「ストーン・フリー」、大出世曲の「パープル・ヘイズ」とB面の「51st Anniversary」が収録された初めてのアルバムとなった。現在ではそれらは『アー・ユー・エクスプレス?』に追加収録されているため、本作の独自性は薄くなってしまったが、のちに『エレクトリック・レディランド』に収録されることになる「パーニング・オブ・ザ・ミッドナイト・ラン」のB面曲、「スターズ・ザット・プレイ・ウィズ・ラフティング・サムズ・ダイス」は、ここでしか聴けないレアナンバーだ。彼の最も美しい楽曲群を、最も手軽に楽しめるという意味では、これ以上のアルバムはないと言われている。 | Side A 1. 紫のけむり - Purple Haze - 2:52 2. ファイア - 2:45 3. 嵐の中のマリー - The Wind Cries Mary - 3:20 4. キャン・ユー・シー・ミー - 2:33 5. 第51回記念祭 - 51st Anniversary - 3:16 6. ヘイ・ジョー (Billy Roberts) - 3:30 | Side B 1. ストーン・フリー - 3:36 2. 賭博師サム・サイコロ - The Stars That Play with Laughing Sam's Dice - 4:21 3. マニック・デプレッション - 3:42 4. ハイウェイ・チャイルド - 3:32 5. 真夜中のランプ - Burning of the Midnight Lamp - 3:39 6. フォグシー・レディ - 3:18 |
| JIMI HENDRIX EXPERIENCE | エレクトリック・レディランド |  | 1968年10月23日 (アメリカ発売日) | ハードロック/ブルース | CD | 日本 | 先行発売されたアメリカ盤のジャケットは、ツミの裸写真を加工したもので、イギリス盤では大勢の女性ヌードモデルの写真を使っており、ジミはこの「ヌード・ジャケット」を嫌っていた。日本盤は、初回盤はイギリス盤のゲートフォールドカバー内部にあったポートレートを表ジャケットに使用し、1977年再発盤はアメリカ盤の裏ジャケットを表ジャケットに使用、1979年再発盤でイギリス盤ジャケットを使用した。1997年以降は、ジミの遺族が運営する財団「エクスプレス・ヘンドリックス」の意向により、アメリカ盤ジャケットのデザインで世界的に流通している。ジャケット・デザインに関しては、ジミ自身もアイデアを持っていたが没になった。1997年に本作がリマスター再発された際、ジミのアイデアのラフ・スケッチが書かれたメモが、ブックレット中に印刷されている。写真撮影はリンダ・イーストマン(後のボブ・ディランの妻)によるもので、その多くは、50年以上経った現在でも、ロックミュージシャンが残した最も優れたライヴ・アルバムのひとつ。 | Side A 1. フー・ノウズ 2. マシン・ガン | Side B 1. チェンジズ 2. ソウル・パワー 3. メッセージ・オブ・ラブ 4. リヴ・トゥゲザー |
| JIMI HENDRIX | バンド・オブ・ジプシー |  | 1970年3月23日 (アメリカ発売日) | ハードロック/ブルース | レコード | US | 本作は、ジミ・ヘンドリックスが謎の死を遂げたから5ヶ月後の1971年3月にリリースされた最後のスタジオ録音アルバムと言われている作品。「クライ・オブ・ラヴ」は、1970年のアメリカツアーのときのバンドにジミがつけた名前だが、本作はもともジミ・ヘンドリックスが死ぬ前に構想していた2枚組アルバム「ファースト・レイズ・オブ・ザ・ニュー・ライジング・サン」のために録音された素材から作られたもの。当時のファンからすれば、このアルバムももちろん大きな話題となつて迎えられるのは当然である。その後、このアルバム収録ナンバーは97年に「ファースト・レイズ」のタイトルで発売されたアルバムに全曲収録された。チャート順位 - 全米3位、全英2位 | Side A 1. 自由 Freedom 2. 流浪 Drifting 3. イージー・ライダー 4. ナイト・バード・フライング 5. マイ・フレンド | Side B 1. 直進 Straight Ahead 2. アストロ・マン 3. 天使 Angel 4. 嵐の中に In From the Storm 5. ベリー・ポタン・ワンドウ |
| JIMI HENDRIX EXPERIENCE | クライ・オブ・ラヴ |  | 1971 | ハードロック/ブルース | レコード | 日本 | あまりにも有名なウッドストック・セッションの模様を収めた1枚。ロックの歴史の中で避ける事の出来ないウッドストックのジミのパフォーマンスですが意外にブレいそれ自体は絶好調といえるものではありません。ジプシー、サンズ&レインボウスと名乗る大所帯のバンドがまだしっかりとまとまっていな感じでちょっと散漫になったり、うまくまとまらず乗り切れない印象を受ける所もあります。ただし、ジミのキャリアの中で、というハイレベルの活なので一度は聴く価値は十分にある。特に2枚目の「ファイア」を経て、「フードゥー・チャイルド」そして、伝説の域に達している「星条旗よ永遠なれ」と続く流れは、何度聴いても鳥肌が立つ。ギターという楽器を、完全に自分の音楽に奉仕させている。 | Side A 1. 自由 Freedom 2. 流浪 Drifting 3. イージー・ライダー 4. ナイト・バード・フライング 5. マイ・フレンド | Side B 1. 直進 Straight Ahead 2. アストロ・マン 3. 天使 Angel 4. 嵐の中に In From the Storm 5. ベリー・ポタン・ワンドウ |
| JIMI HENDRIX EXPERIENCE | (ペーパーズ・スリーブ仕様) ライヴ・アット・ウッドストック |  | | ハードロック/ブルース | CD | 日本 | 81年作、ジョーン・ゼットとソロ活動第2弾であり、ブラッグ・ハーツを率いての名義では一発目となったアルバムです。ハード・ロック・バンドがこれからチャートを賑わそうとしていた時代、AORやポップ・ロックがまるでめぐるま湯の様に思っていたそんな時代、シングル・カットされたアルバム・タイトル曲はシンプルにリフと共にチャートのNo.1へと駆け上がっていったのです。ランナウェイ時代からのパンクッシュな香り、キャッチーなグラム感覚はそのまま、タイトになったバンド・サウンドはロックの妖しさと楽しさを教えてくれています。当時のシーンを振り返ってみると、女性ロッカーの少なさはもちろん、これ程までにシンプルでクール、そしてポップなロックを聴かせてくれた人はそうそういませんでした。 | Side A 1. アイ・ラヴ・ロックン・ロール 2. ランナウェイ 3. ラヴ・イズ・ペイン 4. ナグ 5. クリムゾン&クロウヴァー 6. ヴィクティム・オブ・サーカス・スタンス | Side B 1. ビッツ&ピース 2. ビー・ストリート 3. ユー・アット・ワー・ポゼッショ 4. リトル・ドラマー・ボーイ 5. オー・ウォー・イズ・ミー 6. ルイ・ルイ 7. ルー・ドント・ノウ・ホワット・ユー・ガット(ライヴ) |
| Joan Jett & Blackhearts | アイ・ラヴ・ロックン・ロール |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ハード・ロック・バンドがこれからチャートを賑わそうとしていた時代、AORやポップ・ロックがまるでめぐるま湯の様に思っていたそんな時代、シングル・カットされたアルバム・タイトル曲はシンプルにリフと共にチャートのNo.1へと駆け上がっていったのです。ランナウェイ時代からのパンクッシュな香り、キャッチーなグラム感覚はそのまま、タイトになったバンド・サウンドはロックの妖しさと楽しさを教えてくれています。当時のシーンを振り返ってみると、女性ロッカーの少なさはもちろん、これ程までにシンプルでクール、そしてポップなロックを聴かせてくれた人はそうそういませんでした。 | Side A 1. アイ・ラヴ・ロックン・ロール 2. ランナウェイ 3. ラヴ・イズ・ペイン 4. ナグ 5. クリムゾン&クロウヴァー 6. ヴィクティム・オブ・サーカス・スタンス | Side B 1. ビッツ&ピース 2. ビー・ストリート 3. ユー・アット・ワー・ポゼッショ 4. リトル・ドラマー・ボーイ 5. オー・ウォー・イズ・ミー 6. ルイ・ルイ 7. ルー・ドント・ノウ・ホワット・ユー・ガット(ライヴ) |
| Joan Jett & Blackhearts | アイ・ラヴ・ロックン・ロール |  | 1981 | ニューウェイブ | CD | 日本 | ネオアコ大名盤として現在も語り継がれる1983年発表のジョー・ボックス(BOXERS)のデビュー・アルバム。SUBWAY SECTのバック・バンドなどをしていたメンバーなどで結成された5人組で、1983年にシングル「Boxerbeat」でデビュー。このシングルは全英チャート3位を記録し大ヒット。続いて発表されたシングル「Just Got Lucky」(橋本 徹氏が監修したネオアコ・コンボ「NEO-ACOUSITIC DREAM - JUST A GIRL」)にも収録されているクラブ・ヒット名曲)も全英チャート7位を獲得。そんな大きな期待の中でRCAよりリリースされたのが、本作「ライク・ギャングバスターズ(LIKE GANGBUSTERS)」です。DEXY'S MIDNIGHT RUNNERSやLARKS、JIM JIMINEEなどを想起させる軽快なネオアコ・チューンが満載で、ノーザン・ソウルやブルー・アイド・ソウル、ネオモップ | Side A 1. Boxerbeat 3:03 2. Crosstown Walk Up 3:02 3. Fully Booked 3:22 4. Not My Night 2:28 5. Just Got Lucky 4:45 | Side B 1. She's Got Sex 2:59 2. Curious George 3:22 3. Hideo Nor Hair 3:13 4. Crime Of Passion 2:46 5. Between The Scenes 2:42 6. Johnny Friendly 5:05 |
| JOHN COUGAR | アメリカン・フール |  | 1982 | ロック | レコード | 日本 | 「青春の傷あと」は全米シングル・チャート2位、「ジャック&ダイアン」は初の1位に輝き、アルバムも遂に全米1位を記録、セールスは全米で500万枚を突破した6thアルバム。「ジョン・クーガー」名義としては最後のアルバム。 | Side A 1. 青春の傷あと 2. ジャック&ダイアン 3. ハンド・トゥ・ホールド・オン・トウ 4. デンジャー・リスト 5. キャン・ユー・テイク・イット | Side B 1. 心のときめき 2. チャイナ・ガール 3. クロース・イナフ 4. ウィークエスト・モメンツ |
| JOHN FOX | ザ・ガーデン |  | 1981年 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ウルトラヴァイオックスから脱退後ソロ名義として約1年半ぶりに1981年にリリースした通算2枚目。英国では24位を記録。欧州の美しい自然をコンセプトにした興行きのアルバムとなった。普通だったら1曲ぐらいは駄作が入っているのに、このアルバムだけは全曲が名曲である。特に、europe after the rain, systems of romance, dancing like a gun, you were there, walk away, the gardenなどは言葉にすることもできないほど完成度が高い。ファーストの『メタマテック』も傑作だが、このセカンドはよりロマンチズムな音で、これがまた良いです。冷たい音ではなく温かな広がりのあるサウンドで、終始彩られています。ジャケットの写真も絶品ですが、タイトル曲『ガーデン』はまさにそんな森に囲まれた風景の中で響き渡るような美しきメロディで、聞き手へ語りかけます。『Double Fantasy』や『Imagine』を始め、Johnのアルバムはどれも大切なものですが、Johnの魂のようなものを最も赤裸々に感じることができるのは、邦題のとおり、このアルバムです。 | Side A 1. ヨーロッパ・アフター・ザ・レイン 2. システム・オブ・ロマンス 3. ウェン・アイ・ワズ・ア・マン・アンド・ユー・ワー・ア・ウーマン 4. ダンシング・ライク・ア・ガン 5. ベイター・マスター | Side B 1. ユー・アット・ワー・ポゼッショ 2. ユー・アット・ワー・ポゼッショ 3. フュージョン/フィジョン 4. ウォーク・アウェイ 5. ザ・ガーデン |
| JOHN LENNON | ジョンの魂 |  | 1970年12月11日 | ロック | レコード | 日本 | 1曲目「Mother」のイントロの鐘の音を聴くと、静謐な気持ちになります。どの曲も強烈な印象を残すので、聴き流すことはできません。その代わりにじっくり聴いて心を震わし、生きる力をもらう。そんな印象のアルバムです。メロディの良さを純粋に楽しめるPaul McCartneyのアルバムとは違う聴き方をしてみたいです。そろそろクリスマス・シーズンですが、Johnのクリスマス・ソングといえば、「Happy Xmas (War Is Over)」。オリジナル・アルバムには収録されておらず、『Lennon Legend: The Very Best Of John Lennon』のようなベスト盤で聴くことができます。クリスマス・ソングにも、「War Is Over」というメッセージを込めるところ | Side A 1. Mother 2. ホールドオン(しっかりジョン) 3. 私は見つけた 4. 労働者階級の英雄 5. アイソレーション | Side B 1. 思い出すんだ 2. Love 3. ウェル・ウェル・ウェル 4. 僕を見て 5. God 6. 母の死 |
| JOHN LENNON | ジョンの魂 ミレミアム・エディション (リミックス&デジタル・リマスターリング) |  | 970年12月11日 | ロック | CD | 日本 | 1972年に発表されたジョン・レノンとオノ・ヨーコによる共作アルバム。A面とB面がスタジオ録音、C面とD面は「ライヴ・ジャム」。本作はレノンのアルバムの中でも最も政治的な色合いが濃い作品に仕上がっている。実にロックしているジョンがここに「ライヴ・ジャム」での「フランク・ザッパ」での共演も聞き逃せない。シングルになった「女はメタマテックか!」をはじめ、「NEW YORK CITY」がよりメッセージ性を強調した物が多く、非常に直接的な言葉が使われた楽曲が多い。2枚組実作。アルバム・カバーは新聞を模しており、記事は歌詞になっている。アメリカ合衆国第37代大統領のリチャード・ニクソンと中華人民共和国中央委員会主席の毛沢東が裸踊りする合成写真、一部店舗では女性のヌード・イメージがスキャンを恐れたため、販売された。それは裸の肉體 | Side A 1. イマジン 2. クリップド・インサイド 3. ジェラス・ガイ 4. イッツ・ソー・ハード 5. 兵隊にはなりたくない - I Don't Want to Be A Soldier | Side B 1. 真実が欲しい - Gimme Some Truth 2. オー・マイ・ラヴ 3. ハウドゥ・ユー・スリープ?(眠れるかい?) 4. ハウ? 5. オー・ヨーコ |
| JOHN LENNON | イマジン |  | 1971年10月8日 | ロック | レコード | UK | 1972年に発表されたジョン・レノンとオノ・ヨーコによる共作アルバム。A面とB面がスタジオ録音、C面とD面は「ライヴ・ジャム」。本作はレノンのアルバムの中でも最も政治的な色合いが濃い作品に仕上がっている。実にロックしているジョンがここに「ライヴ・ジャム」での「フランク・ザッパ」での共演も聞き逃せない。シングルになった「女はメタマテックか!」をはじめ、「NEW YORK CITY」がよりメッセージ性を強調した物が多く、非常に直接的な言葉が使われた楽曲が多い。2枚組実作。アルバム・カバーは新聞を模しており、記事は歌詞になっている。アメリカ合衆国第37代大統領のリチャード・ニクソンと中華人民共和国中央委員会主席の毛沢東が裸踊りする合成写真、一部店舗では女性のヌード・イメージがスキャンを恐れたため、販売された。それは裸の肉體 | Side A 1. イマジン 2. クリップド・インサイド 3. ジェラス・ガイ 4. イッツ・ソー・ハード 5. 兵隊にはなりたくない - I Don't Want to Be A Soldier | Side B 1. 真実が欲しい - Gimme Some Truth 2. オー・マイ・ラヴ 3. ハウドゥ・ユー・スリープ?(眠れるかい?) 4. ハウ? 5. オー・ヨーコ |
| JOHN LENNON | イマジン ミレミアム・エディション (リミックス&デジタル・リマスターリング) |  | 1971年10月8日 | ロック | CD | UK | 1972年に発表されたジョン・レノンとオノ・ヨーコによる共作アルバム。A面とB面がスタジオ録音、C面とD面は「ライヴ・ジャム」。本作はレノンのアルバムの中でも最も政治的な色合いが濃い作品に仕上がっている。実にロックしているジョンがここに「ライヴ・ジャム」での「フランク・ザッパ」での共演も聞き逃せない。シングルになった「女はメタマテックか!」をはじめ、「NEW YORK CITY」がよりメッセージ性を強調した物が多く、非常に直接的な言葉が使われた楽曲が多い。2枚組実作。アルバム・カバーは新聞を模しており、記事は歌詞になっている。アメリカ合衆国第37代大統領のリチャード・ニクソンと中華人民共和国中央委員会主席の毛沢東が裸踊りする合成写真、一部店舗では女性のヌード・イメージがスキャンを恐れたため、販売された。それは裸の肉體 | Side A 1. 血まみれの日曜日 Sunday Bloody Sunday (Lennon and Ono) 2. ザ・ラック・オブ・ジ・アイリッシュ (Lennon and Ono) | Side C 1. コールド・ターキー (Lennon) 2. ドント・ウォーリー・キョコ (Ono) Side D 1. ウェル(ペイビー・ブリーズ・ドント・ゴー) (Walter Ward) 2. ジャムラグ (Lennon and Ono) 3. スカム・バグ (Lennon/Ono/Zappa) 4. オー(Lennon and Ono) |
| JOHN LENNON | サムタイム・イン・ニュー・ヨーク・シティ (with オノ・ヨーコ) |  | 1972年9月15日 | ロック | レコード | 日本 | 1972年に発表されたジョン・レノンとオノ・ヨーコによる共作アルバム。A面とB面がスタジオ録音、C面とD面は「ライヴ・ジャム」。本作はレノンのアルバムの中でも最も政治的な色合いが濃い作品に仕上がっている。実にロックしているジョンがここに「ライヴ・ジャム」での「フランク・ザッパ」での共演も聞き逃せない。シングルになった「女はメタマテックか!」をはじめ、「NEW YORK CITY」がよりメッセージ性を強調した物が多く、非常に直接的な言葉が使われた楽曲が多い。2枚組実作。アルバム・カバーは新聞を模しており、記事は歌詞になっている。アメリカ合衆国第37代大統領のリチャード・ニクソンと中華人民共和国中央委員会主席の毛沢東が裸踊りする合成写真、一部店舗では女性のヌード・イメージがスキャンを恐れたため、販売された。それは裸の肉體 | Side A 1. 女は世界の奴隷か! Woman is the Nigger of the World (John Lennon and Yoko Ono) 2. シスターズ・オー・シスターズ (Ono) 3. アッティカ・ステート (Lennon and Ono) 4. ボーン・イン・ア・プリズン (Ono) 5. ニュー・ヨーク・シティ (Lennon) | Side C 1. コールド・ターキー (Lennon) 2. ドント・ウォーリー・キョコ (Ono) Side D 1. ウェル(ペイビー・ブリーズ・ドント・ゴー) (Walter Ward) 2. ジャムラグ (Lennon and Ono) 3. スカム・バグ (Lennon/Ono/Zappa) 4. オー(Lennon and Ono) |

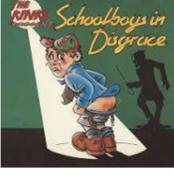
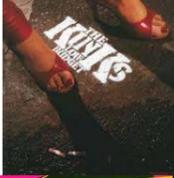
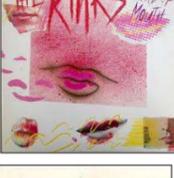
| | | | | | | | | | |
|---|---|---|-------------|-------------|------|----|--|--|---|
| JOHN LENNON | ヌートピア宣言 (マインド・ゲームス) |  | 1973年11月16日 | ロック | レコード | US | 『マインド・ゲームス』はソロデビュー以来一心同体だったヨーコ・オノと初めて距離を置いて作ったアルバムである。それ故かこのアルバムに収められているバラードはどれも切実さ、説得力に満ちている。同じアルバムの「ユー・アー・ヒー」とこの曲で迷ったが、決め手はジョンの親友エルトン・ジョンがこの曲をカバーしていること。エルトンは地声で歌っているが、ジョンはファルセットで歌っている。洗練されたメロディは都会的ときえ呼べそう。 | Side A 1. マインドゲーム 2. タイトAS 3. アイスマセン(ごめんさい) 4. ワン・デイ 5. ルーシーを連れて来る(フレダ・ビーブル) 6. ニュートピア国際国歌 | Side B 1. インテュエーション 2. アウト・ザ・ブルー 3. オンリー・ビーブル 4. アイ・ノウ(私は知っている) 5. ユー・アー・ヒー 6. ミート・シティ |
| JOHN LENNON | 心の壁、愛の橋 |  | 1974年10月4日 | ロック | レコード | 日本 | 「心のしとねは何処」や「愛の不毛」をはじめ、ヨーコとの別居し「失われた週末」を過ごしていた寂しさや、やるせなさを歌った曲が多く、詩的な邦題と相まって、盟友エルトン・ジョンやハリール・ニルソンなどの音楽仲間とともに作られており、健在ぶりを示したことで知られている名盤の誉れが高い作品。エルトン・ジョンとの共演曲「真夜中を突っ走れ」は全米1位を記録。もうひとつのシングル、創作言語を織り交ぜた「#9 Dream(夢の夢)」(75年1月発売)も後期ビートルズを弄弄とさせる名曲。 | Side A 1. 愛を生きぬこう GOING DOWN ON LOVE 2. 真夜中を突っ走れ WHATEVER GETS YOU THRU THE NIGHT 3. 枯れた道 OLD DIRT ROAD 4. ホワット・ユー・ガット 5. 果てしなき愛 BLESS YOU 6. 心のしとねは何処 SCARED | Side B 1. 夢の夢 DREAM 2. 予期せぬ驚き SURPRISE SURPRISE 3. 鋼のように、ガラスの如く STEEL AND GLASS 4. ビーフ・ジャーキー 5. 愛の不毛 NOBODY LOVES YOU (WHEN YOU'RE DOWN AND OUT) 6. ヤ・ヤ |
| JOHN LENNON | ロックン・ロール |  | 1975年2月21日 | ロック | レコード | 日本 | 当初は1973年10月からレコーディングが行われていたが、フィル・スペクターの事故により録音は中断を余儀なくされた。そのときの4曲に、ジョン自らがプロデュースをした曲を加えたのが本作。収録曲はジョンのロックンロール・ルーツをあらわしたR&Rスタンダードのカヴァーとなっている。「スタンド・バイ・ミー」がヒットした。 | Side A 1. ビー・バップ・ア・ルーラ 2. スタンド・バイ・ミー 3. メドレー(リップ・イット・アップ/レディ・ティディ) 4. ユー・キャン・キヤッチ・ミー 5. エイント・ザット・ア・シェイム 6. 踊ろよベイビー 7. スウィートリトルシックスティーン | Side B 1. スリッピン&スライティン 2. ベギー・スー 3. メドレー(悲しき叫び/ センド・ミー・サム・ラヴィ) 3. ボニー・モロニー 4. ヤ・ヤ 5. ジャスト・ビコーズ |
| JOHN LENNON | ダブル・ファンタジー |  | 1980年11月17日 | ロック | レコード | 日本 | 5年ぶりに音楽活動を再開したジョンがヨーコと共に制作。二人の歌が対話形式で収録された愛情に満ちた名盤。この作品をリリースした直後、狂信的なファン凶弾によってジョンは還らぬ人となる。 | Side A 1. スターティング・オーヴァー 2. キス・キス・キス 3. クリーン・アップ・タイム 4. キグ・ミー・サム・シング 5. アイム・ルー・ジンダ・ユー 6. アイム・ム・ヴィンダ・オン 7. ビューティフル・ボーイ | Side B 1. ウォッチング・ザ・ホイールズ 2. あなたのエンジェル 3. ウー・マン 4. ビューティフル・ボーイズ 5. 愛するヨーコ 6. 男は誰もが 7. ハード・タイムス・アー・オーヴァー |
| JOHN LENNON | ミルク・アンド・ハニー |  | 1984年1月27日 | ロック | レコード | 日本 | ジョンの死から4年後にあたる1984年にリリースされた本作『Milk And Honey』は、前作『ダブル・ファンタジー』の続編とされている作品。曲構成も前作同様、レノンとヨーコの曲が交互に収録されている仕様となっている。前作の制作中からレノンは新たなアルバムを制作する予定を立てており、1981年の1月に再びスタジオ入りすることが決定していたが、レノンが急逝したことにより不可能となった。本作に収録されたものは、前回のセッション時等に録音された11曲の音源であり、音源は完成には至っていないとのこと。因みにヨーコの音源は録りためた物が少なかったために、殆どの楽曲が新たにレコーディングされた。とりわけ、活気に満ちた「Nobody Told Me」は素晴らしい。 | Side A 1. アイム・ステッピング・アウト 2. スリプレス・ナイト (ono) 3. アイドント・ウオナ・フェイス・イット 4. ドット・ビー・スケアード (ono) 5. ノーバディ・トールド・ミー 6. オール・サニティー (ono) | Side B 1. ポロウド・タイム 2. ユア・ハンズ (ono) 3. マイ・リトル・フラワー・プリンセス 4. レット・ミー・カウント・ザ・ウェイズ (ono) 5. グロー・オール・ド・ウィズ・ミー 6. ユア・ザ・ワン (ono) |
| JOHN LENNON | レノン・レジェンド ザ・ヴェリー・ベスト・オブ・ジョン・レノン |  | 2007 | ロック | CD | 日本 | ジョン・レノンのソロ作品は、これまで何枚もコンピレーション盤がリリースされてきたというのに、本作まで決定版と言えるものがなかったのは不思議でならない。本作の選曲にはうなずけないリスナーもいるかもしれない。けれども本作には、素晴らしい傑作「Working Class Hero」が収録されている。悲しいくらい過小評価されてきた「Rock 'n' Roll」の収録曲もとりこぼしていない。そして、東の間の人生の最後に向けて希望に満ちた再出発を歌ったナンバーも収められている本作は、おそろし誰もが考える選曲に近いだろう。彼の素晴らしいナンバーは今も輝いている。「Imagine」では「Whatever Gets You Through the Night」にはロックンローラーとしてのレノンがみなぎっている。レノンは永遠のアイドルであり、本作はその彼の持ち味を十分に聴かせてくれる。 | 1. イマジン 2. インスタント・カーマ 3. マザー 4. ジェラス・ガイ 5. ハワート・ザ・ビーブル 6. コールド・ターキー(冷たい七面鳥) 7. ラヴ 8. マインド・ゲームス 9. 真夜中を突っ走れ 10. 夢の夢 | 11. スタンド・バイ・ミー 12. スターティング・オーヴァー 13. ウー・マン 14. ビューティフル・ボーイ 15. ウォッチング・ザ・ホイールズ 16. ノーバディ・トールド・ミー 17. ポロウド・タイム 18. 労働者階級の英雄 19. ハッピー・クリスマス(戦争は終わった) 20. 平和を我等に |
| JOHN MAYALL AND BLUES BREAKERS ERIC CLAPTON | ジョン・メイオール & ザ・ブルースブレイ カーズ ウィズ・エリック・クラ プトン |  | 1966 | ハードロック/ブルース | レコード | 日本 | ヤードバズ脱退後のエリック・クラプトンが参加したブリティッシュ・ブルース・ロックの名盤。 John Mayall & The Bluesbreakersが1966年にリリースした2ndアルバム。Eric Clapton在籍時唯一のスタジオ・アルバムです。その前に在籍したThe Yardbirdsでは音楽性が比較的ポップだったブルースを基盤とした音楽性は本作品によって確立されたように思います。ギブソン社のレスポール・ギター+マーシャル社の50Wアンプで当時はまだエフェクターが無い時代なのでストレートですがすがしいナチュラルなギターの色合いが印象的です。楽曲の方も「All Your Love」や「Cream」時代の定番曲となった「Hideaway」等秀逸な曲が満載です。そして本作品収録時のベース担当が後にFleetwood Macに加入する事となるJohn McVieだと云う事も、興味深い。ストライクなブルースを志向する、その熱さが聴く者 | SIDE A 1. オール・ユア・ラヴ 2. ハイダウェイ 3. リトル・ガール 4. アナザー・マン 5. ダブル・クロッシング・タイム 6. ホワット・アイ・セイ | SIDE B 1. 愛の壁 2. パーチマン・ファーム 3. ハヴ・ユー・ハード 4. さすらいの心 5. ステッピング・アウト 6. イット・エイント・ライト |
| JOHN MAYALL AND BLUES BREAKERS ERIC CLAPTON | (パーパス・スリブ仕様) ジョン・メイオール & ザ・ブルースブレイ カーズ ウィズ・エリック・クラ プトン |  | 1966 | ハードロック/ブルース | CD | 日本 | 。モノラルとステレオの両方を収録したコンプリート・エディション。今回SACD製作にあたってライナー・ノーツによるとデッカの現在の日本の販売元ユニバーサル・ミュージックの手にアナログ・マスターは存在しない(当時の販売元はキングレコードで業務提携解消時にマスター・テープを返却)ので日本側からユニバーサルUKにDSDマスターをオフアールしたところ、ユニバーサルUKがFXというラボに作業を外注。そしてオリジナル・マスターからDSD化されたデータが日本に送られ、最終的に日本でノイズなどのトリミングを施しSACD SHM仕様として製品化された様です。 | 1~12曲目 MONO盤 13~24曲までが STEREO盤 | |
| JOHNNY THUNDERS & THE HEARTBREAKERS | L.A.M.F.リヴィジテッド |  | 1977 | パンク | レコード | UK | ジョニー・サンダースは、元テレヴィジョンのリチャード・ベル(ベース)やウォルター・ルー(ギター)と共にジョニー・サンダース&ザ・ハートブレイカーズ(ハートブレイカーズ)を結成。ここでジョニーはリード・ボーカルも兼任する。間もなくリチャードが脱退し、ビリー・ラスを後任に迎える。バンドはロンドンに渡り、1977年に唯一のオリジナル・アルバム『L.A.M.F.』(Like A Mother Fucker)を発表。ロックのクラッシュ化した名曲ナンバーがズラッと並び狂騒。存命者が1名の現状が信じられない位に元気の躍動感あふれるナンバーが次から次の波状攻撃。2トップのWギターサウンドも太いですが、意外にもジャズのジーン・クルーパの弟子でもあるノーランのドラムスが実に巧い。シドのNYライブ(クラッシュのミックも飛び入りのやつです)での彼は当時のパンクサークルで別格なのが分かります。パンク・アルバムの名曲①②はシド・ヴィーナスがカバー。その躍動感に満ちた | Side A 1. ボーン・トゥ・ルーズ 2. ベイビートーク 3. オール・バイ・マイセルフ 4. アイ・ワナ・ビー・ラヴド 5. イッツ・ノット・イナフ 6. チャイニーズ・ロック 7. ゲット・オフ・ザ・フォン | Side B 1. バイレート・ラブ 2. ワント・ラック・マインド 3. アイラブ・ユー 4. ゴーイン・ステディ 5. レット・ゴー 6. キャット・キープ・マイ・アイズ・オフ・ユー 7. ドゥ・ユー・ラブ・ミー? |
| JOHNNY THUNDERS & THE HEARTBREAKERS | L.A.M.F.リヴィジテッド |  | 1977 | パンク | CD | 日本 | | 1. ワント・ラック・マインド 2. アイ・ワナ・ビー・ラヴド 3. バイレート・ラブ 4. レット・ゴー 5. ドゥ・ユー・ラブ・ミー? 6. キャット・キープ・マイ・アイズ・オフ・ユー 7. ゲット・オフ・ザ・フォン 8. オール・バイ・マイセルフ 9. チャイニーズ・ロック 10. ベイビートーク 11. ゴーイン・ステディ 12. アイ・ワナ・ビー・ラヴド | Side B 1. ドゥ・ユー・ラブ・ミー 2. チャイニーズ・ロック 3. ゲット・オフ・ザ・フォン 4. オール・バイ・マイセルフ 5. ゴーイン・ステディ 6. アイ・ワナ・ビー・ラヴド 7. アイ・ワナ・ビー・ラヴド |
| JOHNNY THUNDERS & THE HEARTBREAKERS | ダウン・トゥ・キル (ライヴ・アット・ザ・ス ピーク・クイジー) |  | 1983 | パンク | レコード | UK | ジョニー・サンダースがニューヨーク・ドールズ脱退後結成したハートブレイカーズがマルコム・マクラーレンの誘いで渡英しセックス・ピストルズ、ダムド、クラッシュと共に伝説のアンダー・ザ・ツアーズでのパフォーマンスが注目を浴び、そのままイギリスでレコード会社と契約を結ぶ。後にニューヨーク・パンクを代表する名盤『L.A.M.F.』となるアルバムのセッションを行い始めた1977年3月15日、ロンドンのスタジオ、スピーク・クイジーでレコーディングのウォーム・アップも兼ねて行われたギガを収録したライヴ・アルバム。初期絶頂期のライヴパフォーマンスでもあり、なにより演奏曲が名盤『L.A.M.F.』からの曲が中心に収録されており最高のライヴアルバムだ。 | Side A 1. チャイニーズ・ロック 2. ゲット・オフ・ザ・フォン 3. オール・バイ・マイセルフ 4. レット・ゴー 5. キャット・キープ・マイ・アイズ・オン・ユー 6. アイ・ワナ・ユー 7. ボーン・トゥ・ルーズ 8. アイ・ワナ・ビー・ラヴド | Side B 1. ドゥ・ユー・ラブ・ミー 2. チャイニーズ・ロック 3. ゲット・オフ・ザ・フォン 4. オール・バイ・マイセルフ 5. ゴーイン・ステディ 6. アイ・ワナ・ユー 7. アイ・ワナ・ビー・ラヴド |
| JOHNNY THUNDERS | ソー・アローン |  | 1978 | ロック | CD | 日本 | ハートブレイカーズ解散の後ロンドンに残ったジョニーが放ったソロデビュー盤です。ゲストが豪華でセックス・ピストルズのスティヴ・ヴ(ギター)、ポール(ドラムス)や、ハードロック界からはシンシジーの故フィル・リノットも参加しています。ライヴでのお宿だったパイプ・ライン(ペンチャーズ)を一発目から決めてくれますが、これがこの人の本質みたいなものを感じさせ、かなりカッコいい。人気曲「London Boys」やガングズ & ローズのダフがボーカルをとってカバーした、へろへろなバラードの名曲「You can put you around a memory」も収録。 | 1. パイプライン 2. ユー・キャン・フット・ユア・アームズ・アラウンド・ア・メモリー 3. グレイト・ビギン・キス 4. アスク・ミー・ノー・クエスチョン 5. リーフ・ミー・アローン 6. ダディ・ローリング・ストーン 7. ロンドン・ボーイズ 8. アンタッチャブル 9. サブウェイ・トレイン 10. ダウンタウン 11. ... 12. ... | Side B 1. ロックン・ロール・メドレー 2. ミーン・タウン・ブルース 3. ジョニー・B・グッド |
| JOHNNY WINTER | ライヴ・ジョニー・ウ インター・アンド |  | 1971 | ハードロック | レコード | 日本 | 1971年作品。冒頭からブルース名曲を無謀なほどのスピードで奏でるジョニー・ウィンター・アンドの傑作ライヴ・アルバム。ギター2本にベースとドラムというシンフルな編成で、ロック史上でも屈指の熱気を放つ本作の目玉は、ジョニーとリック・デリンジャーによる白熱のギター・バトルだ。高速ギター・ブギ「ミン・タウン・ブルース」から、「ロックン・ロール」の雄叫びで沸点に達する「ジョニー・B・グッド」の流れは神がかっている。ライヴアルバム名盤! | Side A 1. グッド・モーニング・リトル・スクール・ガール 2. イッツ・マイ・オヴン・フォールト 3. ジャンピン・ジャック・フラッシュ | Side B 1. ロックン・ロール・メドレー 2. ミーン・タウン・ブルース 3. ジョニー・B・グッド |
| JOHNNY WINTER | ライヴ・ジョニー・ウ インター・アンド |  | 1971 | ハードロック | CD | 日本 | | Side A 1. グッド・モーニング・リトル・スクール・ガール 2. イッツ・マイ・オヴン・フォールト 3. ジャンピン・ジャック・フラッシュ | Side B 1. ベイビー・スティック・アラウンド 2. ルック・シャープ! 3. フールズ・イン・ラヴ 4. インスタント・マッシュ 5. プリティー・ガールズ 6. ゴット・ザ・タイム |
| JOE JACKSON | ルック・シャープ! |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | UK | 最初イギリスよりアメリカで好評を得たジョニー・ジャクソン。全米ビルボード最高20位まで上がり、アメリカで50万枚以上を売り上げゴールド・ディスクを獲得したデビュー・アルバム。エルヴィス・コストロ(1954-)に続いて過剰なニューウェイブの新人シンガー・ソングライターとしてデビューしたジョニー・ジャクソンは、抜群の歌唱力と作詞作曲力、ステージ・パフォーマンスを持った大器でした。特にこのアルバムは小気味よいストレートなロックン・ロールナンバーが多くジョニー・ジャクソンの最高傑作と言えるアルバムだ。特に、イギリスチャート9位のデビュー・シングル「奴に気をつける」や、セカンドシングル「サンデー・ペーパーズ」、かっこいいビートナンバーの第3弾シングル「ワン・モア・タイム」や、全米大学ラジオ・チャート9位の第4弾シングル「フールズ・イン・ラヴ」等、センス抜群で、ブラック・ミュージックからの影響が見え隠れする素晴らしい作品。 | Side A 1. ワン・モア・タイム 2. サンデー・ペーパーズ 3. 奴に気をつける 4. 幸福なカップル 5. スロウ・イット・アウェイ | Side B 1. ベイビー・スティック・アラウンド 2. ルック・シャープ! 3. フールズ・イン・ラヴ 4. インスタント・マッシュ 5. プリティー・ガールズ 6. ゴット・ザ・タイム |

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|---|------------|---------|------|-----|--|--|--|
| JOE JACKSON | ルック・シャープ! |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | Side A 1. ワン・モア・タイム 2. サン・デイ・ベイバズ 3. 奴に気をつける 4. 幸福なカップル 5. スロウ・イット・アウェイ | Side B 1. ベイビー・スティック・アラウンド 2. ルック・シャープ! 3. フールズ・イン・ラヴ 4. インスタント・マッシュ 5. プリティー・ガールズ 6. ゴット・ザ・タイム | |
| JOE JACKSON | アイム・ザ・マン |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | UK | 79年発表の2nd。ジョー・ジャクソンは音楽性をアルバムごとにコロコロと変える人だが、このアルバムはデビューより半年で発表されただけあって、前作とかなり近い感触がある。(プロデューサーも1stと同じ、デヴィッド・カーシェン) R&B色の強いパワー・ポップという感じで、同時代のエルヴィス・コステロに近い雰囲気がある。ストレートな1.も、もちろん素晴らしいが、2.のレゲエでのジョーのメロディカが良い味を出しているアルバムの一つの聞きどころになっている。後に「ロックは嫌いだ!」と言い放つ人だが、この時点では「ロックンロールが自分の全てを賭けるもの」と言っているのが興味深く、作品のクオリティを裏付けている。前作1stにあったパンク時代特有のテンションやスピード感覚に加えてアレンジや演奏にぐっと厚みが出た名作2nd。パンキッシュなロックンロールで世間に怒りを吐き出していた頃の若々しいジョーの熱気が満溢。 | Side A 1. オン・ユア・ラジオ 4:03 2. ジェラルディンとジョン 3:14 3. カンダ・キュート 3:33 4. ディファレント・フォー・ガールズ 3:42 5. アイム・ザ・マン 3:58 | Side B 1. ブルー・シャツのイカしたバンド 5:07 2. ドント・ワナ・ビー・ライク・ザット 3:41 3. アマチュア・アワー 4:05 4. あの娘に一目惚れ 3:02 5. 狂った金曜日 3:33 |
| JOE JACKSON | アイム・ザ・マン |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | US | | | |
| JOE JACKSON | アイム・ザ・マン |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | | | |
| JOE JACKSON | ビート・クレイジー |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | US | 前作までのパワーポップスタイルからベースがリードをとるレゲエっぽいスタイルに変化した80年発表の第3作。当時のジョーのヘヴィな心境を反映した辛辣な歌詞とあいまって怒りのテンションたぎる熱気の毒々しい傑作に仕上がった。「最近の若者ども」をわめきながら痛烈に批判するタイトル曲が強烈だし、パカでドジばかり踏むどうしようもない彼女に冷たい皮肉を投げかける「Mad At You」はプロモクリップでのジョーの鬼気迫る表情が印象深い。そしてアルバム後半の4曲がみなテンション高く聞き入ってしまう。リントン・クウェン・ジョンソンに捧げられた「Battleground」、冷え切った夫婦の息詰まるやりとりを写す「Biology」、可愛らしいだけの作られたアイドル達をこきおろす「Pretty Boys」、そして最後にジョーが人生を賭かたようにやるせなく歌う「Fit」がせつない。 | Side A 1. ビート・クレイジー 2. ワン・トゥ・ワン 3. 夜毎の悪夢 4. イービル・アイ 5. マッド・アット・ユー | Side B 1. クライム・ドント・ペイ 2. サム・ワン・アップ・ゼア 3. パトル・グランド 4. バイオロジー 5. プリティー・ボーイズ 6. フィット |
| JOE JACKSON | ナイト・アンド・デイ |  | 1982年6月25日 | ニューウェイブ | レコード | US | ジョー・ジャクソンが、拠点をニューヨークに移してその才能を見事に開花させた5thアルバム。全米4位、全英3位と大ヒットしたアルバムでシングル「ステッピン・アウト」も全米、全英共に6位と大ヒットした。大都会の「昼」と「夜」をテーマに歌い上げたコンセプト指向アルバム。そんなテーマよりも楽曲がたいへん素晴らしい。①〜⑤までの曲がクロスオーバーしながら流れていくのが最高! ①〜⑤も全米で大ヒット。レコードでいうとA面の①〜⑤が最大の聴きどころ。パーカッションサウンドが魅力です。一転、⑥以降(B面)は落ち着いた感じの曲が多いです。アルバムの完成度も非常に高く、いまだに彼の作品ではこれが最高傑作だと思われる。 | Side A 1. アナザー・ワールド 4:00 2. チャイナタウン 4:08 3. テレビ・エイジ(T.V. Age) 3:45 4. ターゲット 4:34 5. ステッピン・アウト 4:34 | Side B 1. 危険な関係(Breaking Us in Two) 4:57 2. 癌に気をつける(Cancer) 6:06 3. リアル・メン 4:05 4. スローな曲をかけてくれ(A Slow Song) 7:15 |
| JOE JACKSON | ボディ・アンド・ソウル |  | 1984年 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ジョー・ジャクソンの7枚目のアルバム、ソニー・ロリンズへのオマージュのジャケットも素晴らしい。ジャズにファンクやラテンといった1950年代風の感覚を聴かせる。エレイン・フォーリーらの女性コーラス含む9人編成で制作。社大な導入とメリハリが快感! の#1、ジャズの流れを汲み、彼の得意とするテンポの良さがこれまたいい#5などアップテンポ派ならこの2曲だけでも十分マスト・バイの作品だろう。ほかにもラテン・リズム、しっとりした曲などを交えた組立ては緩みが無く、面白みがあるアルバム全体を一気に聴かせるだけの魅力を持っている。ロックとして扱われるもボーダーレスな印象を与える内容の一枚だ。US20位、UK14位 | Side A 1. ザ・ヴァーディクト 2. チャ・チャ・ロコ 3. ノット・ヒア・ノット・ナウ 4. ホワット・ユー・ワウント 5. ゴー・フォー・イット | Side B 1. ロイサイダ 2. ハッピー・エンディング 3. ビー・マイ・ナンバ・ワン 4. ハート・オブ・アイス |
| JOE JACKSON | ビッグ・ワールド |  | 1986 | ニューウェイブ | レコード | UK | 86年の新作アルバム15曲をニューヨークのラウンドアバウト・シアターで観客を前にてなんど一発録りしたライブ盤。曲はすべてこのアルバム用に書かれたものだった。また、レコーディングしている最中は、観客には拍手を一切禁じられていたといい、ミスが許されぬ真の一発録り、という異常な緊張感が全体を支配しています。バンドの演奏はどこか硬く、ピンと張りつめた感じは最初から最後まで変わりません。ワールドワイドな曲作り、演奏も録音もいいし、曲にもジャクソンのポップ・サイドを俯瞰するような醍醐味があって、申しぶんない。かなりの満足度をもたらす内容だと思います。最終的にミキシングやオーバー・ダブの手を加えていないということから察するに、現場でのサウンドも極上のものだったと思われる。内容は充実しており、1枚のオリジナル・アルバムとしては最高だ。 | Side A 1. ワイルド・ウエスト 2. ライト・アンド・ロング 3. ビッグ・ワールド 4. フレッシュ・タイム 5. トゥナイト・アンド・フォエヴァー | Side B 1. シヤイン・スカイ 2. ファイティ・ダラー・ラブ・アフェア 3. ヴィ・キャン・トリブ・トゥ・ゲザー 4. フォーティ・イヤーズ |
| THE JOE PERRY PROJECT | 熱く語れ! |  | 1980年3月 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ドロー・ザ・ライン発表後、エアロを脱退したジョー・ペリー、ブロンズワットを結成し、1980年にリリースしたファーストアルバム。メンバーは、ジョー・ペリー(G/Vo)、ラルフ・モーマン(Vo)、デヴィッド・ハル(B)、ロニース・チュワート(Dr)。プロデュースはジャック・ダグラスとジョー・ペリー。本作ではペリーとラルフ・モーマンが半々の割合でリード・ボーカルを取っている。タイトルの「音楽に語らせろ」という通りのシンプルなロックに戻ろうという基本姿勢で、エアロへの復帰後にアルバム『Done With Mirrors』で再録したタイトル曲「Let the Music Do the Talking」や、インストでギター弾きまくる「Break Song」など、ジョー・ファンなら涙モノの曲も多数収録。全曲に渡りジョーの怒り狂うギターと疾走するリズムは休む間もないほどで、自分の思い描くロックを具現化した至宝の一枚! 全米最高位47位。 | Side A 1. 熱く語れ! - "Let the Music Do the Talking" - 4:43 2. コンフリクト・オブ・インテラ - 4:43 3. デイスクラウド・ドッグス - 3:42 4. シューティング・スター - 3:39 5. ブレイク・ソング - 2:06 | Side B 1. ロッキン・トレイン - 6:02 2. ザ・ミスト・イズ・ライジング - 6:30 3. レディ・オン・ザ・ファイアリング・ライン - 3:54 4. ライフ・アット・ア・グランス - 2:42 |
| JOE WALSH | ロスからの着い風 |  | 1978 | AOR | レコード | 日本 | イーグルスのギターリストであるジョー・ウォルシュの78年にリリースされたソロアルバム『ロスからの着い風』はウォルシュ初のミリオンセラーを獲得。特にシングルカットされた「この人生に賭けて」は、ハードなギター・リフのイントロから一転、アコースティックギターが爽やかなストロークが聞こえ、歌に入るとほのぼのとしたレゲエに変化する不思議な曲調で、彼のユーモラスな雰囲気にもマッチした大ヒットになりました。 | Side A 1. オーヴァー・アンド・オーヴァー 4:52 2. セカンド・ハンド・ストア 3:35 3. インディアン・サマー 3:03 4. アット・ザ・ステーション 5:08 | Side B 1. トゥモロウ 3:39 2. イナー・チューブ 1:24 3. 不思議なボート 4:41 4. この人生に賭けて 8:56 |
| JOHN COLTRANE | 至上の愛 |  | 1973年4月1日 | ジャズ | レコード | 日本 | ジャズ・サクソフォーン奏者ジョン・コルトレーンがインパルス!レコードから発表したアルバム。コルトレーンが神に捧げた、4部構成による組曲のアルバム。作曲に当たって、カバラの書物の影響を受けた。 | Side A 1. パート1:承認 - Part 1-Acknowledgement 2. パート2:決意 - Part 2-Resolution | Side B 1. パート3:追求 - Part 3-Pursuance 2. パート4:賛美 - Part 4-Psalm |
| JO JO ZEP & THE FALCONS | 標的 |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ジョー・ジョー・ゼップとファルコンズはオーストラリアのブルース/ロックバンド。4枚目のスタジオ・アルバム。1979年7月にリリースされたこのアルバムは、オーストラリアのケント・ミュージック・レポートで13位に達し、バンド初のトップ20アルバムとなった。また、アルバムから最初のシングル「ヒット・アンド・ラン」はポップ・レゲエで、1979年8月にチャートで12位に入りヒットした。 | Side A 1. ヒット・アンド・ラン Hit And Run 2. 耐え難き世界-Don't Wanna Come Down 3. ケチャラ -Katschara 4. 寂しいだけさ-Only The Lonely Heart 5. ソー・ヤング -So Young | Side B 1. クロス・ストゥ・ザ・ボーン -Close To The Bone 2. シェイプ・ア・イム・イン -Shape Im In 3. トライアルズ・アンド・トリビュレーション -Trials And Tribulations 4. シン・ライン -Thin Line 5. オープン・ハートッド -Open Hearted |
| JON ANDERSON | 七つの詩 |  | 1980 | プログレ | レコード | UK | イエスを脱退後にリリースしたソロ2作目のアルバム。イエスの呪縛から解放されたかリラックスした曲作りとなっている。一人による多重録音により制作されたデビュー作「サンヒロウのオリアス」に対し、サイモン・フィリップスやクレム・クレムソンの腕力を多く迎えて、よりロック/ポップ的な形式で書かれた曲を収めた本作は、YESが「トーマト」で試みたキャッチーな方向性にスーパー・トランプの英国ポップ性を取り入れた、メロディの魅力が際立つ作風。とはいえ、10分を越えるタイトル曲等プログレッシヴな展開も随所に取り入れ、アンダーソンの唯一無比の歌声がこの上なく響き渡る感動作。ジョンの明るいポップ感覚のみが強調されている。 | Side A 1. フォー・ユー、フォー・ミー 4:24 2. サム・アー・ボーン 4:02 3. ドット・フォーゲット 2:57 4. ハート・オブ・ザ・マター 4:18 5. ヒア・アイト 1:48 | Side B 1. エヴリバディ・ラヴ・ユー 4:01 2. ティス・ユア・タイム 3:12 3. デイズ 3:24 4. ソング・オブ・ヘヴン |
| JONI MITCHELL | ブルー |  | 1971 | ポップス | レコード | ドイツ | 1971年発表、ジョニ・ミッチェルの初期の最高傑作である4作目。『ローリング・ストーン』誌が大規模なアンケートで選んだ「オールタイム・グレイテスト・アルバム500」(2020年版)において3位にランクイン! 全英3位、全米15位を記録。全編アコースティック・タッチでありながら、特殊なリズムの乗せ方をするヴォーカルと独自のオープン・チューニングのギターの響きが、フォーク的に単純に終わらない、奥深い世界を形作っている。瑞々しい恋心を描く<1>、強烈な自己告白曲<5>、クールで鋭い<7>など。<1><6><9>でのジェイムズ・テイラーの職人芸ギターも見事、というか驚嘆。プリンスのファンも必聴。 | Side A 1. オール・アイ・ウウント 3:32 2. マイ・オール・マン 3:33 3. リトル・グリーン 3:25 4. ケアリー 3:00 5. ブルー 3:00 | Side B 1. カリフォルニア 3:48 2. ティス・フライト・トゥナイト 2:50 3. リヴァー 4:00 4. ア・ケイス・オブ・ユー 4:20 5. リチャードに最後に会った時 4:13 |
| JONI MITCHELL | 夏草の誘い |  | 1975 | ポップス | レコード | 日本 | 1975年にリリースされたカナダ人シンガー・ソングライター、ジョニ・ミッチェルの7枚目のアルバム。ミッチェルの音楽的興味はフォークおよび当時のポップシーンからは離れて、より広い範囲の楽器を用いたジャズに刺激されたものになっていた。『ジャングル・ライン』はミッチェルとしてはサンプリング音源を含む曲の初めての商業的リリースとなったが、これはアフリカのミュージシャンのループ録音を採用したものだった[10]。このサンプリング音源の実践は1980年代には西洋のロックシーンにおいて一般的になっていた。『フランスの恋人たち』では「コート・アンド・スパーク」の豊かなポップサウンドを継承し、タイトル曲や「イーディスと親玉」では南カリフォルニアの郊外の生活を記録する取り組みを行った。 | Side A 1. フランスの恋人たち - In France They Kiss on Main Street 3:19 2. ジャングル・ライン - The Jungle Line 4:25 3. イーディスと親玉 - Edith and the Kingpin 3:38 4. 悲しみはともだち - Don't Interrupt the Sorrow 4:05 5. 美しい誘惑者 - Shades of Scarlett Conquering 4:59 | Side B 1. 夏草の誘い - The Hissing of Summer Lawns 3:01 2. ボー・ホー・ダンス 3:48 3. メドレー ハリーの家/センターピース - Harry's House; Centerpiece 6:48 4. スウィート・ハーバード 4:12 5. シャドウズ・アンド・ライト 4:19 |

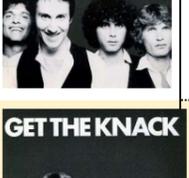
| | | | | | | | | | | |
|---------------|------------------|--|------------|---------------|------|----|--|--|---|--|
| JONI MITCHELL | 逃避行 | | 1976 | ポップス | レコード | 日本 | 1976年に発表した8枚目のアルバム。アルバムの曲は主にメイン州から車で旅行中にミッチェルによって書かれた。1974年あたりからジャズなどさまざまな音楽的要素を取り入れてきたジョニ・ミッチェルだが、76年の本作は、それらを完璧に血肉化、深化した大傑作。基本的に本人によるギター・ヴォーカルと、ジャコ・パストリアスによる超絶的技術の味わい深いベースがメイン。シンプルだけに聴き手の脳裏に深く浸透し、荒涼としつつも美しい世界を表出させる、透明感のある素晴らしい音楽が展開される。寒い土地を旅するような、湿度の低い哀愁の雰囲気のある曲が並ぶが、唯一種やかなく8)が、まさしく荒野のモーテルの暖炉のごく暖かい、ジャズ・フュージョン系ミュージシャンのジャコ・パストリアス、ラリー・カールトン、トム・スコットらが参加している、ニール・ヤングがハーモニカで | Side A 1. コーテ - 5:01 2. アメリア - 6:01 3. フォーリング・シングス・ザ・ブルース - 5:07 4. ストレンジ・ボーイ - 4:15 5. 逃避行 - Hejira - 6:42 | Side B シャロンへの歌 - Song for Sharon - 8:40 黒いカラス - Black Crow - 4:22 ブルー・モーテル・ルーム - 5:04 旅はなぐさめ - Refuge of the Roads - 6:42 | |
| JONI MITCHELL | ミンガス | | 1979 | ポップス | レコード | 日本 | ジョニ・ミッチェルが1979年に発表したスタジオ・アルバム。ジャズ界の巨匠チャールズ・ミンガスとの共演で制作されていたが、途中からジョニの方針転換でジャコ・パストリアスやハービー・ハンコック、ウェイン・ショーター、ピーター・アースキン、ドン・アリアスなど、ジャズ・フュージョン界の豪華オーケストラ的な顔ぶれで制作し直されてリリースされた。所々にコーラージュのようにチャールズ・ミンガスの声や歌が聴けるが、これらは方針転換前のレコーディングで収録されていた物が部分的に使われている。 | Side A 1. ハッピー・バースデー 1975 2. ゴッド・マスト・ビー・ア・フォーギ・マン 3. 葬儀 4. ア・フェア・イン・ザ・スカイ 5. ザ・ウルフ・ザット・リヴズ・イン・リンジー | Side B 1. アイズ・ア・マギン 2. スウィート・サッカ・ダンス 3. コイン・イン・ザ・ポケット 4. デ・モインのおやれ賭博師 5. ラッキー 6. グッド・バイ・ボーク・バイ・ハット | |
| JOURNEY | エスケイプ | | 1981 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 81年作。『ザ・グレイツ』の遺産7作目となったアルバムで、彼等が全盛期を迎える事となった大名盤です。メロディアス・ハードの夜明け、と言っても過言ではない本作、未だに多くのバンドが越える事のできない大きな壁にもなっているのではないのでしょうか。日本では産業ロックという言葉の代表格ともされてきましたが、80年代メタル・シーンを総括する意味でも、フォリナーと彼等が残した影響は大きすぎたと思います。 | ステイヴ・ペリーが加入後の三部作、「INFINITY」、「EVOLUTION」、「DEPARTURE」では、洗練されたコーラス・ハーモニーを多用したアメリカン・ハードを確立しましたが、それでも70年代の土臭い部分も多少残っていた様に感じます。 | | |
| JOURNEY | フロンティアーズ | | 1983 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 『ザ・グレイツ』を過ぎての『エスケイプ』が、前作の『エスケイプ』の大ヒットにより築いたメロディアス・ロックの地位を更に高めた83年作のアルバム。本作をピークにした、バンドの活動が停滞していくわけですが、この完成度を考えれば全てをやり尽くしてしまった感が全編に漂っているため、仕方がなかったのかなと素直に思えてしまいます。 | | | |
| JOURNEY | キャプチャード・ライヴ・エナジー | | 1981 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | ニール・ジョーンズ自ら、「エスケイプとは比較にならない」と言い切っている本作は、以降のメロディアス・ハード・シーンの指標ともなったのでした。前作からの燃え上がる様なバラード・タイプのメロディ・センスよりも、分厚くなったサウンド、メタリックな質感が強調されています。まさに本当の意味での産業ロック、という考え方もできますが、改めて聴き直すとアルバム後半の方で顕著な80年代的な新機軸、ハード・ロック感覚を構築している様な実験性こそが、本作の凄まじく81年リリース作、ジョニ・ミッチェルの初のライブ盤、当時の彼等の最新作、「ディバチャー」を引っさげてのワールド・ツアーの模様を収めたもので、日本公演での録音も含まれている様です。ジョナサン・ケインが参加する以前の、「インフィニティ」、「エヴォリューション」、そして「ディバチャー」と、ステイヴ・ペリーのヴォーカルを前面に押し出した、明快で爽快なメロディを確立した自信が漲ったライブとなっています。「エスケイプ」以前のベスト・トラック集と言えるセット・リストも魅力的で、まさにキッスやエアロスミス以降の新世代・ハード・ロックという見方もできるといえます。産業ロックの代表格と呼ばれる前の彼等の音楽性もかなり魅力的で、スタジオ・レコーディングの新曲として含まれている「ブルースカイ・パーティー」にその優れたメロディ作りが集約されています。 | | | |
| JOY DIVISION | アンノウン・プレジャーズ | | 1979 | ニューウェイブ | レコード | UK | 1977年、バーナード・サムナー(vo.g)とピーター・ダグビー(b)によってマンチエスターで結成。さらにイアン・カーティス(vo)、ステイヴ・モリス(ds)が加入。当初のバンド名、「ウルジャワ(デヴィッド・ボウイの曲からとった)をジョイ・ディヴィジョンへ改名、78年にファクトリーと契約し、翌年デビュー。マンチエスターから始まった英国ロックの新しい歴史。カリスマ、イアン・カーティスのボーカルと、タイトで耽美的なサウンドは既にオリジナリティを完成させており、まさにポスト・パンク時代を象徴するものであった。時代を越えて語り継がれる記念碑的アルバム。 | Side A 1. ディスオーダー 03:28 2. デイ・オブ・ザ・ローズ 04:44 3. キャンディデイト 03:02 4. インサイト 04:23 5. ニュー・ドーン・フェイス 04:46 | Side B 1. シーズ・ロスト・コントロール 03:54 2. シャドウブレイド 03:51 3. ウィルダネス 02:36 4. インターゾーン 02:14 5. アイ・リメンバ・ナッシング 05:53 | |
| JOY DIVISION | クローサー | | 1980 | ニューウェイブ | レコード | UK | このアルバムの制作後、グループの精神的支柱だったカリスマ、イアン・カーティスが突然の自殺。その死後に発表されたジョイ・ディヴィジョンの、傑作ともいえるセカンドアルバム。 | Side A 1. アトロシティ・エクシビジョン 2. アイレイション 3. パスオーバー 4. コロニー | Side B 1. エイ・ミーンズ・トゥ・アン・エンド 2. ハート・アンド・ソウル 3. 24アワーズ 4. ジ・エターナル 5. デケイズ | |
| JOY DIVISION | サブスタンス | | 1988 | ニューウェイブ | CD | 日本 | ジョイ・ディヴィジョンのメンバー選曲による1988年発表のベスト・アルバム。「ウルジャワ」「ディーズ・デイズ」他、全17曲を収録。 | 17ウルジャワ 21ルーダース・オブ・メン 3デジタル 4オートサジェスション 5トランスミッション 6シーズ・ロスト・コントロール 7インキューベーション 8デッド・ソウルズ 9アトモスフィア | 10ラヴ・ウィル・テア・アズ・ア・パート 11ルー・ラヴ・ロスト 12フェイリヤーズ 13グラス 14フロム・セイフティ・トゥ・ホエア 15ワグネル 16コマキノ 17ディーズ・デイズ | |
| JUDAS PRIEST | 背信の門 | | 1977年4月23日 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | 79年作品。ジューダス2回目の来日公演を収録した初のライブ・アルバム。実力派バンドとして臨場感あるハード・ロックの醍醐味を十分に味わえる傑作アルバム。「ロック・フォー・エヴァー」「ユダへの貢物」など、5作目『殺人機械』からの曲を中心に、徹底したヘヴィ・メタルで押しまくった内容に仕上がっている。この作品を境にジューダスは成長期から充実期に入り、アメリカ・マーケット征服に向けて本格的に乗り出すことになる。 | Side A 1. 罪人 - Sinner - 6:42 2. ダイヤモンド・アンド・ラスト - 3:23 3. スターブレイカー - 4:49 4. 最後の夏のバラ - Last Rose of Summer- 5:36 | Side B 1. 危害者 - Let us Prey/Call For The Priest - 6:12 2. 不当なる弾圧 - Raw Deal - 5:59 3. 孤立の涙 - Here Come the Tears- 4:36 4. 異端からの反撃 - Dissident Aggressor - 3:06 | |
| JUDAS PRIEST | ステンド・クラス | | 1978年2月10日 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | 1978年に発表した4作目のアルバム。イギリスでは27位。アメリカでは123位と売れず。本作より、レス・ピンクス(ドラムス)が加入。ジューダス・プリーストの初期における最高傑作であり、NWOBHMからスラッシュメタルまで、後のヘヴィメタルバンドに影響を与えたアルバム。ジューダス・プリーストとデニス・マッケイの共同プロデュースによりアルバムの大部分が完成した折に、シングル向きのカヴァーの録音を要求されたため、バンドは急速、ジェイムズ・ガズリーをプロデューサーに起用し、スプーキー・トゥースのカヴァー「ペター・バイ・ユー、ペター・ザン・ミー」を録音し、シングル・カットしたが、チャート・インは果たせなかった。 | Side A 1. エキサイター - 5:33 2. 白光、赤熱 - White Heat, Red Hot - 4:19 3. ペター・バイ・ユー、ペター・ザン・ミー - 3:23 4. ステンド・クラス - Stained Class - 5:18 5. 侵略者 - Invade - 4:10 | Side B 1. 地獄の聖者 - Saints in Hell- 5:28 2. サベージ - Savage - 3:28 3. 死の国の彼方に - Beyond the Realms of Death - 6:51 4. ヒーローズ・エンド - 4:59 | |
| JUDAS PRIEST | 殺人機械 | | 1978年11月 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 1978年に発表した5作目のアルバム。アメリカではタイトル『Hell Bent for Leather』に変更してリリースされた。イギリス32位、アメリカで128位。音楽的には、重厚さが増した一方で「テイク・オン・ザ・ワールド」等のポップな楽曲も収録され、発売当時のイギリス盤は10曲入りだったが、アメリカ盤にはフリーウッド・マックのカヴァー「グリーン・マナシ」が追加されて11曲入りでリリースされた。第1弾シングル「テイク・オン・ザ・ワールド」は、グループのシングルとしては初めて全英シングル・チャートでトップ100圏内に入り、最高14位に達した。第2弾シングル「イヴニング・スター」は全英53位に達した。 | Side A 1. ユダへの貢物 - Delivering the Goods - 4:16 2. ロック・フォー・エヴァー - 3:19 3. イヴニング・スター - 4:06 4. 殺戮の聖典 - Hell Bent for Leather - 2:40 5. テイク・オン・ザ・ワールド - 3:01 | Side B 1. バーニング・アップ - 4:06 2. グリーン・マナシ - 3:22 3. 殺人機械 - Killing Machine - 3:01 4. ランニング・ワイルド - 2:57 5. ピフター・ザ・ドーン - 3:23 6. 邪悪のファンタジー - Evil Fantasies - 4:13 | |
| JUDAS PRIEST | イン・ジ・イースト | | 1979年10月 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | 79年作品。ジューダス2回目の来日公演を収録した初のライブ・アルバム。実力派バンドとして臨場感あるハード・ロックの醍醐味を十分に味わえる傑作アルバム。「ロック・フォー・エヴァー」「ユダへの貢物」など、5作目『殺人機械』からの曲を中心に、徹底したヘヴィ・メタルで押しまくった内容に仕上がっている。この作品を境にジューダスは成長期から充実期に入り、アメリカ・マーケット征服に向けて本格的に乗り出すことになる。 | Side A 1. エキサイター 5:37 2. ランニング・ワイルド 2:52 3. 罪人(シナー) 7:30 4. 切り裂きジャック(リバー) 2:40 5. グリーン・マナシ 3:22 | Side B 1. ダイヤモンド&ラスト 3:39 2. 生贖 (Victim Of Changes) 7:10 3. 虐殺 (Genocide) 7:20 4. 独裁者 (Tyrant) 4:40 | |
| JUDAS PRIEST | イン・ジ・イースト | | 1979年10月 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 1980年に発表。スタジオ・アルバムとしては6作目。本作より元ドラビーズのデヴィッド・フレイが加入。まだ十分な数の新曲ができていなかった時点でレコーディングが開始され、シンプルな構造の楽曲が多く、バラード・タイプの曲は収録されていない。 | Side A 1. ラビッド・ファイア - 4:07 2. メタル・ゴッズ - 3:58 3. プレイキング・ザ・ロウ - 2:34 4. グラインダー - 3:58 5. ユナイテッド - 3:35 | Side B 1. オールド・トゥ・ビー・ワイズ - 5:04 2. リヴィング・アフター・ミッドナイト - 3:31 3. ザ・レイジ - 4:44 4. スティラー - 4:30 | |
| JUDAS PRIEST | ブリティッシュ・ステイル | | 1980年4月14日 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 本作はセールス的に成功を収め、イギリスでは初のトップ10入りを果たして最高4位に達した。更に「リヴィング・アフター・ミッドナイト」(全英12位)、「プレイキング・ザ・ロウ」(同12位)、「ユナイテッド」(同26位)と、シングル・ヒットが多く出た。アメリカでも初のトップ40入りを果たし(最高34位)、アメリカでの人気を確立した。イギリス盤とアメリカ盤では曲順が違い、USリリジナル盤では「プレイキング・ザ・ロウ」がA面1曲目の「リヴィング・アフター・ミッドナイト」がB面1曲目となっていた。日本盤も、アメリカ盤に準じていた。 | Side A 1. ヘリオン - 0:42 2. エレクトリック・アイ - 3:38 3. 嵐の出撃 - Riding on the Wind - 3:09 4. プラウドストーン - 3:50 5. 運命の鎖 - (Take These) Chains - 3:04 6. ベイン・アンド・プレジャー - 4:13 | Side B 1. 復讐の叫び - Screaming for Vengeance - 4:43 2. ユーヴ・ゴット・アナザー・シング・カミング - 5:09 3. フィーヴァー - 5:20 4. デヴィルズ・チャイルド - 4:46 | |
| JUDAS PRIEST | 復讐の叫び | | 1982年7月17日 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 1982年に発表。スタジオ・アルバム8作目で、本国イギリスのみならずアメリカでも大ヒットを記録した。イギリスのアルバム・チャートでは11位に達し、シングル「ユーヴ・ゴット・アナザー・シング・カミング」は66位に、アメリカでは、初となるトップ20入りを果たし(最高17位)、シングル「ユーヴ・ゴット・アナザー・シング・カミング」も最高67位に達した。「ヘリオン」と「エレクトリック・アイ」はメドレーとして収録され、この2曲はライブでも続けて演奏されている。また、「ユーヴ・ゴット・アナザー・シング・カミング」は、テレビの音楽チャンネル「VH1」において「40 Greatest Metal Songs」の第5位にランクイン。 | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------------|-----------------------------|---|------------|---------|------|----|--|--|---|
| KAJA | カジャ3 |  | 1985 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | グループ名をkajagoogooからkajaに変更し3名(Jez Strodgeがレコーディング中に脱退)となり、1985年リリースの3作目。ホワイト・ファンクと硬派なロックを見事にブレンドした傑作アルバム。大物プロデューサーにケン・スコットを迎えての作品。全般的にはシンセサイザーを駆使したタイトで硬質なビートによるエレクトリック・ファンクでグイグイと押す内容で、これを「斬新」と感じるか、「君はToo Shy-Shy)のようなキャッチーな要素が薄いとマイナスにとらえるかで評価は分かれるだろう。だが、所々でAORファンあたりに「おやっ」と思わせる好フレーズが飛び出す。例えば、「Jigsaw」のサビのマイナー調のフレーズと感傷的なコーラスの組み合わせなんて最高だし、「Charm Of A Gun」のクライマックス時のハードだがメロディアスなギター・ソロと、シェリル・リンを思わせるようなエモーションが、そのメロディアスな女性ヴォーカルも、それが一曲を満ち満ちた曲を結んだ。 | Side A 1. ドゥ・アイ 2. 涙の備あと(Shouldn't Do That) 3. ユア・アベタイト 4. リヴァース 5. シット・ダウン&シャット・アップ | Side B 1. アフレイド・オブ・ユー 2. ジグソー 3. フィアー・オブ・フォーリング 4. 危険な裏街(Charm Of A Gun) 5. テイク・マイ・プレス・アウェイ |
| KAJA GOO GOO | 君はTOOSHY |  | 1983 | ニューウェイブ | CD | US | カジャグーのヒット曲と、初期にバンドから脱退したヴォーカルのリマールのヒット曲を一枚に集約したベストアルバム。 | 1. Too Shy カジャグー 3:41 2. Ooh to Be Ah カジャグー 3:35 3. Hang on Now カジャグー 3:23 4. Big Apple カジャグー 4:09 5. The Lion's Mouth カジャグー 3:36 6. Turn Your Back on Me (7" Version) カジャグー 4:02 7. Shouldn't Do That KAJA 3:25 8. Only for Love Limahl 3:56 | 9. Too Much Trouble Limahl 3:57 10. Never Ending Story Limahl 3:30 11. Love in Your Eyes (7" Version) Limahl 4:11 12. Inside to Outside (7" Version) Limahl 3:42 13. Too Shy (Midnight Mix) カジャグー 5:45 14. Hang on Now (Extended Version) カジャグー 6:20 15. Turn Your Back on Me (Extended Mix) カジャグー 5:05 16. Only for Love (Dance Mix) Limahl 6:36 17. Never Ending Story (Club Mix) Limahl 5:20 |
| KALEIDOSCOPE | (ペーパースリーブ仕様) タンジェリン・ドリーム |  | 1967 | プログレ | CD | 日本 | UKロックの歴史に際々その名を残す名グループ、カレイドスコープが1967年にフォンタナからリリースした傑作ファースト。グループ名どおりの万華鏡サウンドが楽しめる。英国「レコード・コレクター」誌が発表した「歴代サイケデリック・ロック・アルバム・ベスト50」に選ばれた超メガレ盤。サイケデリックなビート・ポップは同時期のローリング・ストーンズに近いものがある気がする。その霧のかかった上でのドリーミングな雰囲気、またサイケだけではないしっとりとした感じのバラード気味のナンバーなども良い。 初期のピンクフロイドとよく比較され、フロイドのようなダークな感じはあまり無く、よりポップで煌びやか。ただ両方に共通する「幻想的な世界観」は素晴らしい。トラッドミュージックなどもとても上手く溶け込ませていて完成度はかなり高い。サイケデリックなサウンドは、1968年に発表した初のソロ・アルバム。1980年代後期、ローリング・ストーンズは、ミック・ジャガーとリチャーズの確執が激化し、ミックのソロ活動により、グループ活動停滞を余儀なくされた。元々リチャーズは自身のソロ活動には消極的であったが、チャック・ペリーのドキュメンタリー映画『ヘイル!ヘイル!ロックンロール』の仕事をした折に、自分のバンドをやってみようと思ったという。映画で共演したステイヴ・ジョーダンと共同プロデューサーに起用。本作で結成されたバンドのメンバーが高いワインばかり飲むという理由で「The X-Pensive Winos」と名付けられた。本作では、リチャーズが全曲でリード・ボーカルを担当し、(1)(5)(7)を筆頭に全曲で作曲し、「やっぱり俺にはこれしか出来ないもんね」とあくまでもバンド・メンバーを尊重したアライヴ・パフォーマンスが、当時設立されたばかりのハーヴェスト・レーベルから1969年に発表したソロ・デビュー作。バグにはソフト・マシンの2ndのメンバー3人がそのまま加わっており、タイトル曲はソフト・マシンの1st収録曲の続編になっているもの、ほとんどソフト・マシンの感じに仕上がっている。デヴィッド・ベッドフォードの手によるオーケストレーションが素晴らしい、初期ソフトとは全く異なるドリーミーなサイケ・ポップの名盤がこの作品。ケヴィンのけだるい低音ヴォイスの存在感がすごい高く、過剰と言ってもよいアレンジと見事に渡り合っている。 | 1.Kaleidoscope 2>Please Excuse My Face 3Dive Into Yesterday 4Mr.Small the Watch Repairer Man 5Flight From Ashiya 6The murder of Lewis Tollani 7In the Room Of Percussion | 8Dear Nellie Goodrich 9Holiday Maker 10A Lesson Perhaps 11The Sky Children 以下、CDボーナストラック 12A Dream For Julie 13Just How Much You Are 14Jenny Artichoke |
| Keith Richards | トーク・イズ・チープ |  | 1988年10月3日 | ロック | レコード | US | 1988年10月3日発売された初のソロ・アルバム。1980年代後期、ローリング・ストーンズは、ミック・ジャガーとリチャーズの確執が激化し、ミックのソロ活動により、グループ活動停滞を余儀なくされた。元々リチャーズは自身のソロ活動には消極的であったが、チャック・ペリーのドキュメンタリー映画『ヘイル!ヘイル!ロックンロール』の仕事をした折に、自分のバンドをやってみようと思ったという。映画で共演したステイヴ・ジョーダンと共同プロデューサーに起用。本作で結成されたバンドのメンバーが高いワインばかり飲むという理由で「The X-Pensive Winos」と名付けられた。本作では、リチャーズが全曲でリード・ボーカルを担当し、(1)(5)(7)を筆頭に全曲で作曲し、「やっぱり俺にはこれしか出来ないもんね」とあくまでもバンド・メンバーを尊重したアライヴ・パフォーマンスが、当時設立されたばかりのハーヴェスト・レーベルから1969年に発表したソロ・デビュー作。バグにはソフト・マシンの2ndのメンバー3人がそのまま加わっており、タイトル曲はソフト・マシンの1st収録曲の続編になっているもの、ほとんどソフト・マシンの感じに仕上がっている。デヴィッド・ベッドフォードの手によるオーケストレーションが素晴らしい、初期ソフトとは全く異なるドリーミーなサイケ・ポップの名盤がこの作品。ケヴィンのけだるい低音ヴォイスの存在感がすごい高く、過剰と言ってもよいアレンジと見事に渡り合っている。 | Side A 1. ビッグ・イナフ 2. テイク・アウト・ソー・ハード 3. ストラグル 4. ストワード・ユー・アップ 5. メイク・ユー・ミス・テイク 6. ユードント・ムーブ・ミー | Side B 1. ハウ・アイ・ウィッシュ 2. ロック・アウェイ 3. ホイブ・イット・アップ 4. ロックド・アウェイ 5. イット・メンズ・ア・ロット |
| Kevin Ayers | (ペーパースリーブ仕様) おもちゃの歌び |  | 1969 | プログレ | CD | 日本 | 1970年に発表した2nd。「燃えなければ、寝れない」というメモを残して病死したロマンティックな夢想家ケヴィン・エアーズ。ソフト・マシンのオリジナル・メンバーであったことからカンタベリー派のプログレ音楽家として語られる機会が多い男ではあるが、実際の彼はポップスやボサノヴァを好む文学好きな「自由人」だったらしい。本作は、そんな彼がデヴィッド・ベッドフォードとミック・ジャガー、そしてマイク・オールドフィールドから成るバンド・ザ・ホール・ワールドを従えて制作したソロ2作目にして、ソフト・マシンの一作目で聴かれた方向性をそのまま受け継いだ彼が残したカンタベリー・シーンを代表する屈指の傑作。得意分野の異なる5人が凌ぎを削って行ったこの実験も今や伝説。中でも、ケヴィンの生涯の代表作【1】は絶対必聴。 | 1.おもちゃの歌び 2.ウイン・フィリング 3.クラリネット・ラグ 4.ふらふらの少女 5.気取った歌 6.汽車を止めろ! 7.エリナを食べたケーキ 8.レディ・レイチェル | 9.オレ・オレ・バンテッド・ソング 10.この狂おしき時 11.レジーアス・エクスベリエンズ(朝に歌えば)(シングル・バージョン) 12.レディ・レイチェル(Extended first mix previously unreleased) 13.スーン・スーン・スーン 14.レジーアス・エクスベリエンズ(朝に歌えば)(previously unreleased) 15.レディ・レイチェル(シングル・バージョン) 16.朝に歌えば(シングル・バージョン) |
| Kevin Ayers | (ペーパースリーブ仕様) 月に撃つ |  | 1970 | プログレ | CD | 日本 | 1970年に発表した2nd。「燃えなければ、寝れない」というメモを残して病死したロマンティックな夢想家ケヴィン・エアーズ。ソフト・マシンのオリジナル・メンバーであったことからカンタベリー派のプログレ音楽家として語られる機会が多い男ではあるが、実際の彼はポップスやボサノヴァを好む文学好きな「自由人」だったらしい。本作は、そんな彼がデヴィッド・ベッドフォードとミック・ジャガー、そしてマイク・オールドフィールドから成るバンド・ザ・ホール・ワールドを従えて制作したソロ2作目にして、ソフト・マシンの一作目で聴かれた方向性をそのまま受け継いだ彼が残したカンタベリー・シーンを代表する屈指の傑作。得意分野の異なる5人が凌ぎを削って行ったこの実験も今や伝説。中でも、ケヴィンの生涯の代表作【1】は絶対必聴。 | 1.メイ・アイ 2.ライバルとジェラルデン - コレス・バラッド 3.ロレス 4.狂人の嘆き 5.ヴァイオリンにお涙らし 6.カキとピエロ 7.水の中 8.不思議な国のクラランス | 8.レッド・グリーン・アンド・ユー・ブルー 9.月に撃つ 10.ジェミニ・チャイルド 11.ビュー・ジュ 12.バクワイ・ダンス 13.ジャリー・マダム 14.ハット(previously unreleased) |
| Kevin Ayers | (ペーパースリーブ仕様) 彼女のすべてを歌に |  | 1971 | プログレ | CD | 日本 | 72年作、孤高のカリスマ、というべきシンガー、ケヴィン・エアーズの3作目。ピンク・フロイドの「原子心母」からの影響が大きいうかがえるオーケストラ導入と、ドラマチックな構成が高揚感を煽るオープニングは70年代プログレの古き良き香りを漂わせていますが、実に多彩なナンバーが含まれています。散漫なイメージがないのは、この人の端正なルックスに似合わない洗練の味わい深さがあるからでしょうか。 ルー・リードまんな曲もすんなりと聴けてしまいます。ソフト・マシンの盟友であるロバート・ワイアット、マイク・オールドフィールド等を従え、アヴァンギャルドな実験性とポップでフワカとした雰囲気が見事に融合した傑作です。この独特の浮遊感、不思議な音世界はかなりのオススメです。 | 1. モドレー・ゼア・イズ・ラヴィング / アマング・アス / ゼア・イズ・ラヴィング 07:22 2. マーガレット 03:20 3. オール・マイ 02:59 4. ソング・フロム・ザ・ボトム・オブ・ア・ウェル 04:37 5. 彼女のすべてを歌に 08:13 6. ブルー・スエード・シューズの異邦人 03:24 7. シャンペン・カウボーイ・ブルース 03:59 8. ララバイ 02:07 | 以下、CDボーナストラック 9. スターズ 10. 悲しい歌はこれっきり 11. いんちきメキシコ旅行のブルース 12. ブルー・スエード・シューズの異邦人 |
| Kevin Ayers | (ペーパースリーブ仕様) いとしのバナナ |  | 1973 | プログレ | CD | 日本 | ケヴィン・エアーズの4作目のアルバム。新たに結成させたバンド・ザ・アーチボールドと制作したソロ4作目にして、ケヴィンの既成概念を外れた雑食性が顕著な一作。女性コーラス隊とブラスセクションが加わって、非常に聴きやすくなった作品。前作までの難解さやシリアスなムードはあまりない。さらにお気楽な南国ムードも加わり、彼の新展開を示すメモリアルな作品。友人であったニコに感化されたという【6】では、当時カーンを解散させたばかりだったステイヴ・ヒレッジ(後にゴングに加入)のギターが抜群の存在感を示している。バラエティ・ショーを展開していた当時の彼の包容力を目の辺りに出来る味わい深き本作も聴き逃さない。とにかく聴きやすいポップな曲調に、いつにも軽快なエアーズのヴォーカル、そしてステイヴ・ヒレッジのこれまた印象的なリード・ギターが絡み合うという、エアーズにはありそうでなかったスタイルの曲です。眼裏でははじ | 1.ドント・レット・イット・ゲット・ユー・ダウン 2.バグツに叫ぶブルース 3.親共が寝るとき 4.イン・タビュー 5.インターナショナル・アンセム 6.退廃(デカダンス) | 7.オー・ボワット・ア・ドリーム 8.ヒム 9.ピエロ・オブ・ザ・ドッグ 10.ゴム・バンドのコーナー 11.退廃(デカダンス)(early mix - previously unreleased) 12.タビに連れて行って 13.カリビアン・ムーン |
| Kevin Ayers | 不思議のヒット・パレード |  | 1976 | プログレ | レコード | UK | 2013年2月18日に逝去した元ソフト・マシンのベース、ヴォーカル=ケヴィン・エアーズ。1960年代後半から70年代前半にかけての英サイケデリック/カンタベリー・ミュージック/プログレッシブ・ロックにおいて多大な貢献を果たしたケヴィン・エアーズのシングル盤作品とレア・トラックを集めたアルバム。76年リリース。 | Side A 1. SOON, SOON, SOON / スーン・スーン・スーン 2. SINGING A SONG IN THE MORNING / 朝に歌えば 3. GEMINI CHILD / 双子座の子供 4. PUIS-JE? / ビュー・ジュ 5. BUTTERFLY DANCE / バクワイ・ダンス 6. STARS / スターズ 7. STRANGER IN BLUE SUEDE SHOES / ブルー・スエード・シューズの異邦人 | Side B 1. JOLIE MADAME / 陽気なマダム 2. LADY RACHEL / レディ・レイチェル 3. CONNIE ON A RUBBER BAND / ゴム・バンドのコーナー 4. FAKE MEXICAN TOURIST BLUES / いんちきメキシコ旅行のブルース 5. DON'T SING NO MORE SAD SONGS / 悲しい歌はこれっきり 6. TAKE ME TO TAHITI / タビに連れて行って 7. CARIBBEAN MOON / カリビアン・ムーン |
| KILLING JOKE | 黒色革命 |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ポストパンクシーンの伝説、キリング・ジョークのデビュー作。エレクトロを取り入れた歴史的な名作! いきなり1stから電子音に塗れた超ハイテンションなパンクを聴かせる。代表曲『THE WAIT』『WAR DANCE』など収録。今なお食欲に進化を続ける彼らの原点とも言えるアルバム。凶悪な皮肉と攻撃性を持ち、ひたすら前へと突き進む、強固なリズムと鋭いギターが絡み合い、終始ハイテンションなヴォーカルが叫び続ける。MetallicaやRage Against the Machineなどにも甚大な影響を与えた金字塔的傑作。そしてSex Pistolsなどと同様に、心技体が三位一体となって爆発/炎上することで生まれるあのスリルを剥き出しにした本作こそロック史に際々輝くマスターピース。アートワークだけでもインパクト大。 | Side A 1. Requiem 2. War Dance 3. Tomorrow's World 4. Bloodsport | Side B 1. The Wait 2. Complications 3. S.O.3.6. 4. Primitiv |
| KILLING JOKE | リーダーに続け |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | US | 1981年発表、キリング・ジョークの2nd「リーダーに続け」。前デビュー作から一転、パンクと原始的な民族音楽をクロスオーバーさせたかのようなサウンドが渦巻いている。ギターがハードロック的なのに(特に冒頭の2曲)、リズムが普通ではない。A面1曲目から聴いたこともないようなドラムのリズムと凶悪なギターの延々とした反復にただただ呆然とする。ダンサブルと言っても良い妙なリズム。彼らの初期の作品中、最もヘヴィーな仕上がりになっている。1stとともに名作。 | Side A 1. the fall of because 2. tension 3. unspeakable 4. butcher | Side B 1. follow the leaders 2. madness 3. who told you how? 4. exit |
| KIM CARNES | 私の中のドラマ |  | 1981年 | ポップス | レコード | 日本 | 1981年リリース、6枚目のアルバム。独特のハスキー・ヴォイスと美貌で人気を集めたロサンゼルス出身の女性ヴォーカリスト、キム・カーンスの大ヒット6thアルバム。往年の名女優、ベティ・デヴィスをテーマにした「ベティ・デヴィスの瞳」(Bette Davis Eyes)が9週全米1位という記録的な大ヒットを記録し、またグラミー賞で最優秀楽曲賞、最優秀レコード賞を受賞した傑作。 | Side A 1. ベティ・デヴィスの瞳(Bette Davis Eyes) 2. 愛を殺したのは誰?(Hit and Run) 3. 私の中のドラマ(Mistaken Identity) 4. 遠く離れても(When I'm Away from You) 5. 運命のカード(Draw of the Cards) | Side B 1. 夜にルールは知らない(Break the Rules Tonight (Out of School)) 2. ずっとこのまま(Still Hold On) 3. 恋より素晴らしい(Don't Call It Love) 4. あなたのいない夜(Miss You Tonight) 5. 遠い仲間たちへ(My Old Pals) |
| KIM WILDE | 誘惑のキム |  | 1981 | ロック | レコード | 日本 | | | |
| KING | 薔薇伝説 |  | 1985年 | | レコード | 日本 | 「ラブ&ブライト」で大ヒットし、ロンドンで大注目されたエレクトリック・ポップ・グループキングの1985年リリースのセカンドアルバム。またこのアルバムからもシングルカットされた『アローン・ウィズ・ア・ユー』が全英トップ10内のヒットを収録。演劇出身というボールのボーカルは表現力豊かで、UKのウーのマイナーなメディア・ナンバーは官能的なまめかきさすに感じさせる。原題どおりBitter Sweetな味のロック。このアルバムリリース後の人気絶頂時に突如解散し、これがラスト・アルバムとなった。リーダーのポール・キングはソロデビュー後同業者へ転向して成功。 | Side A 1. 愛のなごり 2. プラットフォーム・ワン 3. 情熱の恋 4. ウェイト 5. 2MB | Side B 1. 愛の綻 2. 薔薇に口づけ 3. トーチャー 4. マウンテン・ブダ 5. 誓い |
| KINGBEES | キングビーズ |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | US | 1980年リリースのデビューアルバム。この時期あひの「ストロキヤツツ」が話題を独占し、ネオロカビリー・ロック、パンカビリーが流行った時期にアメリカのレコード会社RSOからデビューします。キングビーズはリーダーのジェイミー・ジェームズが中心となるスリーピースバンドでサウンドはルー・ソウロック、ロカビリー、パンキーなエネルギーにあふれた最高にこ機嫌ポップサウンドです。当時、RSOはかなり経営難でキングビーズは確りとしたプロモーションをされないままヒットには至らなかった不運なバンドでした。アルバムはジェームズの生き生きとした簡潔なギターと、ベーシストのマイケル・ラマンズ、ドラムスのレックス・ロバーツが素晴らしいサポートをし、3人は堅実なハーモニーを奏で最高のニューロカビリー・ロックです。このアルバムを知ったのはたまたま、この頃に見かけた友人から、この頃 | Side A 1. Sweet Sweet Girl To Me 2:21 2. My Mistake 2:49 3. Man Made For Love 3:52 4. No Respect 3:35 5. Fast Girls 1:58 | Side B 1. Shake-Bop 2:31 2. Once Is Not Enough 2:27 3. Ting-A-Ling 2:28 4. Follow Your Heart 2:15 5. Everybody's Gone 5:13 |

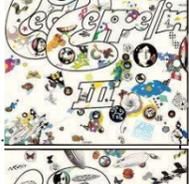
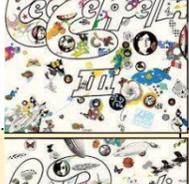
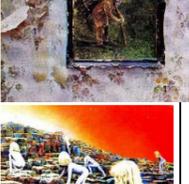
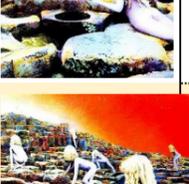
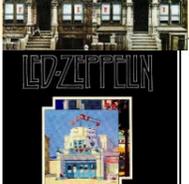
| | | | | | | | | | |
|--------------|---|---|-------------|------------|------|----|---|---|---|
| KINGBEEES | ビッグ・ロック |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | US | キングビーズのセカンドアルバム。 | | |
| KING CRIMSON | キング・クリムゾンの宮殿 |  | 1969 | プログレ | レコード | 日本 | 69年作、キング・クリムゾンのあまりにも有名なデビュー・アルバム。ツェッペリンのデビューと共に、本作はロック界を大きく変えたと思います。まず「21世紀の精神異常者」改め、「21世紀のスキッツォイド・マン」は、以降のメタルにまで影響を及ぼし、その歌詞世界、構成力共々原点と言える完成度を今だ誇っています。そしてメトロンの大幅導入、コンセプトアルバム世界観、ジャズやクラシックをベースにしたサウンドは、英国プログレの記念すべき誕生と言えるものでした。強烈なジャケットが物語る様に、70年代ロックへの大きな布石を残したと思いますが、今改めて聴いても古臭いと言うよりは、叙情的なハード・ロックとしてのダイナミズムに驚かされます。 | SIDE A 1. 21st Century Schizoid Man (21世紀の精神異常者) 2. I Talk to the Wind (風に語りて) 3. Epitaph (エピタフ・墓碑銘) | SIDE B 4. Moonchild(ムーンチャイルド) 5. The Court of the Crimson King (クリムゾン・キングの宮殿) |
| KING CRIMSON | (ペーパーズリブ仕様) キング・クリムゾンの宮殿 |  | 1969年10月10日 | プログレ | CD | 日本 | 69年作、キング・クリムゾンのあまりにも有名なデビュー・アルバム。ツェッペリンのデビューと共に、本作はロック界を大きく変えたと思います。まず「21世紀の精神異常者」改め、「21世紀のスキッツォイド・マン」は、以降のメタルにまで影響を及ぼし、その歌詞世界、構成力共々原点と言える完成度を今だ誇っています。そしてメトロンの大幅導入、コンセプトアルバム世界観、ジャズやクラシックをベースにしたサウンドは、英国プログレの記念すべき誕生と言えるものでした。強烈なジャケットが物語る様に、70年代ロックへの大きな布石を残したと思いますが、今改めて聴いても古臭いと言うよりは、叙情的なハード・ロックとしてのダイナミズムに驚かされます。 | | |
| KING CRIMSON | ポセイドンのめざめ |  | 1970年 | プログレ | レコード | 日本 | 1970年に発表した2作目。イアン・マクドナルドが脱退、メル・コリンズ、ゴードン・ハスケル、キース・ティベッタらをゲスト参加させたラインナップで制作。グレッグ・レイクのEL&Pへの参加表明など、グループ内がバタバタしている時期に制作されたにも関わらず、前作の水準を保ちつつ新メンバーの個性をクリムゾン色に上手に取り込んだ佳作だ。ビートルズの『アビー・ロード』を抑えてチャート1位となった前作『クリムゾン・キングの宮殿』の路線を踏襲するだけでなく、構成や曲名に至るまで前作を彷彿(ほうふつ)とさせる作りとなっている。その一方で、ホルストの『火星』モチーフとした組曲は、次作『リザード』への発展を予感させる。 | SIDE A 1. 平和序章 2. 冷たい街の情景(インクルーディング・トレッドミル42番地) 3. ケイデンスとカスケイド 4. ポセイドンのめざめ(インクルーディング・リブラのテーマ) | SIDE B 1. 平和テーマ 2. キャット・フード 3. デヴィルズ・トライアングル・マーデー・モーン・ハンド・オブ・セイロン(ガーデン・オブ・ワーム) |
| KING CRIMSON | リザード |  | 1970年12月 | プログレ | レコード | 日本 | 1970年に発表した通算3作目のアルバム。ファーストアルバム発表後メンバーのほとんどが脱退し、ロバート・フリップ(ギター、メロトロン)とピーター・シンフィールド(作詞、コンセプト作り)の2名となり、メル・コリンズ(サクソフーン、フルート)、ゴードン・ハスケル(リード・ボーカル、ベース・ギター)、アンドリュー・マカロック(ドラムス)を新メンバーに加え、更にイエスのジョン・アンダーソン等をゲストに迎えて作成したロバートフリップ試行錯誤のアルバム。フリー・ジャズ風の不気味な曲が並ぶ前半(アログではA面)と、イエスのジョン・アンダーソンをヴォーカルに一部起用した『リザード』(同B面)からなる1970年の3作目。アコースティック・ギターの音色が新鮮。アバンギャルドな曲ありの叙情的な曲ありのなかなかの好アルバム | SIDE A 1. サーカス カメレオンの巻上 6:29 "Circus" including "Entry of the Chameleons" 2. インドア・ゲームズ 5:40 3. ハッピー・ファミリー 4:17 4. 水の精 2:44 レディ・オブ・ザ・ダンシング・ウオーター | SIDE B リザード 1. ルーパート王子のめざめ 4:35 2. ビーコック物語のボロロ 6:36 3. 戦場のガラスの涙 11:03 (1)夜明けの歌 (2)最後の戦い (3)ルーパート王子の嘆き 4. ビッグ・トップ 1:10 |
| KING CRIMSON | 太陽と戦慄 |  | 1973年3月 | プログレ | レコード | 日本 | 1973年に発表された5枚目のアルバム。リーダーのロバート・フリップはメンバーとの音楽性の相違から来るバンドの内紛に嫌気がさし、契約の残っていた1972年イギリス・ツアー終了の4月、キング・クリムゾンの解散を宣言する。しかし、フリップは当時イエスのドラマーだったビル・ブルフォードの演奏をライブで見ると感銘を受け、イエスから彼を引き抜き、旧友ジョン・ウェットンらの新メンバーを集めてキング・クリムゾンと再結成し、1973年に本作を発表した。作品ごとに音楽性を変化させてきたが、本作の表題曲では「静と動」で構成された即興演奏を披露している。その意欲の高さと高度な演奏、前衛的なロックの枠からはみ出さない音楽性は高い評価を獲得し、のちにはキング・クリムゾンの代表作のひとつに数えられた。収録曲の「太陽と戦慄 パートII」は現在でもキング・クリムゾンの人気アルバムである。 | SIDE A 1. 陽と戦慄 パート 1 - Larks' Tongues in Aspic, Part One (13:36) 2. 土曜日の本 - Book of Saturday (2:49) 3. 放浪者 - Exiles (7:40) | SIDE B 1. イージー・マネー - Easy Money (7:54) 2. トーキング・ドラム - The Talking Drum (7:26) 3. 太陽と戦慄 パート 2 - Larks' Tongues in Aspic, Part Two (7:12) |
| KING CRIMSON | 暗黒の世界 |  | 1974年3月 | プログレ | レコード | 日本 | 1974年にリリースされた6枚目のアルバム。本作は、「太陽と戦慄」と「レッド」の狭間のアルバムとして地味な存在であるが、インプロを武器に既製の表現を突き抜け、より自由な領域に到達したクリムゾンの実力と本質が最も垣間見えるアルバム。キング・クリムゾンというユニットの放つ「渦巻くエネルギー」を堪能したいなら、このアルバム「暗黒の世界」が最高だ。特に終盤の「暗黒の世界 (Starless And Bible Black)」から「突破口」(Fracture)」へと続くライブ音源の2曲は素晴らしい。 | SIDE A 1. 偉大な詐欺師 The Great Deceiver 4:02 2. 人々の嘆き Lament 4:00 3. 隠し事 - We'll Let You Know 3:46 4. 夜を支配する人 - The Night Watch 4:37 5. トロイ 5:41 6. 醜聞家 - The Mincer 4:10 | SIDE B 1. 暗黒の世界 - Starless And Bible Black 9:11 2. 突破口 - Fracture 11:14 |
| KING CRIMSON | レッド |  | 1974年11月 | プログレ | レコード | 日本 | 1974年9月27日に発表されたキング・クリムゾンのアルバム。1973年の『太陽と戦慄』以来、リーダーのロバート・フリップほか、ジョン・ウェットンとビル・ブルフォードの3人が核となって活動した時期の最終作。『クリムゾン・キングの宮殿』と並ぶ屈指の名盤。過激な様相を呈し演奏の爆音化、ライブの主導権を巡るメンバー間のマウンティング合戦が勃発し、火薬庫の中を松明をかざして疾走するかのときスリリングな展開となった1974年北米ツアーの興奮冷めやらぬうちにスタジオ入りし制作された一触即発の危険な名盤! | SIDE A 1. レッド (6:20) 2. 墜落天使 Fallen Angel (6:03) 3. 再び赤い悪夢 One More Red Nightmare (7:07) | SIDE B 1. 神の導き Providence (8:08) 2. 暗黒(スターレス) Starless (12:18) |
| KING CRIMSON | ユー・エス・エー |  | 1975 | プログレ | レコード | 日本 | 1975年作。ライブアルバムの金字塔! 1974年6月28日、米国ニュージャージー州アズベリー・パークのライブで、順番に、本作の、2、3、5、4、10の全6曲。力強いライブ・アルバムです。この時、グループは彼らの力の総頂期にあり、素晴らしいスタジオ・アルバム「Larks' Tongues In Aspic」の3曲が収録されている。「インプロヴ・アズベリー・パーク」における、フリップの演奏は凄まじい、凄まじ過ぎる! | Side A 1. 太陽と戦慄パートII (LARKS' TONGUES IN ASPIC PART II) 2. 人々の嘆き LAMENT 3. 放浪者 EXILES | Side B 1. アズベリー・パーク 2. イージー・マネー 3. 21世紀のスキッツォイド・マン (21st CENTURY SCHIZOID MAN) |
| KING CRIMSON | ディシプリン |  | 1981 | プログレ | レコード | US | 81年作、キング・クリムゾンの7年ぶりの復活作として話題になったアルバム。ロバート・フリップ大先生に加え、盟友ビル・ブルフォード(ブラッフォード)、そしてエイドリアン・ブリューとトニー・レヴィンと、超技巧派を揃える体制がここから本格的になっていきます。シンプルなジャケット、「訓練」、「規律」を意味するタイトルからは、アルバムの全体像がなかなか見えてこないのですが、今にして思えばNEW WAVEに真剣に取り組んでみたというところでしょうか。特にブリューの独特のギター、そして彼のデヴィッド・バーンそっくりの歌い回しから、TALKING HEADSを思い出すにはいられません。すでにヘッズがアフリカン・ミュージックをひとしきり弄った後に、クリムゾンが果たしてこの方法を必要としたのか疑問ですが、民族音楽的なアプローチも上 | SIDE A 1. エレファント・トーク 2. フレーム・バイ・フレーム 3. Matte Kudasai / 待ってください 4. インディシプリン | SIDE B 1. テラ・ハン・ジンジート 2. シェルタリング・スカイ 3. ディシプリン |
| KINGS | アー・ヒア |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | | | |
| KINKS | (ペーパーズリブ仕様) キンクス (デジタルリマスター) |  | 1964年10月2日 | ブリタニッシュビート | レコード | UK | 1964年にリリースされた、キンクスのデビュー・アルバム。オリジナル曲ばかりのアルバムが半々収録された。中でも「ユー・リアリー・ガット・ミー」は、最初の2枚のシングルがヒットしなかったのは「音が上品過ぎた為」と判断し、剃刀で傷をつけたアンプで録音したという逸話が残る。この曲は大ヒットし、その後「ファン・ヘイレン」をはじめとする多くのアーティストにカバーされ、日本でもCMなどで何度も耳にする機会が多い。上記のサードシングルのヒットにもないバイ・レーベルはファーストアルバムのレコーディングを要求する。ツアー契約の合間をぬってアルバム完成のために用意できる時間は短いものであった。プロデューサーのシェル・タルミーは資金を分散投資すると共にテスト済みであるセッションミュージシャンを用意し、危険を冒した。1965年にリリースされた、キンクスのセカンド・アルバム。全12曲のうち9曲は2曲で、残りはすべてレイ・デイヴィスのオリジナル。ヒット曲「ユー・リアリー・ガット・ミー」「オール・デイ・アンド・オール・オブ・ザ・ナイト」といったハードなキンキー・サウンドのイメージを覆すようなバラエティに富んだ曲が並んでおり、レイ・デイヴィスのソングライティングの非凡さを見せつける作品となっている。オープニングはミディウム・テンポの2曲目はダンサブルなビート・ナンバー。転じてブリタニッシュ・フォーク・スタイルの3→続いてはアメリカ南部ブルース風の4→ピアノのリズムがカッコいい5→マーキー・ビートの6→B面最初はモータウン・ナンバーの7→美しいメロディラインが印象的な8(アルバム中この曲が私のベスト)→転じて9はビート・ナンバー・フォークに戻って10→コーラスワークが60年代英風ロックで眼を奪うダンサブルな11→ラストはシン・ボウ・ダンス(12)とい | ビューティフル・デライラ - Beautiful Delilah (C. Berry) 2:07 ソー・ミスティファイング - So Mystifying (R. Davies) 2:53 ジャスト・キャント・ゴートゥ・スリープ - Just Can't Go To Sleep (R. Davies) 1:58 ロング・トール・ショーティ - Long Tall Shorty (H. Abramson, D. Covay) 2:50 アイ・トゥク・マイ・ベイビー - Home - I Took My Baby Home (R. Davies) 1:48 アイ・ア・ラヴァー・ノット・ア・ファイター - I'm A Lover Not A Fighter (L. Miller) 3:03 A面 1. ルック・フォー・ミー・ベイビー - Look for Me Baby (R. Davies) 2:17 2. ガット・マイ・フィート・オン・ザ・グラウンド - Got My Feet on the Ground (R. Davies) 2:14 3. ナッシン・イン・ザ・ワールド・キャン・ストップ・ミー - Nothin' in the World Can Stop Me Worryin' Bout That Girl (R. Davies) 2:44 4. ナッギン・ウーマン - Naggin' Woman (Anderson, West) 2:36 5. ワンダー - ホエア・マイ・ベイビー・イズ・トゥナイト - Wonder Where My Baby Tonight (R. Davies) | |
| KINKS | (ペーパーズリブ仕様) カインダ・キンクス (デジタルリマスター) |  | 1965年3月5日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | | | |
| KINKS | キンク・コントラヴァーシ ン (デジタルリマスター) |  | 1965年11月26日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1965年にリリースされたザ・キンクスのアルバム。本作は「Milk Cow Blues」のようなブルースの影響を大きく受けた作品、「Till the End of the Day」のような初期のヒット作から、「I'm on an Island」「The World Keeps Going Round」のようなアイロニカルな視点からの作品へとレイ・デイヴィスの作風の推移が見て取れる作品と言える。 | 特筆無い限りレイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ミルク・カウ・ブルース (Sleepy John Estes) 2. リング・ザ・ベルズ 3. ゴッタ・ゲット・ザ・ファースト・ブレン・ホーム 4. ホエン・アイ・シー・ザット・ガール・オブ・マイン 5. アイ・アム・フリー 6. エンド・オブ・ザ・デイ 7. ザ・ワールド・キーブス・ゴーイング・ラウンド 8. アイム・オン・ア・アイランド 9. ホエア・ハヴ・オール・ザ・グッド・タイムズ・ゴーン 10. I'm on an Island | |

| | | | | | | | | |
|-------|--|---|--------------------|------------|------|----|---|---|
| KINKS | プリザベーション第1幕 (デジタルリマスター) |  | 1973年11月16日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1973年にリリースされたザ・キンクス初のアルバム。本作は『ワレヴィン・グリーン・プリザベーション・ソサエティ』の続編とも言えるコンセプト・アルバム。当初は二枚組アルバムとしてリリースされる予定であったがスケジュール上の問題から本作がリリースされ、続いて次作の『プリザベーション第二幕』が二枚組としてリリースされた。 平和なヴィレッジ・グリーンが再開されることとなる。ヴィレッジ・グリーンでは流れ者やジョニー・サンダー、司祭や住民たちがその平和な生活を歌い上げるが、地上げ屋のフラッシュが土地を買い占め、農家を取り壊し始める。そこに、救世主としてミスター・ブラックが労働者の団結を訴える、と言うストーリーがアルバムを通して展開する。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。ポニーノストラック - #1, #13 1. プリザベーション [シングル] 3:37 2. 朝の歌 - Morning Song 2:00 3. 朝の光がさしてくる - Daylight 3:19 4. 美しきジェネヴィエフ - Sweet Lady Genevieve 3:26 5. 天気は変わる - There's a Change in the Weather 2:59 6. あの人は今、何処に - Where Are They Now? 3:28 7. ロックン・ロールは伝説にある (The Legends of Rock 'n' Roll) 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. アナウンサー (1) 0:41 2. 対決のきざし - Introduction to Solution 2:43 3. 対決の時 - When a Solution Comes 3:40 4. この世はすべて金次第 - Money Talks 3:44 5. アナウンサー (2) 0:55 6. 国家の羊飼 - Shepherds of the Nation 4:17 7. 人間の屑と云うけれど - Scum of the Earth 2:45 8. 中古車成金 - Second-Hand Car Spiv 4:01 9. あいつは悪魔だ - He's Evil 4:25 10. 善の魂 - Mankind's Goodness (1) 0:06 |
| KINKS | プリザベーション第2幕 (デジタルリマスター) |  | 1974年5月8日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1974年にリリースされたザ・キンクス初のアルバム。本作は『ワレヴィン・グリーン』の続編とも言えるコンセプト・アルバム。 前作のストーリーを引き継いだ完結編であるが、アナウンサーを入れるなどによりストーリー性を強めた作品となっている。視点が拡大し散漫になっている印象も感じられる内容となっている。前作で地上げ屋だったフラッシュは政権を担当し、救世主のミスター・ブラック率いる人民軍との戦いが始まる。ブラックの人民軍は勝利し、フラッシュは洗脳される。悪のフラッシュが実は人間味あふれる存在で、ブラック率いる人民軍は勝利の後非人間的な管理体制を施行するというアナウンサーが行われ、肉肉満載の歌詞の「サルヴェーション・ロード」でアルバムは締めくくられる。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. きももスタアだ (スターメイカー) - Everybody's a Star (Starmaker) 2:57 2. 平凡な人々 - Ordinary People 3:49 3. ラッシュ・アワー - Rush Hour 4:27 4. 9時から5時まで - Nine to Five 1:48 5. 仕事を終った夕暮れ時 - When Work Is Over 2:06 6. 酒はよき友 - Have Another Drink 2:41 7. ネオンのまぶしさ - Underneath the Neon Sign 3:53 8. 赤い顔の男 (1) 0:10 9. 赤い顔の男 (2) 0:10 10. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | ソープ・オペラ (デジタルリマスター) |  | 1975年4月25日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1975年にリリースされたザ・キンクス初のアルバム。『グラナダ・テレビ』の依頼を受けて製作されたミュージカル『スターメイカー』(1974年9月放送)用に録音された9曲に3曲追加して製作されたコンセプト・アルバム。 ドラマにレイ・デイヴィスは主役のノーマン役で出演、妻のアンディ役はジュン・リッチーが演じた。ノーマンは平凡なサラリーマン、毎日ラッシュ・アワーの電車でオフィス通い、9時から5時まで単調な仕事を続けている。仕事を終るとバーで酒を飲み憂鬱さを晴らす。そのノーマンは次第に精神が蝕まれ、自分がロックスターだと思ひ込み、平凡な一市民を演じているという妄想の世界に入っていく。しかし自分が群衆のなかのひとりだということを受け入れ、平凡な生活に戻っていく。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. きももスタアだ (スターメイカー) - Everybody's a Star (Starmaker) 2:57 2. 平凡な人々 - Ordinary People 3:49 3. ラッシュ・アワー - Rush Hour 4:27 4. 9時から5時まで - Nine to Five 1:48 5. 仕事を終った夕暮れ時 - When Work Is Over 2:06 6. 酒はよき友 - Have Another Drink 2:41 7. ネオンのまぶしさ - Underneath the Neon Sign 3:53 8. 赤い顔の男 (1) 0:10 9. 赤い顔の男 (2) 0:10 10. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | (ペーパーズリブ仕様) ソープ・オペラ (デジタルリマスター) |  | 1975年4月25日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1975年にリリースされたザ・キンクス初のアルバム。『グラナダ・テレビ』の依頼を受けて製作されたミュージカル『スターメイカー』(1974年9月放送)用に録音された9曲に3曲追加して製作されたコンセプト・アルバム。 ドラマにレイ・デイヴィスは主役のノーマン役で出演、妻のアンディ役はジュン・リッチーが演じた。ノーマンは平凡なサラリーマン、毎日ラッシュ・アワーの電車でオフィス通い、9時から5時まで単調な仕事を続けている。仕事を終るとバーで酒を飲み憂鬱さを晴らす。そのノーマンは次第に精神が蝕まれ、自分がロックスターだと思ひ込み、平凡な一市民を演じているという妄想の世界に入っていく。しかし自分が群衆のなかのひとりだということを受け入れ、平凡な生活に戻っていく。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. きももスタアだ (スターメイカー) - Everybody's a Star (Starmaker) 2:57 2. 平凡な人々 - Ordinary People 3:49 3. ラッシュ・アワー - Rush Hour 4:27 4. 9時から5時まで - Nine to Five 1:48 5. 仕事を終った夕暮れ時 - When Work Is Over 2:06 6. 酒はよき友 - Have Another Drink 2:41 7. ネオンのまぶしさ - Underneath the Neon Sign 3:53 8. 赤い顔の男 (1) 0:10 9. 赤い顔の男 (2) 0:10 10. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | 不良少年のメロディ〜 愛の鞭への傾向と対策 (デジタルリマスター) |  | 1975年11月17日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1975年にリリースされたザ・キンクス初のアルバム。RCA時代の最後となるアルバム。また、一連のコンセプト・アルバムの最終作。本作を最後にキンクスはアリス・レコードに移籍することとなる。本作ジャケットのイラストは元・レックスのミック・フィンが担当した。 本作は学生時代の生活を描いた物だが、モデルはレイ・デイヴィスだと言われる。楽曲もレイ好みハードなロック・ナンバーが多く収録された。「愚かなジャック」は『プリザベーション』のフラッシュの若い頃の出来事であり、本作をもって一連のロックオペラが完結した。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. 思い出のスクールデイズ - Schooldays 3:31 2. 愚かなジャック - Jack the Idiot Dunce 3:19 3. エデュケーション 7:07 4. 初恋の頃 - The First Time We Fall in Love 4:01 5. 不良の烙印 - I'm in Disgrace 3:21 6. 校長先生への告白 - Headmaster 4:03 7. ハードに生きる - The Hard Way 2:35 8. 涙の送別会 - The Last Assembly 2:45 9. 振り返ったりはしないのだ - No More Looking Back 4:43 10. 赤い顔の男 (1) 0:10 11. 赤い顔の男 (2) 0:10 12. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | スリープウォーカー (デジタルリマスター) |  | 1977年11月17日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1977年にリリースされたザ・キンクス通算16枚目のアルバムでアリス・レコード移籍後第1作目のアルバム。RCA時代を始めて一連のコンセプト・アルバムからロックンロール路線への回帰/転換を果たした記念すべき作品。移籍に伴いクライヴ・デイヴィスからコンクの録音機材を一新する費用を与えられレコーディングされた為、以前のアルバム等と比べて音の抜けが良く聴き易さが増した。本作録音中にジョン・ダルトンが脱退した為、後任にアンディ・パイルが加入。「ミスター・ビッグ・マン」のみアンディ加入後の録音である。アメリカでは、これまでのアルバムと比較すると売れ行きを大きく伸ばし、来たるべき絶頂期を予感させた。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ライフ・オン・ザ・ロード 5:02 2. ミスター・ビッグ・マン 3:49 3. スリープウォーカー 4:04 4. プラザ 5:28 5. ジューク・ボックス・ミュージック 5:32 6. スリープレス・ナイト 3:18 7. ストリー・スカイ 3:58 8. フル・ムーン 3:52 9. ライフ・ゴース・オン 5:03 以下、CDボーナス・トラック 10. ミスフィッツ 4:43 11. ヘイ・ファイヴァー 3:33 12. ブラック・メサイア 4:10 13. ロックン・ロール・ファンタジー 5:02 14. イン・ア・フォーリン・ランド 3:04 15. パーマナント・ウェイクス 3:49 16. リヴ・ライヴ 4:49 17. アウト・オブ・ザ・ワードローブ 3:38 18. トラスト・ユア・ハート 4:13 19. ゲット・アップ 3:24 20. ナショナル・ヘルス - National Health 4:02 21. スーパーマン - (Wish I Could Fly Like) Superman 5:59 |
| KINKS | ミスフィッツ (デジタルリマスター) |  | 1978年11月17日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1978年にリリースされたザ・キンクス通算17枚目のアルバムでアリス・レコード移籍2作目のアルバム。前作に引き続きソリッドなロックン・ロール路線を目指した作品となるはずだったが最終的に当時流行のAOR路線に落ち着いた。本作発表前にベースのアンディ・パイル、キーボードのジョン・ゴスリングが脱退しベースには前任のジョン・ダルトンが数曲で一時的に復帰した。メンバーは、ベースに元・エージェントのジム・ロッド・フォード、キーボードに元・プリティ・シングスのゴードン・エドワーズが加入することになったが、ゴードンは年内のツアーをもって脱退。アルバム製作中はバンド内も不安定でメンバーの入れ替わりが激しく録音も難航した。その為レイはセッション・メンバーを使い数曲録音している内にソロ・アルバムとすることを検討したらしい。だがアリスから横柄が入り、キンクスとして活動する方針を決定し、その後の通算18枚目のアルバム『スーパーマン』の収録曲の順番が1枚目のアルバム。前作『ミスフィッツ』が予想以上に売れなかった為に短期間のレコーディングと低額予算を強要され制作されたアルバム。『ミスフィッツ』からのシングル「ロックン・ロール・ファンタジー」がアメリカでトップ30入りをしてアルバムのヒットや本作からのシングル「スーパーマン」のヒットも期待されたが結果が伴わなかった。本作からのシングルは「スーパーマン」がトップ40入りした以外「ガソリン・ブルース」「ムーヴィング・ピクチャー」「プレッシャー」「救いの手」がシングル・カットされたが全くと言って良い程に売れていない。「スーパーマン」に関しては12インチが初めて発売された為、そちらの方が売れてしまった。イギリスではチャート入りしなかったがアメリカでは約15年振りのトップ20入り(ビルボード11位、RCW10位)を果たし、全米17位の絶頂期の始まりのアルバムである。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ミスフィッツ 4:43 2. ヘイ・ファイヴァー 3:33 3. ブラック・メサイア 4:10 4. ロックン・ロール・ファンタジー 5:02 5. イン・ア・フォーリン・ランド 3:04 6. パーマナント・ウェイクス 3:49 7. リヴ・ライヴ 4:49 8. アウト・オブ・ザ・ワードローブ 3:38 9. トラスト・ユア・ハート 4:13 10. ゲット・アップ 3:24 以下、CDボーナス・トラック A面 1. アティテュード - Attitude 3:47 2. 救いの手 - Catch Me Now I'm Falling 5:58 3. プレッシャー - Pressure 2:27 4. ナショナル・ヘルス - National Health 4:02 5. スーパーマン - (Wish I Could Fly Like) Superman 5:59 B面 1. ロウ・バジェット - Low Budget 3:50 2. 僕の宇宙 - In a Space 3:4 3. ひとかけらの情熱 - Little Bit of Emotion 4:51 4. 赤い顔の男 (1) 0:10 5. 赤い顔の男 (2) 0:10 6. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | ロウ・バジェット |  | 1979年11月17日 | ブリタニッシュビート | レコード | 日本 | 1979年にリリースされたザ・キンクス通算18枚目のアルバムでアリス・レコード移籍後第2作目のアルバム。前作『ミスフィッツ』が予想以上に売れなかった為に短期間のレコーディングと低額予算を強要され制作されたアルバム。『ミスフィッツ』からのシングル「ロックン・ロール・ファンタジー」がアメリカでトップ30入りをしてアルバムのヒットや本作からのシングル「スーパーマン」のヒットも期待されたが結果が伴わなかった。本作からのシングルは「スーパーマン」がトップ40入りした以外「ガソリン・ブルース」「ムーヴィング・ピクチャー」「プレッシャー」「救いの手」がシングル・カットされたが全くと言って良い程に売れていない。「スーパーマン」に関しては12インチが初めて発売された為、そちらの方が売れてしまった。イギリスではチャート入りしなかったがアメリカでは約15年振りのトップ20入り(ビルボード11位、RCW10位)を果たし、全米17位の絶頂期の始まりのアルバムである。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. オープニング 1:43 2. ハードウェイ 2:42 3. 救いの手 - Catch Me Now I'm Falling 4:49 4. ホエア・ハブ・オール・ザ・グッド・タイムズ・ゴーン 2:16 5. イントロダクション・トゥ・ローラ 0:44 6. ローラ 4:57 7. プレッシャー 1:31 8. オール・オブ・ザ・ナイト 3:45 9. 20世紀の人 - 20th Century Man 6:17 10. ミスフィッツ 4:43 11. ヘイ・ファイヴァー 3:33 12. ブラック・メサイア 4:10 13. ロックン・ロール・ファンタジー 5:02 14. イン・ア・フォーリン・ランド 3:04 15. パーマナント・ウェイクス 3:49 16. リヴ・ライヴ 4:49 17. アウト・オブ・ザ・ワードローブ 3:38 18. トラスト・ユア・ハート 4:13 19. ゲット・アップ 3:24 20. ナショナル・ヘルス - National Health 4:02 21. スーパーマン - (Wish I Could Fly Like) Superman 5:59 |
| KINKS | (ペーパーズリブ仕様) ワン・フォー・ザ・ロード (デジタルリマスター) |  | 1980年6月17日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1980年6月にリリースされたキンクス通算19枚目のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。1979年から80年にかけてのステージを編集している。大半はアメリカでのライブだが、14.15.18.20はスタジオのチューリッヒで収録された。同タイトルのビデオもリリースされた。基本はバンドでのライブ演奏をそのまま収録しているが何曲かでイアン・ギボンスのキーボードをオーバー・ダビングしている。アルバムや公式発表映像では発表されていないがホーン・セクション参加の曲も数曲確認されている。(公式発表前の長編版ビデオにて「スリープ・ウォーカー」「ガソリン・ブルース」「スラム・キッズ」がそれらである。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. オープニング 1:43 2. ハードウェイ 2:42 3. 救いの手 - Catch Me Now I'm Falling 4:49 4. ホエア・ハブ・オール・ザ・グッド・タイムズ・ゴーン 2:16 5. イントロダクション・トゥ・ローラ 0:44 6. ローラ 4:57 7. プレッシャー 1:31 8. オール・オブ・ザ・ナイト 3:45 9. 20世紀の人 - 20th Century Man 6:17 10. ミスフィッツ 4:43 11. ヘイ・ファイヴァー 3:33 12. ブラック・メサイア 4:10 13. ロックン・ロール・ファンタジー 5:02 14. イン・ア・フォーリン・ランド 3:04 15. パーマナント・ウェイクス 3:49 16. リヴ・ライヴ 4:49 17. アウト・オブ・ザ・ワードローブ 3:38 18. トラスト・ユア・ハート 4:13 19. ゲット・アップ 3:24 20. ナショナル・ヘルス - National Health 4:02 21. スーパーマン - (Wish I Could Fly Like) Superman 5:59 |
| KINKS | ギヴ・ザ・ピープル・ホ ワット・ゼイ・ウォント |  | 1981年8月17日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1981年8月にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。イギリスでは発売が遅れた翌年の2月にリリースされた。この中からシングルとして「ベター・シングス」が1981年7月にイギリスで先行発売され「スーパーソニック・ロケットツップ」以来になる久しぶりのイギリスでのチャートに入った(トップ50入り)アルバムは本作もチャート入りした。「ベター・シングス」がイギリスで先行発売されたのはレイ自身のお気に入り曲であった為で慌てて録音し発売した為演奏やヴォーカルが安定していない。それはレイ自身が気付いておりキンクスとして『To The Bone』で、ソロとして『See My Friends』で再録音している。レイもレイもこのアルバムや収録曲を気に入っておりレイは「ベター・シングス」「デストロイヤー」「アート・ラヴァー」が特に気に入っているらしい。レイは再録音の準備をして、このアルバムは、ポニーノストラックで、1983年5月に発売されたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 アラウンド・ザ・ダイヤル - Around the Dial 4:45 ギヴ・ザ・ピープル・ホワット・ゼイ・ウォント - Give the People What They Want 3:45 キラーズ・アイズ - Killer's Eyes 4:40 プレディカブル - Predictable 3:31 アド・イット・アップ - Add It Up 3:14 デストロイヤー - Destroyer 3:47 ヨーヨー - Yo-Yo 4:10 バック・トゥ・フロント - Back to Front 3:15 アート・ラヴァー - Art Lover 3:22 11. 赤い顔の男 (1) 0:10 12. 赤い顔の男 (2) 0:10 13. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | ステイト・オブ・コン フュージョン〜夜なき 街角 |  | 1983 | ブリタニッシュビート | レコード | 日本 | 前年の1982年の11月にイギリスで「カム・ダンシング」が発売された全クヒットせず、続いて年が明けて1983年2月に「思い出のダンス」も発売されたがこれもヒットせず新作の噂は立ち消えた。前々から噂で上がっていたアルバム・タイトル「エター・テイナー」は名前も聞かなくなり1982年頃からのイギリスを含むE.U.ツアー「カム・ダンシング・ツアー」と題され新作がファンからの期待から消えかけた頃、1983年春にアメリカで「カム・ダンシング」は発売されMTVの影響でチャートを駆け登りトップ10入りした。アルバムは『ステイト・オブ・コンフュージョン』と改題されジャケットも『ギヴ・ザ・ピープル・ホワット・ゼイ・ウォント』の二番煎じ風に、1983年11月にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。 84年発表の23作目。アリス・レコード最後の作品となった本作では、オリジナルメンバーの一人であったミック・エイヴォリーが製作途中に脱退。ジム・ロッド・フォードの盟友とも言えるボブ・ヘンリッド(dr)が参加した。ジムとボブはルー・レッツ・ユニット4+2〜エージェント〜フェニックスで共に活躍した仲であり、そのコンビネーションは抜群である。 1. は一瞬WHOか! ?と思わせるイントロから従来通りのキンクスのサウンドに変化する一瞬がまずい。シンプルでエッジの効いたギターを中心にしたハード・ロックだが、曲調はRCA時代の種やかな雰囲気も醸し出しており、そのブレンドの妙が味わい深い。掴みとしては最高のキャッチーな佳曲である。 2. 種々な曲調だが、それを統合するべく、ミック・エイヴォリーのギターは、余韻のある、1989年10月にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。 LPフォーマット主体で発売された最後のアルバムだがこのアルバムから日本ではCD発売のみになった。内容的にはキャッチー作品で、しかも時代の流れと共に変化したその音楽スタイルを、改めてヒストリー感覚で再現している素晴らしいアルバムで次作の『フォビア』に続くコンセプトが隠されている。レイ・デイヴィスの才能を再度確認させられた作品。 ヨーロッパ仕様には内袋や歌詞が挿入されていたがアメリカ版にはない。 1980年代後半から1990年代初頭にかけてのアナログ盤にはよく見られた光景である。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. 夜なき街角 - State of Confusion 2:33 2. デフィニート・メイビー - Definite Maybe 4:22 3. レイバー・オブ・ラブ - Labour of Love 3:56 4. カム・ダンシング - Come Dancing 3:56 5. プロパティ - Property 4:21 B面 1. 思い出のダンス - Don't Forget to Dance 4:39 2. ヤング・コンサーバティブス - Young Conservatives 4:01 3. ハート・オブ・ゴールド - Heart of Gold 4:02 4. 赤い顔の男 (1) 0:10 5. 赤い顔の男 (2) 0:10 6. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | ワード・オブ・マウス (デジタルリマスター) |  | 1984年11月19日(US/UK) | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1984年11月にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。本作は、オリジナルメンバーの一人であったミック・エイヴォリーが製作途中に脱退。ジム・ロッド・フォードの盟友とも言えるボブ・ヘンリッド(dr)が参加した。ジムとボブはルー・レッツ・ユニット4+2〜エージェント〜フェニックスで共に活躍した仲であり、そのコンビネーションは抜群である。 1. は一瞬WHOか! ?と思わせるイントロから従来通りのキンクスのサウンドに変化する一瞬がまずい。シンプルでエッジの効いたギターを中心にしたハード・ロックだが、曲調はRCA時代の種やかな雰囲気も醸し出しており、そのブレンドの妙が味わい深い。掴みとしては最高のキャッチーな佳曲である。 2. 種々な曲調だが、それを統合するべく、ミック・エイヴォリーのギターは、余韻のある、1989年10月にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。 LPフォーマット主体で発売された最後のアルバムだがこのアルバムから日本ではCD発売のみになった。内容的にはキャッチー作品で、しかも時代の流れと共に変化したその音楽スタイルを、改めてヒストリー感覚で再現している素晴らしいアルバムで次作の『フォビア』に続くコンセプトが隠されている。レイ・デイヴィスの才能を再度確認させられた作品。 ヨーロッパ仕様には内袋や歌詞が挿入されていたがアメリカ版にはない。 1980年代後半から1990年代初頭にかけてのアナログ盤にはよく見られた光景である。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ドゥー・イット・アゲイン 4:14 2. ワード・オブ・マウス 3:51 3. グッド・デイ 4:35 4. リビッド・オン・ア・シン・ライン (D. Davies) 4:16 5. ソールド・ミー・アウト 3:44 6. マッパ・リダクションズ 3:15 7. ギルティ (D. Davies) 4:12 8. トゥー・ホット 4:08 9. ミッシング・パソンス 2:53 10. サマーズ・ゴーン 3:52 11. 赤い顔の男 (1) 0:10 12. 赤い顔の男 (2) 0:10 13. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | UK ジャイヴ |  | 1989年10月17日 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1989年10月にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。 LPフォーマット主体で発売された最後のアルバムだがこのアルバムから日本ではCD発売のみになった。内容的にはキャッチー作品で、しかも時代の流れと共に変化したその音楽スタイルを、改めてヒストリー感覚で再現している素晴らしいアルバムで次作の『フォビア』に続くコンセプトが隠されている。レイ・デイヴィスの才能を再度確認させられた作品。 ヨーロッパ仕様には内袋や歌詞が挿入されていたがアメリカ版にはない。 1980年代後半から1990年代初頭にかけてのアナログ盤にはよく見られた光景である。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. アグラーベーション 6:10 2. ハウド・ウ・アイ・ゲット・クロス 5:07 3. UK ジャイヴ 3:49 4. ナウ・アンド・ゼン 3:32 5. ホット・アワー・ウィド・ウイング 3:38 6. エンターテインメント 4:19 7. ウォー・イズ・オーバー 3:41 8. ダウン・オール・ザ・デイズ (To 1992) 4:57 9. ルーニー・バルーン 5:03 10. ディア・マーガレット (D. Davies) 3:27 11. 赤い顔の男 (1) 0:10 12. 赤い顔の男 (2) 0:10 13. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | グレイテスト ヒッツ |  | 1996年11月17日 | ブリタニッシュビート | CD | US | 1996年にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。本作は、オリジナルメンバーの一人であったミック・エイヴォリーが製作途中に脱退。ジム・ロッド・フォードの盟友とも言えるボブ・ヘンリッド(dr)が参加した。ジムとボブはルー・レッツ・ユニット4+2〜エージェント〜フェニックスで共に活躍した仲であり、そのコンビネーションは抜群である。 1. は一瞬WHOか! ?と思わせるイントロから従来通りのキンクスのサウンドに変化する一瞬がまずい。シンプルでエッジの効いたギターを中心にしたハード・ロックだが、曲調はRCA時代の種やかな雰囲気も醸し出しており、そのブレンドの妙が味わい深い。掴みとしては最高のキャッチーな佳曲である。 2. 種々な曲調だが、それを統合するべく、ミック・エイヴォリーのギターは、余韻のある、1989年10月にリリースされたザ・キンクス初のアルバムでアリス・レコードからの最後のアルバム。 LPフォーマット主体で発売された最後のアルバムだがこのアルバムから日本ではCD発売のみになった。内容的にはキャッチー作品で、しかも時代の流れと共に変化したその音楽スタイルを、改めてヒストリー感覚で再現している素晴らしいアルバムで次作の『フォビア』に続くコンセプトが隠されている。レイ・デイヴィスの才能を再度確認させられた作品。 ヨーロッパ仕様には内袋や歌詞が挿入されていたがアメリカ版にはない。 1980年代後半から1990年代初頭にかけてのアナログ盤にはよく見られた光景である。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. アグラーベーション 6:10 2. ハウド・ウ・アイ・ゲット・クロス 5:07 3. UK ジャイヴ 3:49 4. ナウ・アンド・ゼン 3:32 5. ホット・アワー・ウィド・ウイング 3:38 6. エンターテインメント 4:19 7. ウォー・イズ・オーバー 3:41 8. ダウン・オール・ザ・デイズ (To 1992) 4:57 9. ルーニー・バルーン 5:03 10. ディア・マーガレット (D. Davies) 3:27 11. 赤い顔の男 (1) 0:10 12. 赤い顔の男 (2) 0:10 13. 赤い顔の男 (3) 0:10 |
| KINKS | バイ・コンプリート・シ ングル・コレクション 1964-1970 |  | 1996年11月17日 | ブリタニッシュビート | CD | US | ザ・フー、ローリング・ストーンズと並ぶブリタニッシュ・ロックの大家所キンクスのデビューからのバイレコード時代のシングルコレクション。64年2月英国デビューシングルからバイ・レコード時代の最後のシングル全22枚の44曲が発売順に並んでいる。1964年のデビュー曲であるリトル・リチャードの「ロング・トール・サリー」全英1位になって脚光を浴びるようになった「ユー・リアリー・ガット・ミー」メランコリックな雰囲気印象的な「オール・オブ・ザ・ナイト」他収録。 | 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ロング・トール・サリー 2. アイ・トゥック・マイ・ベイビー・ホーム 3. ユー・リアリー・ガット・ミー 4. ユー・リアリー・ガット・ミー 5. ユー・リアリー・ガット・ミー 6. それでいいのさ 7. オール・オブ・ザ・ナイト 8. アイ・ガット・ムーヴ 9. ウェイティング・フォー・ユー 10. カム・オン・ナウ 11. 陽気にやろうぜ 12. 赤い顔の男 (1) 0:10 13. 赤い顔の男 (2) 0:10 14. 赤い顔の男 (3) 0:10 |

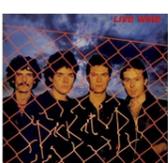
| | | | | | | | | | |
|-------|---|--|------|----------------|------|----|--|--|--|
| KINKS | カム・ダンシング・ウィズ・ザ・キンクス〜ザ・ベスト・オブ・ザ・キンクス 1977-1986 | | 1986 | ブリタニッシュビート | CD | US | 英国ロックの御所本バンドとも称される4人ロック・バンド、ザ・キンクス。1986年発表のベスト・アルバム。「ユー・リアリー・ガット・ミー」「ローラ」のライブ・ヴァージョンや、1977年から1986年のヒット曲、ライブで演奏した人気曲をまとめた名盤。 | 1カム・ダンシング 2ロウ・バジェット 3救いの手 4ガソリン・ブルース 5スーパーマン (ディスコ・エディット) 6スリープウォーカー 7フル・ムーン 8ミスフィッツ 9ロックン・ロール・ファンタジー 10ドゥ・イット・アゲイン 11ベター・シングス 12ロウ・バジェット | |
| KINKS | BBCセッションズ 1964-1977 | | 2001 | ブリタニッシュビート | CD | US | 古き良き英国バンド、ザ・キンクス。スタジオ・ライブ音源、アルバム『グレート・ロスト・キンクス』からの曲、デイヴ・デイヴィスの作品「グッド・ラック・チャーム」等を収録したアルバム。日本盤には英文ライナーの完全対訳や、レイ・デイヴィスのロング・インタビュー等を掲載。レイ・デイヴィスがマスタリングに関わっただけ音質は素晴らしいものになっている。その中にはディスク1-4などオリジナルアルバムよりいい演奏もあり、ディスク1-2、1-9、1-17、1-18、ディスク2-2、の貴重な音源とアレンジの新鮮さなどに感動します。また、名曲を含むディスク2-4〜2-10のライブも必聴。特筆すべきは、ディスク2-12の幻となってしまったアルバム『The Great Lost Kinks Album』からの選曲も良い。 | ディスク: 1 1インタビュー 2ユー・リアリー・ガット・ミー 3インタビュー 4キャデラック 5オール・オブ・ザ・ナイト 6ウェイティング・フォー・ユー 7陽気にやろうぜ 8シー・マイ・フレンド 9ディス・ストレンジ・エフェクト 10ミル・カウ・ブルース 11インタビュー | |
| KINKS | ライブ・アット・フィルモア・ウエスト1969 | | 1998 | ブリタニッシュビート | CD | US | ロックの殿堂サンフランシスコ・フィルモア・ウエストに1969年11月27日から3日間出演した公演からのサウンドボード音源。ユー・リアリー・ガット・ミーをはじめとする60年代代表ナンバーに加えアルバム『アーサー〜』からの新曲披露はこの時期ならではの貴重な演奏。オリジナル・メンバーのビート・クウェイクが脱退しベーンストとしてジョン・ダルトンが加入したこの時期のライブ音源は限られており注目の発掘ライブ音源。 | 1.Till The End Of The Day 2.Last Of The Steam Powered Trains 3.Your Looking Fine 4.Mr. Churchill Says 5.Big Sky 6.You Really Got Me 7.Love Me Till The Sun Shines 8.Brainwashed 9.Milk Cow Blues / See My Friends / Tired Of Waiting For You / Brainwashed 10.Louie Louie 11.Minty Fresh | |
| KINKS | ザ・キンクス EP コレクション 2 | | | ブリタニッシュビート | CD | UK | オリジナルCDシングルスリープ10枚、EPシリーズのパート2。英国の60年代のポップバンドの中で最も重要なものの1つであるキンクスは、その時代の最高のシングルのいくつかと、フランス、スペインやスウェーデンで発売された当時の仕様で複製。 | | |
| KISS | 地獄からの使者 キッス・ファースト | | 1974 | ワーナー・ブラザー・レコード | レコード | 日本 | 74年作。キッスのデビュー・アルバム。ジャケットのインパクトこそ当時話題になったそうだが、キワモノ扱いされていたのも事実であり、それは凡庸なハード・ロックとしての内容が更に彼等の評価を決定付けている感が強いと思われる。サウンド・プロダクションの弱さというよりはバンド自体のスタイルをまだ確立していなかったが、これはこれで十分初期のキッスを楽しめるとは思います。本作における重要な点は、「ビートルズのハード・ロック版」という当初のコンセプトの元で進められたサウンド、メロディが、ある程度成功していると思われる。ライブの定番となったオープニング・ナンバー、「ストラッター」のポップな展開はそれまでのアメリカン・ハードでは見られなかったものであり、80年代メタルへの大きな布石ともなっています。ジャケットになった「プロセック・チャン・ヘル」のメロ | SIDE A 1. ストラッター (STRUTTER) 作詞/作曲:ポール・スタンレー、ジーン・シモンズ (VOスタンレー) 2. ナッシング・トゥ・ルーズ (NOTHIN' TO LOSE) 作詞/作曲:ジーン・シモンズ (VO シモンズ) 3. ファイヤーハウス (FIREHOUSE) 作詞/作曲:ポール・スタンレー (VO スタンレー) 4. コールド・ジン (COLD GIN) 作詞/作曲:エース・フレアリー (VO シモンズ) 5. レット・ミー・ノウ (LET ME KNOW) 作詞/作曲:ポール・スタンレー (VO スタンレーとシモンズ) | |
| KISS | 地獄からの使者 キッス・ファースト | | 1974 | ワーナー・ブラザー・レコード | CD | 日本 | | | |
| KISS | 地獄のさげび キッス セカンド | | 1974 | ワーナー・ブラザー・レコード | レコード | 日本 | 74年作。デビューから1年も経たずにキッスが発表したセカンド・アルバム。前作でのサウンド・プロダクションの弱さについてはいろいろ言われていますが、本作ではキッス本来のヘヴィ、ハードな側面が音源化される事に成功しています。誰もが歌えるポップなメロディも確かに彼等の魅力なのですが、本作ではアメリカン・ハードのダイナミズム、楽しさが詰め込まれ、彼等のヴィジュアル・イメージと共にバンドのカラーが決定付けられたのでした。「Watchin' You」等に見られるブリタニッシュ・ハード直系のサウンドもこの時期の特徴です。 | | |
| KISS | 地獄のさげび キッス セカンド | | 1974 | ワーナー・ブラザー・レコード | CD | 日本 | | | |
| KISS | 地獄への接吻 | | 1975 | ワーナー・ブラザー・レコード | レコード | 日本 | 75年作。キッスの日本でのデビュー・アルバムとなった1枚。本国ではザード・アルバムとなり、なんとデビューから13ヶ月と3枚目のアルバムをリリースという精力的な活動をしてきた。スーツ姿のジャケットのインパクトも強烈で、いよいよキワモノ扱いから、唯一無比のロック・バンドへと昇華しようという姿を象徴しています。それを裏証してみせたのが、彼等の超定番曲となる「ロックン・ロール・オールナイト」のヒットでした。後にライブ・アルバムからのカットで、更に有名になるこの曲こそが、キッスのエンターテインメント性を体現していたと同時に、誰もが歌えるハード・ロック・ナンバーの誕生でもあったと思います。本作からのもう一つの超定番曲、「Rock Bottom」では、当時のキッスがブリ | | |
| KISS | 地獄への接吻 | | 1975 | ワーナー・ブラザー・レコード | CD | 日本 | | | |
| KISS | アライブ! ~地獄の狂獣 | | 1975 | ワーナー・ブラザー・レコード | レコード | 日本 | 75年作。ご存知キッスの大出世作にしてロック・バンドのライブ・アルバムとしては定番として語り継がれている大名盤です。本作リリースの前年に衝撃的デビューを果たし、スタジオ・アルバム3枚をリリースという精力的な活動はあったものの、彼等の真価は正当評価を受けていませんでした。奇抜なヴィジュアルがキワモノ的存在として認知されていた事も当然あったでしょうが、やはりスタジオ・アルバムにおいてハード・ロックの楽しさ、キッスのダイナミズムを収める事に成功しきれていなかったからだと思います。彼等のエンターテイナーとしての力量が十二分に発揮されたライブでこそ、このバンドの魅力が全開する事を、当人は嫌という程知っていたと思います。希少なキッスのライブ音源。本作でKISSサウンドを確立したアルバム。ホリエスリンを初めてプロデューサーに迎え、それまでのパーティー・ロック然としたKISSサウンドを一気にドラマチックなハード・ロックに変えた転機作。以降の彼等の作風にも大きく影響があったアルバムで、代表曲も多く含まれている。特にKISSの超定番曲である「デトロイト・ロック・シティ」はアルバム・ヴァージョンでは5分を超えるストーリー性のある作りで、最後の車の激突音まで全く気が抜けない程の完璧な構成です。ピーター・クリスが洗い声を聴かせる名バラード、「ベス」の存在も本作を忘れ難いものに。こう言ったスロー・ナンバーは、他のハード・ロック・バンドでも作られるようになりキッスが始まりになったのでは? また後にマノウオーやレインボーのジャケットを手掛けたケン・ケリーのアートワークも、彼等のイメージを決定づける事に貢献 | | |
| KISS | 地獄の軍団 デストロイヤー | | 1976 | ワーナー・ブラザー・レコード | レコード | 日本 | | | |
| KISS | 地獄の軍団 デストロイヤー | | 1976 | ワーナー・ブラザー・レコード | CD | 日本 | | | |
| KISS | 地獄のロック・ファイアー | | 1976 | ワーナー・ブラザー・レコード | レコード | 日本 | 初期の3作品に通じるワイルドなロックンロールの原点に立ち返ってサウンド作りでバンドの別の側面を見つけた作品。出世作となった1975年のライブ盤『地獄の狂獣 キッス・ライブ』を手がけたエディ・クレイマーを再度起用。ヴァリエーションに富んだ楽曲を収録した前作からほとんど間をおかずリリースされ、いきなりプラチナム・レコードを記録、彼等がその原点に戻ったバラードの名曲「ハード・ラック・ウーマン」収録。 | | |
| KISS | ラヴ・ガン | | 1977 | ワーナー・ブラザー・レコード | レコード | 日本 | 77年作。KISSの通算6枚目のアルバム。過去最高の売り上げを記録し、人気絶頂期を迎えたバンドの最も明快なKISSサウンドが詰まっている代表作です。メンバー全員がヴォーカルを取った事でも有名な1枚で、それぞれの個性がより際立っているにも関わらず、統一されたポップなハード・ロックという印象は強くなっています。シンプルながらも、良く整理されたバンド・サウンドが、キャッチーなセンスによって王道キッス・サウンドを決定付けているといった印象です。KISSの70年代を知るには、まず聴くべき1枚であると同時に、アメリカン・ハードの歴史の中でも外せない大名盤です。 | | |

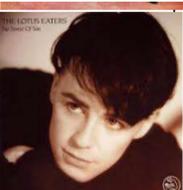
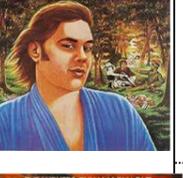
| | | | | | | | | |
|------------------------|-------------------|---|-------|---------------|------|----|---|--|
| KISS | ラヴ・ガン |  | 1977 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | US | | |
| KISS | アライヴ 2 |  | 1977 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | ギツのライヴ・アルバム第二弾として77年にリリースされた2枚組75年作の「地獄の狂獣 キッス・ライヴ」が彼等の大出世作となった事もあり、その続編として半ば企画された面もあり、ライヴ・ベスト盤としての性格が強いのもかもしれません。前作のライヴとは重複する初期の代表曲は無く、彼等の人気絶頂期の人気曲が並ぶ編集がされています。ライヴ・バンドとしていかに優れているのか、もちろん十分に理解ができる内容なのですが、スタジオ・テイクの新曲5曲が含まれているのが、やはりキッスらしいサービス精神の現れであったと思います。デイヴ・クラーク・ファイヴのカヴァー曲、「Any Way You Want It」を含む新曲の出来がまた素晴らしいので、マスター・スイートとなりました。 | |
| KISS | アライヴ 2 |  | 1977 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | US | | |
| KISS | 地獄からの脱出 ダイナステイ |  | 1979 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 79年作「メソバ」室員のソロ作リリース「ベスト」アルバムの発表後に「ラヴ・イン・ユー・ベイビー」の大ヒットと共に、キッスがポップ・フィールドでの新たな認知を高める事となったアルバムです。 このディスコ・ミュージックのブームを巧みに取り入れた1曲により、バンドが新たなファン層の拡大に成功したのかもしれませんが、80年代初頭のキッスの立場を曖昧なものにしてしまったのかもしれない。 | |
| KISS | 仮面の正体 |  | 1980 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | 80年作「ギツの低迷時代の家紋」として挙げられるアルバムですが、やがて訪れるハード・ロックのポップ化を予見していた1枚として忘れ難い1枚です。 本作制作時にはピーター・クリスがすでに脱退、後にエースと共に活動を続けるアントン・フィグが前作に続き参加していますが、アモミ調のジャケット・デザイン、アルバム・タイトルからはいよいよキッスが素顔を晒すのが話題となり、バンドの現状はリリース当時正式発表されていませんでした。 前作よりも全体的な印象はハード・ポップ寄りになり、キッスらしさが薄れた事により、アルバム自体の評価が低いのですが、「SHANDI」、「TOMORROW」等のポピュラーな曲は、先を争った80年代を踏襲に先行して「いた」と思いますが、素顔を晒し、スタジオ路線で新面目を打ち出したキッスは、ほぼ低迷期を知らぬまま精力的な活動を続けていましたが、LAメタルの勢いの前で足踏みしていたのは確かでした。 | |
| KISS | アニマライズ |  | 1984 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | UK | 多くのリスペクトを受ける中、時代に見合ったサウンドで真向勝負する姿は変わらぬ現役感の現れであり、過去に頼らないスタイルでの新たな魅力が再浮上するきっかけとなるのが本作だったと思います。 前作がインパクト勝負だったのに対し、本作ではKISSらしいキャッチーなハード・ロックを80年代メタル・サウンドとして再生する事に徹していたと思います。 | |
| KISS | リヴェンジ |  | 1992年 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | ギツの前作「1ボット・オブ・ザ・サバイバル」から3年ぶりとなった通算16作目のアルバム。 ご存知の様に10年に渡り二代目ドラマーとしてKISSを支えてきたエリック・カーが、91年に41歳という若さで他界した事がアナウンスされてからのリリース。本作収録のアージェントのカヴァー、「God Gave To Rock 'N' Roll To You II」は映画「ビルとテッドの地獄旅行」のサントラ用にレコーディングされたものですが、この曲のためにボブ・エズリンと「地獄の軍団」以来15年ぶりにタッグを組み、病に倒れたエズリンはコーラスのみ参加、新たに3代目ドラマーとして現在も在籍するエリック・シンガーを迎えられています。最終曲となる「エリック・カーに捧ぐ〜カー・ジャム 1981」はエズリンの元へ眠っていたドラム・ソロに、ブルース・キユーリックが「数絶頂期のギツが亡くなった」としての活動を休止、その間メンバー全員で同時にソロ・アルバムをリリースするという前代未聞の快挙を成し遂げました。 | 1. アンホーリー 2. テイク・イット・オフ 3. タフ・ラブ 4. スピット 5. ゴッド・ゲイヴ・ロックン・ロール・トゥ・ユー 6. ドミノ 7. ハート・オブ・クロール 8. ソウ・シャルト・ノット 9. エヴリ・タイム・アイ・ルック・アット・ユー 10. アニマライズ 11. アイ・ジャスト・ワナ |
| KISS (GENE SIMMONS) | ジーン・シモンズ |  | 1978 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | ジーン・シモンズのアルバムは、ゲストにエアロスミスのジョー・ペリー、チープ・トリックのリック・ニールセン、ポップ・シーガー、ドナ・サマー、シェール、ジャニス・イアン、マイケル・デ・バレス等、いかにもこの人ならではの豪華なメンバーを迎えています。 お馴染みの個性的な声はいつものジーンなのですが、意外にも可愛いポップ・センス、幅広い音楽性が楽しませてくれます。 おそらく世界中の子供達も知っているであろう超有名な曲、「星に願いを」のまんまどい... 78年作、キッスがバンド崩壊の危機を迎えていた中、メンバー全員がそれぞれソロ・アルバムを同時にリリース、という前代未聞の荒業を見せた中での、ポール・スタンレーのソロ・アルバムです。4枚がキッス名義、というのも実にユニーク、そして戦略的であったと思いますが、各メンバーの個性がよりはっきりしたのはファンにとっては嬉しかったと思います。 特にキッスのロマンティックな面、ポップ・サイドと常に担当していたポールのカラーはここで明確になります。80年代メタルに繋がるハード・ポップ色、そして「Hold Me, Touch Me」での甘すぎる程美しいバラードの魅力は、これまでキッスでは封印してきたものだと思います。 ポールらしいキャッチーなセンスが散りばめられた、実にカラフルな1枚です。 | |
| KISS (PAUL STANLEY) | ポール・スタンレー |  | 1978 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 78年作、エース・フレイリーのソロ・アルバム。クールなイメージとは裏腹に、メンバー中最も熱いロック魂を持っていたのではと思います。しなやかなギターと、他のメンバーとは異なったハード・ロック・センスが魅力的で、決して上手いとは言えないヨレヨレのヴォーカルも味があります。シングル・ヒットしたラス・バラード作の「ニューヨーク・グルーヴ」がやはり最もポップですが、独特の熱を持ったライト・メタルとでも言うべき個性が全編を通して楽しめます。 | |
| KISS (ACE FREHLEY) | エース・フレイリー |  | 1978 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 78年作、エース・フレイリーのソロ・アルバム。クールなイメージとは裏腹に、メンバー中最も熱いロック魂を持っていたのではと思います。しなやかなギターと、他のメンバーとは異なったハード・ロック・センスが魅力的で、決して上手いとは言えないヨレヨレのヴォーカルも味があります。シングル・ヒットしたラス・バラード作の「ニューヨーク・グルーヴ」がやはり最もポップですが、独特の熱を持ったライト・メタルとでも言うべき個性が全編を通して楽しめます。 | |
| KISS (PETER CRISS) | ピーター・クリス |  | 1978 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 78年作、ピーター・クリスのソロ作。作品は最もKISSらしくないサウンドとなり、実際AORととれる味わい深いものとなっています。「ベス」、「ハード・ロック・ウーマン」での成功は、彼をロッド・スチュワートのヴォーカリストとして認知させ、哀愁を帯びたその声はKISSファン意外にもアピール力があつたと思います。R&Bをルーツに持っていたであろう下地が透けて見え、ホーンやストリングスを導入した本作は、地味ながらもヒット作となり、皮肉にもKISS離れへの布石ともなりました。 | |
| KLERK KENT | ミステリアス・デビュー |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | | |
| KNACK | ゲット・ザ・ナック |  | 1979 | ロック | レコード | 日本 | 79年作、突如の一発屋として有名な高いのが実に描いた気もするデジックのデビュー・アルバムです。 パワー・ポップをこよなく愛する当店としては、やはり無視できない1枚です。「マイ・シャローナ」のビッグ・ヒットにより、アメリカン・ニュー・ウェイブの急先鋒としてブロンディやザ・カーズ等と比較もされていましたが、彼等の評価は次世代のビートルズと形容された通り、コンパクトなポップ感覚に集まったと思います。プロデューサーのマイク・チャップマンのまとめ方が実に巧みな事もあると思うのですが、矢継ぎ早に繰り出されるパワー・ポップの嵐は、同時代のチープ・トリックと共にビートルズのDNAを確実に受け継いでいたと思います。 彼等の悲劇は「マイ・シャローナ」の様な突出したインパクトを持ったビートルズを生み出せる天才的メロディ・メーカーとしての意識があった事によるもので | |
| KNACK | ゲット・ザ・ナック |  | 1979 | ロック | CD | 日本 | | |
| KNACK | ナック2 |  | 1979 | ロック | レコード | 日本 | 社説現象化した感もある「マイ・シャローナ」の大ヒットから一年も空けず、80年にリリースされた第2弾はそのシャローナ・パート2と言えるシングル、「BABY TALKS DIRTY」で幕を開けます。単なる歌詞と喘ぎ声にも近いヴォーカルにより自らの立場を貶めてしまった感もありますが、トップ40に食い込むスマッシュ・ヒットを記録しています。 続くセカンド・シングル、「CAN'T PUT A PRICE ON LOVE」はドリーミーなバラード・ソングでしたが、こちらもそこそこのヒット。けして一発屋ではなかったわけです。 ビートルズと良く比較されましたが、むしろ本作でキンクスのカヴァー、「THE HARD WAY」を取り上げている事からも、もっとビートルズ・ポップよりのタネノ・バンドであった事がよく露わになっている気がしますが、ま | |

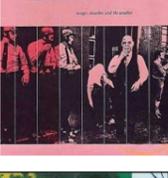
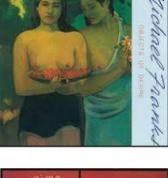
| | | | | | | | | | |
|---------------|-----------------------------|--|------|---------------|------|----|---|---|--|
| KORGIS | 永遠の想い | | 1980 | ニューウェーブ | レコード | UK | 1980年7月1日発売。"田園のビートルズ"と呼ばれたスタックリッジのジェイムス・ウォーレンとアンディ・デイヴィスが1978年に結成した80s ポップデュオバンド「コーギーズ」の2ndアルバム。アンディ・デイヴィスがメンバーから抜け(曲作りやレコーディングには参加)、前作に参加していたスチュワート・ゴードンとフィル・ハリスンを加えたトリオ名義でリリースしたアルバム。アルバムに先駆けてリリースされたシングル「永遠(とわ)の想い」は、E.U.はもちろん全米でも大ヒットを記録した。 | A面 1. Silent Running 2. Love Ain't Too Far Away 3. Perfect Hostess 4. Drawn And Quartered 5. Everybody's Got To Learn Sometime B面 1. Intimate 2. It's No Good Unless You Love Me 3. Dumb Waiters 4. If It's Alright With You Baby 5. Forever Yours | |
| KRAFTWERK | 放射能 | | 1975 | エレクトロニクス | レコード | 日本 | | | |
| KRAFTWERK | E.U.特急』- | | 1977 | エレクトロニクス | レコード | 日本 | | | |
| KRAFTWERK | 人間解体 | | 1978 | エレクトロニクス | レコード | 日本 | | | |
| KROKUS | メタル・ランデヴー | | 1980 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 80年作。スイスのローカル・ヒーローがら一気にメタル・ブームの中で世界的に知名度を上げたクロウスの通算4作目のアルバム。本作からバンドはヴォーカルにマーク・ストラッチェを迎え、AC/DCタイプの横ノリ系から、パワー・バラッドまでこなす器用なHR/HMバンドへと変貌しています。オープニングを飾る「Heatstrokes」からアクセル全開となり、NWOBHMのキャッチーなリフ、スピーディーなAC/DCといったイメージを固め、以降の彼等のサウンドの骨格を確立しています。絶叫も熱唱も得意なヴォーカリストを得たおかげで、「Streamer」の様な欧州型哀愁バラッドもせつなく聴かせてくれます。ユニークなのは「Tokyo Nights」で、レゲエ・ビート印象的なミドル・バラッドとなっていて、東京で芸者と一夜を共にするという、身も蓋もない歌詞がいかに80年代メタルといふほど、派手な演出を演出しているか、とL.A.メタルにも通じる。 | | |
| KROKUS | メタル・ランデヴー | | 1981 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | | | |
| KROKUS | 灼熱のハードウェア | | 1981 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | 81年作。通産5作目。バンド単独での初アルバム「プロデュース」という事もあり、AC/DCの強い影響を受けていたスタイルから独自の個性を徐々に発揮したサウンドが目立っています。オープニング・ナンバーでは、ドラマティックなメロディを凝ったアレンジで展開し、すでに80年代的なアプローチに成功しています。ボン・スコットがロバート・プラントの歌唱法を習得した様なマークのヴォーカルは、もっと評価がされてもいいと思いますが、彼の声を最大限に生かす作曲に徹しているのが良くわかります。ジューダス・プリースト、AC/DCをこよなく愛しているのが伝わってくる様なナンバーに、彼等特有のキャッチーなセンスが加わり、ツボを押さえまくったリフが繰り返されるのが心地いい1枚です。メロディアス・ハードとしての魅力が開花する83年作の「Headhunter」を予感させる「Winning Man」は、後のL.A.メタルにも通じる。 | | |
| LA GUNS | “砲” | | 1988 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | 88年作。LAガンズのデビュー・アルバムとなった1枚。元ガンズ・アンド・ローゼズのトレイシー・ガンズと、NWOBHMの伝説的バンド、ガールのフィリップ・ルイスを中心に結成され、かなり話題になったバンドです。まさにLAメタルをわかりやすく体現した様なルックスとサウンドは、アクセル・ローズ率いるガンズよりチープな印象もありましたが、スピード、キャッチーさにおいてはこのバンドの方が優れていたのでは？ガールの名曲、「ハリウッド・ティーズ」も再演され、この1曲だけのためでも必聴と言えるアルバムです。モトリー・クルー、ガンズ、そしてガールのグラム・メタルをまぶすとこんな感じになる、といった傑作です。 | | |
| LAUGHING DOGS | ラーフィン・ドッグズ・デビュー! | | 1979 | ニューウェーブ | レコード | 日本 | Laughing Dogsが1979年にリリースした1stアルバム。ラモーンズやトーキング・ヘッズが出演していたことで知られるCBGBの常連バンドの一つ。バリバリのパンク・ロックかといえばそうではなく、ビートルズをはじめとするマーギー・ビート系のポップな曲が中心でCBGB Sのバンドの中ではかなり異色な存在だった。このアルバムは捨て曲は1曲もなく、どの曲もポップのツボを押さえたメロディを持ったアルバム。ちなみにプロデューサーのブルース・ボトニックはアースのアルバムのエンジニアやプロデューサーを務めた人 | | |
| LAURA NYRO | イーライと13番目の懺悔 | | 1968 | | レコード | US | ニューヨークが生んだ女性シンガー・ソングライターとして多くの人々に愛された彼女のセカンド・アルバム。フィフス・ディメンションがカバーしてヒットさせた「スイート・ブライデス」や「ストロント・ソウル・ピクニック」やスリー・ドッグ・ナイトが取り上げた「イーライがやって来る」などソングライターとしての魅力溢れる楽曲を収録。作家としての才能に加え、個性的でエモーショナルな歌声が深く心に染み入る名作。 | 1. ラッキー 2. ルー 3. スウィート・ブライデネス 4. ボヴァティ・トレイン 5. ロンリー・ウイメン 6. イーライがやって来る 7. タイマー 8. ストランド・ソウル・ピクニック 9. エミー 10. ウーマンズ・ブルース 11. ファーマー・ジョー 12. イーライがやって来る | |
| LEATHERWOLF | メタル・コーリング | | 1987 | | レコード | 日本 | トリプル・リード・ギターで人気を集めたカリフォルニア出身ヘヴィ・メタル・バンドのセカンド・アルバムにしてメジャー第1弾アルバム。サクソン、Y&T、キール他を手掛けたケヴィン・ビーミッシュのプロデュース。情熱的なヴォーカル！トリプル・ギター！哀愁のメロディー！ドラマチックな展開！パワー！メタルに望まれる全てがここに。アルバム全体を通してドラマチックで、分厚いコーラスが支配していて力強い！情熱的なエネルギーが素晴らしい、アメリカのメタル史に残る名盤である！ | Side A 1. ライズ・オア・フォール 2. ザ・コーリング 3. シェア・アドリーム 4. クライ・アウト Side B 1. ジブシーズ・アンド・シーヴズ 2. バッド・ムーン・ライジング 3. プリンセス・オブ・ラヴ 4. マジカル・アイズ 5. ルール・ザ・ナイト | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン I | | 1969 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | UK | 69年作。説明不要のツェッペリンのデビュー作であり、ロック史を大きく動かした歴史的な名盤の一つ。ヘヴィ・メタルの源流と呼ぶ人もあれば、スタジアム・ロックの誕生、セックス・ドラッグ・ロックンロールとする人もいます。嫌と言う程語りつくされてきたアルバムですが、聴く度に語りたくなってしまうのは、多くの人が感じているところではないでしょうか。現在聴いても圧倒的なのは、ドラムと強力なヴォーカル、そして良く練られた構成であると思います。シングル・カットこそされませんでした。オープニングの「Good Times Bad Times」のキャッチーな掴み、Communication Breakdown」でのコンパクトなメタル・ソング、この2曲がポップな側面を担当し、実験性に溢れたナンバーを絡める手法は、確かに衝撃的だった。ブルースは素材として使われてはいるが、あくまで | 1.グッド・タイムズ・バッド・タイムズ 02:47 2.ゴナ・リーヴ・ユー 06:41 3.ユー・シュック・ミー 06:27 4.幻惑されて 06:26 5.時が来たって 04:34 6.ブラック・マウンテン・サイド 02:12 7.コミュニケーション・ブレイクダウン 02:28 8.君から離れられない 04:42 9.ハウ・マニー・モア・タイムズ 08:28 | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン I | | 1970 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | (ペーパーズリブ仕様) レッド・ツェッペリン I | | 1970 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン II | | 1969 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | UK | 69年リリース作、レッド・ツェッペリンのセカンド・アルバムにして、メタルの原点、ブリティッシュ・ハードの成熟した完成型となった名盤です。もう語りつくされた感がありますが、ツェッペリンの一番好きなアルバムを挙げるとしたら、結局本作を選んでしまう人は多いのではないのでしょうか。実際には過密スケジュールの中、メンバーの納得のいく制作状況にはなかった様ですが、40年以上経った現在でも、本作とブラック・サバスの初期のアルバムが、現在のメタルの源流となっているのは間違いないと思います。全ロック・ファン必聴、一家に1枚の大名盤です。 | 1.胸いっぱいの変を 05:35 2.強き二人の変 04:44 3.モン・ソング 06:19 4.サンキュー 04:49 5.ハートブレイカー 04:14 6.リヴィング・ラヴィング・メイド 02:39 7.ランブル・オン 04:23 8.モビー・ディック 04:20 9.ブリング・イット・オン・ホーム 04:21 | |

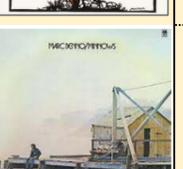
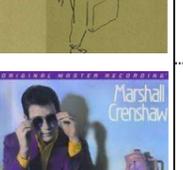
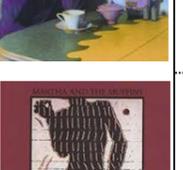
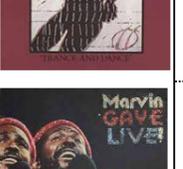
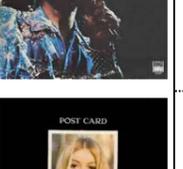
| | | | | | | | | | |
|--------------|--------------------------------|---|------|---------------|------|----|--|--|--|
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン II |  | 1970 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン II |  | 1970 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン II |  | 1970 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | (ペーパースリーブ仕様) レッド・ツェッペリン II |  | 1970 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン III |  | 1970 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | UK | 70年作。サード・アルバム。アコースティックな曲が多い事から、それまでのようなハードロック・サウンドを期待した聴衆からは軟弱になったと受け取られ、賛否がはっきりと別れた。 すでに前作がモンスター・アルバムと化し、バンドはビートルズを凌ぐ存在となった中、長期ツアーからの疲労とロック黄金期の喧騒から逃れる様にして、本作制作のために文字通り山籠りを結構します。 「Bron-Y-Aur Stomp」で歌われたウェールズの田舎のブロン・イ・アーと呼ばれるコテージで、プラント&ベジは曲作りをしたのでした。ロックとは程遠い牧歌的環境、創作活動には最適な精神状態が、本作のカラーを決定付けました。プラントの持っていたアコースティック指向が反映され、当時アナログB面であったアルバム後半は... 1 移民の歌 02:25 2 フレンズ 03:54 3 祭典の日 03:28 4 貴方を愛しつづけて 07:23 5 アウト・オン・ザ・タイトルズ 04:05 6 キャロルズ・ボウル 04:56 7 タンジェリン 03:10 8 ザッツ・ザ・ウェイ 05:37 9 スノウドニアの小屋 04:16 10 ハッツ・オフ・トゥー・ロイ・ハーバー 03:42 | | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン III |  | 1971 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | (ペーパースリーブ仕様) レッド・ツェッペリン III |  | 1971 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | レッド・ツェッペリン4 |  | 1971 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | US | 71年作。最早説明不要のレッド・ツェッペリンの4作目。 ジャケットには何のクレジットもなく、良く見るとなんとも不思議なデザインだという事に改めて気づかされます。 「フォー・シンボルス」、「ルーン・アルバム」とも呼ばれましたが、本CDの盤面上には「SYMBOLS」とプリントされているのも印象的です。 クラシック・ロックの頂点と言える「天国への階段」がやはり語り尽くされているアルバムですが、実はハード・ロックとアコースティックの両サイドが混在したユニークな1枚であったのも意外な気がします。 王道ツェッペリン節と言えるハード・ナンバー、「Black Dog」に始まり、タイトルまんまのロックン・ロール、フェアポート・コンヴェンションにいた英国トラッドの歌謡、サン・ディエゴを巡ったフォーク、60年代アメリカン・ロックを音讀した西海 | 1 ブラック・ドッグ 04:54 2 ロックン・ロール 03:40 3 限りなき戦い 05:52 4 天国への階段 08:00 5 ミステイ・マウンテン・ホップ 04:38 6 フォア・スティックス 04:44 7 ガリフォルニア 03:31 8 レヴィー・ブレイク 07:08 | |
| LED ZEPPELIN | (ペーパースリーブ仕様) レッド・ツェッペリン4 |  | 1971 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | 聖なる館 |  | 1973 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 73年作。レッド・ツェッペリンの通産5作目のアルバム。 前作の完璧なまでのスタジオ・ワークと「天国への階段」でピークを迎えたバンドが、そこで終わらなかつたのがやはり奇跡と思えます。 前作から2年、それまでに比べると時間を掛けて制作された本作はアレシジャーとしてのジョン・ポール・ジョーンズのセンスがかなり盛り込まれています。 更にファンク、レゲエ等の導入により以降のツェッペリン・サウンドの大きな変化をここで見せ始めています。 ヒプノシスジャケット同様、美しく幻想的に変化したバンドが神々しい位です。 | 1 永遠の詩 2 レイン・ソング 3 丘のむこうに 4 クラウジ 5 ダンシング・デイズ 6 ディジャ・メイク・ハー 7 ノー・クォーター 8 オーシャン | |
| LED ZEPPELIN | (ペーパースリーブ仕様) 聖なる館 |  | 1973 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | 聖なる館 |  | 1973 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | フィジカル・グラフィティ |  | 1975 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 75年リリース作。ツェッペリンの通産6作目のアルバムで、初の2枚組スタジオ作となった大名盤。 当初は彼等自身が設立したスワン・ソングの第1弾アルバムとして発表されるはずでしたが、ジョン・ポール・ジョーンズの病気による離脱、ジャケット・デザインに時間が掛けられた事等により、制作終了後から大幅に遅れて世に出る事になりました。 本作のために新曲としてレコーディングされたのは8曲のみで、当時アナログ・レコード1枚では収録しきれなかった様で、残り約半数は「III」、「IV」、「聖なる館」からのアウトテイクで構成されています。 録音時期、場所も違うため、エンジニアもロン・ネヴィソン、エディ・クレイマー、ジョー・シムキ、アレン・ジョーンズと大物4人が関わっているが、敷 | ディスク: 1 1 カスタード・パイ 04:13 2 流浪の民 05:37 3 死にかけて 11:05 4 聖なる館 04:02 5 ランプルド・アンダー・フット 05:35 6 カシミール 08:28 | ディスク: 2 1 イン・ザ・ライト 08:46 2 ブロン・イ・アー 02:06 3 ダウン・バイ・ザ・シーサイド 05:14 4 テン・イヤーズ・ゴーン 06:31 5 夜間飛行 03:36 6 フントン・ソング 04:07 7 ブギー・ウィズ・ステュー 03:52 8 黒い田舎の女 04:24 9 シック・アゲイン 04:43 |
| LED ZEPPELIN | (ペーパースリーブ仕様) フィジカル・グラフィティ |  | 1975 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | | | |
| LED ZEPPELIN | 狂熱のライブ 永遠の詩 |  | 1976 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 76年に公開された映画「永遠の詩」のサウンドトラックとしてリリースされたアルバムですが、ツェッペリンのライブ・アルバムとして随分長い間親しまれてきたものです。 収録は73年7月、マジソン・スクエア・ガーデン。 どの曲もスタジオ盤では味わえなかつたスリリングな展開と、つんのめる様な荒々しいダイナミズムに溢れています。 まさにベスト盤的な選曲もされており、このバンドの魅力を知るには最適なものであったと思います。 特にジョン・ポール・ジョーンズの安定した職人ぶり、そしてやはりジョン・ポーナムの強烈なブレイクが目立つライブでもあると思われます。 余となったのは種々なライブ・セッションが存在している事、余計な演奏も本盤には | 曲目リスト ディスク: 1 1 ロックン・ロール 2 祭典の日 3 永遠の詩 4 レイン・ソング 5 幻惑されて ディスク: 2 1 ノー・クォーター 2 天国への階段 3 モビー・ディック 4 限りなき戦い | |

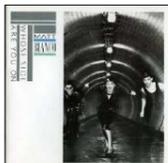
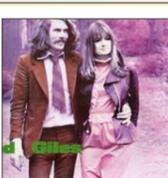
| | | | | | | | | | |
|----------------|-----------------|--|-------------|------|------|--|---|---|---|
| LED ZEPPELIN | プレゼンス | | 1976 | レコード | 日本 | 76年作。ツェッペリンの遺産7作目のアルバム。本作を彼等の最高傑作として挙げる人は、彼等の最もメタリックな側面を愛している人達だと思います。ヒプノシスによる不思議なジャケッ、2枚組だった前作から全7曲というコンパクトな構成、そして役1ヶ月でレコーディングされたというバンドの凄まじい集中力が、圧倒的な説得力を持っています。 「Candy Store Rock」のオールディーズ風味、「Tea For One」のスロー・ブルース色が楽しめますが、基本シンプルかつヘヴィなリフの連続、それはニマル・ミュージックのメタル的解釈と言える初のアルバムだったのかもしれませんが、余韻に漂う謎めいた緊張感、やはりバンド内部に何かが起っていたことが、彼等76年作。期せずしてツェッペリンの最後のアルバム。未だに正確な位置付けに多くの人が困る1枚だと思われる。ポップ、メロディアスという言葉が、ツェッペリンに適用されるとしたら、明らかにこのアルバムだけだと思いますが、それが本作を不思議な作品としての性格を際立たせてしまっています。愛は前作の「プレゼンス」でピークを迎えながら、ロバート・プラントの愛息の突然の死という悲劇によりバンドは活動停止状態に入ります。 時代はパンク旋風の真っ只中、オールド・ウェーブの親玉としてツェッペリンは否定される事となり、70年代後半の急激なシーンの変化はこのモンスター・バンドを化石化する勢いを持っていた程でした。 そんな中で彼等は約1年を掛けて本作を制作、実験性というよりはバンドの新たな音楽性を模索していった途程を辿る事となった。その中で6位、イギリスでは4位を記録している。プロデューサーはジミー・ヘイジ。1980年9月25日、ドラマーのジョン・ボーナムが急死。バンドは12月4日、解散声明を発表した。スワンソング・レコードは1974年、アトランティック・レコードとの間に「レッド・ツェッペリン」のアルバムを5枚リリースするという内容の契約を交しており、この契約を完了させるためにもう1枚アルバムを発表する必要に迫られたヘイジは、レッド・ツェッペリンの12年の経歴における様々なセッションからの未発表音源を集めてアルバム化することとなった。ヘイジは1981年夏から編集作業を開始し、ロバート・プラントおよびジョン・ポール・ジョーンズの協力を得て1982年はじめにトラックを完成させた。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。 | Side A 1. スタンダード、デラックス、スーパー・デラックス共通 1. アキレス最後の戦い 2. フォー・ユー・ライヴ 3. ロイヤル・オルフェン 4. 俺の罪 5. キャンディ・ストア・ロック 6. 何処へ 7. 一人でお茶を | | |
| LED ZEPPELIN | イン・スルー・ジ・アウト・ドア | | 1979 | レコード | 日本 | 79年作。ツェッペリンの最後のアルバム。未だに正確な位置付けに多くの人が困る1枚だと思われる。ポップ、メロディアスという言葉が、ツェッペリンに適用されるとしたら、明らかにこのアルバムだけだと思いますが、それが本作を不思議な作品としての性格を際立たせてしまっています。愛は前作の「プレゼンス」でピークを迎えながら、ロバート・プラントの愛息の突然の死という悲劇によりバンドは活動停止状態に入ります。 時代はパンク旋風の真っ只中、オールド・ウェーブの親玉としてツェッペリンは否定される事となり、70年代後半の急激なシーンの変化はこのモンスター・バンドを化石化する勢いを持っていた程でした。 そんな中で彼等は約1年を掛けて本作を制作、実験性というよりはバンドの新たな音楽性を模索していった途程を辿る事となった。その中で6位、イギリスでは4位を記録している。プロデューサーはジミー・ヘイジ。1980年9月25日、ドラマーのジョン・ボーナムが急死。バンドは12月4日、解散声明を発表した。スワンソング・レコードは1974年、アトランティック・レコードとの間に「レッド・ツェッペリン」のアルバムを5枚リリースするという内容の契約を交しており、この契約を完了させるためにもう1枚アルバムを発表する必要に迫られたヘイジは、レッド・ツェッペリンの12年の経歴における様々なセッションからの未発表音源を集めてアルバム化することとなった。ヘイジは1981年夏から編集作業を開始し、ロバート・プラントおよびジョン・ポール・ジョーンズの協力を得て1982年はじめにトラックを完成させた。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。 | 1. イン・ジ・アウト・ドアー 06:49 2. サウス・パウンド・サウス 04:13 3. フォール・イン・ザ・レイン 06:12 4. ホット・ドッグ 03:16 5. ケラズランブラ 10:32 6. オール・マイ・ラヴ 05:51 7. アイム・ゴナ・ロール 05:30 | | |
| LED ZEPPELIN | コーダ (最終章) | | | レコード | US | 79年作。ツェッペリンの最後のアルバム。未だに正確な位置付けに多くの人が困る1枚だと思われる。ポップ、メロディアスという言葉が、ツェッペリンに適用されるとしたら、明らかにこのアルバムだけだと思いますが、それが本作を不思議な作品としての性格を際立たせてしまっています。愛は前作の「プレゼンス」でピークを迎えながら、ロバート・プラントの愛息の突然の死という悲劇によりバンドは活動停止状態に入ります。 時代はパンク旋風の真っ只中、オールド・ウェーブの親玉としてツェッペリンは否定される事となり、70年代後半の急激なシーンの変化はこのモンスター・バンドを化石化する勢いを持っていた程でした。 そんな中で彼等は約1年を掛けて本作を制作、実験性というよりはバンドの新たな音楽性を模索していった途程を辿る事となった。その中で6位、イギリスでは4位を記録している。プロデューサーはジミー・ヘイジ。1980年9月25日、ドラマーのジョン・ボーナムが急死。バンドは12月4日、解散声明を発表した。スワンソング・レコードは1974年、アトランティック・レコードとの間に「レッド・ツェッペリン」のアルバムを5枚リリースするという内容の契約を交しており、この契約を完了させるためにもう1枚アルバムを発表する必要に迫られたヘイジは、レッド・ツェッペリンの12年の経歴における様々なセッションからの未発表音源を集めてアルバム化することとなった。ヘイジは1981年夏から編集作業を開始し、ロバート・プラントおよびジョン・ポール・ジョーンズの協力を得て1982年はじめにトラックを完成させた。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。 | Side A 1. ウィアー・ゴナ・グルーブ (Ben E. King & James Bethea) 2:38 2. プラトム (Page & Plant) 3:02 3. 君から離れられない - I Can't Quit You Baby (Willie Dixon) 4:18 4. ウォルターズ・ウォーク (Page & Plant) 4:31 | Side B 1. オゾン・ベイビー (Page & Plant) 3:35 2. ダーリン (Bonham, Jones, Page & Plant) 5:07 3. モントルーのボンゾ (Bonham) 4:18 4. ウェアリング・アンド・ティアリング (Page & Plant) 5:29 | |
| LED ZEPPELIN | コーダ (最終章) | | | CD | 日本 | 79年作。ツェッペリンの最後のアルバム。未だに正確な位置付けに多くの人が困る1枚だと思われる。ポップ、メロディアスという言葉が、ツェッペリンに適用されるとしたら、明らかにこのアルバムだけだと思いますが、それが本作を不思議な作品としての性格を際立たせてしまっています。愛は前作の「プレゼンス」でピークを迎えながら、ロバート・プラントの愛息の突然の死という悲劇によりバンドは活動停止状態に入ります。 時代はパンク旋風の真っ只中、オールド・ウェーブの親玉としてツェッペリンは否定される事となり、70年代後半の急激なシーンの変化はこのモンスター・バンドを化石化する勢いを持っていた程でした。 そんな中で彼等は約1年を掛けて本作を制作、実験性というよりはバンドの新たな音楽性を模索していった途程を辿る事となった。その中で6位、イギリスでは4位を記録している。プロデューサーはジミー・ヘイジ。1980年9月25日、ドラマーのジョン・ボーナムが急死。バンドは12月4日、解散声明を発表した。スワンソング・レコードは1974年、アトランティック・レコードとの間に「レッド・ツェッペリン」のアルバムを5枚リリースするという内容の契約を交しており、この契約を完了させるためにもう1枚アルバムを発表する必要に迫られたヘイジは、レッド・ツェッペリンの12年の経歴における様々なセッションからの未発表音源を集めてアルバム化することとなった。ヘイジは1981年夏から編集作業を開始し、ロバート・プラントおよびジョン・ポール・ジョーンズの協力を得て1982年はじめにトラックを完成させた。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。ヘイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画していたが、最終的に1970年代のライブ・アルバム化することとなった。 | Side A 1. ウィアー・ゴナ・グルーブ (Ben E. King & James Bethea) 2:38 2. プラトム (Page & Plant) 3:02 3. 君から離れられない - I Can't Quit You Baby (Willie Dixon) 4:18 4. ウォルターズ・ウォーク (Page & Plant) 4:31 | Side B 1. オゾン・ベイビー (Page & Plant) 3:35 2. ダーリン (Bonham, Jones, Page & Plant) 5:07 3. モントルーのボンゾ (Bonham) 4:18 4. ウェアリング・アンド・ティアリング (Page & Plant) 5:29 | |
| LED ZEPPELIN | BBCライヴ | | 1997年11月11日 | CD | 日本 | レッド・ツェッペリンがBBC向けに録音したスタジオ・セッションとライブを収録したコンピレーション・アルバム。ディスク1は1969年に3回行われたBBCでのセッションから構成されている。ディスク2はロンドンにあるハリ・シアターで1971年4月1日に行われたコンサートの模様をほとんど収録されている。シングルを発売しないレッド・ツェッペリンにとって、曲をラジオで流してもらうことはなかなか難しかった。そこで、ピーター・グラントはコネクションを利用してバンドをBBCのラジオ番組に出演させた。それを気に入ったバンドはその数回にわたってBBCでライブ演奏を行った。1971年以降はラジオ出演によるプロモーションを行わなくとも、ライブへの集客は向上したため、バンドは「イン・コンサート」を最後にBBCには出演していない。 | ディスク: 1 1. ユー・シュック・ミー 2. 君から離れられない 3. コミュニケーション・ブレイクダウン 4. 4人惑わされて 5. ゴール・アイ・ラヴ 6. 強き二人の愛 7. コミュニケーション・ブレイクダウン 8. トラヴェリング・リヴァーサイド・ブルース 9. 闘いばいの愛を 10. サムシング・エルス | | |
| LED ZEPPELIN | 伝説のライヴ | | 2003年5月27日 | CD | 日本 | ビルボードのアルバム・チャート初登場1位を記録した。それまでに7作のアルバムが1位を獲得しているが、初登場1位はキャリア史上初めて。本作には、72年ツアー後半のLAフォーラム、及びロングビーチ・アリーナでの公演が大規模な編集の元収録されている。ディスク1の#1「LA Drone」は、ツェッペリンのライブツアーでは珍しく行われたイントロで、72年ツアーの後半にしか行われなかった。実際には1分以上流されたものの、本作では14秒程の収録となっている。また、「Whole Lotta Love Medley」では「Heartbreak Hotel」や「Slow Down」なども演奏されているが、著作権都合からカットされている。「Stairway to Heaven」冒頭のリコーダーパートは、実際には Hammondオルガンで演奏されていたのだが、作品化にあたってメロトロンに差し替えられている(メロトロンがステージに置かれるのは、後日の日本ツアーから)。詳細あるが、メロトロン導入後のライブ | ディスク: 1 1. LA Drone 0:14 2. 移民の歌 - Immigrant Song 3:42 3. ハートブレイカー - Heartbreaker 7:25 4. ブラック・ドッグ - Black Dog 5:41 5. 丘のむこうに - Over the Hills and Far Away 5:08 6. 貴方を楽しませて - Since I've Been Loving You 8:02 7. 天国への階段 - Stairway to Heaven 9:38 8. カリフォルニア - Going to California 5:37 9. ユー・シュック・ミー - You Shook Me 5:54 | | |
| LENE LOVICH | ステイトレス | | | レコード | 日本 | | | | |
| LENE LOVICH | フレックス | | | レコード | 日本 | | | | |
| LENE LOVICH | ノー・マンズ・ランド | | | レコード | US | | | | |
| LINDZ RONSTADT | ドント・クライ・ナウ | | 1973年10月1日 | ポップス | レコード | 日本 | リンダ・ロンシュタットのソロでの4枚目のアルバム。ゴールド認定を受けており、米国だけで約80万枚を売り上げている。のちに西海岸サウンドを牽引するJ.D. サウザーが提供&プロデュースした曲に加え、彼女の黄金時代を築いていくピーター・アッシュャーがプロデュースした曲、前作のプロデューサーが担当した曲も収録。曲に多岐さが出ています。 脱カントリー風の都会的なアレンジのしっとり目の曲が多いなか、たまにはいるアップテンポ曲がアクセントになっています。 同年にリリースされたイーグルスのDesperadoをピアノをバックにじっくりと歌っています。 | Side A 1. アイ・キャン・オールモスト・シー・イット (J.D. サウザー) 3:50 2. ラヴ・ハズ・ノー・ブライド(エリック・カズン) 4:10 3. 銀の糸と金の針 - Silver Threads and Golden Needle 2:28 4. ならず者 - Desperado(ドン・ヘンリー, グレン・フライ) 3:30 5. ドント・クライ・ナウ (J.D. サウザー) 4:28 | Side B 1. セイル・アウェイ(ランディ・ニューマン) 3:05 2. コロラド (リック・ロバート) 4:18 3. ファースト・ワン (J.D. サウザー) 3:40 4. 栄光は消えて - Everybody Loves a Winner 3:15 5. アイ・ビリーヴ・イン・ユー (ニール・ヤング) 2:50 |
| LINDZ RONSTADT | 哀しみのプリズナー | | 1975年9月16日 | ポップス | レコード | 日本 | 1975年に発表。アサイラム・レコードからの2枚目ソロになって6枚目のアルバム。ビルボードチャートにおけるロンシュタットの三枚目の1位アルバムの最初の一枚となり、リンダの名を高めたリンダ黄金期の初期を飾る傑作アルバム。時には鋭く力強く、時には率直に語りかけるように、しみじみとした女性らしい味わいをにじみ出している、リンダ・ロンシュタット。真のヴォーカリストとしてのリンダの魅力がここに、収録ナンバーでは、「Neil Young」オリジナルの「Love Is a Rose」、オリジナル同様にカントリー・テイスト漂うカバーで、パンジーとフィドルで始まるイントロは美しい味わい。本アルバムを代表する「Tracks Of My Tears」は、オリジナルとは違いバラード調で切なく歌い上げて、歌詞とマッチして聴かせる雰囲気を出しており、チャートが最高位25位とは不思議でならないくらいだ。I'll Always Love Youは、ホムズとカズンとのデュオのカバー。 | Side A 1. バラのいたずら - Love is a Rose (ニール・ヤング) 2:46 2. ジューク・ボックスの歌 - Hey Mister, That's Me Up on the Jukebox (ジェームス・テイラー) 3:56 3. ロール・アム・イージー (ローウェル・ジョージ) 2:58 4. ひとじりの涙 - Tracks of My Tears (ワレン・ベティ・ムーア, ウィリアム・スモークキー・ロビンソン・ジュニア, マーヴィン・タープリー) 3:34 5. またひとりぼっち (カーラ・ボフ) 3:34 6. おしやべり屋 (ライク・ダー, ラス・ティエルマン, フランシス・フィリップス) 3:56 7. 彼にお願 (カーラ・ボフ) 3:15 8. サットル・ピー・ザ・デイ (ジェリー・アリソン, パティ・ホリー, ノーマン・ベティ) 2:32 9. ロ・シエント・ミ・ビーダ (リンダ・ロンシュタット, ケニー・エドワーズ, キルバート・ロンシュタット) 3:54 10. 風にさらわれた恋 (ウォーレン・ジョーンズ) 2:40 11. パビロンの河 (フレッド・トム, トム・マクノット) 0:52 12. アイ・ウィル・ビー・イン・ヒス・ソ・エーザイ (パティ・ホリー, ノーマン・ベティ) 2:27 | Side B 1. ヒート・ウェイヴ (ホーランド=ドジャー=ホーランド) 2:46 2. メニー・リヴァース・トゥ・クロス (ジミー・クリフ) 4:05 3. スイテスト・ギフト (ジェームス・B・コーツ) 3:00 4. アイム・フォーリン・ダウン (キャロル・S・ホーランド, アンナ・マクギリグ) 3:17 5. アイ・ウィル・オールウェイズ・ラヴ・ユー (ドリー・パートン) 3:00 6. アイ・ドゥ・エヴン・リヴ・イン・ヒス・ソ・エーザイ (パティ・ホリー, ノーマン・ベティ) 2:27 |
| LINDZ RONSTADT | 風にさらわれた恋 | | 1976年8月 | ポップス | レコード | 日本 | 1976年作品。このアルバムでは、ウォーレン・ジョーンズ(「風にさらわれた恋」)やカーラ・ボフ(「誰か私のそばに」)と言ったシンガー・ソングライターとしてすぐに高い名声を得たアーティストの作品が含まれている。また、アルバムにはライク・ダーの1974年のアルバム「パラダイス・アンド・ランチ」のために再アレンジしたワシントン・フリップスの「おしやべり屋」のようなカバー曲の再カバーも含まれていた。故バッシュ・クラインの古典的な「クレイジー」のリワークは、1977年初頭にロンシュタットにカントリー・チャートのトップ10入りをもたらした。プラチナアルバムとなるサードアルバム、『風にさらわれた恋』はビルボードアルバムチャートのトップ3に数週間とどまった。また、リンダの4枚のナンバー1カントリーアルバムの2番手となるアルバムである。 | Side A 1. またひとりぼっち (カーラ・ボフ) 3:34 2. おしやべり屋 (ライク・ダー, ラス・ティエルマン, フランシス・フィリップス) 3:56 3. 彼にお願 (カーラ・ボフ) 3:15 4. サットル・ピー・ザ・デイ (ジェリー・アリソン, パティ・ホリー, ノーマン・ベティ) 2:32 5. ロ・シエント・ミ・ビーダ (リンダ・ロンシュタット, ケニー・エドワーズ, キルバート・ロンシュタット) 3:54 6. 風にさらわれた恋 (ウォーレン・ジョーンズ) 2:40 7. パビロンの河 (フレッド・トム, トム・マクノット) 0:52 8. アイ・ウィル・ビー・イン・ヒス・ソ・エーザイ (パティ・ホリー, ノーマン・ベティ) 2:27 | Side B 1. ヒート・ウェイヴ (ホーランド=ドジャー=ホーランド) 2:46 2. メニー・リヴァース・トゥ・クロス (ジミー・クリフ) 4:05 3. スイテスト・ギフト (ジェームス・B・コーツ) 3:00 4. アイム・フォーリン・ダウン (キャロル・S・ホーランド, アンナ・マクギリグ) 3:17 5. アイ・ウィル・オールウェイズ・ラヴ・ユー (ドリー・パートン) 3:00 6. アイ・ドゥ・エヴン・リヴ・イン・ヒス・ソ・エーザイ (パティ・ホリー, ノーマン・ベティ) 2:27 |
| LINDZ RONSTADT | 夢はひとつだけ | | 1977年9月6日 | ポップス | レコード | 日本 | 1977年に発表した8枚目のアルバム。このアルバムにはローリング・ストーンズの「ダイスをころがせ」(映画『FM (英語版)』で使われた)やロイ・オービソンの「ブルー・バイユー」のカバーなどのロンシュタットの著名な楽曲が収録されており、グラミー賞の最優秀レコード賞(ニムネット)された。アルバムにはパティ・ホリーの「イツ・ソー・イージー」(トップ5ヒット)、ウォーレン・ジョーンズの「私はついてない」(トップ40ヒット)と「カルメリータ(英語版)」などのカバーも収録されている。このアルバムはロンシュタットのキャリアにおいて最も多く販売されたアルバムであり、その時点で女性アーティストによる2番目に多く販売されたアルバムだった(キャロル・キングの『つづれおり』が最多だった)。このアルバムは『悪いあなた』以来初めて長年共演してきたアンドリュー・ゴールドが参加しない初めてのロンシュタットのアルバムだが、ギタリストのダグ・マキスとロビン・ロウセル | Side A 1. バック・イン・USA / バック・イン・USA 2. WHEN I GROW TOO OLD TO DREAM / 夢見る頃を過ぎても 3. JUST ONE LOOK / ジャスト・ワン・ルック 4. ALISON / アリソン 5. WHITE RHYTHM & BLUES / ホワイト・リズム・アンド・ブルース | Side B 1. ALL THAT YOU DREAM / 夢のように 2. OOH BABY BABY / ウー・ベイビー・ベイビー 3. MOHAMED'S RADIO / モハメッドのラジオ 4. BLOWING AWAY / ブロウイング・アウェイ 5. LOVE ME TENDER / やさしく愛して |
| LINDZ RONSTADT | ミス・アメリカ | | 1978年9月19日 | ポップス | レコード | 日本 | アサイラム・レーベル移籍後第6弾。豪華なゲスト・ミュージシャンといよいよ円熟の増したリンダのヴォーカルが堪能できる作品。 ヒット・シングル「バック・イン・USA」(チャック・ベリー)の楽曲/ワディ・ワケテルがギターで参加)、「ジャスト・ワン・ルック」(G. キャロル, D. ベイン)の合作、'63年のヒット曲のカヴァー)、「ウー・ベイビー・ベイビー」(スモークキー・ロビンソンとウォーレン・ムーアの合作/デイヴィッド・サンボーンがアルト・サクソで参加)他を収録。1978年作品。 | 01. Mist Love 02. Party Girl 03. How Do I Make You 04. I Can't Let Go 05. Hurt So Bad 06. Look Out For My Love 07. Cost of Love 08. Justine 09. Girls Talk 10. Talking In the Dark | |
| LINDZ RONSTADT | 激愛 | | 1980年2月 | ポップス | レコード | 日本 | リンダ・ロンシュタットが80年に発表。パンク・ニューウェーブを意識した内容で、当時の新人のニューウェーブ・バンドのマーク・ゴードンが率いるクリトーンズのデビューアルバム「The Thin Red Line」から大主題曲「Mad Love」や「Justine」「Cost Of Love」と3曲マークが書いた楽曲を取り上げたり、エルヴィス・コステロの曲も3曲取り上げ話題を呼んだアルバム。 | | |

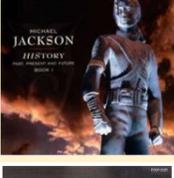
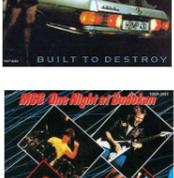
| | | | | | | | | | |
|------------------------------|---|---|----------|----------|------|----|---|---|---|
| LITTLE FEAT | セイルン・シューズ |  | 1972年5月 | ロック | レコード | US | ブルースからロック・ロールまで、冒険を恐れぬ斬新な音楽的試みで、LAから世界へとその名を知らしめた、リトル・フィート名作中の名作!代表曲「ウイリン」の再録音も収録した傑作アルバム。プロデューサーをモントロースや後のヴァン・ヘイレンを手掛けるテッド・テンブルマンに替えての再スタート、1stでは表現したい事が決まらずゴタゴタしていたが、「イージー・トゥ・スリッパ」から吹切れた感が伝わります。 | Side A 1. イージー・トゥ・スリッパ 2. コールド、コールド、コールド 3. トラブル 4. ドライブ・フェイス・ブギー 5. ウイリン 6. アポリティック・ブルース | Side B 1. セイルン・シューズ 2. ティーンエイジ・ナーヴァス・ブレイクダウン 3. ガット・ノー・シャドウ 4. ドライブ・フェイス・ブギー 5. テキサス・ローズ・カフエ |
| LITTLE FEAT | ディキシー・チキン |  | 1973年1月 | アメリカンロック | レコード | 日本 | 1973年にリリースした70'Sアメリカン・ロックを代表するリトル・フィートの3rdアルバム。タイトでファンキーにローウェル・ジョージのスライド・ギターが冴えわたるリトル・フィートの最高傑作。前作同様に本アルバムの音楽的志向性を観るとアメリカン・ロックから、R&B・ロック、ジャズ・ポップなどの多様なバリエーションが窺える。 。代表曲「ディキシー・チキン」は、独特の跳ねる、ニューオーリンズのファンク(セカンドライン・ファンク)のリズムを取り入れたファンキーな曲。スライド・ギターも心地良く鳴る。 | Side A 1. ディキシー・チキン 2. トウ・トレインズ 3. ロール・エム・イージー 4. オン・ユア・ウェイ・ダウン 5. キス・イット・オフ | Side B 1. フール・ユアセルフ 2. ウォーキン・オール・ナイト 3. ファット・マン・イン・ザ・バスタブ 4. キャット・フィーヴァー 5. ラファイエット・レイルロード |
| LIVERPOOL SOUNDS COLLECTION | リバプール・サウンズ・コレクション |  | | ビートルック | レコード | 日本 | 平凡パンチが企画した60年代リバプール・サウンドを集めたコンピ盤。ホリーズ、アニマルズ、ハーマーズ・ハーミッツのスタンダード・ナンバーを収録。 | Side 1 1. Bus Stop -The Hollies 2. I'm Telling You Now -Freddie & The Dreamers 3. I Go To Pieces -Peter & Gordon 4. House Of The Rising Sun -The Animals 5. Do Wah Diddy Diddy -Manfred Mann 6. Little Children -Billy J. Kramer & The Dakotas 6. Mrs. Brown You Got A Lovely Daughter -Herman's Hermits | Side 2 1. World Without Love -Peter & Gordon 2. Don't Let Me Be Misunderstood -The Animals 3. Hippy Hippy Shake -The Swinging Blue Jeans 4. I Can't Let Go -The Hollies 5. Ferry Cross The Mersey -Gerry & The Pacemakers 6. Sha la la -Manfred Mann 7. There's A Kind Of Hush -Herman's Hermits |
| LIVE WIRE | ピックアップ |  | 1979 | ニューウェーブ | レコード | US | ライブワイヤーは、より大きなプロフィールを持っていたはずの衣装の1つでした。シャープな歌、良いリードボーカル、ライト・N・シェード&ノックアウトリズムセクションがありました。すべてのアルバムは持つ価値がある。各リリースで音の改善があります。特別な言及は、ジェレミー・ミークの素晴らしい低音の仕事に行かなければならない。ライブワイヤーを引き離したのは、低音が前方に押し上げられているバンドを前方に押し上げて運転したのです。 | | |
| LONE JUSTICE | ローンジャスティス |  | 1985 | ロック | レコード | 日本 | | | |
| LOU REED | ベルリン |  | 1973 | ロック | レコード | 日本 | 1973年作。退廃の街ベルリンを舞台に、悲劇へと向かう男女の姿を描いた、ルー・リードの初期の最高傑作とも言われる名盤!ルー・リードの最高傑作という評価が多いアルバム。プロデューサーにアリス・クーパーを手がけていたボブ・エズリンを迎えている。退廃の街ベルリンを舞台に、主人公と安酒場のショウ・ガールとの出会いから死までを描いた悲劇的なストーリーが展開されるドラマ仕立てのトータル・アルバム。ベルリンという街の寓意性が、ストリートの詩人であるルー・リードのイマジネーションによって昇華された傑作。ステューヴ・ウインウッド、ブレッカー・ブラザーズ、ジャック・ブルース(ex:クリーム)、トニー・レヴィンなど名作のミュージシャン達による演奏も素晴らしい。後にライブのメンバーとしても参加することになるステューヴ・ハンター、ディック・ワグナーもこのアルバムに参加している。 | SIDE A 1. ベルリン 2. レディ・デイ 3. 富豪の息子 4. キャロラインのはなし(1) 5. 暗い感覚 6. オー・ジム | SIDE B 1. キャロラインのはなし(2) 2. 子供たち 3. ベッド 4. 悲しみの歌 |
| LOVE | ラヴ |  | 1966 | ロック | レコード | US | ラヴが1966年に発表したファーストアルバム。Loveというグループは、黒人と白人の混成バンドであり、ここではいわゆるジャンルを超えて「音楽」を作ったという評価が多いアルバム。プロデューサーにアリス・クーパーを手がけていたボブ・エズリンを迎えている。退廃の街ベルリンを舞台に、主人公と安酒場のショウ・ガールとの出会いから死までを描いた悲劇的なストーリーが展開されるドラマ仕立てのトータル・アルバム。ベルリンという街の寓意性が、ストリートの詩人であるルー・リードのイマジネーションによって昇華された傑作。ステューヴ・ウインウッド、ブレッカー・ブラザーズ、ジャック・ブルース(ex:クリーム)、トニー・レヴィンなど名作のミュージシャン達による演奏も素晴らしい。後にライブのメンバーとしても参加することになるステューヴ・ハンター、ディック・ワグナーもこのアルバムに参加している。 | SIDE A 1. マイ・リトル・レッド・ブック (Burt Bacharach, Hal David) - 2:34 2. キアント・エクスプレイン (Arthur Lee, John Echols, John Fleckenstein) - 2:41 3. ア・メッセ・ジ・トゥ・プリティ 3:13 4. マイ・フッシュ・オン・ユー - 2:09 5. ソフトリー・トゥ・ミー (Bryan MacLean) - 2:57 6. ノー・マター・ホワット・ユードウ - 2:46 7. エモーションズ (A. Lee, J. Echols) - 1:59 | SIDE B 1. ユー・アイル・ビー・フォロイング - 2:26 2. ゲイジング - 2:42 3. ヘイ・ジョー (Billy Roberts) - 2:42 4. サイン・D.C. - 2:47 5. カラード・ボーズ・フォーリング - 1:55 6. マット・ユーム・クラウス (A. Lee, J. Echols, Ken Forssi, B. MacLean) - 2:25 7. アンド・モア (A. Lee, B. MacLean) - 2:55 |
| LOVE | フォーエヴァー・チェンジ (デラックスエディション・デジタルリマスター) |  | 1968 | ロック | CD | 日本 | ラヴが1966年に発表したファーストアルバム。Loveというグループは、黒人と白人の混成バンドであり、ここではいわゆるジャンルを超えて「音楽」を作ったという評価が多いアルバム。プロデューサーにアリス・クーパーを手がけていたボブ・エズリンを迎えている。退廃の街ベルリンを舞台に、主人公と安酒場のショウ・ガールとの出会いから死までを描いた悲劇的なストーリーが展開されるドラマ仕立てのトータル・アルバム。ベルリンという街の寓意性が、ストリートの詩人であるルー・リードのイマジネーションによって昇華された傑作。ステューヴ・ウインウッド、ブレッカー・ブラザーズ、ジャック・ブルース(ex:クリーム)、トニー・レヴィンなど名作のミュージシャン達による演奏も素晴らしい。後にライブのメンバーとしても参加することになるステューヴ・ハンター、ディック・ワグナーもこのアルバムに参加している。 | 1. アロン・アゲイン・オブ 2. ア・ハウス・イズ・ノット・ア・モーター 3. アンド・モア・ザイン 4. ザ・ディ・ブ・ブ 5. オールド・マン 6. ザ・レック・アンド・ヒル・デール 7. リ・ア・アンド・レット・リヴ 9. ザ・グッド・ヒュー・モア・マン 10. ハマー・イン・ザ・サマー 11. ユー・セツト・ザ・シーン | |
| LOVIN SPOONFUL | 魔法を信じるかい? |  | 1965年 | ロック | レコード | US | 表題曲のDO YOU BELIEVE IN MAGICをはじめ、DID YOU EVER HAVE TO MAKE UP YOUR MINDやYOUNGER GIRLは、LOVIN' SPOONFULならではの代表的なグッド・タイム・ミュージック。一度耳にしてしまうと、その魅力に取りつかれること間違いなし。オリジナル盤最後のNIGHT OWL BLUESはインストだけど、JOHNのハーモニカが心に染み入るように響く。ラビン・スプーンフルの素晴らしいのはヒット曲の多さだけでなく、ビートルズなどの影響を受けながらも、しっかりとオリジナルの世界観を築く才能があったということだ。このアルバムは代表曲の『魔法を信じるかい?』を含み、他にも『糸くずの糸くず』、『ドゥー・ユー・ベリヴ・イン・マジック』、『ドゥー・ユー・エヴァー・ハヴ・トゥ・メイク・アップ・ユア・マインド』、『ヤング・ガール』、『ナイト・オウル・ブルース』の5曲が収録されている。 | Side A 1 Do You Believe In Magic 2:04 2 Blues In The Bottle 2:10 3 Sportin' Life 4:02 4 My Gal 2:30 5 You Baby 2:55 6 Fishin' Blues 1:58 | Side B 1 Did You Ever Have To Make Up Your Mind 2:00 2 Wild About My Lovin' 2:38 3 Other Side Of This Life 2:30 4 Younger Girl 2:23 5 On The Road Again 1:52 6 Night Owl Blues 3:00 |
| LOVIN SPOONFUL | デイドリーム |  | 1966年3月 | ロック | レコード | 日本 | 1966年発売のセカンド・アルバム。全米POPチャート10位のヒットとなった名作セカンド・アルバム。タイトル曲が全米2位のヒット。ジャグ・バンドやスキッフルの要素をミックスしたフォーク・ロック・サウンドが満載。まさに、彼らの代名詞となった「グッド・タイム・ミュージック」が確立された名盤。フォーク、ブルース、ジャグ・バンド・ミュージック、ジャズ、カントリー、ロックンロール、R&B、プリル・ビルディング・ポップスなど、様々なアメリカ音楽を振り下ろし、ミックスすることによって生まれた彼らならではのオリジナリティ溢れるサウンドは高い評価を得た。1966年発売のセカンド・アルバム。タイトル曲が全米2位のヒット。ジャグ・バンドやスキッフルの要素をミックスしたフォーク・ロック・サウンドが満載。まさに、彼らの代名詞となった「グッド・タイム・ミュージック」が確立された名盤。 | Side A 1. デイドリーム 2. ゼア・シー・イズ 3. イッツ・ノット・タイム・ナウ 4. ウォーム・ベイビー 5. デイ・ブルース 6. 君はロックンローラー | Side B 1. ジャグ・バンド・ミュージック 2. つかい僕の心 3. うれしいあの娘 4. ボール・ヘッド・リナ 5. プッチーの歌 6. ビッグ・ノイズ・フロム・スポンク |
| LOVIN SPOONFUL | ハムズ・オブ・ザ・ラ ヴィン・スプーンフル |  | 1967年11月 | ロック | レコード | 日本 | 1960年代半ば、ジョージ・セバスチャン、サル・ヤングス、スティーヴ・ヴァニ、ジョー・パトラーの4人によって、ニューヨーク、グリニッチ・ヴェイレッジで結成されたザ・ラヴィン・スプーンフルの、1967年発売のサード・アルバム。本作からは、「サマー・イン・ザ・シティ」(全米1位)、「レイン・オン・ザ・ルーフ」(10位)、「ナッシュヴィル・キャッツ」(8位)、「フル・メジャー」(87位)の4曲のヒット・シングルが生まれたことから、ベスト・セラーを記録。スプーンフルのアルバムはどれも60年代中期のロックの革新期の兆しを示す記録に成り得るものであると思う。ビートルズを中心とした英国勢の攻勢に対抗したアメリカの柱はモータウンと自分達のオリジナリティを求めた彼らのような新しい(ネタもとは古いですが)ロックの流れだった。とは兼え、シングルはどれもがアーティストの個性を注ぎ込んだ傑作。アルバムは何れも、 | Side A 1. ラヴィン・ユー 2. ベスト・フレンド 3. プードル・イン・マイ・ベイスメント 4. デーリン・コンパニオン 5. ヘンリー・トーマス 6. フル・メジャー | Side B 1. レイン・オン・ザ・ルーフ 2. ココナツ・グローヴ 3. ナッシュヴィル・キャッツ 4. フォー・アイズ 5. サマー・イン・ザ・シティ |
| LORDS OF THE NEW CHURCH | ロシアン・ルーレット |  | 1982 | パンク | レコード | 日本 | | | |
| LORD SUTCH AND HEAVY FRIENDS | ロード・サッチ・アンド・ヘヴィ・フレンズ |  | 1970 | | レコード | 日本 | ロード・サッチはロンドン出身のシンガー兼政治家で、60年頃からスクリーミング・ゴード・サッチ&ザ・サウエイジズを結成して活動を開始、『ボルネオの獣人』や『切り裂きジャック』などのコスプレでロックン・ロールを歌うロッカーとして、ビートルズ以前からキモノ的人気を集めたい。ロード・チェイサー・サッチ&ザ・ローマン・エンパイアなど、その時々によって名前を変えながらも60年代全般渡って活動を続け、バック・バンドにはジミー・ペイジやジェフ・ベック、リッチー・ブラックモア等々が入り替わりで参加していた。このアルバムはロード・サッチ&ヘヴィ・フレンズ名義のファースト・アルバムで、当時すでにシンガーとしては落ち目だったサッチが、有名になった元メンバー達に声を掛けて制作したアルバムで(政治資金を稼ぐ必要もあったのかも)、クレジット・メンバーは、サッチ、ペイジ、 | A面 1. Wailing Sounds/ウエイリング・サウンド 2. Cause I Love You/コース・アイ・ラヴ・ユー 3. Flashing Lights/フラッシング・ライツ 4. Giddy Guitar/ガッティ・ギター 5. Would You Believe/ウッド・ユー・ベリヴ (信じるかい) 6. Smoke And Fire/スモーク・アンド・ファイア (煙と火) B面 1. Thumping Beat/サンピング・ビート 2. ... A1. Don't Worry Baby A2. A Matter of Time A3. Corrido #1 A4. Our Last Night A5. The Breakdown B1. I Got Loaded B2. Serenata Nortena B3. Evangeline B4. I Got To Let You Know B5. Lil' King of Everything B6. Will the Wolf Survive? | |
| LOS LOBOS | ハウ・ウィル・ザ ウルフ・サヴァイブ? |  | 1984 | ニューウェーブ | レコード | 日本 | チカーノ・ロックの大スター、リッチー・ヴァレンスの生涯を描いた87年の映画『ラ・パンパ』で主題歌を歌い全米1位を獲得、一気にその名が知られたロス・ロバ。軽快なロックンロールで移民の生活を歌った「WILL THE WOLF SURVIVE」、R&Bインフルエンスな「I GOT LOADED」、カントリー・ブルース・センスな「A MATTER OF TIME」をはじめ、自身のトラディショナルなメキシカン・ルーツと定住の地であるアメリカ音楽を融合させた「LOS LOBOSサウンド」を確立させた一枚と評価される傑作です。この作品で広く注目を集めた彼らは、87年「LA BAMBAA」で全米NO.1を獲得することになります。T BONE BURNETTプロデューサー。 | | |
| LOST LOVED ONES | |  | 1985 | ニューウェーブ | レコード | UK | | | |

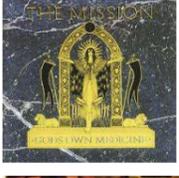
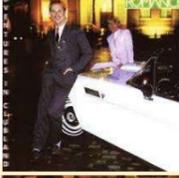
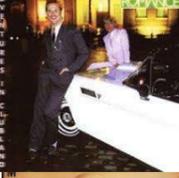
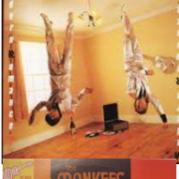
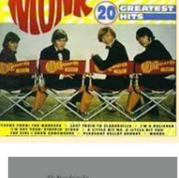
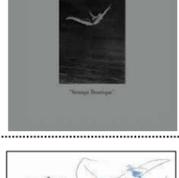
| | | | | | | | | | | | |
|---|------------------|---------------------------|---|-------|----------|------|----|--|--|--|--|
| | LOTUS EATERS | 青春のアルバム |  | 1984 | ネオアコ | レコード | 日本 | | | | |
| | LOVE AND ROCKETS | |  | 1986 | ニューウェイブ | レコード | UK | | | | |
| | LOVERBOY | ラヴァーボーイ |  | 1980 | ハードロック | レコード | 日本 | 80年代、ラヴァーボーイのデビューアルバム。カナダのロック・シーンが80年代のハード・ロック、メタル・シーンに与えた影響は計り知れないとは思いますが、彼等の登場は本当に意味が大きかったと思います。プロデューサーはブルース・フェアバーン、エンジニアはボブ・ロックという、このカナダ人の師弟コンビは、最早説明不要と思われるが、以降のメタル重要作を次々と手掛ける事になるわけです。彼等の登場期は、ジャーニーやステイクス、フォリナー等が洗練されたかたち形で再生し、モンスターアルバムを産み落とそうとしているまさに80'sの夜明け前で、もちろんBON JOVIもNIGHT RANGERもデビューしていません。キーボードのきらびやかな響きと、メタリックなギター、ロビン・ザンダーやルー・ペリッチが中心人物として、さらにロビン・スコットを代表するミュージシャンとして数多くのアーティストから圧倒的な支持を受けつつ、惜しくもこの世を去った(このアルバムの発表直後)ローウェル・ジョージのファンキー&タイトな唯一のソロ・アルバム。リトル・フィートで数々の名曲を作曲したが、本作品はカバーが多く、10曲中、5曲が他人の曲で、4曲が共作。当時、リトル・フィートはよりジャズ的な要素を取り入れる方向に進んでおり、それをローウェル・ジョージは面白くないと思っており、このソロ作品をつくることになった。単独でつくった曲は『トウ・トレインズ』で、これはあの『ディクシー・チキン』に入っていた名曲で、このソロ作品では、さびに入る前までは、全く違う曲というほどの異なるアレンジが施されている。リトル・フィートのグルーブ感はないが、ボーカリストのローウェル・ジョージの表現力は傑出して、いる。もちろん、スライド・ギターも。 | | あの娘に何をさせたいの 2オネスト・マン 3トウ・トレインズ 4キャン・スタンド・ザ・レイン | デーヴ・トゥ・デーヴ 6イー・ジー・マナー 720ミリオン・シングス 8ファイブ・ア・リヴァー 9ヒム・ラズ・リング |
| | LOWELL GEORGE | イト・イト・ヒア 特別料理 |  | 1979年 | アメリカンロック | レコード | 日本 | | | | |
| | LURKERS | フラムフォールアウト |  | | パンク | レコード | UK | ラッカーズは、1976年に西ロンドンのアクスブリッジ出身のイギリスの初期のパンクバンドの一つ。バンドは当初、ベッカーズ・パンケット小売店のフラム支店ノースエンド・ロードで働いていたことからレコードもベッカーズ・パンケットの最初のグループでありこれが彼らのファーストアルバム。ギターのピーター・ストライドがバンドのメインソングライター。最初の週にUKアルバム・チャートで57位を記録した。「英国ラモーンズ」と言われた。 | | | |
| | LURKERS | 孤独のバイオレンス |  | 1979 | パンク | レコード | UK | UK 70'S PUNKバンドの1979年作2ndアルバム | | | |
| M | M (ROBIN SCOTT) | ニューヨーク・ロンドン -パリー・ミュンヘン |  | 1979 | エレクトロニクス | レコード | 日本 | M(エム)は、イギリスのミュージシャン、ロビン・スコットによる音楽ユニット。坂本龍一との共演で知られるROBIN SCOTTを中心とした80'sシンセ・ポップ〜NEW WAVEユニット「M」の79の1STアルバム。OLD SCHOOL〜MIDDLE期にフレーズやサンプリングされた映画ゴーストバスターズのテーマ調のテクノ〜エレクトロ・ポップのヒット・ナンバー「POP MUZIK」、浮遊感あるエレクトロ・ディスコ「WOMAN MAKE MAN」、ディスコ・ポップ「MADE IN MUNICH」、トロピカルなNEW WAVEレゲエ・ナンバー「THAT'S THE WAY THE MONEY GOES」等全編カラフルなNEW WAVE〜シンセ〜テクノ・ポップを聴かせる1ST名盤！！ | Side A 1. ポップ・ミュージック (Nik Launay '79 12') 2. ウーマン・メイク・マン 3. モダン・マン サティスファイ・ユア・ラスト 4. メイド・イン・ミュンヘン | Side B 1. ムーンライト・アンド・ミュージック 2. 金は天下のまわりもの 3. カウボーイズ・アンド・インディアンズ 4. ユナイテッド・ユア・ネイション | |
| | MADNESS | ワン・ステップ・ビヨンド |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1976年に英国ロンドンで結成。1970年代最後にはスカブームの当時の2トーン御三家(マッドネス、スペシャルズ、セレクトァ)の一つで、いちばん活動が長くまたヒット曲を連発した痛快なグループ。音楽的にはスカやレゲエを基軸としているが、セレクトァのようなストリートなものではなく、スペシャルズのようにパンク・ニューウェイブ的な性急さでもなく、キンクスのようにひねりの効いたイギリス的な独自のサウンドを確立している。そのために、2トーンのバンドの中で長く生き残ることができたグループ。また、決してワン・ステップ・ビヨンドだけがいいのではなく、どの曲も勢いがある、ユーモラス、明るい曲の中に切ないメロディーがある。テンポよい曲ばかりと思うが、バラードもある。サックスの音色が素晴らしい。そしてピアノソロの音色に線が熱くなる。それがよく出る。いい曲、聴いてみると元気になれるアルバム。 | 1. One Step Beyond 2. My Girl 3. Night Boat to Cairo 4. Believe Me 5. Land of Hope and Glory 6. The Prince 7. Tarzan's Nuts 8. In the Middle of the Night 9. Bed and Breakfast Man 10. Razor Blade Alley 11. Swan Lake 12. Don't Mind Me 13. Baggie Trousers 14. Embarrassment 15. R.N.I.E 16. Close Escape 17. Not Home Today 18. On the Beat Pete 19. Solid Gone 20. Take It or Leave It 21. Shadow of Fear 22. 10 Disappear 23. 11 Overdone 24. 12 In the Rain | | |
| | MADNESS | 独裁宣言 |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1980年発表のセカンド・アルバムとなる「ABSOLUTELY」が発売40周年を記念してアナログLPで復活!全英アルバム・チャートの2位を獲得した本作からは、全英3位を獲得し、彼らの代表的ヒットの1つとなる「バギー・トラウザーズ」をはじめ、ライヴに欠かせない陽気なインストゥルメンタル・ナンバー「The Return of The Los Palmas 7」や「Embarrassment」などのTOP10ヒットが生まれている。ちなみにアルバム・ジャケットはロンドン・カムデンのチョーク・ファームの前で撮影されている。 | 1. In The City 01:42 2. Cardiac Arrest 01:50 3. Shut Up 02:01 4. Sign Of The Times 02:21 5. Missing You 01:36 6. Mrs. Hutchinson 02:01 7. Tomorrow's Dream 02:13 | Side B 1. Grey Day 01:55 2. Pac-A-Mac 01:45 3. Promises Promises 01:42 4. Benny Bullfrog 01:26 5. When Dawn Arrives 01:42 6. Mrs. Hutchinson 02:01 7. Never Ask Twice 02:04 | |
| | MADNESS | セヴン・シティ・イン・シティ |  | 1981年 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | Madnessの大ヒット・ナンバーとしても知られる「Grey Day」や「Shut Up」を収録した81年リリースの3rdアルバム。当時HONDAの国内CFにも起用されていた「Cardiac Arrest」で知られる英国のネオ・スカ・バンド、Madnessによる人気名盤として知られる3rdアルバム「7」が復刻本人達が出演していた前述のCF曲A1をはじめ、彼らの代表曲にして大ヒット・ナンバーA2「Shut Up」やB1「Grey Day」などの楽曲を中心に、モータウン・ビートを軸としたA3「Sign If The Time」などなど軽快なネオ・スカ・ナンバーを全13曲 | Side A 1. Rise and Fall 2. Tomorrow's (Just Another Day) 3. Blue Skinned Beast 4. Primrose Hill 5. Mr. Speaker (Gets the Word) 6. Sunday Morning | Side B 1. Our House 2. iptoes 3. New Delhi 4. That Face 5. Calling Cards | |
| | MADNESS | ライズ&フォール |  | 1982 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1982年発表のマッドネスの4作目。ソングライティングも深みを増し、サウンド面でもプロデューサーのランジャー&ウィンスタレーとのコンビネーションが絶頂を極めた傑作。ヒット・シングル「ハウス・オブ・ファン」「ドライヴィング・イン・マイ・カー」。 | Side A 1. I'll Compete 2. Yesterday's Men 3. Uncle Sam 4. White Heat 5. Mad Not Mad | Side B 1. Sweetest Girl 2. Burning The Boats 3. Tears You Can't Hide 4. Time 5. Coldest Day | |
| | MADNESS | マッド・ノット・マッド |  | 1985年 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1985年リリース、ヴァージン・レコード移籍後、最初のアルバムの6枚目のアルバム。プロデューサーは、One Step Beyond (1979)、Absolutely (1980)、7 (1981)も手掛けているClive Langer & Alan Winstanleyのコンビによるもの。彼らの長い歴史の中でも特に洗練されたサウンドとされる。「Uncle Sam」や「Yesterday's Men」などのヒット・シングルが生まれ、英NME誌の「今でも最高に聴こえる1985年発表のアルバム50」にも選ばれた。また本作は、キーボード担当のMike Barsonが脱退して初めてのアルバムでもあった。このアルバム発表後1986年、マッドネスは一度解散するが、1992年にオリジナル・メンバーの7人で再結成する。 | 1. ラッキー・スター 05:37 2. ボーダーライン 05:20 3. パーニング・アップ 03:45 4. アイ・ノウ・イット 03:47 5. ホリデイ 06:10 6. シンク・オブ・ミー 04:54 7. フィジカル・アトラクション 06:39 8. エヴリバディ 05:59 | | |
| | MADNESS | ベスト・オブ・マッドネス |  | 1992 | ニューウェイブ | CD | 日本 | 1992年リリース作品。80年代初めのスカ・ビートの立役者となったマッドネス。スカの格に収まり切れない幅広い音楽性やオシャレな出で立ち、さらにコミカルな側面も持ち合わせていた彼らしいヒット曲が満載。彼らの第一期(79〜86)の23曲入りベスト盤です。なんとほぼ全てが大ヒット曲。20年ほど前の某自動車メーカーCMで使われた「CityInCity」が最後に追加されています。スペシャルズ、UB40らと共に79年、スカブームに乗って登場しました。こうして年代順に並べられたシングルを聴いていくと、特に初期においては、むしろスカバラな曲などスカの要素は確かに重要なのですが、全体の核となっているのは、やはりビートルズ以降のちよつとネジレた伝統的ブリティッシュポップである事がわかります。詞においても、毎朝ラッシュのバスで出かけるサラリーマン、子供の頃の思い出、かつての日々の思い出、青春時代の思い出、希望を思い出す。 | 1. マテリアル・ガール 04:01 2. エンジェル 03:56 3. ライク・ア・ヴァージン 03:38 4. オーヴァー・アンド・オーヴァー 04:12 5. 愛は色あせて 04:49 6. ドレス・ユー・アップ 04:01 7. シュー・ビー・ドゥ 05:17 8. プリテンダー 04:30 9. ステイ 04:07 | | |
| | MADONNA | パーニング・アップ |  | 1982 | ポップス | レコード | 日本 | 1980年代前半にニューヨークの盛り場からデビュー。20世紀最大のスーパースター! マドンナの原点がここにある。デビュー・シングル「エヴリバディ」、ヒット・シングル「ラッキー・スター」「ホリデイ」「ボーダーライン」を収録のファースト・アルバム。ディスコ・テイストを取り入れた「ホリデイ」「ボーダーライン」「ラッキー・スター」などのヒット曲を収録し、デビュー・アルバムにして800万枚以上の売り上げを記録した作品(1982年作品) | | | |
| | MADONNA | ライク・ア・ヴァージン |  | 1984 | ポップス | レコード | 日本 | 本作は彼女を文句なしのスーパー・スターに押し上げた大出世作「マッド」(1984年発表)。本作中から表題曲「ライク・ア・ヴァージン」。「マテリアル・ガール」、「ドレス・ユー・アップ」などが全米ナンバーワンとなった。当時シーンを席巻したヒット・メーカー、ナイル・ロジャースのプロデュースにより、マドンナのコケティッシュな魅力が存分に引き出されている。 【1985年3週連続全米No.1アルバム】あまりにも有名なマドンナの2ND。プロデューサーに当時売れっ子だったナイル・ロジャースを起用、前作の軽快なディスコサウンドに比べ、ブラッキング・テンポラリーのサウンドとなった。このアルバム、及び「ライク・ア・ヴァージン」「マテリアル・ガール」などのヒットで彼女は一気にワールドワイドな存在になった。曲もいいのだが、このアルバムを発売したころ、彼女は自分の持つポテンシャルをいかに最大限に発揮し、当時無名だった。 | 1. マテリアル・ガール 04:01 2. エンジェル 03:56 3. ライク・ア・ヴァージン 03:38 4. オーヴァー・アンド・オーヴァー 04:12 5. 愛は色あせて 04:49 6. ドレス・ユー・アップ 04:01 7. シュー・ビー・ドゥ 05:17 8. プリテンダー 04:30 9. ステイ 04:07 | | |

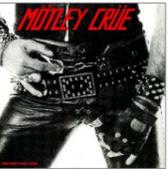
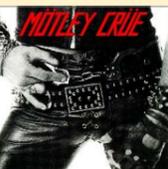
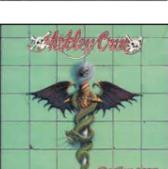
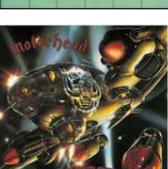
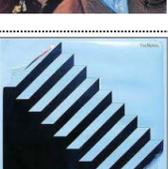
| | | | | | | | | | |
|-----------------|--|---|-------------|--------------|------|---|---|--|---|
| MADONNA | トゥルー・ブルー |  | 1986 | レコード | 日本 | 1986年作品のサードアルバム。自らプロデュースに参加しクリエイターとしての実力を知らしめたアルバム。「ハバドント・ブリーチ」等のメッセージ・ソングや「ライズラ・ポニータ」を収録。全米5週連続1位。全英6週連続1位など世界的な大ヒットを記録した。 | Side A 1. ハバドント・ブリーチ 2. オープン・ユア・ハート 3. ホワイト・ヒート 4. リヴ・トゥ・テル 5. パーティは何処に 6. トゥルー・ブルー | Side B 1. パーティは何処に 2. トゥルー・ブルー 3. ライズラ・ポニータ 4. ジミー・ジミー 5. ラヴ・メイクス・ザ・ワールド・ゴー・ラウンド | |
| MADONNA | ベスト・オブ・マドンナ ～バラード・コレクション |  | 1995年11月10日 | ポップス | CD | 日本 | バラード・ナンバーのみを選曲したベスト・アルバム。「クレイジー・フォー・ユー」「ティク・ア・バウ」他、新曲を3曲、またアルバム未収録を2曲含む本作は、シンガーとしての彼女を楽しめる。 | 1. アイ・ウオント・ユー 06:24 2. アイル・リメンバー 04:24 3. テイク・ア・バウ 05:21 4. 愛をこえて 04:41 5. クレイジー・フォー・ユー 04:05 6. マイ・ブレイグラウンド 05:10 7. リヴ・トゥ・テル 05:52 8. 愛は色あせて 04:54 9. サムシング・トゥ・リメンバー 05:05 10. フォービドゥン・ラヴ 04:09 11. ワン・モア・チャンス 04:29 | |
| MAGAZINE | リアル・ライフ |  | 1978 | ニューウェイブ | レコード | US | あのパンクバンド「バズ・ゴジツス」のヴォーカリストだったハウード・ディヴオートがセンセーショナルな脱退直後の1977年に新たに結成したバンド「Magazine」のファーストアルバム。メンバーには、後に「Nick Cave & Bad Seeds」に参加し、素晴らしいソロ・ワークもリリースしているBarry Adamsonが在籍していました。ストレート・エッジなパンク・サウンドに飽き足らなくなった彼が次に目指したのは、パンクのエナジーをそのままに、アート・ロックとさえいえる実験性を注入したサウンドだった訳で、多くのファンに期待に違わぬ優れたモノとなっています。これは「Virgin」レーベルと契約してリリースされたデビュー・アルバムとなります。バンド・サウンドの中核を成すのが激しく変化するドラム・パターンであり、奇妙にひしげけたギター・サウンドであり、変幻自在に飛び回るスペース・キーボードであり、つまりそれらの要素がすべて揃った、まさに余韻を残すのに十分なサウンド。 | (SIDE A) 1) Definitive Gaze 2) My Tulpa 3) Shot By Both Sides 4) Recoil 5) Burst (SIDE B) 1) Motorcade 2) The Great Beautician In The Sky 3) The Light Pours Out Of Me 4) ... | |
| MAGAZINE | コレクト・ユース・オブ・ソープ |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | US | マガジンは1980年に発表した通算3作目にして、名ギタリスト、ジョン・マッキオークを含む布陣による最後のアルバム。マーティン・ハネットのプロデュースと過少な装飾を排したシンプルで、バンドの確かな演奏とハウード・ディヴオートの優れたソングライティングが最良のかたちで融和した傑作。 ■ジョイ・ディヴィジョン、U2などの諸作で知られるマーティン・ハネットのプロデュースと過少な装飾を排したシンプルで、バンドの確かな演奏とハウード・ディヴオートの優れたソングライティングが最良のかたちで融和した傑作。 | A面 1. ビューズ・ユア・フライング・アウト 2. モデル・ワーカー 3. アイム・ア・パーティー 4. ユー・ネヴァー・ニュー・ミー 5. フィラデルフィア B面 1. アイ・ウオント・トゥ・バーン・アゲイン 2. サンキュー 3. スウィート・ハート・コントラクト 4. スタック | |
| MAGAZINE | マジック・マダー& ザ・ウェザー |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | マガジンの4枚目のアルバム。ロビン・サイモンの脱退と、サイモンに代わるギタリスト、ベン・マンデルソンの加入を経て、1980年にリリースされたマガジンの事実上のラスト・アルバム。傑作「ザ・コレクト・ユース・オブ・ソープ」を手がけたマーティン・ハネットが実質的なプロデュースを担当した通算4作目。リード・シンガー/フロント・マンのハウード・ディヴオートは同作をもって脱退。グループは惜しまれつつ解散した。 | A面 1. アバウト・ザ・ウェザー 2. ソー・ラッキー 3. ザ・ハネムーン・キラーズ 4. ヴァンダラズ 5. カム・アライヴ B面 1. ザ・グレイト・マンズ・シークレッツ 2. ディス・ボイズン 3. ネイキッド・アイ 4. サバーバン・ローンダ | |
| Michael Franks | 愛のオブジェ |  | 1982年 | AOR | レコード | US | “ミスター・AOR”マイケル・フランクス通算8作目のアルバム。ポニー・レイットとのデュエットが聴きどころ。さらに、バックのデビッド・サンボーンのスックスも洒落ていて、都会のランドスケープが似合うサウンドトラック的作品。ゴーギャンの絵画を使ったアルバムジャケットこれだけで彼のセンスの良さが漂ってきます。 | Side A 1. JEALOUSY / ジェラシー 2. LADIES' NITE / 淑女たちの夜 3. NO-DEPOSIT LOVE / うつろな恋 4. LAUGHING GAS / ラーフィング・ギャス 5. WONDERLAND / ワンダーランド | Side B 1. TAHITIAN MOON / タヒチアン・ムーン 2. FLIRTATION / 愛の戯れ 3. LOVE DUET / 愛のデュエット 4. NO ONE BUT YOU / 君だけを |
| MAKIN' TIME | リズム&ソール |  | 1985 | ニューウェイブ | レコード | UK | | | |
| MALCOLM MCLAREN | ダック・ロック 「俺がマルコムだ！」 |  | 1983 | ニューウェイブ | レコード | UK | ゼツクス・ピストルズの狂言となり、“彼が存在しなければ英国のパンクはなかった”とも言われる存在で、後の「アダム・アント」や「ウウウウウ」等を人気グループに導いたマルコム・マクラレンが自らアーティストとしての発表したソロ第1作目。テーマとしてヒップホップを取り入れ、ヒップホップの構成要素として、「ラップ」「DJ」「ブレイクダンス」「グラフィティ」「知識」の5つをあげている。真のミュージシャンとはいえないマルコムをサウンドで支えたのがプロデューサーのTrevor Horn(トレヴァー・ホーン)だ。この作品ではArt of Noise(アート・オブ・ノイズ)のメンバーと一緒にサウンド作りを一手に任されている。彼はピエロのように振る舞うだけで、本当の主人公はバックでブレイクダンスやグラフィティ、スクラッチを披露する黒人アーティスト達である。ただし「ダック・ロック」は、おそらく白人がヒップホップのスタイルを、メロディを添えて、完全に盗襲した初めだけの作品である。 | Side A 記名なしは全て McLaren/Hornの作品 1. オクタワ 4:17 2. ハッパロー・ギャルズ (McLaren/Dudley/Horn) 4:22 3. ダブルダッチ 5:53 4. メンゲ 3:52 5. パンク・イット・アップ 4:11 | Side B 1. レグバ 4:03 2. ジャイブ・マイ・ベイビー 5:35 3. チャンゴに捧げる歌 2:49 4. ソウエト 3:53 5. ワールド・フェイマス (McLaren/Dudley) 1:41 6. カキのアヒル Duck For The Oyster 2:57 |
| MAMAS&PAPAS | 夢のカリフォルニア |  | 1980 | ポップス | レコード | 日本 | 哀愁漂うフォーク・ロックの時代を超えた超名作“夢のカリフォルニア” CALIFORNIA DREAMIN'”や、1966年のナンバー・ワンのヒット曲“MANDY, MANDY”など1960年代後半のフラワー・ポップを収録。サザン・ロックの一角を担うマーシャル・タッカー・バンドのベスト盤全20曲。 | A面 1. 夢のカリフォルニア 2. 悲しみを幸せに 3. マンデー・マンデー 4. 夢の花園 セイフ・イン・マイ・ガーデン 5. 愛する君に 6. 踊ろよ朝まで 7. 踊る熊 ダンシング・ベア 8. ストレイト・シューター 9. トリップ・スタンブル・アンド・フォール 10. 青空を探せ B面 1. スモークスタック・ライトニン (MONO) 2. ドント・アスク・ミー・ホワット・アイ・セイ (MONO) 3. サック・オウ・オウ (MONO) 4. ホワット・ユー・ゴナ・ド (MONO) 5. アイム・ユア・フューチャー・クォーター・マン (MONO) 6. アイム・ユア・キングピン (MONO) 7. ダウン・ザ・ロード・アビーズ (MONO) 8. アイヴ・ガット・マイ・モジョ・ワーキング (MONO) 9. イッツ・ゴナ・ワーク・アウト・ファイン (MONO) 10. ミスター・アネロ (MONO) 11. アンタイ・ミー (MONO) 12. ... | |
| MANFRED MANN | (ペーパーズリブ仕様) ザ・ファイヴ・フェイス ズ・オブ・マンフレッド・マン |  | 1964 | ブリタニッシュポピュラー | CD | 日本 | 64年発表の1st。マンフレッド・マン(k, vo)、マイク・ハグ(dr, vib, vo)、マイク・ヴィッカーズ(g, fl, sax, vo)、ポール・ジョーンズ(vo, hca)、デイヴ・リッチモンド(b)の5人で結成されたマンフレッド・マンが、リッチモンドの脱退に伴いトム・マッキネス(b, g, vo)を加えて制作したデビュー作。アルバムは全英3位を記録しており、かなりのヒット作となった。内容はオリジナル6曲に加えてブルース/R&B系中心のカヴァーとなっており、同時期のビートルズやストーンズなどと酷似しているが、彼らの場合はよく言われるように演奏にジャズ色が加わっており、これが彼らの個性と言える。ただし本作ではほぼR&Bといった雰囲気であり、そういう意味ではまだ個性を完全に発揮しているとはいえないが、演奏面においては前述のビッグ・ネームを遥かに凌ぐ腕前とセンスを見せており、クオリティはすばらしい。このアルバムにはマイク・ヴィッカーズやマイク・ハグ、トム・マッキネスの自作曲も入っている。当時の新人バンドとしては異例とも言えるデビュー作から一年以上も間隔を開けての発表となったが、シングル・ヒットが多かったことと本作制作のために9ヶ月を要したことがその原因となったようだ。前作の洗練されたR&B路線に加えて管などを加えたジャズ風の曲や、ややポップ寄りのビート・ナンバーなどを組み合わせた内容だが、彼ららしいサウンドが感じられる。本作は、完成度は高い。録音も素晴らしい。 | A面 1. Since I Don't Have You 2. You're For Me 3. Look Away 4. The Abominable Snowman 5. Watch Your Step 6. Call It Stormy Monday 7. I Really Do Believe B面 1. Hi Lili, Ho Lo 2. The Way You Do The Things You Do 3. Bare Hugg 4. You Don't Know Me | |
| MANFRED MANN | マン・メイド |  | 1965 | ブリタニッシュポピュラー | レコード | UK | マンフレッド・マンのセカンドアルバム。R&B・ジャズ・ロックを消化した洗練された演奏が魅力。前作から1年ほど間隔を開けて発表されオリジナル・メンバーのポール・ジョーンズ(vo, har)が参加した最後の作品。前作はポール・ジョーンズ一人やポール・ジョーンズとマンフレッド・マンとの共作の自作曲しかなかったのにくらべ、このアルバムにはマイク・ヴィッカーズやマイク・ハグ、トム・マッキネスの自作曲も入っている。当時の新人バンドとしては異例とも言えるデビュー作から一年以上も間隔を開けての発表となったが、シングル・ヒットが多かったことと本作制作のために9ヶ月を要したことがその原因となったようだ。前作の洗練されたR&B路線に加えて管などを加えたジャズ風の曲や、ややポップ寄りのビート・ナンバーなどを組み合わせた内容だが、彼ららしいサウンドが感じられる。本作は、完成度は高い。録音も素晴らしい。 | 1. Since I Don't Have You 2. You're For Me 3. Look Away 4. The Abominable Snowman 5. Watch Your Step 6. Call It Stormy Monday 7. I Really Do Believe B面 1. Hi Lili, Ho Lo 2. The Way You Do The Things You Do 3. Bare Hugg 4. You Don't Know Me | |
| MANFRED MANN | マン・メイド |  | 1965 | ブリタニッシュポピュラー | CD | 日本 | | | |
| MANFRED MANN | (ペーパーズリブ仕様) マン・メイド・ヒッツ・プラス |  | 1966 | ブリタニッシュポピュラー | CD | 日本 | 66年発表の編纂盤。HMV/EMI時代のヒット曲を中心に編まれた編纂盤で、グループがフォンタナに移籍後に発表されている。アルバムの名義が、マンフレッド・マン・ウィズ・ポール・ジョーンズとなっているのはHMV/EMIに継続契約となっていたジョーンズを売り込む意図もあったのだろう。シングル曲の大半が編纂されている他、本作での初出の7、なども含み準オリジナル的な作品として扱うべき作品かと思う。13.には最初期のメンバー、デイヴ・リッチモンド(b)を含む編成の他、5. は実質3ヶ月ほどの参加だったジャック・ブルース(b)、ヘンリー・ロウザー(tp)、リン・ドブソン(sax)を加えた編成で録音(本格的なジャズ曲で聞き応えあり)されたものであり、こうした貴重な音源も収録されている。おそらくは誰もが聞いたことがあるであろう美しいメロディを聞かせる1. からして聞き応えがあり、かつアルバム収録曲とはまた違ったポップ性を持った曲を採ったシングル曲を | 1)ブリティ・フラミンゴ 2)ワン・イン・ザ・ミッドル 3)オー・ノー・ノット・マイ・ベイビー 4)ジョン・ハーディ 5)スピリット・フィール 6)カム・トゥモロウ 7)ドゥ・ワ・ディ・ディ・ディ 8)ゼア・ノー・リヴィング・ウィザウト・ユア・ラヴィング 9)ウイズ・ゴッド・オン・アワ・サイド 10)グルーヴィン 11)アイ・ガット・ユー・ベイブ 12)アイ・ガット・ユー・ベイブ 13)アイ・ガット・ユー・ベイブ 14)アイ・ガット・ユー・ベイブ 15)アイ・ガット・ユー・ベイブ 16)アイ・ガット・ユー・ベイブ 17)アイ・ガット・ユー・ベイブ 18)アイ・ガット・ユー・ベイブ 19)アイ・ガット・ユー・ベイブ 20)アイ・ガット・ユー・ベイブ | |
| MANFRED MANN | (ペーパーズリブ仕様) ソウル・オブ・マン |  | 1967 | ブリタニッシュポピュラー | CD | 日本 | 1967年にリリース。コンピレーションでありながら、後年、広く注目を集め、マンフレッド・マンの再評価のきっかけを作ったモッド・ジャズの名盤。1960年代を通じて、聴き手を選ばないポップなナンバーを次々にチャートに送り込んだマンフレッド・マンの本来の持ち味が集約された「裏ベスト」。メンバーのルーツであるジャズやR&Bをベースにしたスマートなインストゥルメンタル・ナンバーが大半を占める収録曲は、ヒット曲を聴いただけではわからないグループのもうひとつの魅力を示すところなく伝わる。 | 1)アイ・ガット・ユー・ベイブ 2)アイ・ガット・ユー・ベイブ 3)アイ・ガット・ユー・ベイブ 4)アイ・ガット・ユー・ベイブ 5)アイ・ガット・ユー・ベイブ 6)アイ・ガット・ユー・ベイブ 7)アイ・ガット・ユー・ベイブ 8)アイ・ガット・ユー・ベイブ 9)アイ・ガット・ユー・ベイブ 10)アイ・ガット・ユー・ベイブ 11)アイ・ガット・ユー・ベイブ 12)アイ・ガット・ユー・ベイブ 13)アイ・ガット・ユー・ベイブ 14)アイ・ガット・ユー・ベイブ 15)アイ・ガット・ユー・ベイブ 16)アイ・ガット・ユー・ベイブ 17)アイ・ガット・ユー・ベイブ 18)アイ・ガット・ユー・ベイブ 19)アイ・ガット・ユー・ベイブ 20)アイ・ガット・ユー・ベイブ | |
| MANFRED MANN | (ペーパーズリブ仕様) アズ・イズ |  | 1967 | ブリタニッシュポピュラー | CD | 日本 | 1966年発表の3rd。レコード会社をフォンタナに移籍し、リード・シンガーがマイク・ダボに変わって発表された作品。全12曲中10曲がメンバーのオリジナルで12. が移籍第一弾シングルとしても発表されたポップ・テイランの曲。9. はあまりにも有名なコテコテのジャズ・スタンダード。 1. は新加入のダボの曲だが、モンキーズを真っ黒にしたかのような佳曲でヒット性も高そう。2. はマッキネスの曲でストリングス(メロトロンか?)入りの牧歌的なバラード。3. はハグの曲。メロトロンをバックに使用したビート・ポップ風の曲。4. もダボの曲。マンドリンやハンド・クラップが導入されたこちらもビート・ポップ路線の曲だ。5. はハグ/マン/ドブソンの共作で印象的なギター・リフを聞かせるR&B路線の曲。アース・バンド時代のステージでも演奏されたグループのスタンダードの曲である。6. はハグの洗練されたサウンドで | 1)アイ・ガット・ユー・ベイブ 2)アイ・ガット・ユー・ベイブ 3)アイ・ガット・ユー・ベイブ 4)アイ・ガット・ユー・ベイブ 5)アイ・ガット・ユー・ベイブ 6)アイ・ガット・ユー・ベイブ 7)アイ・ガット・ユー・ベイブ 8)アイ・ガット・ユー・ベイブ 9)アイ・ガット・ユー・ベイブ 10)アイ・ガット・ユー・ベイブ 11)アイ・ガット・ユー・ベイブ 12)アイ・ガット・ユー・ベイブ 13)アイ・ガット・ユー・ベイブ 14)アイ・ガット・ユー・ベイブ 15)アイ・ガット・ユー・ベイブ 16)アイ・ガット・ユー・ベイブ 17)アイ・ガット・ユー・ベイブ 18)アイ・ガット・ユー・ベイブ 19)アイ・ガット・ユー・ベイブ 20)アイ・ガット・ユー・ベイブ | |

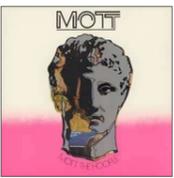
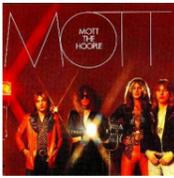
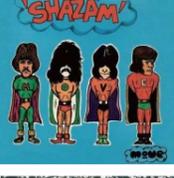
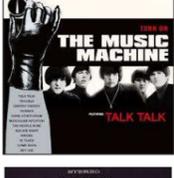
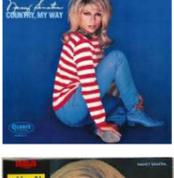
| | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---------------------------|---|------------|--------------|------|----|--|---|
| MANFRED MANN | アップ・ザ・ジャンクション |  | 1968 | ブリタニッシュビート | レコード | UK | 68年発表の5作目。同名映画のサウンドトラックとして発表された作品。メンバーの他、元メンバーのマイク・ウィッカーズら外部のミュージシャンも迎えて制作されている。全曲がマイク・ハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 タイトル曲の1. はどこことなくジョン・レノンのような雰囲気を持ったフォーク・ロックスタイルの曲で、サイケ/プログレ風味も加味した従来とは趣きの違う佳曲に仕上がっている。2. はマイクハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 1. はライブの歌声まで導入して乱気騒ぎ風に盛り上げる楽しい曲。軽快なピアノと共に彼らにしては珍しくハードなギターが登場する。2. はメロトロンとピアノをバックにしたサイケ・ポップ調の佳曲。かなり高速にメロトロンを弾き回すアレンジは、この楽器を特徴とするわけに非常に珍しい。3. はメンバーの1人、68年発表の編集盤『ソウル・オブ・マン』の続編的な内容を持ったインスト比重の高い編集盤。全10曲中4曲がヴォーカル・ナンバーである。前述のEPIには初期メンバーのデイヴ・リッチモンド(b)も参加したジャズ・インストものの作品であり、それを含めて大半がアルバム未収録の曲となっているので本作も準オリジナル・アルバム的な作品と言えると思う。一般にHMVから発表された編集盤『ソウル・オブ・マン』のフォンタナ仕様という位置付けだが、内容はまさにその通りでいわゆる単なる寄せ集めのものとは異なり選曲にもこだわりが感じられる。特にヴィブラホンを取り入れる曲が多いのも特徴で、その独特の音色を楽しむにも都合の良い作品かと思う。もちろん定番のオルガンやホンキー・トック調のピアノ、そして一部ではメロトロンなども登場し、お洒落なアレンジが施されている。 | A面 1. UP THE JUNCTION (VOCAL) 2. SING SONGS OF LOVE 3. WAKING ROUND 4. UP THE JUNCTION (INSTRUMENTAL) 5. LOVE THEME (INSTRUMENTAL) 6. UP THE JUNCTION (VOCAL & INSTRUMENTAL) B面 1. JUST FOR ME 2. LOVE THEME (INSTRUMENTAL) 3. SING SONGS OF LOVE 01. ハッピー・ファミリーズ (ウィズ・エディ・フィン・ガーズ・ガーヴィ) 02. ノー・ベター・ノー・ワース 03. エヴリ・デイ・アナザ・ヘア・ターンズ・グレイ 04. カントリー・ダンシング 05. イッツ・ソー・イージー・フォーリン 06. ハッピー・ファミリーズ (ウィズ・エド・ガーヴィ&ザ・トリオ) 07. ザ・マイティ・クイン 08. ビッグ・ベティ 09. ザ・ヴァカンス・ドクター 10. イッツ・ソー・イージー・フォーリン |
| MANFRED MANN | (ペーパーズリブ仕様) マイティ・ガーヴィ! |  | 1968 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 68年発表の4作目。絶妙なリズム・アレンジと盛り上がるヴォーカル・ナンバーが特徴。メロトロンが彩るポップでカラフルなアレンジが融合したグループのラストアルバム。大半の曲をハグとダボが手掛けており、主導権がこの2人に移っているようにも思えるが、楽曲のバラエティは前作より幅広く、そしてアレンジはより一層華やかになっており、初期のR&Bの王道を行っていた彼らからは想像も付かないサウンドに変化している。特にメロトロンの使用頻度が高まっており、そのサウンドが好きな人は特に好む。1. はライブの歌声まで導入して乱気騒ぎ風に盛り上げる楽しい曲。軽快なピアノと共に彼らにしては珍しくハードなギターが登場する。2. はメロトロンとピアノをバックにしたサイケ・ポップ調の佳曲。かなり高速にメロトロンを弾き回すアレンジは、この楽器を特徴とするわけに非常に珍しい。3. はメンバーの1人、68年発表の編集盤『ソウル・オブ・マン』の続編的な内容を持ったインスト比重の高い編集盤。全10曲中4曲がヴォーカル・ナンバーである。前述のEPIには初期メンバーのデイヴ・リッチモンド(b)も参加したジャズ・インストものの作品であり、それを含めて大半がアルバム未収録の曲となっているので本作も準オリジナル・アルバム的な作品と言えると思う。一般にHMVから発表された編集盤『ソウル・オブ・マン』のフォンタナ仕様という位置付けだが、内容はまさにその通りでいわゆる単なる寄せ集めのものとは異なり選曲にもこだわりが感じられる。特にヴィブラホンを取り入れる曲が多いのも特徴で、その独特の音色を楽しむにも都合の良い作品かと思う。もちろん定番のオルガンやホンキー・トック調のピアノ、そして一部ではメロトロンなども登場し、お洒落なアレンジが施されている。 | A面 1. Funniest Gig 2. Sunny 3. Get Away 4. With A Girl Like You 5. Sweet Pea B面 1. Wild Thing 2. Morning After The Party 3. Feeling So Good 4. One Way 5. So Long Good |
| MANFRED MANN | ホワット・ア・マン |  | 1968 | ブリタニッシュビート | レコード | UK | 68年発表の5作目。同名映画のサウンドトラックとして発表された作品。メンバーの他、元メンバーのマイク・ウィッカーズら外部のミュージシャンも迎えて制作されている。全曲がマイク・ハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 タイトル曲の1. はどこことなくジョン・レノンのような雰囲気を持ったフォーク・ロックスタイルの曲で、サイケ/プログレ風味も加味した従来とは趣きの違う佳曲に仕上がっている。2. はマイクハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 1. はライブの歌声まで導入して乱気騒ぎ風に盛り上げる楽しい曲。軽快なピアノと共に彼らにしては珍しくハードなギターが登場する。2. はメロトロンとピアノをバックにしたサイケ・ポップ調の佳曲。かなり高速にメロトロンを弾き回すアレンジは、この楽器を特徴とするわけに非常に珍しい。3. はメンバーの1人、68年発表の編集盤『ソウル・オブ・マン』の続編的な内容を持ったインスト比重の高い編集盤。全10曲中4曲がヴォーカル・ナンバーである。前述のEPIには初期メンバーのデイヴ・リッチモンド(b)も参加したジャズ・インストものの作品であり、それを含めて大半がアルバム未収録の曲となっているので本作も準オリジナル・アルバム的な作品と言えると思う。一般にHMVから発表された編集盤『ソウル・オブ・マン』のフォンタナ仕様という位置付けだが、内容はまさにその通りでいわゆる単なる寄せ集めのものとは異なり選曲にもこだわりが感じられる。特にヴィブラホンを取り入れる曲が多いのも特徴で、その独特の音色を楽しむにも都合の良い作品かと思う。もちろん定番のオルガンやホンキー・トック調のピアノ、そして一部ではメロトロンなども登場し、お洒落なアレンジが施されている。 | A面 1. Funniest Gig 2. Sunny 3. Get Away 4. With A Girl Like You 5. Sweet Pea B面 1. Wild Thing 2. Morning After The Party 3. Feeling So Good 4. One Way 5. So Long Good |
| MANFRED MANN | (ペーパーズリブ仕様) ホワット・ア・マン |  | 1968 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 68年発表の5作目。同名映画のサウンドトラックとして発表された作品。メンバーの他、元メンバーのマイク・ウィッカーズら外部のミュージシャンも迎えて制作されている。全曲がマイク・ハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 タイトル曲の1. はどこことなくジョン・レノンのような雰囲気を持ったフォーク・ロックスタイルの曲で、サイケ/プログレ風味も加味した従来とは趣きの違う佳曲に仕上がっている。2. はマイクハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 1. はライブの歌声まで導入して乱気騒ぎ風に盛り上げる楽しい曲。軽快なピアノと共に彼らにしては珍しくハードなギターが登場する。2. はメロトロンとピアノをバックにしたサイケ・ポップ調の佳曲。かなり高速にメロトロンを弾き回すアレンジは、この楽器を特徴とするわけに非常に珍しい。3. はメンバーの1人、68年発表の編集盤『ソウル・オブ・マン』の続編的な内容を持ったインスト比重の高い編集盤。全10曲中4曲がヴォーカル・ナンバーである。前述のEPIには初期メンバーのデイヴ・リッチモンド(b)も参加したジャズ・インストものの作品であり、それを含めて大半がアルバム未収録の曲となっているので本作も準オリジナル・アルバム的な作品と言えると思う。一般にHMVから発表された編集盤『ソウル・オブ・マン』のフォンタナ仕様という位置付けだが、内容はまさにその通りでいわゆる単なる寄せ集めのものとは異なり選曲にもこだわりが感じられる。特にヴィブラホンを取り入れる曲が多いのも特徴で、その独特の音色を楽しむにも都合の良い作品かと思う。もちろん定番のオルガンやホンキー・トック調のピアノ、そして一部ではメロトロンなども登場し、お洒落なアレンジが施されている。 | A面 1. Funniest Gig 2. Sunny 3. Get Away 4. With A Girl Like You 5. Sweet Pea B面 1. Wild Thing 2. Morning After The Party 3. Feeling So Good 4. One Way 5. So Long Good |
| MANFRED MANN | ベスト・オブ・マン レッド・マン |  | 1977 | ブリタニッシュビート | レコード | UK | マンフレッド・マンのベスト盤。 | Sha La La 2:30 5. 4. 3. 2. 11:57 With God On Our Side 4:22 If You Gotta Go, Go Now 2:32 Do Wah Diddy Diddy 2:22 Pretty Flamingo 2:34 The One In The Middle 2:38 Oh No, Not My Baby 2:20 John Hardy 2:05 Come Tomorrow 2:46 |
| MAPLEOAK | (ペーパーズリブ仕様) メイプルオーク |  | 1971 | フォークロック | CD | 日本 | ブルース・コバーンのいたフライング・サーカスなどトロントのバンドで活動していたメンバー3人が、キングスのピーター・クワイフの誘いで68年に渡英。結成早々クワイフが脱退してカナダ人トリオとなり唯一のアルバムとなる本盤をリリース。プリンスリー・シュワーツなどの初期バブ・ロック、あるいは同じカナダ出身のザ・バンドにも通じるルーツ・ロック・ナンバーなど、英国産フォーク・ロックの裏名盤的1枚。ブルース・コバーンのレアな楽曲も収録。 | 1. ギター・ピッカーズ 2. ナチュラル・ジョイ 3. ローズ 4. フリンギング・ミー・ウォーター 5. ダウン・タウン 6. トゥー・リットル・トゥ 7. フライング・サーカス 8. セイル・アウェイ 9. アイ・ドント・ノウ 10. オール・ジーズ・タイムズ 11. フランクリン・ストランド |
| MARC BENNO | (ペーパーズリブ仕様) 雑魚 |  | 1971 | ロック(スワンプロック) | CD | 日本 | 1971年リリース。スワンプ・ロックの名盤。デヴィッド・アンダーリのプロデュースで、ミュージシャンがこれ以上のメンバーは考えられないくらい素晴らしい。クラレンス・ホワイト、ジェシ・デイヴィス、ホビー・ウーマック、ジェリー・マギー、ジム・ケルトナー、ニック・デカロ、リタ・クーリッジ他豪華メンバーがサポート。R&B、ソウル、ゴスペル、カントリー、ブルース etcといった黒人音楽と白人音楽が融合して、南部風サウンドで仕上げた音楽。全体的に、とてもレイドバックした雰囲気、楽曲も安定しています。リラックスした状態で、いろんな音楽要素や味のある歌・演奏を堪能させてくれます。内容は、スロウな(1) "Franny" は、アコースティックギターのイントロを聴いた瞬間から、鼻の力がふたつほどはまき、気持ちいい。(2) "アコースティックギター" は、 | 1. フラニー 2. ラヴ・イン・マイ・ソウル 3. ストーン・コテージ 4. スピーク・ユア・マインド 5. パック・ダウン・ホーム 6. グッド・タイムズ 7. ベイビー・アイ・ラヴ・ユー 8. ベイビー・ライク・ユー 9. 涙も見せずに 10. ドント・レット・ザ・サン・ゴー・ダウン |
| MARIANNE FAITHFULL | ゴー・アウェイ・フロム・マイ・ワールド |  | 1965年5月18日 | ポップス | レコード | US | マリアンヌ・フェイスフル、65年の米国2作目「ゴー・アウェイ・フロム・マイ・ワールド」。 初期の彼女のアルバムは(他の多くのアーティストと同様ですが) 英米で異なる選曲でややこしいです。本作も同様で、英国リリースのようにフォーク路線とポップ路線がアルバムごとに分かれておらず混在しています。タイトル曲は本作でしか聴けない「カム・マイ・ウェイ」も別テイクが収められています。ポップ、フォーク、サイケと名曲、名演をずらりと並べた名盤です。 | Side A 1. Go Away From My World 2. Yesterday 3. Come My Way 4. Last Thing On My Mind 5. How Should True Love 6. Wild Mountain Time Side B 1. Summer Nights恋の一夜 2. Mary Ann 3. Scarborough Fair 4. Lullabye 5. North Country Maid 6. Sally Free And Easy |
| MARI WILSON | ショー・ピープル |  | 1983 | ポップス | レコード | 日本 | 80年代に一世を風靡したゴッド・オリガンゼーションの歌姫、マリ・ウィルソンの代表作。大ヒット曲「マリのピンクのラブソング」収録。トット・テラー主催のコンバクト・オリガンゼーションの看板アーティストでありデュラン・デュランやABC等と共に80年代のイギリスのミュージック・シーンを代表する歌姫、そしてトレイシー・ウルマンと並ぶ80' S ガールズ・ポップの2大巨頭。60' Sガールズ・ポップ風のメロディと80' S ティストなエレポップが融合したサウンドは、ビベツ好きな人にもおすすめ。Motownビートの込み上げヤング・ソウル「Beware Boyfriend」、ヤング・ガール・ソウルな「Wonderful To Be With」、Bacharachの「Are You There (With Another Girl)」カヴァー、ジュリー・ロンドンのカバー「Cry Me A River」、そして大ヒット曲の「Just What I Always Wanted」(「マリのピンクのラブソング」など収録の各アルバム「涙雲」)で、当時新入グループ「The Cretones」の曲を起用し大ヒットした。そのThe Cretonesとは、1979年結成の伝説的ニューウェイヴ・バンドで、その中心メンバー(全て彼が曲を作っていた)だったマーク・ゴールデンバーグ(g)がクリトーンズをへて、解散後はソングライター、プロデューサーとして活躍。これは彼のオリジナルファーストアルバム、サントリーロイヤルのCMのバックで流れていた音楽を制作していたのがこのギタリスト Mark Goldenberg. Jackson Brown のバックや加藤和彦のアルバムにも参加している、この作品は日本で制作されたキャリア初のソロ・インスト・アルバム。85年リリース。すべてのパートを一人でこなした多量録音作品。跳ねるような気持ちの良いグループと和なメロディのタイトルトラック「L'Homme A Valise」、地中海的な共感点「Blue Kiss」...。全曲に流れるような、柔らかなリズムを奏する。A面 | Side A 1. Wonderful To Be With 2. The End Of The Affair 3. One Day Is A Lifetime 4. Dr Love 5. Remember Me 6. Cry Me A River Side B 1. Just What I Always Wanted 2. This Time Tomorrow 3. Are You There (With Another Girl) 4. I May Be Wrong 5. Ecstasy 6. This Is It? |
| MARK GOLDENBERG 【The Cretones】 | 靴を持った男 |  | 1984 | ロック | レコード | 日本 | 1984年発表の2作目。同名映画のサウンドトラックとして発表された作品。メンバーの他、元メンバーのマイク・ウィッカーズら外部のミュージシャンも迎えて制作されている。全曲がマイク・ハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 タイトル曲の1. はどこことなくジョン・レノンのような雰囲気を持ったフォーク・ロックスタイルの曲で、サイケ/プログレ風味も加味した従来とは趣きの違う佳曲に仕上がっている。2. はマイクハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 1. はライブの歌声まで導入して乱気騒ぎ風に盛り上げる楽しい曲。軽快なピアノと共に彼らにしては珍しくハードなギターが登場する。2. はメロトロンとピアノをバックにしたサイケ・ポップ調の佳曲。かなり高速にメロトロンを弾き回すアレンジは、この楽器を特徴とするわけに非常に珍しい。3. はメンバーの1人、68年発表の編集盤『ソウル・オブ・マン』の続編的な内容を持ったインスト比重の高い編集盤。全10曲中4曲がヴォーカル・ナンバーである。前述のEPIには初期メンバーのデイヴ・リッチモンド(b)も参加したジャズ・インストものの作品であり、それを含めて大半がアルバム未収録の曲となっているので本作も準オリジナル・アルバム的な作品と言えると思う。一般にHMVから発表された編集盤『ソウル・オブ・マン』のフォンタナ仕様という位置付けだが、内容はまさにその通りでいわゆる単なる寄せ集めのものとは異なり選曲にもこだわりが感じられる。特にヴィブラホンを取り入れる曲が多いのも特徴で、その独特の音色を楽しむにも都合の良い作品かと思う。もちろん定番のオルガンやホンキー・トック調のピアノ、そして一部ではメロトロンなども登場し、お洒落なアレンジが施されている。 | Side B 1. 靴を持った男 2. 窓辺にて 3. 風にあわれ 4. 漂泊者 5. ブルー・キッス 6. マイ・ハート |
| MARSHALL CRENSHAW | サムデイ・サムウェイ |  | 1982 | ポップス | レコード | 日本 | デトロイト出身、パワー・ポップ屈指のシンガー・ソングライター、ギタリストとして海外では高い人気をキープし続けるマーシャル・クレンショウ。ヒット曲「サムデイ・サムウェイ」を収録した、発売当時40万枚を超えるヒットを記録したファースト・アルバム。(1982年作品)ビートルズおたくだけにこの曲もキャッチーなメロディにあふれている。ニック・ロウやデイヴ・エドモンズあたりのサウンドが好きの人にオススメ。アレンジは今よりも軽い。 | Side A 1. ゼア・シー・ゴーズ・アゲイン 2. サムデイ・サムウェイ 3. ガールズ 4. アイル・ドゥ・エニシング 5. ロッキン・アラウンド・イン・N.Y.C. 6. ザ・ニュー・ジュアール・シング |
| MARTHA & THE MUFFINS | トランス・アンド・ダンス |  | 1980 | ニューウェイヴ | レコード | 日本 | 70年代後半のカナダで派生した初期パンク/ニューウェイヴ・シーンに登場したグループ。女性2名と男性4名の6名編成によるマーサー&ザ・マフィンスが1980年にリリースした2ndアルバム。ニューウェイヴ的パンクッシュなイメージを維持しながらもTalking HeadsやTom Tom Clubからの大きな影響を感じさせる。 | Side A 1. Luna Park 3:11 2. Suburban Dream 3:27 3. Was Ezo 4:00 4. Teddy The Dink 3:27 5. Symptomatic Love 4:08 6. Primal Weekend 5:10 Side B 1. Halfway Through The Week 3:40 2. Am I On? 3:24 3. Motorbikin' 2:55 4. About Insomnia 3:10 5. Be Blase' 2:39 6. Trance And Dance 7:14 |
| MARVIN GAYE | マービン・ゲイ ライブ |  | 1974 | ソウル | レコード | US | 1974年作。'What's Going On'、'Let's Get It On' という2作のアルバムに成功によりハリウッドに乗っているMarvin Gayeのカリフォルニア州オークランドにて行われたライブ演奏を収録したアルバム。このアルバムのハイライトは何と言っても「Distant Lover」の名曲だと思う。ゆっくりと切なげに感情を溜めながら歌っていき、「Please」や「Come Back Baby」というフレーズ1つに全身全霊を込めたシャウトを響かせる。勿論の事彼のファンが黄色い声援が飛び交う。僕も男ながら、黄色い声援を送りたくなくならず、この歌の演出はうっとりしてしまう。また、「Introduction」から続く「Trouble Man」、「Inner City Blues」、「Distant Lover」までの流れのあるオーケストラも見事としか言い様がない。その他、「Let's Get It On」、「What's Going On」等の名曲も聴かせるお腹いっぱい感溢れるライブアルバム。 1. イントロダクション 2. オーバーチュア 3. トラブル・マン 4. フライング・ハイ・マーシー・マーシー・ミー 5. インナー・シティ・ブルース 6. 遠い恋人 | Side A 1. 悲しみのリーディー・リヴァー - Lord of the Reedy River - 2:37 2. 幸福はかけぬぐ - Happiness Runs - 2:03 3. 恋はとって甘いもの - Love Is the Sweetest Thing - 3:43 4. ブロイディン・グウィン - Y Blodyn Gwyn - 3:08 5. ハネムーン・ソング - The Honey Moon Song - 2:07 6. ハッピー・ソング - The Puppy Song - 2:42 Side B 1. ROCKABILLY REBEL 2. BUZZ BUZZ A DIDDLE IT 3. SEVENTEEN 4. TELL ME HOW 5. HURRICANE 6. EVERYBODY NEEDS A LITTLE LOVE 7. LITTLE LONELY GIRL |
| MARY HOPKIN | ポスト・カード |  | 1969年 | ポップス | レコード | US | 1969年発表の2作目。同名映画のサウンドトラックとして発表された作品。メンバーの他、元メンバーのマイク・ウィッカーズら外部のミュージシャンも迎えて制作されている。全曲がマイク・ハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 タイトル曲の1. はどこことなくジョン・レノンのような雰囲気を持ったフォーク・ロックスタイルの曲で、サイケ/プログレ風味も加味した従来とは趣きの違う佳曲に仕上がっている。2. はマイクハグの楽曲で全13曲中6(5)曲がヴォーカル入りで他はインスト。共にソフト・ロックの雰囲気は濃厚でこれは新境地とも言える。インストはサウンドらしくテーマ曲のバリエーションもあるが、どれも弦やブラス、コーラスなどを駆使した聞き応えのあるものばかりである。ヴォーカル曲はかなり突飛な展開を見せるものもあるが、違和感はなくかなり計算された曲作りがされていると思う。 1. はライブの歌声まで導入して乱気騒ぎ風に盛り上げる楽しい曲。軽快なピアノと共に彼らにしては珍しくハードなギターが登場する。2. はメロトロンとピアノをバックにしたサイケ・ポップ調の佳曲。かなり高速にメロトロンを弾き回すアレンジは、この楽器を特徴とするわけに非常に珍しい。3. はメンバーの1人、68年発表の編集盤『ソウル・オブ・マン』の続編的な内容を持ったインスト比重の高い編集盤。全10曲中4曲がヴォーカル・ナンバーである。前述のEPIには初期メンバーのデイヴ・リッチモンド(b)も参加したジャズ・インストものの作品であり、それを含めて大半がアルバム未収録の曲となっているので本作も準オリジナル・アルバム的な作品と言えると思う。一般にHMVから発表された編集盤『ソウル・オブ・マン』のフォンタナ仕様という位置付けだが、内容はまさにその通りでいわゆる単なる寄せ集めのものとは異なり選曲にもこだわりが感じられる。特にヴィブラホンを取り入れる曲が多いのも特徴で、その独特の音色を楽しむにも都合の良い作品かと思う。もちろん定番のオルガンやホンキー・トック調のピアノ、そして一部ではメロトロンなども登場し、お洒落なアレンジが施されている。 | Side A 1. 悲しみのリーディー・リヴァー - Lord of the Reedy River - 2:37 2. 木の葉の子守歌 - Lullaby of the Leaves - 2:33 3. ヤング・ラヴ - Young Love - 2:11 4. Those Were the Days (US盤のみこちらの曲) 5. アヴィニヨンの王子様 - Prince En Avignon - 3:08 6. ザ・ゲーム - The Game - 2:40 7. ショーほどすきな商売はない - There's No Business Like Show Business - 4:03 Side B 1. 恋は月をめぐして - Voyage of the Moon - 5:52 2. 木の葉の子守歌 - Lullaby of the Leaves - 2:33 3. ヤング・ラヴ - Young Love - 2:11 4. Those Were the Days (US盤のみこちらの曲) 5. アヴィニヨンの王子様 - Prince En Avignon - 3:08 6. ザ・ゲーム - The Game - 2:40 7. ショーほどすきな商売はない - There's No Business Like Show Business - 4:03 |
| MATCHBOX | リトル・ロンリー・ガール |  | 1979年 | ロカビリー | レコード | 日本 | '80年代にネオロカビリーが流行った頃、ストレイ・キャッツと並んで日本でも取り上げられたイギリスのマッチボックスのファーストアルバム。日本ではセクショナルアルバムが先行してファーストアルバムとしてリリースされた。サントリー缶ビール(CM)にも採用されたシングル「リトル・ロンリー・ガール」で、この曲を追加収録し、アルバムのタイトルも変更されたが、オリジナルタイトルは、バンド名そのままの「マッチボックス」。ジャケットはイギリス盤のオリジナルと同じでアメリカ盤はジャケットが違う。フレディ・キャンロンやバディ・ホリーのカバーもあり、バラエティに富んだ選曲となっている。 | Side A 1. ROCKABILLY REBEL 2. BUZZ BUZZ A DIDDLE IT 3. SEVENTEEN 4. TELL ME HOW 5. HURRICANE 6. EVERYBODY NEEDS A LITTLE LOVE 7. LITTLE LONELY GIRL Side B 1. ROCKIN' AT THE RITZ 2. HI-FLY WOMAN 3. LOVE IS GOING OUT OF FASHION 4. TELL ME HOW 5. POOR BOY 6. LORRD MR FORD 7. BLACK SLACKS |

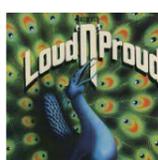
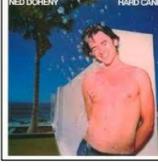
| | | | | | | | | |
|--------------------|-----------------------|---|-------|---------------|------|------|---|---|
| MATT BIANCO | |  | 1984 | ニューウェーブ | レコード | フランス | ジャズ・ロック・ラテンをミックスしたサウンドで人気となった、マットビアンコのファーストアルバム | |
| MC5 | キック・アウト・ザ・ジャムズ |  | 1969年 | ロック | CD | 日本 | 69年作、MC5のデビュー作であり、デロイド・ロッキング・ジーンズの開拓者としてのステイタスを確立し、ロック史においても重要な1枚となった大傑作です。彼等の凄まじいライブを収録したもので、アメリカン・ハードの象徴として語られる事が多い1枚ですが、英米の以降のロックのお手本的内容は、パンク、オルタナへの影響も大きかったと思います。ダムドやブルー・オイスター・カルト、レイジ・アゲインスト・マシーン、プライマル・スクリーム等が彼等のナンバーをカバーしている事からも、彼等が偉大な存在であったのがわかります。派手な衣装と「マザー・ファッカー」を連呼する過激なパフォーマンス、ソウルフルかつついでなサウンドは、ロックの最も楽しい部分を表現していたと思われすが、それ故にバンドは短命だったのかもしれない。これは1970年にリリースされたMC5のセカンド・アルバム。問題となった、有名な4文字言葉事件でロック界に衝撃を与えた彼らは、それが元でエレクトラ・レコードとの関係が悪化し、アトランティックに移籍した。パンク、パブロック等のファンには1stよりこちらの方がアピールするだろう。すっきりした音像の大変聴きやすいロックンロールアルバム。政治的主張は後退し、それっぽい歌詞があるのは8のみ。この曲がもっとも出来が良い(個人的には思う)。4は妙にたそがれたスローナンバー、7はキスを連想させるハードロック、9ではアコースティックギター使用(ボーカルはソニック)と意外に曲が多彩。10「人間芝刈り機」は1stに収録されていると違和感の無いようなカオティックなハードロックで、対訳を読んでもなんのこっちゃさっぱりわからない歌詞が面白 | 1ランプリング・ローズ 2キック・アウト・ザ・ジャムズ 3カム・トゥゲザー 4ロケット・リデューサー No.62 5ボ・ダーライン 6モーター・シティ 7アイ・ウオント・ユー 8スターシップ |
| MC5 | バック・イン・ザ・USA |  | 1970 | ロック | CD | 日本 | 1970年にリリースされたMC5のセカンド・アルバム。問題となった、有名な4文字言葉事件でロック界に衝撃を与えた彼らは、それが元でエレクトラ・レコードとの関係が悪化し、アトランティックに移籍した。パンク、パブロック等のファンには1stよりこちらの方がアピールするだろう。すっきりした音像の大変聴きやすいロックンロールアルバム。政治的主張は後退し、それっぽい歌詞があるのは8のみ。この曲がもっとも出来が良い(個人的には思う)。4は妙にたそがれたスローナンバー、7はキスを連想させるハードロック、9ではアコースティックギター使用(ボーカルはソニック)と意外に曲が多彩。10「人間芝刈り機」は1stに収録されていると違和感の無いようなカオティックなハードロックで、対訳を読んでもなんのこっちゃさっぱりわからない歌詞が面白 | 1. トゥディ・フルティ 2. トゥナイト 3. ティーンエイジ・ラスト 4. レット・ミー・トライ 5. ルッキング・アット・ユー 6. ハイ・スクール 7. コール・ミー・アニマル 8. ザ・アメリカン・ローズ 9. シェイクン・ストリート 10. ザ・ヒューマン・ビーイング・ローンモウアー 11. バック・イン・ザ・USA |
| McDONALD AND GILES | マクドナルド・アンド・ジャイルズ |  | 1970 | プログレ | レコード | 日本 | 1971年にイギリスのジョン・マクドナルドとマイケル・ジャイルズによってリリース。1970年5月から7月にかけてアイルランド・スタジオでレコーディングされた。もともとキング・クリムゾンのオリジナルメンバーであり、『クリムゾン・キングの宮殿』(1969年)に参加した。2人とも1969年の最初のアメリカ・ツアーの終わりにバンドを脱退。キング・クリムゾンのファンの間では人気があり続けていたが、一般層に広がることはなく商業的成功は得られなかった。また、このデュオがセカンド・アルバムをレコーディングすることはなかった。マクドナルド・アンド・ジャイルズの音楽には、キング・クリムゾンの持つ牧歌的であり、音楽的に複雑な要素が多く含まれていたが、バンドが持っていた暗い雰囲気の方性は避けられた。「アイビスの飛行」は、キング・クリムゾンの「ケイデンスとカスケイド」と似たメロディやリズムを持っているものの、歌詞は異なっている。1993年発表作。1977年にデビュー作でヒット作「Bat Out of Hell」地獄のロック・ライダー 全米14位、全英9位)の続編として15年ぶりに制作された本作は、これまた大ヒットを記録し、全米1位を獲得。また、シングルカットされた「愛にすべてを捧ぐ (I'd Do Anything For Love (But I Won't Do That))」も全米シングルチャート1位を記録し、1993年のグラミー賞を受賞した。その間は、目立ったヒットがなかった事実を考えれば、やはり本作の意味は大きい。総じて出来の良い楽曲は、JIM STEINMANの、そして、ヴォーカリストとして素晴らしいパフォーマンスを見た。MEAT LOAF自身の能力が見事に合致し、それをバックで支える参加ミュージシャンの仕事も確で、完成度を極限まで押し上げられた傑作だ。ロックの本質という形容は、まさにこの人達の音楽の為にあってと言っても過言で | SIDE A 1. 緋鳥ハ長調 (SUITE IN G) 2. アイビスの飛行 (FLIGHT OF THE IBIS) 3. イズ・シー・ウエイティング 4. 明日への旅動 (TOMORROW'S PEOPLE) SIDE B 1. バードマン |
| MEAT LOAF | 地獄のロックライダー II ~地獄への帰還 |  | 1993 | ロック | CD | 日本 | 1993年発表作。1977年にデビュー作でヒット作「Bat Out of Hell」地獄のロック・ライダー 全米14位、全英9位)の続編として15年ぶりに制作された本作は、これまた大ヒットを記録し、全米1位を獲得。また、シングルカットされた「愛にすべてを捧ぐ (I'd Do Anything For Love (But I Won't Do That))」も全米シングルチャート1位を記録し、1993年のグラミー賞を受賞した。その間は、目立ったヒットがなかった事実を考えれば、やはり本作の意味は大きい。総じて出来の良い楽曲は、JIM STEINMANの、そして、ヴォーカリストとして素晴らしいパフォーマンスを見た。MEAT LOAF自身の能力が見事に合致し、それをバックで支える参加ミュージシャンの仕事も確で、完成度を極限まで押し上げられた傑作だ。ロックの本質という形容は、まさにこの人達の音楽の為にあってと言っても過言で | 1. 愛にすべてを捧ぐ - "I'd Do Anything for Love - 11:59 2. ひどい人生だ、金返せ! - "Life Is a Lemon and I Want My Money Back" - 7:58 3. ロックンロール・ドリームス - "Rock and Roll Dreams Come Through" - 5:49 4. もう誰にも止められない - "It Just Won't Quit" - 7:19 5. 焼け焦げたフライパンの中から (そして炎の中へ) - "Out of the Frying Pan - 7:21 6. バック・ミラーに映るオブジェクト達 - "Objects in the Mirror, Like You, Move Ahead of Glass" - 7:21 |
| METEORS | 隕金術師 |  | | ニューウェーブ | レコード | UK | |  |
| METEORS | 隕金術師 |  | | ニューウェーブ | レコード | UK | | |
| MEMBERS | チェルシー・ナイトクラブ |  | | ニューウェーブ | レコード | 日本 | | |
| MEMBERS | われわれの時代 |  | | ニューウェーブ | レコード | UK | | |
| MEMBERS | われわれの時代 |  | | ニューウェーブ | レコード | 日本 | | |
| MEN AT WORK | ワーク・ソング |  | 1982 | ニューウェーブ | レコード | 日本 | 1982年作品。オーストラリア出身のロック・グループ メンアットワークのデビューアルバム。いきなり「ノックは夜中に」「ダウン・アンダー」が全米1位になりまさに突然のブレイクとなり、この優れたシングル・ヒットで一躍脚光を浴びた。リーダー、コリン・ヘイのユーモア溢れるセンスとどこかポリスを思わせる音作り、そのニュー・ウェイヴ感覚であったという間にロックの第1線に躍り出た。グループのポリシーである「誰が聴いても楽しめる」というまじまじに見本のような作品だ。15週間全米チャート第1位。1982年・第25回グラミー賞新人賞。 | |
| MEN AT WORK | ワーク・ソング |  | 1982 | ニューウェーブ | レコード | 日本 | オーストラリア出身のロック・グループのデビュー・アルバム。「ノックは夜中に」「ダウン・アンダー」の二つの優れたシングル・ヒットで一躍脚光を浴びた。リーダー、コリン・ヘイのユーモア溢れるセンスとどこかポリスを思わせる音作り、そのニュー・ウェイヴ感覚であったという間にロックの第1線に躍り出た。グループのポリシーである「誰が聴いても楽しめる」というまじまじに見本のような作品だ。アメリカンロックのシンプルな骨太さと、ブリティッシュロックの影が同居したオーソドックスなサウンド。この頃シンの隆盛でファットになりがちだったシーンに一石を投じてバンドの原点を思い出させてくれた一枚です。印象的なメロディーに哀愁のサックスとボーカルの声質。やはりヒットの要素は備えてるなーと改めて納得してしまいます。15週間全米チャート第1位と売れに売れたアルバム | Side A 1. ノックは夜中に 2. イン・ユア・アイズ 3. ダウン・アンダー 4. アンダーグラウンド 5. オートマトン Side B 1. 言葉あそび 2. ビー・グッド・ジョニー 3. タッチング・ザ・アンタッチャブル 4. キャッチ・ア・スター |
| MERTON PARKAS | |  | 1979 | ニューウェーブ | レコード | UK | | |
| METALLICA | キル・エム・オール 血染めの鉄槌 |  | 1983 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | フランス | 83年作。メタリカのデビュー・アルバム。スラッシュ夜明け前の確かな勢いが感じられる。良く言われる様に、NWOBHMの影響が色濃いアルバムですが、スピードと攻撃的なリフは今聴いても新鮮。故クリフ・バートのグイグイ引っ張るベースに、この頃からメロディアスな展開を見せるギターが絡みつき、初々しさも感じられる。ジェームズのヴォーカルは今となっては新鮮です。この荒々しさもスピード、そして愛想のかけらも無い冷酷さに、ただただ打ちのめされる。化粧とキラキラしたサウンドがメタルの新しい波となっていた時代、一体どれだけの人がメタリカの進化を想像し得たのでしょうか。 | 1. ヒット・ザ・ライツ 2. ザ・フォー・ホースメン 3. モータープレス 4. ジャンプ・イン・ザ・ファイア 5. (アネシージャ)ブリン・ティース 6. ウィップラッシュ 7. ファントム・ロード 8. ノー・リモース 9. シーク・アンド・デストロイ 10. メタル・ミリティア |
| METALLICA | ロード |  | 1996 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | US | メタリカにとって初の全米No.1アルバムとなった「Metallica」から5年、通産6作目となった96年のアルバムです。髪をバツサリ切った彼等のヴィジュアルと、グランジ、オルタナと同列に語られるサウンドに、スラッシュの終焉を見た気がした人も少なくないと思います。あのカッコいいロゴまで変化し、特徴的だったダークな叙情性も捨て、メタリカがこれらどこへ向かうのか、この時点では戸惑う事しかできずに予想すらできなかった人も多かったのではないのでしょうか。メタルそのものの固定観念にずっと縛られてきた結果、形骸化したシーンはグランジの流れに乗る事こそがトレンドだと思われていた時代、メタリカは泥臭ささえ感じるアメリカン・ハードに真正面から取り組んだのでした。メタルに進化はしない、むしろ真逆とする80年代までの考え方に、頂点に立った | 1. エイント・マイ・ピッチ 2. 2x4 3. ザ・ハウス・ジャック・ビルト 4. アンティル・イット・スリープス 5. キング・ナッシング 6. ヒーロー・オブ・ザ・デイ 7. フリー・ディング・ミー 8. キュア 9. プア・トゥイステッド・ミー 10. ウェイステイキング・マイ・ヘイト 11. ママ・セッド |

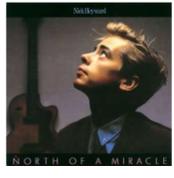
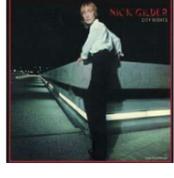
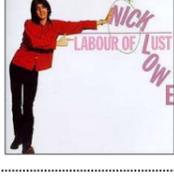
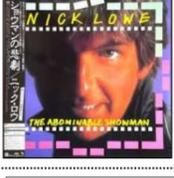
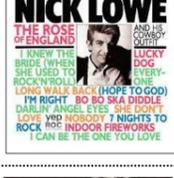
| | | | | | | | | | |
|------------------------|-----------------------------------|---|-------------|------|------|----|---|---|---|
| MICHAEL JACKSON | オフ・ザ・ウォール |  | 1979年 | ポップス | レコード | 日本 | プロデューサーに初めてウィンジー・ジョーンズを迎えて制作された3部作の第1弾となるソロ作品。それまでのマイケルのソロ・アルバムは、制作サイドが主導して作られたもので、マイケルは用意された曲を歌うだけだったが、本作ではウィンジーが主導権を持っていたものの、マイケルの自作曲やアイデアも随所に入られ、ロッド・テンパートン、ポール・マッカートニー、スティーヴィー・ワンダーなどの豪華作家陣からの楽曲提供、バックの演奏もウィンジーの息のかかった一流ミュージシャンを起用するなど、アルバムのクオリティがそれまでと比べて格段に上がっており、このアルバムから真の意味でのマイケルのソロ活動が始まったと言って良く、『オフ・ザ・ウォール』こそ、マイケルの本当の意味でのファースト・アルバム」と言う人もいる。1枚のアルバムから4枚の全米TOP10シングルを送り込んだ異例を初めて。アルバムは、全米3位で、1位獲得こそならなかった。 | Side A 1. 今夜はドント・ストップ 2. ロック・ウィズ・ユー 3. ワーキン・デイ・アンド・ナイト 4. ゲット・オン・ザ・フロア | Side B 1. オフ・ザ・ウォール 2. ガールフレンド 3. あの娘が消えた 4. アイ・キャン'tヘルプ・イット 5. それが悪だから 6. ディスコで燃えて |
| MICHAEL JACKSON | スリラー |  | 1982年11月30日 | ポップス | レコード | 日本 | 前作『オフ・ザ・ウォール』に引き続き、最良のパートナーと言われるウィンジー・ジョーンズがプロデューサーを担当した超メガヒットアルバム。全9曲中、8曲がシングルカット(シングル7枚)され、いずれも大ヒットを記録した。小粋で軽快なスタート曲(1)で始まり、シンプルな佳曲(2)を挟み、ポール・マッカートニーとの三角関係ソング(3)でのんびりゆったりしたかと思えば、必殺の(4)<5>(6)<7>の目玉曲連発攻撃、そして軽くファンキーな(8)で一段落、必殺のバラード(9)で締める、という全体の流れも見事。 | Side A 1. スタート・サムシング 2. ベイビー・ビー・マン 3. ガール・イズ・マイン(With ポール・マッカートニー) 4. スリラー | Side B 1. 今夜はビート・イット 2. ビリー・ジーン 3. ヒューマン・ネイチャー 4. P.Y.T. (Pretty Young Thing) 5. レディ・イン・マイ・ライフ |
| MICHAEL JACKSON | ヒストリー バスト、プレゼント・アンド・フューチャーブック1 |  | 1995年6月20日 | ポップス | CD | US | 1枚目はベスト盤、2枚目はオリジナル盤の2枚組アルバム。全米、全英共に1位を獲得。「今夜はドント・ストップ」「スリラー」などのクラシックを収録のベスト盤に加え、ティティ・ラヴィー、R・ケリー、ジャム&ルイス、ダラス・オースティンら大御所プロデューサーを何人も起用、性的虐待疑惑の渦中にあった「ポップ王」が渾身の力とエッジな怒りを込めて作り上げた新作の2枚組。 | ディスク: 1 1. ビリー・ジーン 2. ザ・ウェイ・ユー・メイク・ミー・フィール 3. ブラック・オア・ホワイト 4. ロック・ウィズ・ユー 5. あの娘が消えた 6. BAD 7. キャント・ストップ・ラヴィング・ユー 8. マン・イン・ザ・ミラー 9. スリラー 10. 今夜はビート・イット | ディスク: 2 1. スクリーム 2. ゼイ・ドント・ケア・アバウト・アス 3. ストレンジャー・イン・モスクワ 4. ディス・タイム・アラウンド 5. アース・ソング 6. S. 7. マネー 8. カム・トゥゲザー 9. ユー・アー・ナット・アローン 10. チャイルドフード(テーマ・フロム"フリー・ウィリー") |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 神(帰ってきたフライング・アロウ) |  | 1980 | | レコード | 日本 | 80年作。押し寄せるNWOBHMブームの中、まさに満を持してリリースされたMSG第一強アルバム。UFOのライヴ・アルバム、そしてSCORPIONSの「LOVEDRIVE」のゲスト参加を最後にシーンから遠ざかっていたマイケル・シェンカーが、自らビューティフル・ロックと呼ぶ美旋律と共に蘇り、ハード・ロックの大きな転換期にも貢献した1枚。 メンバーは当時マイケルとゲイリー・バーデンのプロジェクト・バンド的なセッション・スタイルではあったものの、サイモン・フィリップス、ドン・エイリー、モ・フォスターという強者に支えられ、全曲捨て曲が全く無い完成度を誇っています。「クライ・フォー・ザ・ネーション」のイントロ、「イントゥ・ジ・アリーナ」の高揚感、そして「ビジュア・プレジレント」の美しさは素晴らしい出来栄。 そして無名の新人、ゲイリー・バーデンの貢献度はもっとも高評価がされている。 | ディスク: 1 1. アームド・アンド・レディ 2. クライ・フォー・ザ・ネーション 3. ヴィクティム・オブ・イリュージョン 4. ビジュア・プレジレント 5. フィールズ・ライク・ア・グッド・シング | ディスク: 2 1. イントゥ・ジ・アリーナ 2. ルッキング・アウト・フロム・ノー・ホエア 3. テイルズ・オブ・ミステリー 4. ロスト・ホライズンズ |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 神(帰ってきたフライング・アロウ) |  | 1980 | | レコード | US | | | |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 神(帰ってきたフライング・アロウ) |  | 1980 | | CD | 日本 | | | |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 神話 |  | 1981 | | レコード | US | 81年作。マイケル・シェンカー・グループのセカンド・アルバムであり、MSGというバンド名表記も定着する事となる大名盤です。 何と言ってもコージー・パウエルの参加が大きな話題になり、神、マイケル・シェンカーの完全復活、そしてあの静と動のコントラストが織り成す美しいメロディが冴え渡っています。 メロディ・メイカーとしてのマイケルは、本作でそのピークを迎えたと言っても過言ではないと思います。 インパクトという意味では前作には敵わないのですが、粒揃いとなった全曲の充実ぶりという点で、トータルでの完成度は、本作に分があるでしょう。 バンド・サウンドも、前作とは比較にならない程度固まっているのも見事で、やはりコミッションが絡み込んだ緊張感、ダイナミズムは、マイケルの先代作品よりも高 | Side A 1. レディ・トゥ・ロック 2. アタック・オブ・ザ・マッド・アクスマン 3. オン・アンド・オン 4. スリーピング・ドッグス | Side B 1. アイ・ウオント・モア 2. ネヴァー・トラスト・ア・ストレンジャー 3. ルッキング・フォー・ラヴ 4. セカンダリー・モーション |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 神話 |  | 1981 | | レコード | 日本 | | Side A 1. レディ・トゥ・ロック 2. アタック・オブ・ザ・マッド・アクスマン 3. オン・アンド・オン 4. スリーピング・ドッグス | Side B 1. アイ・ウオント・モア 2. ネヴァー・トラスト・ア・ストレンジャー 3. ルッキング・フォー・ラヴ 4. セカンダリー・モーション |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 黙示録 |  | 1982 | | レコード | 日本 | 82年作。MSGとして3作目となったアルバムで、マイケル・シェンカーの提唱するビューティフル・ロックとしてのメロディの輝きが極まった傑作です。 コージー・パウエルは案の定脱退し、新たにテッド・マッケンナが加入、そしてそのコージーに誘われる様にして参加したのが、スーパー・ヴォーカリスト、グラハム・ボネットでした。 レインボーでもそうでしたが、この人が関わる作品に駄作はありません。シングルとなったミドル・ポップ・ナンバー、「ダンサー」が浮いてしまう程、美しく激しいハード・ロックが奏でられています。 | Side A 1. アソート・アタック 2. ロック・ユア・トゥ・ザ・グラウンド 3. ダンサー 4. サムライ | Side B 1. デザート・ソング 2. 砕かれた誓い 3. サーチング・フォー・ア・リーズン 4. アルサー 5. ガール・フロム・アップタウン |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 限りなき戦い |  | 1982 | | レコード | 日本 | 83年作。マイケル・シェンカー・グループの4作目。MSGの黄金時代の終焉ともなった1枚。 マイケルの個人的問題、レコード会社との問題、更に度重なるメンバー交代により、バンドの状態は決して良好とは言えない中、久々に優れたジャケットが印象的となっています。 デザイン担当はあまり知られていませんが、あのストーンズのペロマークを考案したジョン・パッシュ。コンセプト自体はどうもマイケル自身によるものらしく、フライングVをペンツに叩きつけているのも恐らく自身なのでしょうが、鬼気迫る表情がかなり怖いです。 エアロスミスでお馴染みのジャック・ダグラスがリミックス、ゲイリー・バーデンの得意リリクス作、MSGにとどめて初のライヴ盤、マイケルが加入した事により、ロック、プレイにも際立った頃のライヴだけに、聴き応え十分。ヴォーカリストのゲイリー・バーデンの弱さが良く指摘されたが、この人の個性はなかなか味わい深く、特に歌メロを書いていたセンスはもっと評価がされている。 更にコージーのバワフルなドラミングも、やはり語らざるにはいられないものを持っています。 | Side A 1. ロック・マイ・ナイツ・アウェイ 2. メイク・ユー・マイン 3. 戦争の犬たち 4. システム・スフィリング 5. キャプテン・ネモ | Side B 1. 魔性の女 2. レッド・スカイ 3. タイム・ウエイツ 4. ウォーク・ザ・ステージ |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 飛翔伝説 MSG武道館ライヴ |  | 1981 | | レコード | 日本 | 81年作。MSGにとどめて初のライヴ盤、マイケルが加入した事により、ロック、プレイにも際立った頃のライヴだけに、聴き応え十分。ヴォーカリストのゲイリー・バーデンの弱さが良く指摘されたが、この人の個性はなかなか味わい深く、特に歌メロを書いていたセンスはもっと評価がされている。 更にコージーのバワフルなドラミングも、やはり語らざるにはいられないものを持っています。 | Side 1 1. アームド・アンド・レディ[6:24] 2. クライ・フォー・ザ・ネーション[5:43] 3. アタック・オブ・ザ・マッド・アクスマン[4:55] | Side 2 1. アイ・ウオント・モア[7:20] 2. ヴィクティム・オブ・イリュージョン[6:15] 3. イントゥ・ジ・アリーナ[4:48] |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | 飛翔伝説 MSG武道館ライヴ |  | 1981 | | CD | 日本 | 本作が初CD化されたのは86年、当時の収録時間の関係からアナログ盤からは2曲がカットされていましたが、本作から13曲がフル収録される事になりました。カットされていたのは、「BUT I WANT MORE」、「LET SLEEPING DOGS LIE」の2曲、スタジオ盤「神話」では中盤を締めるものとなっていたが、ライヴでは両曲とも7分を超える重要曲で、それぞれタイトなコージーのドラマがかなり印象的なものとなります。またかなりバワフルに生まれ変わった「CRY FOR THE NATION」、ドラマティックなビューティフル・ロックの醍醐味を感じさせる「LOST HORIZONS」、そして伝家の宝刀「DOCTOR DOCTOR」と、この時期のラインナップならではのダイナミズムを堪能できる1枚。 | Side 3 1. オン・アンド・オン[5:54] 2. ネヴァー・トラスト・ア・ストレンジャー[5:15] 3. スリーピング・ドッグス[5:35] | |
| MICHAEL SCHENKER GROUP | ストーリー・オブ・マイケル・シェンカー |  | 1994 | | CD | 日本 | UFO、スコピオンズ〜マイケル・シェンカー・グループからMSGまでの各活動期からの楽曲(代表曲)を集めたコンピレーション盤。 | 1. Doctor, Doctor4:10 2. Natural Thing3:59 3. Lights Out4:33 4. Coast To Coast4:10 5. Love Drive4:48 6. Armed And Ready4:42 7. Into The Arena4:13 8. Ready To Rock3:32 9. Desert Song5:51 10. Gimme Your Love4:48 11. Time3:59 12. Antenna6:42 | |
| MICHAEL SCHENKER | 英雄伝説 マイケル・シェンカー・アンソロジー |  | 1983年 | | レコード | 日本 | 1983年にマイケル・シェンカーを特集した2枚組。1枚目はUFOにマイケルが在籍していた楽曲、2枚目にはMSG時代の楽曲が収録。2枚目のMSG時代の曲は第3期(ASSAULT ATTACK)までのもの。「GIRL FROM UPTOWN」は「DANCER」のB面ということもありアルバムに入っていない曲で、このレコードに収録されているだけだった。後に、1991年「英雄伝説」のCDがリリースされるが、レコードでは全20曲だがCDでは28曲に拡大されたが「GIRL FROM UPTOWN」は収録されていないため、幻の曲で唯一このレコード盤でしか聴けない物である。 | Side ONE ①DOCTOR DOCTOR ②ROCK BOTTOM ③LET IT ROLL ④SHOOT SHOOT ⑤OUT IN THE STREET | Side THREE ①ARMED AND REDDY ②CRY FOR THE NATIONS ③INTO THE ARENA ④LOOKING FOR LOVE ⑤ON AND ON |
| MCAULEY SCHENKER GROUP | パーフェクト・タイミン |  | 1987年 | | レコード | 日本 | ロビン・マクマウケルと組んでの第1作で、初めてこの作中で、明確なセクシーなイメージを聴かせ、より大衆にアピールしようとする姿勢が窺えます。ロビンのクセ(味?)のあるヴォーカルと、元LIONHEART組の貢献、そして、プロデューサーのケヴィン・ピーミッシュ(Y&T等手がける)のセンスなどが、独特の「明るく切り切らないハード・ポップ」をつくり出しています。一見陳腐なポップ・ソングに聴こえるシングル・カット曲「LOVE IS NOT A GAME」でさえ、噛むほどに味わいが深まる佳曲に仕上がっています。「マクマウ・シェンカー・グループ」全般に言えることですが、マイケルに対する固定観念(=「負」エネルギー・放射射)とこの乖離がある一方、作品のクオリティは高いものがあり、評価が割れます。セカンド・ギタリストとして、テクニシャンとして知る人ぞ知る、あのミッチ・ベリー(元HEAVEN等)が正式クレジット。(インナーのグループ・ショットにもしっかり写っています。)"GET OUT"のイントロなどでリードを取っているようですが、あまり目立ってはいませ | Side TWO ①NATURAL THING ②TOO HOT TO HANDLE ③LOVE TO LOVE ④ONLY YOU CAN ROCK ME ⑤LIGHTS OUT | Side FOUR ①DOCTOR DOCTOR ②COURVOISIER CONCERTO ③ARE YOU READY TO ROCK ④GIRL FROM UPTOWN ⑤DANCER |
| MCAULEY SCHENKER GROUP | パーフェクト・タイミン | | 1987年 | | レコード | 日本 | | Side A 1. キミー・ユア・ラヴ 2. 夢の彼方へ 3. ドント・ストップ・ミー・ナウ 4. ノー・タイム・フォー・ルーザーズ 5. フォロー・ザ・ナイト | Side B 1. ゲット・アウト 2. ラヴ・イズ・ノット・ア・ゲーム 3. タイム 4. アイ・ドント・ウォナ・ルーズ 5. ロック・ティル・ユー・アー・クレイジー |

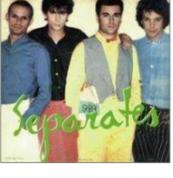
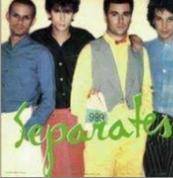
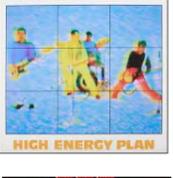
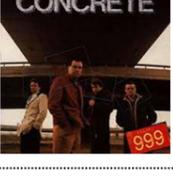
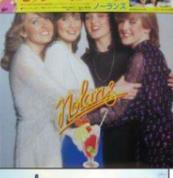
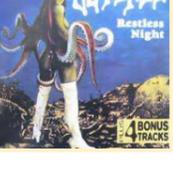
| | | | | | | | | | |
|------------------|---|---|------|---------|------|-------|---|--|--|
| MICHEL POLNAREFF | シェリーにロづけ〜ベスト・オブ・ミッシェル・ポルナレフ |  | 2000 | ポップス | CD | 日本 | 1966年のデビュー・シングル「ノンノン人形」はフランスで大ヒットを記録し、彼のフーク・ロック的なサウンドは海外でも評価。1969年に軽快なロック・ナンバー「シェリーにロづけ」を発表し、1970年代を代表するフレンチ・ポップスのアイドルとしての地位を確立。 | 「シェリーにロづけ」 ステキなランデヴー 3愛の願い 4君と愛がすべて 5ノン・ノン人形 6バラ色の心 7フランス家の舞踏会 8偉大な道徳観 9悲しきマリ 10ギリシャにいるジョルジナへ 11ロミオとジュリエットのように 12無情の嵐 | |
| MIKE OLDFIELD | チューブラー・ベルズ |  | 1973 | プログレ | レコード | UK | ロック・モダン・ミュージック史に残る名盤となったマイク・オルドフィールドのデビュー・アルバム。73年作、そのジャケット・アートと共にロック史の中で燦然と輝く名盤であるマイク・オルドフィールドのソロ・デビュー作です。映画「エクソシスト」でその序章を使用した事で特に有名ですが、本作の全貌は言葉で語り尽くせない壮大な世界観を描いています。ヴァージン第1弾アーティストとして扱われ、カンタベリー、プログレの枠にも収まりきれないサウンドは、今聴いても鳥肌もの圧倒的な美しさを誇っています。ケヴィン・エアーズのバンド、ザ・ホール・ワールドのベースとして活動していた彼は、僅か19歳の時に本作を完成させている事にまず驚かされます。28種類の楽器を一人で操り、2000回以上のオーバー・ダビング、約9ヶ月の制作期間という、当時としては恐るべき才能と執念が詰め込まれていたわけでは、アポロロケットを20数 | SIDE A 1. Tubular Bells Part 1 SIDE B 1. Tubular Bells Part 2 | |
| MISSION | 青い審判 |  | 1986 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | | | |
| MODERN ROMANCE | ロマンティックな冒険者 |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1982年発表のデビュー・アルバム。80年代初頭にニューウェイブから派生したニュー・ロマティックからファンカラティナー・ブームが起きた。ファンカラティナーといってもバンドによりアプローチの手法は多彩でしたが、このバンドはまさしくファンカラティナーと聞いて想像する音そのものだと思います。サルサへのアプローチがクローズ・アップされ過ぎるバンドで、ヒット曲「アイ・アイ・アイ・アイ・ムシ」などは、カリブソノソカなのに、当時は盛んにサルサと称され、彼らのサウンド自体がサルサという新たなジャンルとしてカテゴライズされてしまう、というサルサ・ファンがあきれ返る現象も一部のメディアでは起こっていました。それ程、インパクトの強い彼らのシーンへの登場だったと言う事でしょうが、確かに、未だにパーティ・サウンドとしては素晴らしい出来だと思えます。その中で、またとなく際立った、ポップ・ソングを演奏していたのがこのモダン・ロ | Side A 1. プリンク・オン・ザ・ファンカティアーズ 2. おしゃべりクイン 3. レッツ・ゴー・サルサ 4. ムーズ・オン・ザ・ルーズ 5. サルサ・ラブソフィー Side B 1. 今夜はアイ・ヤイ・ヤイ! 2. ウィーヴ・ウィット・ゼム・ランニング 3. サルサに夢中 4. アイ・キアント・ゲット・イナフ | |
| MODERN ROMANCE | ロマンティックな冒険者 |  | 1981 | ニューウェイブ | CD | 日本 | | | |
| MODERN ROMANCE | |  | 1983 | ニューウェイブ | レコード | UK | モダン・ロマンスのサードアルバム。「High Life」(全英8位)、「Don't Stop That Crazy Rhythm」(全英14位)、バラード曲の「Walking in the Rain」(全英7位)のヒット曲が入ったアルバムで、アルバムとしても過去最高に売れたアルバム。 | SIDE-A 1 HIGH LIFE 2 DON'T STOP THAT CRAZY RHYTHM 3 BEST YEAR OF OUR LIVES 4 GOOD FEELINGS 5 WALKING IN THE RAIN SIDE-B 1 LET'S GO 2 CHERRY PINK AND APPLE BLOSSOM 3 WHITE 4 AFTER ALL THIS TIME 5 SHE'S SO SINFUL | |
| MONKEES | 恋の終列車 |  | 1966 | ポップス | レコード | 日本 | 1966年作品。テレビ番組「ザ・モンキー・ショウ」で人気を爆発したモンキーズの衝撃のデビュー・アルバム。日本でもヒットした「モンキーズのテーマ」をはじめ、全米ナンバーワン・ヒット「恋の終列車」、美しいバラード「自由になりたい」など、モンキーズの魅力が爆発した内容となっている。アルバム・チャートで全米ナンバーワンを記録した。 | | |
| MONKEES | グレイテスト・ヒッツ20 |  | 1994 | ポップス | CD | ポルトガル | モンキーズがシングル盤で発売したA面を中心に選曲したベスト盤。 | 1(Theme From) The Monkees2:19 2Last Train To Clarksville2:43 3I'm A Believer2:45 4I'm Not Your) Steppin' Stone2:21 5A Little Bit Me, A Little Bit You2:47 6The Girl I Knew Somewhere2:42 7Pleasant Valley Sunday3:13 8Words2:54 9Daydream Believer3:07 10Valleri2:20 11Tapioca Tundra3:04 12Don't Make It Happen2:48 | |
| MONOCHROME SET | |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | UK | | | |
| MONOCHROME SET | |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | UK | | | |
| MONTROSE | ハード★ショック |  | 1973 | ハードロック | レコード | US | ギタリスト、ロニー・モンテローズを中心に結成。他のメンバーはサミー・メイガー(ボーカル)、ビル・チャーチ(ベース)、デニー・カーマッシュ(ドラムス)。アメリカ初のヘヴィメタル・アルバムと言われた、モンテローズのセルフ・タイトルの1stアルバム。当時は、国内盤の発売が2ndアルバム『Paper Money』が先になり、後からこの1st がリリールされた。プロデューサーにはテッド・テンブルマン(後のヴァンヘイレンの1stアルバムのプロデューサー)という事で、当時かなり注目を浴びた。当時はまだ無名に等しかった、サミー・メイガーのハイトーン・ヴォーカルと、ロニー・モンテローズのギブソン・レスポールの太く歪んだドライブの効いたサウンドが新鮮で、そこに、パワフルで重いバスタードを効かせたドラミングが加わり、正にキャッチコピーである「レッド・ゼッペリンに対するアメリカからの回答」が相対的に目立つ名盤。 | | |
| MOODY BLUES | (ペーパーズリブ仕様) デイズ・オブ・フューチャー チャー・バスト |  | 1967 | プログレ | CD | 日本 | 1967年1月に発売されたThe Moody Bluesのセカンド・アルバム。本作は、プログレッシヴ・ロックを誕生させた1枚として高く評価されており、発売からなんと5年後にUSチャートで1位に輝いた名盤。1曲目は、「サテンの夜」のプレズを、ピーター・ナイトがアレンジし、詩の朗読を加えた感じ。6曲目までは、ピーター・ナイトのオーケストラアレンジが19世紀のクラシック的、ジャズの世界では、例えばシナトラがネルソン・リドル・オーケストラをバックに歌っているのと違いが無いように思える。最後の「サテンの夜」は、メロロン主体でオーケストラは殆ど入っていない。この曲の路線でトータルに製作していたら、2年後に発売された「In The Court Of The Crimson King」の先駆けになっていたに違いないという点が惜しい！ピーター・ナイトに頼らずに、グループだけで制作していたら、二期的だった、オーケストラとロックの共演は、上回る5位と好成績だが、全米では前回は下回り23位となる。邦題は「失われたコードを求めて」。このバンドほど特異・奇妙な音楽性を築いた存在はそうざらにはいないだろう。アイデアでは前作もいいが、どうしても骨格だけ先行してしまっ、肉付けに物足りなさを感じてしまうが、本作から格段に脂が乗り始めて、後に『夢幻』『童夢』等の名作を筆頭とした創造力溢れる数々の作品を生み出す原動力となったのが本作だろう。ここから快進撃が始まった。 | サイドA 1. 一日が始まる "The Day Begins" (ナイト、エッジ作) ビンダー・ボーカル) 5:50 2. 夜明け・夜明けの空 "Dawn: Dawn Is a Feeling" (ビンダー作) ヘイワード、ビンダー・ボーカル) 3:48 3. 朝・アナーザー・モーニング "The Morning: Another Morning" (トーマス作) トーマス・ボーカル) 3:55 4. ランチ・ブレイク・ピーク・アフ "Lunch Break: Peak Hour" (ロッジ作) ロッジ・ボーカル) 5:33 レコードはここからサイドB 1. 出発 "Departure" (Graeme Edge) - 0:44 2. ライド・マイ・シーソー "Ride My See-Saw" (John Lodge) - 3:38 3. ドクター・リヴィングストン "Dr. Livingstone, I Presume" (Ray Thomas) - 2:58 4. 4枚の扉の家(パート1) "House of Four Doors" (J. Lodge) - 4:12 5. ティモシー・リアリー "Legend of a Mind" (R. Thomas) - 6:36 6. 4枚の扉の家(パート2) "House of Four Doors (Part 2)" (J. Lodge) - 1:47 7. 善悪に振りまわれない "Living in the Sun, Living in the Moon" (Justin Hayward) - 5:44 ハウ・イズ・イット "How Is It (We Are Here)" (Mike Pinder) - 2:45 そして波が打ち寄せ "And the Tide Rushes In" (Ray Thomas) - 2:55 ドント・ユー・フィール・スモール "Don't You Feel Small" (Graeme Edge) - 2:38 かめどうさぎ "Tortoise and the Hare" (John Lodge) - 3:19 イッツ・アップ・トゥ・ユー "It's Up to You" (J. Hayward) - 3:11 除夜の鐘 "Mintzels Song" (J. Lodge) - 4:27 | |
| MOODY BLUES | (ペーパーズリブ仕様) 失われたコードを求めて |  | 1968 | プログレ | CD | 日本 | | | |
| MOODY BLUES | (ペーパーズリブ仕様) クエスチョン・オブ・バランス |  | 1970 | プログレ | CD | 日本 | 1970年1月に発表された3作目のスタジオ・アルバム。イギリス1位。アメリカ3位。このアルバムは、クラシックとの融合、コンセプト・アルバムから離れて、もう少し制約のない中で音楽を作ろうとしたのではないかと想像しています。原点に戻って音楽作りをやってみよう、という感じでしょうか。イエスやEL&Pでもそういう方向性をもった作品があります。コンセプト作品を作り続け、多重録音でアルバム制作をするバンドは、バンドとしてのアイデンティティーを確認する必要があると思うのです。この時がそういう時だったのでしょうか。これも想像ですが。そういう面でも、この前後のアルバムと異なるのですが、サウンドとしてはやっぱりムーディー・ブルースといいますが、メロトン、メランコリック・マンで使われたシンセサイザーなど当時のエレクトリック・サウンドの理解者であり先駆者の高田早苗という感じが、また、また。 | | |
| MOTELS | ようこそモートルズへ |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1979年リリース。「Only the Lonely」と「Suddenly Last Summer」2曲の全米トップ10ヒットで知られるアメリカのバンド。紅一点のリード・ボーカルのマーサ・デビス率いるモートルズのファーストアルバム。セールス的には不調に終わったが、ニュー・ウェイブ・バンドのバイオニアとしてのスタイルを既に確立している。人気曲「03.Total Control」、「07.Celia」、「09.Dressing Up」、「10.Counting」を収録。 | Side A 1.Anticipating 2.Kix 3.Total Control 4.Love Don't Help 5.Closets And Bullets Side B 6.Atomic Cafe 7.Celia 8.Porn Reggae 9.Dressing Up 10.Counting | |

| | | | | | | | | | |
|-----------------|----------------|---|-------------|---------|------|----|--|--|--|
| MOTELS | L.A.から来た女 |  | 1982 | ニューウェイブ | レコード | US | モータールのサードアルバム。シングル曲「03.Only The Lonely」が大ヒットとなり、アルバムはBillboardで最高位9位を記録することとなる。セクシーな魅力を持つヴォーカルのマーサ・デイヴィスの人気も高まり、知名度は一気に全国区となった。トップ10ヒット「孤独な人だけ」とフォローアップヒット「ティク・ザ・L」を収録。全米16位。 | Side A 1.Mission Of Mercy 2.Take The L 3.Only The Lonely 4.Art Fails 5.Change My Mind | Side B 6.So L.A. 7.Tragic Surf 8.Apocalypso 9.He Hit Me (And It Felt Like A Kiss) 10.Forever Mine |
| Motley Crue | 華麗なる激情 |  | 1981年11月10日 | ニューウェイブ | レコード | US | 82年作。モトリー・クルーのデビュー・アルバムであり、LAメタルの夜明けとなった記念すべき1枚。当時NWOBHMがイギリスで盛り上がる中、アメリカでも大きな動きが始まろうとしていました。エアロスミスに更なる派手に、キッスの様な衣装とグラマラスなメイクを施したこの4人組はその中心にいたわけですが。その退廃的なルックスとは裏腹に、パワー・ポップとしての魅力を兼ね備えていたのも新鮮でした。低迷していたチープ・トリックの穴埋めをする様なサウンドと、メタリックなエッジが程よくブレンドされ、更にヴィンスの独特の音が彼等の個性を唯一無比のものとしました。ただモトリー本人達は作品毎に微妙なシフト・チェンジをするという、これもまた独自路線を突き進んでいったため、本作での甘酸っぱい雰囲気は漂う荒々しさは、今もどこか新鮮に響くのではないのでしょうか。 | Side A 1. ライヴ・ワイヤー 2. カム・オン・アンド・ダンス 3. パブリック・エネミー#1 4. メリー・ゴー・ラウンド 5. テイク・ミー・トゥ・ザ・トップ | Side B 1. ビース・オブ・ユア・アクション 2. スターライ・アイズ 3. トゥー・ファースト・フォー・ラヴ 4. オン・フィズ・ザ・ショウ 5. トゥースト・オブ・ザ・タウン 6. トゥナイト |
| Motley Crue | 華麗なる激情 |  | 1981年11月10日 | ニューウェイブ | CD | 日本 | | | |
| Motley Crue | シャウト・アット・ザ・デビル |  | 1983年9月26日 | ニューウェイブ | レコード | US | 83年作。モトリー・クルーのセカンド・アルバム。前作がグラム・メタルと言われたのは、その過剰なヴィジュアルとは裏腹に、ポップなメロディを残していたからだと思いますが、本作では完全にメタリックなサウンドに徹底しています。ファッションはジュダス・プリースト、キッス等から受け継ぎ、ソリッドなリフとスピード感に包まれたサウンドは、モトリーのキャリアの中でも最もメタリックなサウンドとされています。以降彼等は80年代メタル、そしてLAメタルの象徴となっていきます。微妙な路線変更をしていながらも、確実に時代に合っていたバランス感覚をここで習得していたのかもしれない。質感はあくまでもメタルそのものでしたが、キャッチーなメロディ・センスはさすがで、歌メロはかなりポップであったのも見逃せません。今聴いても胸がときめく妖しいメタル・ナンバーが揃った好盤です。 | Side A 1. イン・ザ・ベギニング 2. シャウト・アット・ザ・デビル 3. ルックス・ザット・キル 4. パスタード 5. 聖なる野獣 6. ヘルター・スケルター | Side B 1. レッド・ホット 2. 恋をするには若すぎる 3. ノックン・デッド・キッド 4. テン・セコンズ・トゥ・ラブ 5. デンジヤー |
| Motley Crue | シャウト・アット・ザ・デビル |  | 1983年9月26日 | ニューウェイブ | CD | 日本 | | | |
| Motley Crue | シアター・オブ・ペイン |  | 1985年6月21日 | ニューウェイブ | レコード | US | 85年作のサード・アルバム。彼等の最も派手でグラマラスな時期を家畜している大傑作であり、RAITに代わりLAメタルの代名詞的な存在になった瞬間でもあったと思われ。本作発表前に報じられたヴィンス・ニールの事故により、ハノーイ・ロックのラズルが死亡、衝撃的であったこの悲劇はLAメタル・ブームの喧騒に影を落とすものとなりましたが、バンドのイメージはますますポップ、キラキラしたものになっていきます。スキヤンダラスかつキャッチーな存在として、MTVでその毒牙を振り撒く彼等の姿は、同時代のメタル・バンドの中では一際輝くものとなったのでした。ブラウンズウィル・ステーションのカヴァー、「Smokin' In The Boys Room」もずっばりものとなり、パワー・バラードの代名詞となった「Home Sweet Home」と共に、彼等の代表曲となる程ヒットしました。サウンドの微細な調整が、1987年のアルバム『ドクター・フィールグッド』によるグラム・ロック化へとつながります。エアロスミス、スライム・フィッシュ、ザ・フレイム、ザ・グレイム、前作でエアロスミスのグループを導入、グラマラスなヴィジュアルを強化した事により、日本ではLAメタル、本国ではヘヴィ・メタルと呼ばれた80年代メタルの一過性のブームの頂点に立った彼等が、ここでも微妙なシフト・チェンジをしています。「監獄ロック」のカヴァーに見られるロックン・ロール色の強化と、更なるエアロスミスの憧憬がサウンドに如実に反映されています。更にヴィジュアルはワイルドに変貌、プロデュースはチープ・トリックとの仕事で有名なトム・ワーマンに任せています。かつてハード・ポップ化したわけではなく、グラム・メタルからバンド・ボーイズ・ロックへと見事な転身しますが、多くのフォロワーが彼等に追随する事となります。その当人達はそんな80年代バンドを尻目に、この路線も本作のみで終った。あゝ、Scream to Me, You're All I Need.の出世の出来も惜業。 | Side A 1. シティ・ボーイ・ブルース 2. スモーク・イン・ザ・ボーイズ・ルーム 3. ラウダー・ザン・ヘル 4. キープ・ユア・アイ 5. ホーム・スウィート・ホーム | Side B 1. トゥナイト 2. ユーズ・イット・オア・ルーズ・イット 3. サムシン・フォー・ナッシン 4:41 4. レイズ・ユア・ハンズ 5. ファイト・フォー・ユア・ライツ |
| Motley Crue | ガールズ、ガールズ、ガールズ |  | 1987年5月15日 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 地味なロック・サウンドが、エアロスミス、スライム・フィッシュ、ザ・フレイム、ザ・グレイム、前作でエアロスミスのグループを導入、グラマラスなヴィジュアルを強化した事により、日本ではLAメタル、本国ではヘヴィ・メタルと呼ばれた80年代メタルの一過性のブームの頂点に立った彼等が、ここでも微妙なシフト・チェンジをしています。「監獄ロック」のカヴァーに見られるロックン・ロール色の強化と、更なるエアロスミスの憧憬がサウンドに如実に反映されています。更にヴィジュアルはワイルドに変貌、プロデュースはチープ・トリックとの仕事で有名なトム・ワーマンに任せています。かつてハード・ポップ化したわけではなく、グラム・メタルからバンド・ボーイズ・ロックへと見事な転身しますが、多くのフォロワーが彼等に追随する事となります。その当人達はそんな80年代バンドを尻目に、この路線も本作のみで終った。あゝ、Scream to Me, You're All I Need.の出世の出来も惜業。 | Side A 1. ワイルド・サイド 4:40 2. ガールズ、ガールズ、ガールズ 4:30 3. ダンシング・オン・グラス 4:18 4. バッド・ボーイ・ブギー 3:27 5. ノーナ 1:27 | Side B 1. ファイヴ・イヤーズ・デッド 3:50 2. オール・イン・ザ・ネーム・オブ 3:39 3. サムシン・フォー・ナッシン 4:41 4. オール・アイ・ニード 4:33 5. 監獄ロック - Jailhouse Rock (LIVE) 4:39 |
| Motley Crue | ドクター・フィールグッド |  | 1989年9月1日 | ニューウェイブ | レコード | US | モトリー・クルーが1989年にリリースした5枚目のアルバム。全米アルバムチャート第1位。プロデューサーにポップ・ロックを迎えて制作。パーティー・ロックの要素はふんだんに残しつつも、「タイム・フォー・チェンジ」に代表されるような、心機一転のポジティブなメッセージがちらり見られる。結果的に全米1位を獲得し、バンドにとって最大のヒット作となった。シングルカットされた「ドクター・フィールグッド(全米6位)」「キックス・スタート・マイ・ハート(全米27位)」「ウィズアウト・ユー(全米8位)」「セム・オール・シチュエーション(全米78位)」「ドント・ゴー・アウェイ・マッド(全米19位)」もヒット。現在までにアメリカだけで700万枚以上のセールスを記録。 | Side A 1. T.N.T. 2. ドクター・フィールグッド 3. スライス・オブ・ユア・パイ 4. ラトルス・ネイク・シェイク 5. キックス・スタート・マイ・ハート 6. ウィズアウト・ユー | Side B 1. セム・オール・シチュエーション 2. スティック・キックス・スウィート 3. シー・ゴーズ・ダウ 4. ドント・ゴー・アウェイ・マッド 5. タイム・フォー・チェンジ |
| MOTOR HEAD | ボマー |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1979年発表のサードアルバム。前作「オーヴァーキル」からわずか半年でリリースされたという、バンドの創造力が最初のピークに達した名盤3rdアルバム。一聴するとモーターヘッドにしては、地味な印象を受けるアルバム。ミッド・テンポ(モーターヘッドにしては)の曲が多いせいで、そう感じるのだが、そのおかげでエディ・クラークのブルース・フィーリング溢れる、ギター・ワークを堪能することが出来る(⑧等にはもろにブルース・ナンバー。ヴォーカルはエディが取っている)。勿論、暴走ナンバーもキッチリ収められていて、今でもライブの定番曲であり永遠の名曲のB面5曲目「ボマー」を筆頭に、①⑥等の好曲も収録されているので、ジックリ聴いて欲しい。 | Side A 1. テッド・メン・テル・ノー・テイルズ 2. ロウマン 3. スウィート・リヴンジ 4. シャープシューター 5. ボイズ | Side B 1. ストーン・デッド・フォー・エヴァー 2. オール・ジ・エーセス 3. ステップ・ダウン 4. トーキング・ヘッド 5. ボマー |
| MOTOR HEAD | エース・オブ・スペース |  | 1980年 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | オリジナルは80年作の4枚目。モーターヘッドの中期を代表するアルバムです。レミー、エディ・ファスト・クラーク、フィル・アニマル・テイラーの黄金トリオ時代の傑作で、ジャケットに映る三人のカッコ良さは、それまでの象徴的なイラスト・デザインよりもインパクトがあったと思います。NWOBHM・ブームの中で彼等の評価もますます上がり、メタル、パンクの両ファンから支持されるという、独自の立ち位置を確立したのも本作が大きなきっかけとなっています。スピード、爆音、そして意外にもキャッチーな歌メロが今聴いてもワクワクします。 | Side A 1. エース・オブ・スペース 2. 愛の挑発 Love Me Like A Reptile 3. 背後を狙え Shoot You In The Back 4. リヴ・トゥ・ウィン 5. ファースト・アンド・ルース 6. ザ・ロード・クルー | Side B 1. ファイアー・ファイアー 2. ジェイル・ベイト 3. ダンス 4. バイト・ザ・パレット 5. 死の追跡 The Chase Is Better Than The Catch 6. 凶器のハンマー |
| MOTORS | 暴動野郎 |  | | ニューウェイブ | レコード | 日本 | モーターズのファーストアルバム。 | | |
| MOTORS | 電動ロッカー |  | | ニューウェイブ | レコード | 日本 | | | |
| MOTORS | |  | | ニューウェイブ | レコード | US | | | |
| MOTT THE HOOPLE | モット・ザ・フール |  | 1969 | グラムロック | レコード | US | 4. Backsliding Fearlessly は、ロックの殿堂に入れてもいい名曲です。アコースティック・ギター、ピアノ、ハモンドを重ねた重厚なアンサンブルに、ハンターの「滅びの美学」に身を込める曲です。5. Rock And Roll Queen になると、ミック・ラルフスのファズ・ギターが主役になります。ラルフスは上手いギタリストと言われ、色気がない人ですけど、ダウンストロークのリフ、といひ拙いソロと言われ、色気がある。 | | |
| MOTT THE HOOPLE | すべての若き野郎ども |  | 1972 | グラムロック | CD | 日本 | 1972年に発表。モット・ザ・フールの通算5作目のアルバム。先行シングル「すべての若き野郎ども」と同様、デヴィッド・ボウイがプロデュースを担当した。前作以前のフールが、ミック・ラルフスのギターを前面に押し出した比較的オーソドックスなハードロックをやったグループだったのに対し、あからさまにグラムロックへと路線変更した作品として広く知られる作品にもなっています。デヴィッド・ボウイによるプロデュース、そして楽曲提供、そのつながりからルー・リードからも楽曲を貰い受け、作曲スタイルもインスト中心から歌中心へと大きく変化しています。ラルフスのギターは派手なギターソロが控えめとなり、ハンターのVもエディ・ラングラー・リード、ニール・ヤング系のトーキング・スタイルを多用するものへと変わってきています。何れも、ボウイ・プロデュースがあったればこそその賜物であったことは、驚くまでもありません。 | 1. スウィート・ジェーン 2. ママのかわいい宝物 3. すべての若き野郎ども 4. サッカー 5. ジャーキン・クロカス 6. 新しい若者たち 7. フット・グラウンド 8. ディー・フォー・ラブ/アフター・ライト 9. 潜水夫 | |

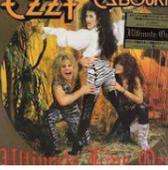
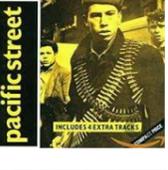
| | | | | | | | | |
|-----------------|----------------------|---|------------|---------------|------|----|---|--|
| MOTT THE HOOPLE | 革命 |  | 1973 | グラムロック | レコード | UK | 荒削りな音だが空室7位、空室35位と前作以上の飛躍的な成績を取った。前作『野郎ども』でのアルバム・コンセプトの立て方や、その冴えたサウンド・プロデュースから求心力がなくなった分だけドラマ性や演劇的な視覚性が後退。しかしそのことで場末のふきだまり的な原点を、音自体で感じさせるのも事実。イアン・ハントの歌うバラード(7)は相変わらず素晴らしいが、このアルバムはモットとしては爆発仕切れていない印象がある。 「Hymn for the Dudes(野郎どもの讃歌)」前作「Dude」≠キーワードを配したバラード。屈指の名曲。 「Honaloogie Boogie(ホナルーチ・ブギ)」アンディ・マッケイのサクスをフィーチャーしたヒット曲。(全英12位) | |
| MOTT THE HOOPLE | 革命 |  | 1973 | グラムロック | レコード | US | 73年作。モット・サウンドの通算5作目にして彼等最大のヒット作となったアルバム。 前作の「すべての若き野郎ども」の成功により、それまでライブ・バンドとして定評が高かったものの、まだまだ認知度の低かった彼等が一気にグラム・ロックの象徴的バンドとして大ブレイクしたが、本作ではその最大の功労者と言えるデヴィッド・ボウイと袂を分かち、バンドのセルフ・プロデュースとなっています。リリース直前にバンドの要でもあったミック・ラルフスが脱退、ご存知の様にポール・ロジャースと合体し、BAD COMPANY結成に走る事になり、一抹の不安を残す中、見事全英チャートのトップ10入り、アメリカでもトップ40入りをする大ヒットとなりました。 | |
| MOTT THE HOOPLE | ロックン・ロール黄金時代 |  | 1974 | グラムロック | レコード | 日本 | 多くのレコード会社で知られる「モット・ザ・ホープル」の通算5作目にして、1974年発表の最終作。前作発表後にミック・ラルフスが脱退。すべての若き野郎ども以降モットはイアン・ハンター色が強くなっていったが、前作発表後にミック・ラルフスが脱退。いよいよ「イアン・ハンターとそのバックバンド」の色彩を強める。ラルフス脱退は痛かった筈だが、ハンターのソングライティングは絶対調、捨て曲なしの統一感ある仕上がりのアルバムとなった。前作「革命」より「グラム度」は高い。「ロックン・ロール黄金時代」、「土曜日の誘惑」はこれぞグラム、といったポップなナンバー。「野郎どもの襲撃」(凄じ邦題)は信頼と実績のモット節といった感じだ。新加入のアリエル・ペンダーのソロが冴える「あの娘はイカしたキャディラック」は、オヴァレンド・ワッツの単独作で、ボーカルも彼自身のもの。ハンターの声の方が似合う曲だと思うが、ライブでのハンターの休憩のため | |
| MOUNTAIN | 悪の華 |  | 1971 | アメリカンハードロック | レコード | US | 1. はずしりりと重いギターを中心にしたハード・ロックだが、どこか西海岸の爽やかさを感じさせるブレイク/メロディを聞かしている。いわゆる大らかなアメリカン・ロックといった印象も受けるのだが、演奏/アレンジには彼ら特有のヒネリのようなものもあり聞き応えがある。何にしてもヒット性の高い佳曲である。2. はピアノを中心に、ミッドウェイ・ソングの小品。3. はハードロックの志向が強く出た曲 | A面 1. Flowers Of Evil 2. King's Chorale 3. One Last Cold Kiss 4. Crossroad 5. Pride And Passion B面(ライブ) 1. Dream Sequence Roll Over Beethoven Dreams Of Milk And Honey Variations From The Album |
| MOUNTAIN | 暗黒への挑戦 |  | | アメリカンハードロック | レコード | 日本 | 1972年作品。1969年から1971年までいくつかの場所で録音されたものではあるが、単なる寄せ集めライブ盤ではなく、収録された全曲このアルバムのために選曲されたような一貫したコンセプトに基づいたライブアルバムといえる。約20分近い「ナントケ」は圧巻!『THE ROAD GOES EVER ON』というタイトルからイメージされるマウンテンの目指す姿に通じる。『我々はライブ・バンドであって、スタジオ・バンドではない。聴衆というのが非常に重要だ。彼らの反応を知る、つまり彼らが我々に働きかけるのと同様に、我々も彼らに伝えるべく演奏する。生演奏するたびに多くの事が得られる。何かがいとも生まれる』 | A面 1. Long Red 5:43 2. Waiting To Take You Away 4:40 3. Crossroad 6:19 B面 1. Nantucket Sleighride 17:34 |
| MOVE | ザ・ムーヴ (デジタルリマスター) |  | 1968 | ロック | CD | 日本 | 1968年リリース。ザ・ムーヴのファーストアルバム。英国のポップ魔術師ロイ・ウッドを擁するバンドで、ELOの前身バンドであり、奇才ロイウッドが率いるサイケポップバンドのデビューアルバム13曲に、プラスボーナストラック16曲を追加した全29曲を収録した作品。 クオリティの高い3分間サイケポップが沢山詰まっています。ステイタスクオーの1stと並ぶ名盤だと思います。当時ヒットもガンガン飛ばしていました。セカンド以降は、曲が長くなりサウンドもヘヴィーになり(ステイタスクオーほどではないですが)、かなり印象が違います。アルバム未収録シングル両面のボーナスによって、この一枚で彼らの初期はほぼ網羅できます。ボーナス曲の「Wave Your Flag And The Stop The Train」はモンキーズのヒット曲「Last Train To Clarksville(邦題:流石の列車)のバンドバージョン」。 | 1. イエロー・レーンボー 02:37 2. キルロイ・ワズ・ヒア 02:45 3. レモン・トゥリー 03:01 4. ウィークエンド 01:48 5. ウォーク・アポン・ザ・ウォーター 03:23 6. フラワーズ・イン・ザ・レイン 02:22 7. ヘイ・グラマン 03:13 8. ユースレス・インフォメーション 02:57 9. ジン・ウエスト・ザ・ストリングス・オブ・マイ・ハート 02:50 10. ガール・アウトサイド 02:56 11. ブラックベリー・ウェイ 02:56 12. トゥー・リトル・トゥー・リトル 02:56 |
| MOVE | シャザム |  | 1970 | ロック | CD | 日本 | 1970年発表のセカンドアルバム。1stアルバム発表後、エニシング・フォー・ユー・ドレヴァー・パートが脱退し、リック・プライスが参加して製作されたアルバムであり、アルバム完成後、過酷なドサ回りツアーに疲れたカール・ウェインまでもが脱退してしまっ。まさにドタバタ期といった感じでその影響を受けてか曲作りが進まず、本作には6曲しか収録されていない。ロイの作品はその半数の3曲であり、おまけに3. は前作の収録曲のリメイクである。6曲しか収録されていないので各々の曲は演奏が長い、決して時代を反映したものではないのである。(笑) しかしながら楽曲は粒ぞろいであり、ロイのハード・ロック路線の原点とも言える1. は個人的には死ぬほど愛して止まない一曲である。フランジャー(フェイザー)が効果的に使われて、カール・ウェインが演奏から、サビの視覚的要素が参加した初の作品だが、ジェブ参加前に録音された楽曲も含まれているので、まだ彼の影は若干薄い。レーベルの販売権の移転などの契約上のトラブルもあり、6. が、全英7位のヒットを記録するものの、4. はヒットらしいヒットを記録しないなど、やや不安定な時期の作品ではあるが、よくよく考えてみればMOVEに安定していた時期などほとんどなかった。しかしながら本作はMOVEの作品の中では最も完成度が高く、ハード・ロックに特化した非常に重いサウンドで統一されている。反面、ロイらしいメロディアスな楽曲が少ないためファンには不評な場合も多い。 | 1.HELLO SUSIE 2.BEAUTIFUL DAUGHTER 3.CHERRY BLOSSOM CLINIC REVISITED 4.FIELDS OF PEOPLE 5.DON'T MAKE MY BABY BLUE 6.THE LAST THING ON MY MIND -BONUS TRACKS- 7.ロックン・ロール・スター 8.ステファニー・ノウズ・フー 9.サムシング・エルス 10.イットル・ビーミー |
| MOVE | ルッキング・オン |  | 1970 | ロック | CD | 日本 | 1970年発表の3rdアルバム。1stアルバム発表後、エニシング・フォー・ユー・ドレヴァー・パートが脱退し、リック・プライスが参加して製作されたアルバムであり、アルバム完成後、過酷なドサ回りツアーに疲れたカール・ウェインまでもが脱退してしまっ。まさにドタバタ期といった感じでその影響を受けてか曲作りが進まず、本作には6曲しか収録されていない。ロイの作品はその半数の3曲であり、おまけに3. は前作の収録曲のリメイクである。6曲しか収録されていないので各々の曲は演奏が長い、決して時代を反映したものではないのである。(笑) しかしながら楽曲は粒ぞろいであり、ロイのハード・ロック路線の原点とも言える1. は個人的には死ぬほど愛して止まない一曲である。フランジャー(フェイザー)が効果的に使われて、カール・ウェインが演奏から、サビの視覚的要素が参加した初の作品だが、ジェブ参加前に録音された楽曲も含まれているので、まだ彼の影は若干薄い。レーベルの販売権の移転などの契約上のトラブルもあり、6. が、全英7位のヒットを記録するものの、4. はヒットらしいヒットを記録しないなど、やや不安定な時期の作品ではあるが、よくよく考えてみればMOVEに安定していた時期などほとんどなかった。しかしながら本作はMOVEの作品の中では最も完成度が高く、ハード・ロックに特化した非常に重いサウンドで統一されている。反面、ロイらしいメロディアスな楽曲が少ないためファンには不評な場合も多い。 | 1. ナイト・オブ・ファイアー 2. ディスターバンズ 3. アイ・キャン・ヒア・ザ・グラス・グロウ 4. ウェイ・ザ・フラッグ・アンド・ストップ・ザ・トレイン 5. フラワーズ・イン・ザ・レイン 6. モン・ツリー 7. ファイアー・ブリゲイド 8. ウォーク・アポン・ザ・ウォーター 9. ワイルド・タイガー・ウーマン 10. オムニバス 11. ブラックベリー・ウェイ 12. トゥー・リトル・トゥー・リトル |
| MOVE | オムニバス~シングルズ |  | | ロック | CD | 日本 | ザ・ムーヴが60年代に発表したシングル曲を集めたコレクション。全英1位となった「ブラックベリー・ウェイ」を筆頭に「ナイト・オブ・ファイアー」「アイ・キャン・ヒア・ザ・グラス・グロウ」「フラワーズ・イン・ザ・レイン」「ファイアー・ブリゲイド」「ブロード・ヴァウズ」などのヒット曲をすべて網羅。ボーナス・トラックにイタリア語バージョン、発売中止となったシングル曲「ヴォート・フォー・ミー」を含む全20曲収録。 | 1. ナイト・オブ・ファイアー 2. ディスターバンズ 3. アイ・キャン・ヒア・ザ・グラス・グロウ 4. ウェイ・ザ・フラッグ・アンド・ストップ・ザ・トレイン 5. フラワーズ・イン・ザ・レイン 6. モン・ツリー 7. ファイアー・ブリゲイド 8. ウォーク・アポン・ザ・ウォーター 9. ワイルド・タイガー・ウーマン 10. オムニバス 11. ブラックベリー・ウェイ 12. トゥー・リトル・トゥー・リトル |
| MR. BIG (UK) | 甘美のハード・ロッカー |  | 1975年 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 75年作、英国ロックの興の深さをまざまざと見せつけられる様なバンド、ミスター・ビッグのデビュー作。 MR. BIGと言えばもうあの4人しか浮かばないのも当然ですが、70年代ロックの熱心なファンの方なら、このアルバムに特別な思いを持っている方も多いと思います。 3枚のアルバムを残して解散し、その後90年代に再結成、更に2011年には33年ぶりの4作目をリリースを果たしていますが、やはりMR. BIGと言えばもうあの4人でしかないわけです。 邦題のセンスがまさに的を得ていて、当時はQUEENと比較される事もあった音楽性はグラム、パブルガム・ポップ、プログレ・ハードと多様な形容が必要になるくらい個性的なものでした。 | 1. 異次元の感触 Time Base 2. ワンダフル・クリエイション Wonderful Creation 3. 愛は心の燈台 Golden Lights 4. アンクル・ジョンB Uncle John 'B' 5. 恋に焦がれてCin Ain't Bin A Man 6. 甘味のハード・ロッカー Sweet Silence |
| MR. BIG | ミスター・ビッグ |  | 1989 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | 日本 | MR. BIGの記念すべきデビュー作となったアルバムで、すでに本作でバンドの個性が強く打ち出された名盤となっています。特にポール・ギルバートとビリー・シーンを擁している事から、その前評判の高さが記憶に残っていますが、当時のHR/HMファンの多くが予想したとんでもない光速ナンバーは、オープニングの「ADDICTED TO THAT RUSH」に集約される事になりました。 ソロ時代のエリック・マーティンの産業ロックっぽい活躍ぶりを知る人にとっては、JOURNEYのジョン・ケインとエリックの共作による「HOW CAN YOU DO WHAT YOU DO」が一番すんなり耳に入ったかもしれません。 そうしたメンバー全員の前置、あるいは見栄えのいい4人が揃った80年代最後のスーパー・グループといったインパクトは、MR. BIGにとっては邪魔なイメージだったのかも。ね、ま、ま、ま。 | 1. アディクテッド・トゥ・ザット・ラッシュ (4:46) 2. ワインド・ミー・アップ (4:11) 3. マーシリス (3:57) 4. ハッド・イナフ (4:57) 5. プレイト・イット・オン・マイ・ユース (4:14) 6. テイク・ア・ウォーク (4:49) 7. ビッグ・ラヴ (4:49) 8. ハウ・キャン・ユード・ホワット・ユード (3:58) 9. エニシング・フォー・ユー (4:37) 10. ロックン・ロール・オーヴァー (3:50) 11. 30 Years Ago (4:19) (Side 1) A1. Talk Talk - 1:56 / US#15(Billboard) A2. Trouble - 2:11 A3. Cherry, Cherry (Neil Diamond) - 3:12 A4. Taxman (George Harrison) - 2:33 A5. Some Other Drum - 2:29 A6. Masculine Intuition - 2:08 (Side 2) B1. The People in Me - 2:53 B2. See See Rider (Ma Rainey, Lena Arant) - 2:29 B3. Wrong - 2:16 B4. See See Rider (Ma Rainey, Lena Arant) - 2:29 |
| MUSIC MACHINE | ターン・オン |  | 1966 | ロック | CD | 日本 | 60's LA 狂気のガレージ・サイケ・バンド「ミュージック・マシーン」の1966年リリースの名作デビューアルバム。ヒットシングル全米15位の「Talk Talk」や、当時のガレージ・ロックの代表「96 Tears」「Hey Joe」の他、「The People In Me」や、「See See Rider」のカヴァー他、ACID EATERのもろルーツなファズギター&電子オルガン炸裂の攻撃的アシッド・ガレージ・サウンド・ナンバーが満載。全12曲収録。 60'sガレージ・パンクの入門盤。 | Side A 1. アズ・ティアーズ・ゴー・バイ 2. デイトリッパー 3. アイ・ムーブ・アラウンド 4. 悲しきベイブ (IT AIN'T ME BABE) 5. にくい貴方 (THESE BOOTS ARE MADE FOR WALKIN') Side B 1. イン・マイルーム 2. ライズ 3. ソーロン・ベイブ 4. 壁に咲く花 (FLOWERS ON THE WALL) 5. 彼が私を愛しているなら (IF HE'D LOVE ME) 11. RUN FOR YOUR LIFE |
| NANCY SINATRA | にくい貴方 |  | 1966年3月15日 | ポップス | レコード | 日本 | フランク・シナトラの愛娘としてリリース・レコードからアイドル歌手としてデビューしたナンシー・シナトラが大膽なセクシー路線で大成功したが、66年の全米ナンバーワン・ヒットに「にくい貴方」だ。日本では本国よりも一足早くアイドル・シンガーとして人気を博していたナンシー嬢だが、アメリカでヒットが生まれたのは66年に入ってからのことだった。このファースト・アルバムには、同曲のほかにもビートルズやストーンズのイカしたカヴァーが満載。カヴァーのほとんどが同時代のヒット曲であり、まさに66年のポップ・シーンを凝縮した一枚といえる。レザーのブーツにミニスカートで時代の最先端を駆け抜けたナンシー嬢のイケイケな魅力を存分に味わってほしい。 | Side A 1. IT'S SUCH A PRETTY WORLD TODAY 2. GET WHILE THE GETTIN' IS GOOD 3. WALK THROUGH THIS WORLD WITH ME 4. JACKSON 5. WHEN IT'S OVER Side B 1. LAY SOME HAPPINESS ON ME 2. LONELY AGAIN 3. BY THE WAY (I STILL LOVE YOU) 4. OH LONESOME ME 5. END OF THE WORLD 6. HELP STAMP OUT LONELINESS |
| NANCY SINATRA | カントリー、マイウェイ |  | 1967年8月13日 | ポップス | レコード | UK | ナッシュビルに赴き、パディ・ハーマン(ドラムス)、ウェイン・モス(ギター)、チャーリー・マッコイ(ハーモニカ、ヴィブラフォン)、デヴィッド・ブリッグス(ピアノ)、パティ・エモンズ(スティール・ギター)といった現地の腕利きミュージシャンをバックにカントリー・ヒットの数々をレコーディングした作品。「なんだ、カントリーかあ〜」と思わずに聴いてみてほしい。これがポップ・カントリーの逸品といえる素晴らしい仕上がりで、リッキー・ネルソンやエヴァリー・ブラザーあたりが好きな人なら必ずや気に入ることだろう。情感こめて歌い上げるナンシー嬢のヴォーカルも実に魅力的。ナッシュビルで録音されたカントリー・ソング集ですが土臭さは微塵も無く、ナンシーのキュートな歌声によって、聴きやすいポップス作品に仕上がっています。The Only Way Is By The Way 等の1stミニ・アルバム | A1These Boots Are Made For Walkin' A2This Little Bird A3So Long Babe A4Bang, Bang A5The Shadow Of Your Smile A6In My Room A7On Broadway |
| NANCY SINATRA | ナンシー・シナトラ・ベスト |  | | ポップス | レコード | 日本 | | B1Sugar Town B2How Does That Grab You, Darlin'? B3Friday's Child B4Day Tripper B5Let It Be Me B6As Tears Go By B7The End |

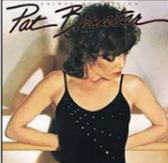
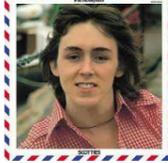
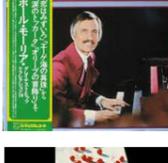
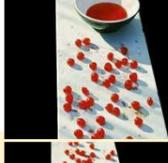
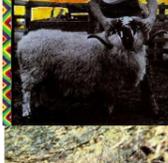
| | | | | | | | | | |
|----------------------|----------------------------------|---|--|----------------|-------------|--|---|--|--|
| <p>N</p> | <p>NAZARETH</p> | <p>ラザマナズ</p> |  | <p>1973年5月</p> | <p>レコード</p> | <p>ドイツ</p> | <p>ナザレスが1973年にリリースした3枚目。ハードロックの名盤でもありナザレスの代表作の1枚。プロデュースはロジャー・グローヴァーが担当した事もあり、ポスト・ディープ・パープルとしての地位を確立しています。パープルを少し泥臭く、汗臭く、そしてメロディアスにするナザレスのサウンドに近い気もします。ヴォーカルのダン・マカファーティの堪辛いワイルドな声は、アクセル・ローズに影響を与えた事でも有名だと思います。オープニングを飾るアルバム・タイトル曲のパープルを思わせるリフと、思わず身を乗り出してしまいうる疾走感NWOBHMへの布石でもあったのでは。B級バンドとして知られる事も多いバンドですが、かなりカッコいいアルバム。</p> | <p>SIDE A 1. ラザマナズ 3:52 2. アルカトラス 4:23 3. ヴェジランド・マン 5:21 4. ウォーク・アップ・ディス・モーニング 3:53</p> | <p>SIDE B 1. ナイト・ウーマン 3:29 2. バッド・バッド・ボーイ 3:55 3. ソールド・マイ・ソウル 4:49 4. トゥー・バッド・トゥー・サッド 2:55 5. ブロークン・ダウン・エンジェル 3:45</p> |
| <p>NAZARETH</p> | <p>威光そして栄誉</p> |  | <p>1973年11月</p> | <p>レコード</p> | <p>日本</p> | <p>1973年にリリースされた4枚目のアルバム。バンドの商業的ブレイク『HAIR OF THE DOG』の舞台を完璧に整えている。ジョニ・ミッチェルの『This Flight Tonight』とボブ・ディランの『The Ballad of Hollis Brown』の9分間のヘヴィ・メタル・オーバーホール2曲のカバー曲に加え、「Go Down Fighting」、「Turn on Your Receiver」、「Not Faking It」などの傑出したオリジナル曲が収録されている。『LOUD N' PROUD』はバンドが期待していたようなアメリカでのヒットではなかったが、ナザレの大ブレイクは間近に迫っていた。</p> | <p>Side A 1. ゴー・ダウン・ファイティング 3:07 2. ノット・フェイク・イット 4:01 3. ターン・オン・ユア・レシーヴァー 3:19 4. ティーンエイジ・ナウ・ヴアス・ブレイクダウン 3:43 5. フリー・ホイラー 5:31</p> | <p>Side B 1. ディス・フライト・トゥナイト 3:24 2. チャイルド・イン・ザ・サン 4:51 3. ホリス・ブラウンのバラッド 9:11</p> | |
| <p>NAZZ</p> | <p>(ペーパースリーブ仕様) ナZZ</p> |  | <p>1968</p> | <p>ロック</p> | <p>CD</p> | <p>1968年リリース。トッド・ラングレン率いるナZZのデビューアルバム。ラングレンのルーツを紐解く、衝撃的デビュー作。フィラデルフィアを拠点に活動していたマルチ・プレイヤー、トッド・ラングレンが結成した伝説的パワー・ポップ・バンド。プリティッシュ・インヴェイジョンに触発された若き日のトッドが繰り出す、ハーモニー主体のドリーミー・ポップの名作。フィラデルフィアを拠点に活動していたマルチ・プレイヤー、トッド・ラングレンが結成した伝説的パワー・ポップ・バンド。プリティッシュ・インヴェイジョンに触発された若き日のトッドが繰り出す、ハーモニー主体のドリーミー・ポップの名作。ポナース・トラックとしてアルバム未収録のアウトテイクをはじめ、アルバム収録曲のデモ、ライブ・ヴァージョン、国内初CD化となる「ハロー・イツ・ミー」のモノ・シングル・ミックスなど11曲を追加収録。</p> | <p>1 オープン・マイ・アイズ 2 バック・オブ・ユア・マインド 3 シー・ホワット・ユー・キャン・ビー 4 ハロー・イツ・ミー 5 ワイルドウッド・ブルース 6 イフ・ザット・ザ・ウェイ・ユー・フィール 7 ホエン・アイ・ゲット・マイ・ブレイン 8 ミラージュ・ソング 9 クラウテッド 10 シーズ・ゴイング・ダウン 11 ナZZ・ラジオ・コマニカルズ (ポナストラック)</p> | | |
| <p>NAZZ</p> | <p>トッド・シングス</p> |  | <p></p> | <p>ロック</p> | <p>CD</p> | <p>トッドラングレンがリードボーカルを取った幻の音源を収録。</p> | <p>1. It's Not That Easy 2. Take The Hand 3. How Can You Call That Beautiful -Take One- 4. How Can You Call That Beautiful -Take Two- 5. Forget All About It 6. Only One Winner 7. Letters Don't Count 8. Resolution 9. Todd's Lament -Part One- 10. Todd's Lament -Part Two-</p> | | |
| <p>NED DOHENY</p> | <p>ハード・キャンディ</p> |  | <p>1976年</p> | <p>AOR</p> | <p>レコード</p> | <p>1976年作品。ネッド・ドヘニーの2枚目のアルバム。ネッド・ドヘニーは、1948年にロサンゼルス有数の財閥の家に生まれ、ロンドンで音楽活動を始めたが、1972年にアサイラム・レコード設立の第1弾として、ジャクソン・ブラウン、J.D.サウザー、イーグルスなどと共にデビューした。コロムビア・レコードから発表した本アルバムの次作が米国でのリリースを見送られるなど不遇を託い、米国での知名度は高まらなかったが、近年のヨット・ロック・シーンでは、英米でもボズ・キヤグスやステイシー・ダンをも凌ぐ評価を受けている。本アルバムは、プロデューサーはステューヴ・クローバー、ゲスト・ミュージシャンでイーグルスのドン・ヘンリーとグレン・フライ、J.D.サウザー、リンダ・ロンシュタットら参加している。アコースティック・サウンドに、ネッドのナイヴなハイ・トーン・ヴォイスが心地よく、ウエスタン・コミューン風の柔らかな調子があふれる一枚である。</p> | <p>Side A 1. 恋は幻 2. 恋におちたら 3. 愛を求めて 4. 傷心の恋</p> | <p>Side B 1. ア・ラヴ・オブ・ユア・オウン 2. ユア・ナンバー 3. オン・ザ・スウィング・シフト 4. 歌っておくれ 5. ヴァレンタイン</p> | |
| <p>NENA</p> | <p>プラスチック・ドリームス</p> |  | <p>1983</p> | <p>ポップス</p> | <p>レコード</p> | <p>ドイツの歌手兼女優でポップ・バンドとしても活動しているNenaによるバンド、Nenaによる1stアルバム。ドイツ語のロックというのとは珍しく日本でも当時はTVやラジオで取り上げられ、特に「ロックバルーンは99」は大ヒット。ドイツ語で全米チャートインしたのは当時は3曲目という快挙だった。</p> | <p>A1 99 Luftballons = ロックバルーンは99 3:52 A2 Kino = 魅惑のシネマハウス 2:42 A3 Indianer = インディアーナ 3:16 A4 Vollmond = 満月と魔法 3:03 A5 Nur Geträumt = 夢を見ただけ 3:41 A6 Tanz Auf Dem Vulkan = 天使達のダンス 3:37 B1 Zaubertrick = プラスティック・ファンタスティック 4:14 B2 Einmal Ist Keimnal = 未知の国へ 2:44 B3 Leuchtturm = 水平線が知っている 3:14 B4 Ich Bleib' Im Bett = ペットが好き 2:41 B5 Mein Freund = 最後の恋 3:53</p> | | |
| <p>NEW ORDER</p> | <p>権力の美学</p> |  | <p>1983</p> | <p>ニューウェイブ</p> | <p>レコード</p> | <p>日本</p> | | | |
| <p>NEWYORK DOLLS</p> | <p>ニューヨーク・ドールズ</p> |  | <p>1973</p> | <p>グラムロック</p> | <p>レコード</p> | <p>オランダ</p> | <p>デヴィッド・ヨハンセン、ジョニー・サンダースらによって結成されたニューヨーク・ドールズのデビュー作。当時隆盛を誇った「グラム・ロック」の意匠を継いながらも、鋭いギター・リフを前面に押し出したストレートなR&Rサウンドが際立つ、ラモーンズやビートルズなど後のパンク・シーンにも大きな影響を与えた重要作。</p> | <p>Side A 1. 人格の危機 Personality Crisis 2. キスを求めて Looking For A Kiss 3. ベトナムの落し児 Vietnamese Baby 4. ロンリー・プラネット・ボーイ Lonely Planet Boy 5. フランケンシュタイン Frankenstein Side B 1. 払い落とせ! Trash 2. バッド・ガール Bad Girl 3. 地下鉄 Subway Train 4. ビルズPills 5. プライベート・ワールド Private World</p> | |
| <p>NEWYORK DOLLS</p> | <p>悪徳のジャングル</p> |  | <p>1974</p> | <p>グラムロック</p> | <p>レコード</p> | <p>US</p> | | | |
| <p>NEIL DIAMOND</p> | <p>ジャズ・シンガー</p> |  | <p></p> | <p>ポップス</p> | <p>レコード</p> | <p>日本</p> | <p>映画「ジャズ・シンガー」のサウンド・トラック盤。主演をニール・ダイヤモンド。映画音楽だけでなくニールのアルバムといった作り。全体的にバランス良く彼の魅力が詰まっている。コンポーザーとしての顔を持つ彼だが、このジャズシンガーでの歌いっぷりはどうだ！打ちのめされた。他の楽曲は昔レコードで聴いていたが、ジャズシンガーだけはなぜか聴いていなかった。圧倒的な声量と熱を帯びた歌声は、かつてのジルベール・ペコーを彷彿とさせる。10曲目の「HELLO AGAIN」と、13曲目の「SONGS OF LIFE」の2曲！ すこぶる良質の、心に染み入るバラード。①は、ニールならではの雄大なテーマ曲で、是非一度は耳にしたい名曲中の名曲だと思う。②は、①のリプライズでもう一度使用するあたり思い入れの深い曲だと思う。④は、大ヒットしたバラード曲。⑤は、ニールのソロ・アルバム・ベスト・アルバムとの共作。⑥、⑦、⑧、⑨、⑩は、ニール・ヤングが1970年に発表した3作目のソロ・アルバム。アメリカで8位、イギリス7位と大ヒットした。クロスビー、スティルス、ナッシュ&ヤングの活動期間中に発表されたアルバムで、クレイジー・ホースのメンバーとジャック・ニッチェ、ステューヴ・スティルス、ニルス・ロフグレン、グレッグ・リーヴスらが録音に参加した。ピアノの弾き語りベースにした曲が多い。シングル「オンリー・ラヴ」のB面に収録された「パース」はアルバム収録のものとは異なる。ピアノの弾き語りであるアルバム・バージョンに対し、シングル・バージョンはクレイジー・ホースの演奏を伴ったバンド・サウンドである。『ローリング・ストーン』誌が選んだ「オールタイム・グレイテスト・アルバム500」(2012年版)において74位にランクインした</p> | <p>Side A 1. 自由の国アメリカ (America) 4:17 2. アドゥン・オラム 0:35 3. おおべいビー (YOU BABY) 2:57 4. ラヴ・オン・ザ・ロック 3:38 5. 明日のパラダイス (Amazed And Confused) 2:52 6. 誇り高きロバート・E・リー (On The Robert E. Lee) 2:02 7. サマーラヴ 3:17</p> | |
| <p>NEIL YOUNG</p> | <p>アフター・ザ・ゴールド・ラッシュ</p> |  | <p>1970年9月19日</p> | <p>フォークロック</p> | <p>レコード</p> | <p>US</p> | <p>Side A 1. テル・ミー・ホワイ - 2:54 2. アフター・ザ・ゴールド・ラッシュ - 3:45 3. オンリー・ラヴ - Only Love Can Break Your Heart - 3:05 4. サザン・マン - 5:31 5. やがて朝が - Till the Morning Comes - 1:17</p> | <p>Side B 1. オー・ロンサム・ミー (ドン・ギブソン) - 3:47 2. フリッグ・ユー・ダウン - 2:56 3. パーズ - 2:34 4. アイ・キャン・リアリー・ラヴ - 4:05 5. アイ・ビリーヴ・イン・ユー - 3:24 6. 壊れた渡し船 - Cripple Creek Ferry - 1:34</p> | |
| <p>NEIL YOUNG</p> | <p>アフター・ザ・ゴールド・ラッシュ</p> |  | <p>1970年9月19日</p> | <p>フォークロック</p> | <p>レコード</p> | <p>Germany France</p> | | | |
| <p>NEIL YOUNG</p> | <p>ハーヴェスト</p> |  | <p>1972年2月1日</p> | <p>フォークロック</p> | <p>レコード</p> | <p>日本</p> | <p>1972年2月1日リリース。ニール・ヤングの4作目となるソロ・アルバム。10曲中7曲はカントリーの聖地であるナッシュビルで録音され、全体的にカントリー調に仕上げられている。ニール・ヤングは、多彩な音楽を取り入れようとする前向きな姿勢の持ち主がゆえ、アルバムごとに色が変わることで有名だ。そのため、傑作や速作が多いことでも知られる。ハイトーン独特のヴォーカルと、ソングライティングのセンスに定評がある彼。そのミュージシャンとしての存在を絶対的なものにしたのが、本作である。 全体的にはメロウで泥臭い感じなのだが、彼らしい個性が光り、70年代ロックの名盤ともいわれている。ジェームス・テイラーやリンダ・ロンシュタットが参加したシングル「孤独の旅路(英語版)」とともに72年全米No. 1に輝くなど、セールス的にも成功を収めた。モンティ・パインのメンバーであるエリック・キッドが、ニール・イネスと「モンティ・パイン」終了後に作った番組「ラトランド・ウィーク・エンド」で使用された曲を収録したアルバムです。 そしてこの番組が重要なのは、あのビートルズ・パロディの最高傑作であるラトルズが、この番組から生まれたということ(「ラトルズ」4人もアイドル)はDVDで出てますので、まだ見てない人は絶対に見ること。 このアルバムにもラトルズのアルバムにも収録されている「I Must Be In Love」が収録されています(「ラトランド出身のファブ・フォー」と紹介されて登場)。その他にもフーの秀逸なパロディである「Concrete Jungle Boy」や、正面開閉式洗濯機について歌った「Front Loader」、レーニンが歌う「Communist Cooking」、コロレス・バンドのメンバーによる「Protest Songs」など、その面白さを堪能できる。ニール・ヤングのアルバム・ベスト・アルバムとの共作。</p> | <p>Side A 1. 週末に - "Out on the Weekend" 2. ハーヴェスト 3. 男は女が必要 - "A Man Needs a Maid" 4. 孤独の旅路 - "Heart of Gold" 5. 国のために用意はいいか? - "Are You Ready for the Country" Side B 1. 週末に - "Old Man" 2. 世界がある - "There's a World" 3. アラバ 4. ダメジ・ダン - "The Needle and the Damage Done" 5. 歌う言葉 - "Words (Between the Lines of Age)"</p> | |
| <p>NEIL INNES</p> | <p>ラトランド・ウィーク・エンド・ソングブック</p> |  | <p>1976</p> | <p>ロック</p> | <p>CD</p> | <p>日本</p> | <p>1 迷える恋人 2 たわごと 3 フロント・ローダー(正面開閉式洗濯機) 4 もう一度ごめねと書いて 5 恋してみたい 6 タンブリッジ・ウェルズでの24時間 7 素晴らしいピンコ・ブラザーズ 8 コンクリート・ジャングル・ボーイ 9 チルドレン・オブ・ロックン・ロール 10 ストレープ・ソロ</p> | <p>11 保険セールスマンの歌 12 テスティング 13 ぼく自身を君にあげよう 14 コミュニスト・クッキング 15 ジョニー・キャッシュ 16 プロテスト・ソング 17 会計士のシャンティ 18 フットボール 19 ボーリング(退屈) 20 迷える恋人のチャ・チャ・チャ 21 ザ・ハード・トゥ・ゲット 22 のどかな週末の朝の歌</p> | |
| <p>NEIL INNES</p> | <p>(ペーパースリーブ仕様) テイキング・オフ</p> |  | <p>1977</p> | <p>ロック</p> | <p>CD</p> | <p>日本</p> | <p>1977年発表。ボンゾ・ドッグ・バンド、ラトルズを率いた希代のメロディー・メイカー、ニール・イネスの傑作セカンド・ソロ・アルバム。本作はパロディの要素は控えめでミュージシャンとしての彼の魅力たっぷり。ラトルズのセカンド・アルバムで再演された「シャングリラ」を初め「ラ・ヴィアン・ローズ」「ゴッド・イズ・ラヴ」など名曲ばかり捨て曲なしの全10曲。</p> | <p>1. クリスタル・ボールズ 2. キャッチ・フレーズ 3. ゴッド・イズ・ラヴ 4. ランディ・ラクウエル 5. シャングリラ</p> | |

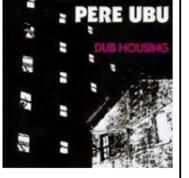
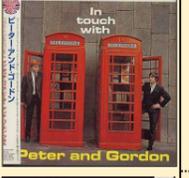
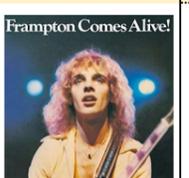
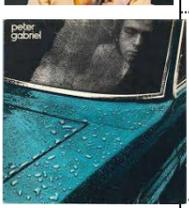
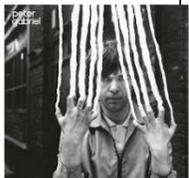
| | | | | | | | | | |
|------------------|-----------------------------|---|----------|---------------|------|----|---|---|--|
| NEIL INNES | (ペーパースリーブ仕様) ブック・オブ・レコーズ |  | 1979 | ロック | CD | 日本 | 1979年リリース。ニール・イネスのサードアルバム。同名のバラエティ番組のために書き下ろされた曲を集めたアルバム。前作とは打って変わり、パロディ、ユーモア全開でビートルズ風やジャズ、テクノと様々なサウンドを取り入れた正にニール・イネスの面目躍如の傑作アルバム。 | 1. ヒア・ウィ・ゴー・アゲイン 2. モンタナ・カフェ 3. オール・イン・ザ・ネーム・オブ・ラヴ 4. ケニー・アンド・リザ 5. アメーバ・プギ | 6. テーマ 7. ヒューマン・レース 8. スポニチニヤス 9. ラヴ・イズ・ゲッティング・ベター 10. エトセトラ |
| NEIL INNES | ブック・オブ・レコーズ |  | 1979 | ロック | CD | 日本 | 1982年に発表された元ボンゾ・ドッグ・バンド、ラトルズのニール・イネスのソロ・アルバムとしては3作目の名盤。前作『ブック・オブ・レコーズ』同様、BBCで放送された彼が出演したバラエティ番組『The Innes Book of Records』のために書き下された曲を取録したもので、当時アナログ二枚組で発表された大作。ラトルズのオリイ・ハルソール、モット・ザ・フールズのモーガン・フィッシャー、アフィニティのモ・フォスターら総勢約50名にも及ぶ参加ミュージシャンをふんだんに使ったハード・ロック、ソウル/R&B、レゲエ、カリブソ、ジャズ、キャバレー・ソング、そして当時ブームのはりだったニュー・ウェイヴまで様々なスタイルのサウンドを取り入れ紡ぎ出されるサウンドに圧倒される一枚。ニール・イネスの曲解説を含むオリジナル盤に記載された解説の対訳付。 | 1. リビドー 2. シティ・オブ・ジ・エンジェルズ 3. ゼム 4. タイム・トゥ・キル 5. ロック・オブ・エイジス 6. ワン・シング・オン・ユア・マインド 7. ミスと天使 8. ノット・ゲッティング・エニイ・ヤング 9. テイク・アウェイ 10. ハッピー・エンディング | 11. ストード・オン・ロック 12. ニッカー・エラスティック・キング 13. マカロニ・ウェスタン 14. ミスター・ユーロヴィジョン 15. ウンガワ 16. ゴッドフリー・ダニエル 17. フォーチュン・テラー 18. マザー 19. ハーレスク 20. ダウン・ザット・ロード |
| NICE | (ペーパースリーブ仕様) ナイスの思想 |  | 1968 | プログレ | CD | 日本 | キース・エマーソン率いるロック・バンド、ナイスの1968年発表のデビュー・アルバム。のちにエマーソン・レイク・アンド・パーマーで活躍するキース・エマーソンが在籍していたことで知られる4人組ナイスは、P.P.アーノルドのバック・バンドから独立して67年に本ファースト・アルバムをリリース。エマーソンの多彩なキーボード・プレイに、デヴィッド・オリストの強々たるギターが絡み、ザ・フーのサウンドをキーボード主体にしたような、67年という時代らしいサイケ／モッズ風のアプローチを聴かす一枚だ。ボーナス5曲追加。 | 1. フラワー・キング・オブ・フライズ 03:19 2. ナイスの思想 02:50 3. ボニー・K 03:24 4. ロンド 08:22 5. 戦争と平和 05:14 6. 夜明け 05:18 7. 夜明け 05:18 8. ユー・ジンの叫び 04:36 | 以下、CDボーナス・トラック 9. ナイスの思想(シングル・ヴァージョン) 02:49 10. アズラエル(死の天使) 03:45 11. アメリカ 06:19 12. ダイヤモンド・ハード・ブルー・アップルズ・オブ・ザ・ムーン 02:48 13. アメリカ(USシングル・エディット) 03:55 |
| NICK HEYWARD | 風のミラクル |  | 1983 | ロック | CD | 日本 | ヘアカット100を1枚限りで脱退したニック・ヘイワードが1983年に発表したファースト・アルバム。ビートルズから流れを汲むブリテン・ポップの伝統を受け継いだ高品位ポップ・アルバム。80年代英国における最も繊細なポップ・アルバム。ネオアコ・ギター・ポップの文脈で語れがちな作品だが、ジェフ・エメリック製作によるダイナミックかつエレガントなトラックに青春の喜びと痛み、苦悩や快楽が伸びやかな歌声で表現された楽曲の完成度は凡百のそれとはまったく無縁。トラックをドレスダウンしたニックのファッション、アートワークのセンスも抜群。 | 1. 恋のスタートトゥー・ビギン 2. グルー・ハット・フォー・ブルー・デイ 3. ウォー・メイク・イット・トゥルー 4. 夢みるサンディ 5. クラブ・ボーイ・アット・シー | 6. 思い出を風に乗せて 7. アイ・ザット・シュチュエーション 8. ゴ・キック・オブ・ラヴ 9. 雨にフォー・エヴァー 10. アトランティック・マンディ |
| NICK GILDER | 未来派紳士 フューチャリズム・ダンス ディ |  | 1978 | ロック | レコード | 日本 | | Side A 1. Got To Get Out 2:45 2. We'll Work It Out 3:37 3. (She's) One Of The Boys 3:24 4. All Because Of Love 3:16 5. Hot Child In The City 3:45 | Side B 1. Frustration 3:03 2. Here Comes The Night 3:03 3. 21世紀 21st Century 3:14 4. Fly High 4:52 5. Rockaway 3:21 |
| NICK LOWE | ジーザス・オブ・クール |  | 1978年 | パブリック | レコード | UK | プリンス・アンド・ニュー・ジェネレーション解散後、ステイツ・レコードの設立に関わり、エルヴィス・コスデル、ダムドらのプロデューサーとして注目を浴びたのち、満を持して発表したニック・ロウのソロ・デビュー作。彼の代表とする作品。とにかくシンプルかつ小粋なアレンジによる珠玉のPOPナンバーがびっしりと詰まっているPOPファン必聴の1枚。Coolで毒の有る最良のPops集と成った。ビートルズのピーロードをパロディ化した部分も含め茶目つあつた名盤で#1からして「金の為に音楽をやっている」だからねえ〜#2 Funkyなリズムギターに乗ったルーフのホフランド・リクスによる遊び心満点のPが聞ける。#5はプリンスのラストアルバムをプロデュースしてからの盟友 Dave Edmundsを感激させたてくった曲。コースの重ね方といい、エコー処理といい、タイプの影響絶大で間奏に出てくるアコギも効果的。Popの黄金律を兼ね備える名曲。曲調はポップだが、アルバムは音楽を痛感させる。ニュー・ウェイヴ/パワー・ポップ・ブームの火付け役ともなった時代を象徴する名盤が遂にリイシュー！ ヒット・シングル「恋する二人」をはじめ「クラッキング・アップ」「アメリカン・スクワーム」「スイッチボード・シーズン」「ウイズアウト・オブ・ラヴ」など今でも色褪せない魅力を放つ名曲が収録。アレンジや曲構成、ミキシングなど、非常に洗練されていて、今聴いてもまったく遜色なく、むしろ新鮮な感じさえする。楽曲には意味があつたらんとした。エンタメに徹した軽快なナンバーのオンパレードで、「恋する二人」をはじめ、思わずエアギターでストロークのまねをしたくなるようなナンバーがずらりと並んでいる。これこそがニック・ロウの個性であり、本質でもある。バックを務めるのはニック・ロウ、デイヴ・エドマンズからなる固定メンバー。このアルバムに参加したメンバーは、ニック・ロウ、デイヴ・エドマンズ、アン・ベルモント(a)、ジェームス・エラー(b)、ポビー・アーウィン(ds)で結成されたツアー用のバンド、ノイズ・トゥー・ゴーをバックに制作されたニック・ロウのソロ四作目。アルバム全体を通してライブを聴いているかのような統一されたドライヴ感と80年代テイスト溢れる作品で、オープニングの軽快なポップ・チューン「ウィー・ウオント・アクション」そしてそれに続く名曲「レイジング・アイズ」、軽快なレゲエナンバー「クール・リアクション」、カーレン・カーターがコーラスで参加した「愚かものへの警告」、ポール・キャラックとのデュエット「ウィッシュ・ユー・ワー・ヒー」、プリンス・アンド・ニュー・ジェネレーション時代の未発表曲を再演した「メス・アラウンド・ウィズ・ラヴ」、ムーン・マーティンのカバー「ペイド・ザ・プライス」など12曲収録。ニック・ロウの熱烈なファン層では、評価の高い作品だが、良質なポップ・アルバム。1985年発表のニック・ロウの通算8作目となるソロ・アルバム。前作で結成されたグループ、カウボーイ・アウト・フィットとの連名で出された中期の傑作アルバム。グループはポール・キャラックとマーティン・ベルモント、ポビー・アーウィンにニックを加えた4人になっている。連名になっているだけあって演奏も活き活きとしており、かなり良いコンディションとなっていることは一目瞭然。そしていつもよりもマイルドな歌いっぷりがイイ！！個人的にも彼の作品では最も聞きたい作品だが、とにかくオリジナル、カバーの両面において選曲も素晴らしい。1. からしてプリンス路線の最高の仕上がりで、一発で気に入るはず。躍動するベースにもワクワクすること必至の名曲。2. はジョン・ハイアットの書き下ろした名曲。7. はデイヴ・エドマンズに書き下ろした名曲のセルフ・カバーである。ニック・ロウの熱烈なファン層では、評価の高い作品だが、良質なポップ・アルバム。1985年発表のニック・ロウの通算8作目となるソロ・アルバム。前作で結成されたグループ、カウボーイ・アウト・フィットとの連名で出された中期の傑作アルバム。グループはポール・キャラックとマーティン・ベルモント、ポビー・アーウィンにニックを加えた4人になっている。連名になっているだけあって演奏も活き活きとしており、かなり良いコンディションとなっていることは一目瞭然。そしていつもよりもマイルドな歌いっぷりがイイ！！個人的にも彼の作品では最も聞きたい作品だが、とにかくオリジナル、カバーの両面において選曲も素晴らしい。1. からしてプリンス路線の最高の仕上がりで、一発で気に入るはず。躍動するベースにもワクワクすること必至の名曲。2. はジョン・ハイアットの書き下ろした名曲。7. はデイヴ・エドマンズに書き下ろした名曲のセルフ・カバーである。ニック・ロウの熱烈なファン層では、評価の高い作品だが、良質なポップ・アルバム。 | Side A 1. ミュー・ジック・フォー・マナー 2. プレイキング・グラス 3. リトル・ヒットラー 4. シェイク・アンド・ポップ 5. トゥナイト | Side B 1. ソー・イット・ゴーズ 2. ノー・リーズン 3. 36インチ・ハイ 4. マリ・学寮長 5. ナット・オブ・バイ・リアリティ 6. ハート・オブ・ザ・シティ |
| NICK LOWE | レイバー・オブ・ラスト |  | 1979年 | パブリック | レコード | US | | Side A 1. 恋するふたり 2. クラッキング・アップ 3. プレイン・スクラップ 4. ホーン・ファイター 5. ユー・メイク・ミー 6. スキン・ディーブ | Side B 1. スウィッチボード・シーズン 2. エンドレス・グレイ・リボン 3. ウイズアウト・ラヴ 4. ドーズ・オブ・ユー 5. ラヴ・ソフ・ファイン |
| NICK LOWE | ショウマンの悲劇 |  | 1983年 | パブリック | レコード | 日本 | 1983年発表のニック・ロウの通算8作目となるソロ・アルバム。前作で結成されたグループ、カウボーイ・アウト・フィットとの連名で出された中期の傑作アルバム。グループはポール・キャラックとマーティン・ベルモント、ポビー・アーウィンにニックを加えた4人になっている。連名になっているだけあって演奏も活き活きとしており、かなり良いコンディションとなっていることは一目瞭然。そしていつもよりもマイルドな歌いっぷりがイイ！！個人的にも彼の作品では最も聞きたい作品だが、とにかくオリジナル、カバーの両面において選曲も素晴らしい。1. からしてプリンス路線の最高の仕上がりで、一発で気に入るはず。躍動するベースにもワクワクすること必至の名曲。2. はジョン・ハイアットの書き下ろした名曲。7. はデイヴ・エドマンズに書き下ろした名曲のセルフ・カバーである。ニック・ロウの熱烈なファン層では、評価の高い作品だが、良質なポップ・アルバム。 | Side A 1. ウィ・ウオント・アクション 2. レイジング・アイズ 3. クール・リアクション 4. 愚かものへの警告 5. マン・オブ・ア・フル 6. タンク・レイ | Side B 1. ウィッシュ・ユー・ワー・ヒー 2. チェン・アン・フェーズ 3. ペイド・ザ・プライス 4. メス・アラウンド・ウィズ・ラヴ 5. セント・ピーターズ・ザ・バート 6. ハウ・ドゥ・ユートーク・トゥ・アン・エンジェル |
| NICK LOWE | ローズ・オヴ・イングランド |  | 1985年 | パブリック | レコード | 日本 | 1985年発表のニック・ロウの通算8作目となるソロ・アルバム。前作で結成されたグループ、カウボーイ・アウト・フィットとの連名で出された中期の傑作アルバム。グループはポール・キャラックとマーティン・ベルモント、ポビー・アーウィンにニックを加えた4人になっている。連名になっているだけあって演奏も活き活きとしており、かなり良いコンディションとなっていることは一目瞭然。そしていつもよりもマイルドな歌いっぷりがイイ！！個人的にも彼の作品では最も聞きたい作品だが、とにかくオリジナル、カバーの両面において選曲も素晴らしい。1. からしてプリンス路線の最高の仕上がりで、一発で気に入るはず。躍動するベースにもワクワクすること必至の名曲。2. はジョン・ハイアットの書き下ろした名曲。7. はデイヴ・エドマンズに書き下ろした名曲のセルフ・カバーである。ニック・ロウの熱烈なファン層では、評価の高い作品だが、良質なポップ・アルバム。 | Side A 1. ダーリン・エンジェル・アイズ 2. シード・ラヴ・ノー・バディ 3. 7・ナイツ・トゥ・ロック 4. ロング・ウォーク・バック 5. ローズ・オヴ・イングランド 6. ラッキー・ドッグ | Side B 1. ロックン・ロール・ブライト 2. インドア・ファイアー・ワークス 3. アイム・ライト 4. アイ・キャン・ビー・ザ・ワン・ユー 5. エヴリソング 6. ポ・ボ・スクティドル |
| Nico | チェルシー・ガール |  | 1968年10月 | オルタナティブ | レコード | UK | 内容は、フルートやストリングスがバック・アップしたフォーク色の強いポップスだというのが、ちっとも爽やかではなく、なんだか孤独感と怨念とかがネガティブな情念ばかりを感じさせます。とても上手いとはいえないヴォーカルだけど、なんとなくに残るのは確かですね。沈鬱な気分が伝染するというか。ちなみにニコはこのアレンジを「ひどすぎる」と言い、ルーは「フルートやストリングスのアレンジが素晴らしい。無難なアルバムにアレンジをすればよかったのに」と言った。 | Side A 1. 美しい季節 2. ジーズ・デイズ 3. リトル・スター 4. 冬の歌 5. イット・ウォズ・ア・プレジャー・ゼン | Side B 1. チェルシー・ガールズ 2. アイ・キープ・イット・ウィズ・マイン 3. サム・ホエア・ゼアーズ・ア・フェザー 4. ラップ・ユア・トラブルズ・イン・ドリームズ 5. ユーロージー・トゥ・レニー・ブルー |
| NIGHT RANGER | 緊急指令N.R ドーン・パトロール |  | 1982 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 82年作。80年代ハード・ロックの夜明けとも言うべき大作となったナイト・レンジャーのデビュー・アルバム。日本では「ドン・テル・ミー・ユー・ラヴ・ミー (炎の彼方)」が、某アイドルグループにイントロをパクられた事により話題となりましたが、メタルがポップ化されていく中で絶好のタイミングでリリースされた1枚だと思います。個性的なツイン・リードと華麗なキーボード、ダブル・ヴォーカルによるハーモニー、それでいて伝統的なアメリカン・ハードのダイナミズムも持ち合わせているテクニクに裏づけされた理想的なバンドです。バラード・バンドとして認知される前の勢いが、今聴いても新鮮。 | | |
| NIGHT RANGER | ミッドナイト・マッドネス |  | 1983 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 83年作。ナイト・レンジャーのセカンド・アルバムにして、彼等の大ブレイク作となった1枚。時代がにわかにはハード・ロック、メタルへの追い風を呼び始めた頃、まさにピッタリとはまったアルバム。二人の個性的なギタリスト、派手なキーボードとダブル・ヴォーカル、そしてキャッチーなサウンドは、当時はジャーニー、フォリナーに代わる存在として位置づけられていた。実際「Sister Christian」の大ヒットが、パワー・バラードという言葉業を定着させ、80年代メタルには必須となったバラード・ソングがロック・バンドにとって重要な意味を持つきっかけとなったと思えます。確かに産業ロックと呼ばれていたバンド群には、バラードのシングルが多く存在していましたが、ホイット・ストーンの様にメタル・隆盛期における派手さを兼ね備 | | |
| NILSSON | ニルソン・シュミルソン |  | 1971 | ポップス | レコード | 日本 | ポップ・シンガー(ソングライター)ハリー・ニルソンがニルソン名義で1971年に発表したアルバム。アメリカとイギリスの両国のアルバム・チャートでトップ5入りしておりゴールドディスクに認定された。全世界で大ヒットしたのが「Without You」は、全米、全英で1位を獲得。オリジナルはバッド・フィンガーのビート・ハムとム・エヴァンズが作詞作曲した楽曲であるが、イントロから始まる印象的なピアノはゲイリー・ライト、ここではラリー・ネクテルのような弾き方をしている。曲調はニルソンらしく完成度が高い壮大なバラードでこの曲を聴くためにこのアルバムを購入する価値はある。 | Side A 1. ゴッタ・ゲタップ - 2:24 2. ドライヴィング・アロング - 2:03 3. アーリー・イン・ザ・モーニング - 2:50 4. ムーンビーム・ソング - 3:22 5. ダウン - 3:25 | Side B 1. ウイズアウト・ユー 2. ココナッツ 3. レット・ザ・グッド・タイムズ・ロール 4. ジャンプ・イントゥ・ザ・ファイアー 5. アイ・ネヴァー・リーヴ・ユー |
| NILSSON | 吸血鬼ドラキュラ二世 |  | 1974 | ポップス | レコード | 日本 | リンゴ・スター製作による映画『吸血鬼ドラキュラ二世』のサウンドトラック。ニルソンは主演を務めた。『ニルソン・シュミルソン』から4曲、『シュミルソン二世』から2曲ピックアップしたもの、そして新曲「DAYBREAK」の間に、ニルソンやリンゴ・スターのセルフ、そしてポール・バックマスターによるインストでつなげたもの。 | Side A 1. 彼こそは王様 2. デイブレイク 3. ぼくの家の玄関で 4. ダウン・伯爵とメランとアンバーの出会い 5. ムーンビーム 6. みんな夢かも知れない 7. リメンバー | Side B 1. ウイズアウト・ユー 2. 伯爵への攻撃 3. ダウン 4. フランケンシュタインとメランとシュズ手術 5. ムーンビーム 6. ダウン伯爵の退位 7. ラスト・シーン(ムーンビーム) |
| NINA HAGEN BANDO | ニナ・ハーゲン・バンド |  | 1978年 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ニナ・ハーゲン・バンドのファーストアルバム。東ベルリン生まれのニナ・ハーゲンが西ベルリンで結成したバンド「ニナ・ハーゲン・バンド」の1978年1stアルバム。エキセントリック過ぎる外見と、誰も真似できない音楽スタイルで有無を言わず世界中に名を知らしめることとなったヒット作。声の野太さとは対照的にシャウトと、遊び心も感じられるバック演奏との空間の活かし方は、当スタジオならではの音といえましょう。チューブスのカバーを始め、ハードロックとパンクのエッセンスに、独自のオペラ歌唱法を取り入れた衝撃作。因みに、ニナ・ハーゲンは東ドイツに生まれ、反戦運動の首謀者として国外追放となった養父とともに、21歳で当時の西ベルリンに渡ったとのこと。 | Side A 1. TV-Glotzer (White Punks On Dope) 2. Rangehn 3. Unbeschreiblich Weiblich 4. Auf'm Bahnhof Zoo 5. Naturträne | Side B 1. Superboy 2. Heiss 3. Fisch Im Wasser 4. Auf'm Friedhof 5. Der Spinner 6. Pank |

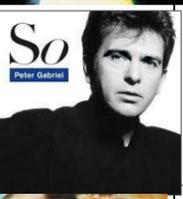
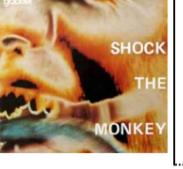
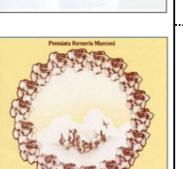
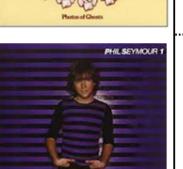
| | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------|---|-----------|---------------|------|-------|--|--|--|
| NINA HAGEN BANDO | ウンバーハーゲン |  | 1979年4月1日 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ニナ・ハーゲンバンドのセカンドアルバム。東ドイツ時代の抑圧からの解放を象徴するようなパンク/ダブ/電子音/ヨーデルが混然一体となったフツフツと音の奇曲「African Reggae」がヤバすぎ。バンドメンバーが謀反を起して決裂したが故にバックの音だけをバンドが録音してニナ・ハーゲンは後で全部一人で歌を被せただけの作品だとか。それについてこのクオリティは高い。如何にもドイト的な無機質な金属音楽系のサウンドなんだが、ニナ・ハーゲンの表現力が恐ろしいまでの破壊力を持つ。「アフリカン・レゲエ」なんか、タイトルはアフリカでも音はレゲエで音色はテクノ、しかし唄は大ヨーデル唱法という不自然の極みを、ただただ力強さで押し切る世界だった。インパクトにおいては本作が最重要作品。現在のCDはジャケットが変更されている。 | Side A 1. African Reggae 2. Alptraum 3. Wir Leben Immer... Noch (Lucky Number) 4. Wenn Ich Ein Junge War 5. Hermann Hiess Er | Side B 1. Auf'm Rummel 2. Wau Wau 3. Fall in Love Mit Mir 4. No Way [Instrumental] |
| NINE NINE NINE(999) | エマー・ジェンシー/999登場 |  | 1978 | パンク | レコード | フランス | 1976年にロンドンで結成されたパンクロックバンド999(Nine Nine Nine)のファーストアルバム。 | Side A 1. Nasty Nasty2:02 2. No Pity2:00 3. Me And My Desire3:00 4. Crazy3:35 5. Emergency2:51 6. My Street Stinks1:42 Side B 1. Feelin' Alright With The Crew3:30 2. Titanic (My Over) Reaction3:23 3. You Can't Buy Me2:45 4. Homicide4:25 | |
| NINE NINE NINE(999) | エマー・ジェンシー/999登場 |  | 1978 | パンク | CD | ヨーロッパ | |  | |
| NINE NINE NINE(999) | セパレイツ |  | 1979 | パンク | レコード | 日本 | 1976年、ヴォーカル＆ギター・ニッチがギタリストを中心に、ロンドンで結成されたパンク・バンド。 オリジナルは1978年の1stアルバムの約半年後の2ndアルバム11曲。ジャンル分けをすれば縦ノリを基調とする如何にも当時流行った音だが、この2ndあたりから既に揺りを持ち、よく聴き込めばいろんなアイデアが詰め込まれている。ヴォーカリストとしては声域が割と狭いニッチの高音が苦しそうで聴き辛いところが目立つものの、それなりに表情があるギターをメインにしたサウンド構成がそこそこ為されていて退屈はしない。パステル・カラーのカラフルなファッションで身を包んだメンバーのジャケットが表すように、ポップでお洒落なニュアンスも。ミス・ティム・ブレイク・マクノリスの1曲「Homicide」は徹夜の代表曲。あとこの | Side A 1. ホミサイド(Homicide) 4:26 2. タルス・ヒルの夜(Tulse Hill Night) 3:01 3. レアル・リエン(Rael Rean) 3:24 4. レッツ・フェイス・イット(Let's Face It) 3:50 5. クライム「犯罪」(Crime Part 1 ~ Part 2) 4:31 Side B 1. フィーリング・オーライト・ウィズ・ザ・クルー(Feelin' Alright With The Crew) 3:34 2. アウト・オブ・リーチ(Out Of Reach) 3:20 3. サブ・フェージュ(Subterfuge) 2:31 4. ウルズ(Wolfs) 3:44 | |
| NINE NINE NINE(999) | セパレイツ |  | 1979 | パンク | CD | ヨーロッパ | |  | |
| NINE NINE NINE(999L) | 高エネルギー計画 |  | 1979 | パンク | レコード | US | 999の1979年発売の全11曲入り選曲ベストアルバム。 | | |
| NINE NINE NINE(999) | コンクリート |  | 1981 | パンク | レコード | 日本 | 999がUnited Artists ~ Polydorを経てAlbionと契約しリリースした名作4th Album(81) U.K. Original 1st Press!!!! Rockabilly ~ New Wave フレイヴァーも999流に落とし込んだTotal Pop名作。 | Side A 1. ソー・グリーディ(So Greedy) 2. リトル・レッド・ライディング・フード(Little Red Riding Hood) 3. ブレイク・イット・アップ(Break It Up) 4. タブー(Taboo) 5. マーシー・マーシー(Mercy Mercy) 6. フォーチュン・テラー(Fortune Teller) Side B 1. オブセスト(Obsessed) 2. サイレント・アンガー(Silent Anger) 3. ... | |
| NINE NINE NINE(999) | コンクリート |  | 1981 | パンク | レコード | UK | | | |
| NIRVANA | ネヴァーマインド |  | 1991 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | アメリカ | 1991年9月にリリースされたニルヴァーナの2年目のアルバムとメジャーレーベルデビューは、カート・コバーン、クリスト・ノボセリック、デブ・グロウルを、ワシントン州アバティーンのカルト・バンドから、無意識のうちに文化的転換と音楽の試金石を生み出した世代のスポークスマンに昇格させた。年末までに世界No.1に上がり、最終的には世界中で3000万枚以上を売り上げ、Nevermindは、その時代の最も成功し、影響力のあるアルバムの一つ以上になるでしょう。影響を受けないロックロールの完全性と情熱をチャートのトップに戻したアルバムとして、Nevermindは過去20年間にファンやミュージシャンに特異なインスピレーションを与えるでしょう。そして、間違いなく世代のためにそうするでしょう | SIDE A 1. スメルズ・ライク・ティーン・スピリット 2. イン・ブルーム 3. カム・アズ・ユー・アー 4. フリード 5. リチウム 6. ボーリー SIDE B 1. テリリアル・ピッキングス 2. ドレイン・ユー 3. ラウンジ・アクト 4. ... | |
| NIRVANA | ネヴァーマインド |  | 1991 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | | | |
| NIRVANA | アンブラグド・イン・ニューヨーク |  | 1994 | ハードロック/ヘヴィメタル | CD | US | 本作は、カート・コバーンの不慮の死の前に録音されたニルヴァーナ最後のアルバムである。その怒りを抑え余分な音を削ぎ落としたアコースティック・サウンドは、多くの人に驚きを持って迎えられた。「おれは嘗て拳銃を握らない、握らない」とコバーンが歯を食いしばって歌うときや、耳について離れない初期のナンバー「About a Girl」がその穏やかなギターにもかわらず身を凍らせるとき、その微妙な陰影にリスナーは近年屈指のバンドであるニルヴァーナのまた新たな一面を発見することだろう。また、カヴァー曲も本作のハイライトであり、ミート・パベツの3曲(スペシャル・ゲストにそのカレッジロックバンドのメンバーであるカートとクリス・カークウッド兄弟を迎えている)や、チェロが泣きむせぶヴァセリンスの「Jesus Doesn't Want Me for a Sunbeam」や、デヴィッド・ボウイの「The Man Who Sold the World」が収録されている。 | 1. アバウト・ア・ガール 2. カム・アズ・ユー・アー 3. ジーザス・ダズント・ウォント・ミー・フォー・ア・サンビーム 4. 世界を売った男 5. ベニーロイヤル・ティ 6. ダム 7. ボーリー 8. オン・ア・ブレイン 9. サムシング・イン・ザ・ウェイ 10. フラト 11. ... | |
| NOLANS | セクシー・ミュージック |  | | ポップス | レコード | 日本 | 日本独特企画のベスト・アルバム。80年初頭、本国イギリスより日本で絶大な人気を持ち誇ったノーランズ。が今の若い人達にはかのwinkが⑥をカヴァーヒットさせているといった方が判りやすいかも。極上のポップスは時が経ても未だ色褪せない。 | A面 1. Sexy Music (セクシー・ミュージック) 2. Gotta Pull Myself Together (恋のハッピー・デート) 3. Don't Make Waves 4. All the King's Horses 5. Boogie All Summer 6. Spirit, Body and Soul B面 1. Who's Gonna Rock You (ときめきTWENTY) 2. I'm in the Mood for Dancing (ダンシング・シス) | |
| NRBQ 「New Rhythm and Blues Quintet」 | アット・ヤンキー・スタジアム |  | 1978 | ロック | CD | US | 1978年リリース。マーキュリーに残した唯一の作品にして最高傑作。デビューから9年目に発表したアルバムで、デビュー以来、全米のバーを隈なく転戦することで培った実力がレコードに思いつく限り詰め込まれた1枚となっている。レコードに針を落とすと、聴こえてくるゴキゲンなロックンロールに身を委ねると、気分良く呑み込むこと間違いなしの1枚なのだ。収録曲は13曲。1曲目の「グリーン・ライツ」からノリのポップなロックンロールナンバーが多く収録されており、バンドの魅力がストレートに伝えてくれる。また、「アイ・ラヴ・ハー、シー・ラヴズ・ミー」はロマンティックなラブソングでNRBQファンの間ではウェディング・ソングとしてよく使われている。途中で入るピアノは何とおもちゃのピアノで演奏されており、さりげない遊び心も魅力的だ。 | 1. グリーン・ライツ 2. ジャスト・エイント・フェア 3. アイ・ラヴ・ハー、シー・ラヴズ・ミー 4. ゲット・リズム 5. ゴット・ニート、ザッツ・ナイス 6. エイント・ノー・フリー 7. アイ・ウォント・ユー・バンド 8. ゴ・セイム・オールド・シング 9. イェス、イェス、イェス 10. イット・カムズ・トゥ・ミー・ナチュラルリー 11. トゥー・トゥー 12. ... | |
| 101'ers | ビートミュージックダイナマイト! |  | | パブロック | CD | | 11トラックの拡張リイシュー 2003 LP: ビートミュージックダイナマイト ◆1 to 5: パスウェイスタジオ、ロンドン、N5、1976年3月1日 ◆6~7: 地下室リハーサル、42オーセットテラス、ロンドン、W2、1976年1月 ◆8~9: 地下室リハーサル、42オーセットテラス、ロンドン、W2、1975年12月 ◆10~12: 地下室リハーサル、42オーセットテラス、ロンドン、W2、1976年2月 ◆13 to 19: Live at The Blue Note Club, London, December 1975 (スリーブに日付が誤って December 1976 と記載されている) | 1. Keys To Your Heart 2. Instrumental City 3. Sweet Revenge 4. Surf City 5. Five Star Rock'n Roll 6. Surf City 7. Sweet Revenge 8. Heartbreak Hotel (1) 9. Heartbreak Hotel (2) 10. Sweet Revenge 11. Surf City 12. Keys To Your Heart | |
| Octopus | (ペーパーズ・スリーブ仕様) レストレス・ナイト |  | 1970 | ロック | CD | 日本 | 70年作の唯一のアルバム。美しいメロディー・ラインと骨太なロック・アンサンブル。なんと「けだるい」サウンドがいかにもこの時代ならではの「ニッチ」な好盤。 品の無いジャケットからしてドロドロのアンダーグラウンド・ロックを想起させますが、実際のサウンドは、ビート・ポップ・レイト60'sサイケ・ポップと続いた英国ポップの伝統を受け継ぎ、ハード・ロック、プログレの波を真正面から受け止め、オリジナルなサウンドを目指したバンドの野心が感じられる魅力的なプリティッシュ・ロック作品。美しいメロディー・ラインと骨太なロック・アンサンブル。なんと「けだるい」サウンドがいかにもこの時代ならではの「ニッチ」な好盤。 | 1. The River 2. Summer 3. Council Plans 4. Restless Night 5. Thief 6. Queen And The Pauper 7. I Say 8. John's Rock 9. Rainchild 10. Tide 以下、CDボーナス・トラック | |

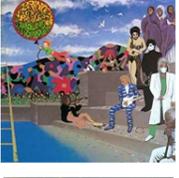
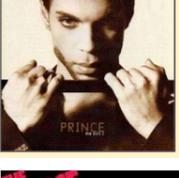
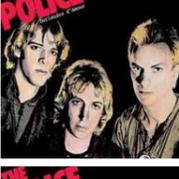
| | | | | | | | | | |
|--------------------|--------------|---|------------|---------|------|----|--|--|--|
| BOINGO BOINGO | オンリー・ア・ランド |  | 1981 | ニューウェーブ | CD | 日本 | ティム・バートンの映画音楽で有名なダニー・エルフマンを中心としたバンド。バートンが彼らの大ファンだったことから「バットマン」のスコアを依頼したのがそもその始まりで、その後も監督との二人三脚といつていい体制を築きつつ「マーズ・アタック」「チャーリーとチョコレート工場」など数多くの良質なスコアを残した。ちょっとカントリーロック風味の馬鹿馬鹿しさとタイトとゆーか攻撃的な演奏が格好良い。特にシンセとギターの微妙な安っぽさが妙な緊張感つーか焦燥感を煽ってて素敵。オブリガートのシンセ最高！ | 1. Little Girls 2. Perfect System 3. On The Outside 4. Capitalism 5. You Really Got Me 6. Only A Lad 7. What You See 8. Controller 9. Imposter 10. Nasty Habits | |
| OLIVIA NEWTON-JOHN | レット・ミー・ビー・ゼア |  | 1973年3月20日 | ポップス | レコード | 日本 | 1971年にアルバム『イフ・ノット・フォー・ユー/オリヴィア・ニュートン＝ジョン・デビュー』がポリドールからリリースされた後、アルバムの日本盤発売は見送られていた。その後、レーベルが東芝EMIに移り、1974年に新譜のアルバム『とこしえの愛 (Long Live Love)』の日本盤が出たに次いで、それまでの4枚のアルバム(ハイ・インターナショナルの『Olivia Newton-John』『Olivia』『Music Makes My Day』と、MCAの『If You Love Me, Let Me Know』)から編集した「ベスト・アルバム」として『レット・ミー・ビー・ゼア』が発表された。このため、アルバム名は米国盤/オーストラリア盤、ジャケットは英国盤/オーストラリア盤と共通しているが、収録曲は大きく異なる。 | Side A 1. イフ・ノット・フォー・ユー 2. バンクス・オブ・ザ・オハイオ 3. ラヴ・ソング (Love Song) 4. ウィンターウッド (Winterwood) 5. 涙の思い出 (Everything I Own) 6. ワット・イズ・ライフ (美しき人生) (What Is Life)) | Side B 1. カントリー・ロード (Take Me Home, Country Roads) 2. アムルーズ (恋人) (Amoureuse) 3. レット・ミー・ビー・ゼア 4. チェンジ (Change) 5. ミュージック・メイクス・マイ・デイ (Music Makes My Day) 6. 愛しい貴方 (If You Love Me (Let Me Know)) |
| OLIVIA NEWTON-JOHN | とこしえの愛 |  | 1974年2月 | ポップス | レコード | 日本 | 74年発表、4th「とこしえの愛」、9曲目「愛の告白 (I Honestly Love You)」が全米1位に輝き、グラミー賞を受賞した。オリヴィアのアルバムと言えば、「そよ風の誘惑」など他の作品を挙げた人が多いと思いますが、もちろんそれはそれで良い出来なのですが、一枚だけ選べ、と言われれば自分はこれを選びます。このアルバムは、とにかく曲調がバラエティに富んでいて飽きません。名曲「愛の告白」や「Someday」のような最高に美しいバラードもあれば、ビートの「ちょっと」効いた曲や、ストリングスアレンジが「ちょっと」壮大で、かつ「ちょっと」どん臭い感じの曲まで、幅広く揃っているのが面白い。このアルバムには、イタリアンポップスや歌謡曲にも通じる親しみやすさがあると思います。もっと評価されてもいいアルバム | | |
| OLIVIA NEWTON-JOHN | そよ風の誘惑 |  | 1975年2月12日 | ポップス | レコード | 日本 | 1975年発表のオリヴィア・ニュートン＝ジョンのアルバム。TVCM等で使用されている「そよ風の誘惑」が全米1位に輝き、グラミー賞を受賞した。オリヴィアのアルバムと言えば、「そよ風の誘惑」など他の作品を挙げた人が多いと思いますが、もちろんそれはそれで良い出来なのですが、一枚だけ選べ、と言われれば自分はこれを選びます。このアルバムは、とにかく曲調がバラエティに富んでいて飽きません。名曲「愛の告白」や「Someday」のような最高に美しいバラードもあれば、ビートの「ちょっと」効いた曲や、ストリングスアレンジが「ちょっと」壮大で、かつ「ちょっと」どん臭い感じの曲まで、幅広く揃っているのが面白い。このアルバムには、イタリアンポップスや歌謡曲にも通じる親しみやすさがあると思います。もっと評価されてもいいアルバム | Side A 1. そよ風の誘惑 2. 貴方の腕の中で 3. 生命の河 4. グッド・バイ・アゲイン 5. 哀しみの架け橋 6. ラヴ・ソングは歌わない | Side B 1. イッツ・ソー・イージー 2. 安らぎの世界へ 3. フォロー・ミー 4. 朝もやに包まれて 5. プリーズ・MR・プリーズ 6. 愛の告白 |
| OLIVIA NEWTON-JOHN | クリアリー・ラヴ |  | 1975年9月30日 | ポップス | レコード | 日本 | 1975年発表のオリヴィア・ニュートン＝ジョンのアルバム。TVCM等で使用されている「そよ風の誘惑」が全米1位に輝き、グラミー賞を受賞した。オリヴィアのアルバムと言えば、「そよ風の誘惑」など他の作品を挙げた人が多いと思いますが、もちろんそれはそれで良い出来なのですが、一枚だけ選べ、と言われれば自分はこれを選びます。このアルバムは、とにかく曲調がバラエティに富んでいて飽きません。名曲「愛の告白」や「Someday」のような最高に美しいバラードもあれば、ビートの「ちょっと」効いた曲や、ストリングスアレンジが「ちょっと」壮大で、かつ「ちょっと」どん臭い感じの曲まで、幅広く揃っているのが面白い。このアルバムには、イタリアンポップスや歌謡曲にも通じる親しみやすさがあると思います。もっと評価されてもいいアルバム | Side A 1. 秋風のバラード 2. 愛しあつた二人 3. スロー・ダウン・ジャクソン 4. ヒーズ・マイ・ロック 5. 夢のかなたへ | Side B 6. 愛らしい嘘 7. クリアリー・ラヴ 8. レット・イット・シャイン 9. サマータイム・ブルース 10. 忘れられた人々 11. 兄弟の誓い |
| OLIVIA NEWTON-JOHN | 水のなかの妖精 |  | 1976年2月29日 | ポップス | レコード | 日本 | 日本独自のアレンジが、サウンドにより失われた曲となった「ジョー・ジョー」(Joe Joe) (Part 1) (Part 2) (Part 3) (Part 4) (Part 5) (Part 6) (Part 7) (Part 8) (Part 9) (Part 10) (Part 11) (Part 12) (Part 13) (Part 14) (Part 15) (Part 16) (Part 17) (Part 18) (Part 19) (Part 20) (Part 21) (Part 22) (Part 23) (Part 24) (Part 25) (Part 26) (Part 27) (Part 28) (Part 29) (Part 30) (Part 31) (Part 32) (Part 33) (Part 34) (Part 35) (Part 36) (Part 37) (Part 38) (Part 39) (Part 40) (Part 41) (Part 42) (Part 43) (Part 44) (Part 45) (Part 46) (Part 47) (Part 48) (Part 49) (Part 50) (Part 51) (Part 52) (Part 53) (Part 54) (Part 55) (Part 56) (Part 57) (Part 58) (Part 59) (Part 60) (Part 61) (Part 62) (Part 63) (Part 64) (Part 65) (Part 66) (Part 67) (Part 68) (Part 69) (Part 70) (Part 71) (Part 72) (Part 73) (Part 74) (Part 75) (Part 76) (Part 77) (Part 78) (Part 79) (Part 80) (Part 81) (Part 82) (Part 83) (Part 84) (Part 85) (Part 86) (Part 87) (Part 88) (Part 89) (Part 90) (Part 91) (Part 92) (Part 93) (Part 94) (Part 95) (Part 96) (Part 97) (Part 98) (Part 99) (Part 100) (Part 101) (Part 102) (Part 103) (Part 104) (Part 105) (Part 106) (Part 107) (Part 108) (Part 109) (Part 110) (Part 111) (Part 112) (Part 113) (Part 114) (Part 115) (Part 116) (Part 117) (Part 118) (Part 119) (Part 120) (Part 121) (Part 122) (Part 123) (Part 124) (Part 125) (Part 126) (Part 127) (Part 128) (Part 129) (Part 130) (Part 131) (Part 132) (Part 133) (Part 134) (Part 135) (Part 136) (Part 137) (Part 138) (Part 139) (Part 140) (Part 141) (Part 142) (Part 143) (Part 144) (Part 145) (Part 146) (Part 147) (Part 148) (Part 149) (Part 150) (Part 151) (Part 152) (Part 153) (Part 154) (Part 155) (Part 156) (Part 157) (Part 158) (Part 159) (Part 160) (Part 161) (Part 162) (Part 163) (Part 164) (Part 165) (Part 166) (Part 167) (Part 168) (Part 169) (Part 170) (Part 171) (Part 172) (Part 173) (Part 174) (Part 175) (Part 176) (Part 177) (Part 178) (Part 179) (Part 180) (Part 181) (Part 182) (Part 183) (Part 184) (Part 185) (Part 186) (Part 187) (Part 188) (Part 189) (Part 190) (Part 191) (Part 192) (Part 193) (Part 194) (Part 195) (Part 196) (Part 197) (Part 198) (Part 199) (Part 200) (Part 201) (Part 202) (Part 203) (Part 204) (Part 205) (Part 206) (Part 207) (Part 208) (Part 209) (Part 210) (Part 211) (Part 212) (Part 213) (Part 214) (Part 215) (Part 216) (Part 217) (Part 218) (Part 219) (Part 220) (Part 221) (Part 222) (Part 223) (Part 224) (Part 225) (Part 226) (Part 227) (Part 228) (Part 229) (Part 230) (Part 231) (Part 232) (Part 233) (Part 234) (Part 235) (Part 236) (Part 237) (Part 238) (Part 239) (Part 240) (Part 241) (Part 242) (Part 243) (Part 244) (Part 245) (Part 246) (Part 247) (Part 248) (Part 249) (Part 250) (Part 251) (Part 252) (Part 253) (Part 254) (Part 255) (Part 256) (Part 257) (Part 258) (Part 259) (Part 260) (Part 261) (Part 262) (Part 263) (Part 264) (Part 265) (Part 266) (Part 267) (Part 268) (Part 269) (Part 270) (Part 271) (Part 272) (Part 273) (Part 274) (Part 275) (Part 276) (Part 277) (Part 278) (Part 279) (Part 280) (Part 281) (Part 282) (Part 283) (Part 284) (Part 285) (Part 286) (Part 287) (Part 288) (Part 289) (Part 290) (Part 291) (Part 292) (Part 293) (Part 294) (Part 295) (Part 296) (Part 297) (Part 298) (Part 299) (Part 300) (Part 301) (Part 302) (Part 303) (Part 304) (Part 305) (Part 306) (Part 307) (Part 308) (Part 309) (Part 310) (Part 311) (Part 312) (Part 313) (Part 314) (Part 315) (Part 316) (Part 317) (Part 318) (Part 319) (Part 320) (Part 321) (Part 322) (Part 323) (Part 324) (Part 325) (Part 326) (Part 327) (Part 328) (Part 329) (Part 330) (Part 331) (Part 332) (Part 333) (Part 334) (Part 335) (Part 336) (Part 337) (Part 338) (Part 339) (Part 340) (Part 341) (Part 342) (Part 343) (Part 344) (Part 345) (Part 346) (Part 347) (Part 348) (Part 349) (Part 350) (Part 351) (Part 352) (Part 353) (Part 354) (Part 355) (Part 356) (Part 357) (Part 358) (Part 359) (Part 360) (Part 361) (Part 362) (Part 363) (Part 364) (Part 365) (Part 366) (Part 367) (Part 368) (Part 369) (Part 370) (Part 371) (Part 372) (Part 373) (Part 374) (Part 375) (Part 376) (Part 377) (Part 378) (Part 379) (Part 380) (Part 381) (Part 382) (Part 383) (Part 384) (Part 385) (Part 386) (Part 387) (Part 388) (Part 389) (Part 390) (Part 391) (Part 392) (Part 393) (Part 394) (Part 395) (Part 396) (Part 397) (Part 398) (Part 399) (Part 400) (Part 401) (Part 402) (Part 403) (Part 404) (Part 405) (Part 406) (Part 407) (Part 408) (Part 409) (Part 410) (Part 411) (Part 412) (Part 413) (Part 414) (Part 415) (Part 416) (Part 417) (Part 418) (Part 419) (Part 420) (Part 421) (Part 422) (Part 423) (Part 424) (Part 425) (Part 426) (Part 427) (Part 428) (Part 429) (Part 430) (Part 431) (Part 432) (Part 433) (Part 434) (Part 435) (Part 436) (Part 437) (Part 438) (Part 439) (Part 440) (Part 441) (Part 442) (Part 443) (Part 444) (Part 445) (Part 446) (Part 447) (Part 448) (Part 449) (Part 450) (Part 451) (Part 452) (Part 453) (Part 454) (Part 455) (Part 456) (Part 457) (Part 458) (Part 459) (Part 460) (Part 461) (Part 462) (Part 463) (Part 464) (Part 465) (Part 466) (Part 467) (Part 468) (Part 469) (Part 470) (Part 471) (Part 472) (Part 473) (Part 474) (Part 475) (Part 476) (Part 477) (Part 478) (Part 479) (Part 480) (Part 481) (Part 482) (Part 483) (Part 484) (Part 485) (Part 486) (Part 487) (Part 488) (Part 489) (Part 490) (Part 491) (Part 492) (Part 493) (Part 494) (Part 495) (Part 496) (Part 497) (Part 498) (Part 499) (Part 500) (Part 501) (Part 502) (Part 503) (Part 504) (Part 505) (Part 506) (Part 507) (Part 508) (Part 509) (Part 510) (Part 511) (Part 512) (Part 513) (Part 514) (Part 515) (Part 516) (Part 517) (Part 518) (Part 519) (Part 520) (Part 521) (Part 522) (Part 523) (Part 524) (Part 525) (Part 526) (Part 527) (Part 528) (Part 529) (Part 530) (Part 531) (Part 532) (Part 533) (Part 534) (Part 535) (Part 536) (Part 537) (Part 538) (Part 539) (Part 540) (Part 541) (Part 542) (Part 543) (Part 544) (Part 545) (Part 546) (Part 547) (Part 548) (Part 549) (Part 550) (Part 551) (Part 552) (Part 553) (Part 554) (Part 555) (Part 556) (Part 557) (Part 558) (Part 559) (Part 560) (Part 561) (Part 562) (Part 563) (Part 564) (Part 565) (Part 566) (Part 567) (Part 568) (Part 569) (Part 570) (Part 571) (Part 572) (Part 573) (Part 574) (Part 575) (Part 576) (Part 577) (Part 578) (Part 579) (Part 580) (Part 581) (Part 582) (Part 583) (Part 584) (Part 585) (Part 586) (Part 587) (Part 588) (Part 589) (Part 590) (Part 591) (Part 592) (Part 593) (Part 594) (Part 595) (Part 596) (Part 597) (Part 598) (Part 599) (Part 600) (Part 601) (Part 602) (Part 603) (Part 604) (Part 605) (Part 606) (Part 607) (Part 608) (Part 609) (Part 610) (Part 611) (Part 612) (Part 613) (Part 614) (Part 615) (Part 616) (Part 617) (Part 618) (Part 619) (Part 620) (Part 621) (Part 622) (Part 623) (Part 624) (Part 625) (Part 626) (Part 627) (Part 628) (Part 629) (Part 630) (Part 631) (Part 632) (Part 633) (Part 634) (Part 635) (Part 636) (Part 637) (Part 638) (Part 639) (Part 640) (Part 641) (Part 642) (Part 643) (Part 644) (Part 645) (Part 646) (Part 647) (Part 648) (Part 649) (Part 650) (Part 651) (Part 652) (Part 653) (Part 654) (Part 655) (Part 656) (Part 657) (Part 658) (Part 659) (Part 660) (Part 661) (Part 662) (Part 663) (Part 664) (Part 665) (Part 666) (Part 667) (Part 668) (Part 669) (Part 670) (Part 671) (Part 672) (Part 673) (Part 674) (Part 675) (Part 676) (Part 677) (Part 678) (Part 679) (Part 680) (Part 681) (Part 682) (Part 683) (Part 684) (Part 685) (Part 686) (Part 687) (Part 688) (Part 689) (Part 690) (Part 691) (Part 692) (Part 693) (Part 694) (Part 695) (Part 696) (Part 697) (Part 698) (Part 699) (Part 700) (Part 701) (Part 702) (Part 703) (Part 704) (Part 705) (Part 706) (Part 707) (Part 708) (Part 709) (Part 710) (Part 711) (Part 712) (Part 713) (Part 714) (Part 715) (Part 716) (Part 717) (Part 718) (Part 719) (Part 720) (Part 721) (Part 722) (Part 723) (Part 724) (Part 725) (Part 726) (Part 727) (Part 728) (Part 729) (Part 730) (Part 731) (Part 732) (Part 733) (Part 734) (Part 735) (Part 736) (Part 737) (Part 738) (Part 739) (Part 740) (Part 741) (Part 742) (Part 743) (Part 744) (Part 745) (Part 746) (Part 747) (Part 748) (Part 749) (Part 750) (Part 751) (Part 752) (Part 753) (Part 754) (Part 755) (Part 756) (Part 757) (Part 758) (Part 759) (Part 760) (Part 761) (Part 762) (Part 763) (Part 764) (Part 765) (Part 766) (Part 767) (Part 768) (Part 769) (Part 770) (Part 771) (Part 772) (Part 773) (Part 774) (Part 775) (Part 776) (Part 777) (Part 778) (Part 779) (Part 780) (Part 781) (Part 782) (Part 783) (Part 784) (Part 785) (Part 786) (Part 787) (Part 788) (Part 789) (Part 790) (Part 791) (Part 792) (Part 793) (Part 794) (Part 795) (Part 796) (Part 797) (Part 798) (Part 799) (Part 800) (Part 801) (Part 802) (Part 803) (Part 804) (Part 805) (Part 806) (Part 807) (Part 808) (Part 809) (Part 810) (Part 811) (Part 812) (Part 813) (Part 814) (Part 815) (Part 816) (Part 817) (Part 818) (Part 819) (Part 820) (Part 821) (Part 822) (Part 823) (Part 824) (Part 825) (Part 826) (Part 827) (Part 828) (Part 829) (Part 830) (Part 831) (Part 832) (Part 833) (Part 834) (Part 835) (Part 836) (Part 837) (Part 838) (Part 839) (Part 840) (Part 841) (Part 842) (Part 843) (Part 844) (Part 845) (Part 846) (Part 847) (Part 848) (Part 849) (Part 850) (Part 851) (Part 852) (Part 853) (Part 854) (Part 855) (Part 856) (Part 857) (Part 858) (Part 859) (Part 860) (Part 861) (Part 862) (Part 863) (Part 864) (Part 865) (Part 866) (Part 867) (Part 868) (Part 869) (Part 870) (Part 871) (Part 872) (Part 873) (Part 874) (Part 875) (Part 876) (Part 877) (Part 878) (Part 879) (Part 880) (Part 881) (Part 882) (Part 883) (Part 884) (Part 885) (Part 886) (Part 887) (Part 888) (Part 889) (Part 890) (Part 891) (Part 892) (Part 893) (Part 894) (Part 895) (Part 896) (Part 897) (Part 898) (Part 899) (Part 900) (Part 901) (Part 902) (Part 903) (Part 904) (Part 905) (Part 906) (Part 907) (Part 908) (Part 909) (Part 910) (Part 911) (Part 912) (Part 913) (Part 914) (Part 915) (Part 916) (Part 917) (Part 918) (Part 919) (Part 920) (Part 921) (Part 922) (Part 923) (Part 924) (Part 925) (Part 926) (Part 927) (Part 928) (Part 929) (Part 930) (Part 931) (Part 932) (Part 933) (Part 934) (Part 935) (Part 936) (Part 937) (Part 938) (Part 939) (Part 940) (Part 941) (Part 942) (Part 943) (Part 944) (Part 945) (Part 946) (Part 947) (Part 948) (Part 949) (Part 950) (Part 951) (Part 952) (Part 953) (Part 954) (Part 955) (Part 956) (Part 957) (Part 958) (Part 959) (Part 960) (Part 961) (Part 962) (Part 963) (Part 964) (Part 965) (Part 966) (Part 967) (Part 968) (Part 969) (Part 970) (Part 971) (Part 972) (Part 973) (Part 974) (Part 975) (Part 976) (Part 977) (Part 978) (Part 979) (Part 980) (Part 981) (Part 982) (Part 983) (Part 984) (Part 985) (Part 986) (Part 987) (Part 988) (Part 989) (Part 990) (Part 991) (Part 992) (Part 993) (Part 994) (Part 995) (Part 996) (Part 997) (Part 998) (Part 999) (Part 1000) (Part 1001) (Part 1002) (Part 1003) (Part 1004) (Part 1005) (Part 1006) (Part 1007) (Part 1008) (Part 1009) (Part 1010) (Part 1011) (Part 1012) (Part 1013) (Part 1014) (Part 1015) (Part 1016) (Part 1017) (Part 1018) (Part 1019) (Part 1020) (Part 1021) (Part 1022) (Part 1023) (Part 1024) (Part 1025) (Part 1026) (Part 1027) (Part 1028) (Part 1029) (Part 1030) (Part 1031) (Part 1032) (Part 1033) (Part 1034) (Part 1035) (Part 1036) (Part 1037) (Part 1038) (Part 1039) (Part 1040) (Part 1041) (Part 1042) (Part 1043) (Part 1044) (Part 1045) (Part 1046) (Part 1047) (Part 1048) (Part 1049) (Part 1050) (Part 1051) (Part 1052) (Part 1053) (Part 1054) (Part 1055) (Part 1056) (Part 1057) (Part 1058) (Part 1059) (Part 1060) (Part 1061) (Part 1062) (Part 1063) (Part 1064) (Part 1065) (Part 1066) (Part 1067) (Part 1068) (Part 1069) (Part 1070) (Part 1071) (Part 1072) (Part 1073) (Part 1074) (Part 1075) (Part 1076) (Part 1077) (Part 1078) (Part 1079) (Part 1080) (Part 1081) (Part 1082) (Part 1083) (Part 1084) (Part 1085) (Part 1086) (Part 1087) (Part 1088) (Part 1089) (Part 1090) (Part 1091) (Part 1092) (Part 1093) (Part 1094) (Part 1095) (Part 1096) (Part 1097) (Part 1098) (Part 1099) (Part 1100) (Part 1101) (Part 1102) (Part 1103) (Part 1104) (Part 1105) (Part 1106) (Part 1107) (Part 1108) (Part 1109) (Part 1110) (Part 1111) (Part 1112) (Part 1113) (Part 1114) (Part 1115) (Part 1116) (Part 1117) (Part 1118) (Part 1119) (Part 1120) (Part 1121) (Part 1122) (Part 1123) (Part 1124) (Part 1125) (Part 1126) (Part 1127) (Part 1128) (Part 1129) (Part 1130) (Part 1131) (Part 1132) (Part 1133) (Part 1134) (Part 1135) (Part 1136) (Part 1137) (Part 1138) (Part 1139) (Part 1140) (Part 1141) (Part 1142) (Part 1143) (Part 1144) (Part 1145) (Part 1146) (Part 1147) (Part 1148) (Part 1149) (Part 1150) (Part 1151) (Part 1152) (Part 1153) (Part 1154) (Part 1155) (Part 1156) (Part 1157) (Part 1158) (Part 1159) (Part 1160) (Part 1161) (Part 1162) (Part 1163) (Part 1164) (Part 1165) (Part 1166) (Part 1167) (Part 1168) (Part 1169) (Part 1170) (Part 1171) (Part 1172) (Part 1173) (Part 1174) (Part 1175) (Part 1176) (Part 1177) (Part 1178) (Part 1179) (Part 1180) (Part 1181) (Part 1182) (Part 1183) (Part 1184) (Part 1185) (Part 1186) (Part 1187) (Part 1188) (Part 1189) (Part 1190) (Part 1191) (Part 1192) (Part 1193) (Part 1194) (Part 1195) (Part 1196) (Part 1197) (Part 1198) (Part 1199) (Part 1200) (Part 1201) (Part 1202) (Part 1203) (Part 1204) (Part 1205) (Part 1206) (Part 1207) (Part 1208) (Part 1209) (Part 1210) (Part 1211) (Part 1212) (Part 1213) (Part 1214) (Part 1215) (Part 1216) (Part 1217) (Part 1218) (Part 1219) (Part 1220) (Part 1221) (Part 1222) (Part 1223) (Part 1224) (Part 1225) (Part 1226) (Part 1227) (Part 1228) (Part 1229) (Part 1230) (Part 1231) (Part 1232) (Part 1233) (Part 1234) (Part 1235) (Part 1236) (Part 1237) (Part 1238) (Part 1239) (Part 1240) (Part 1241) (Part 1242) (Part 1243) (Part 1244) (Part 1245) (Part 1246) (Part 1247) (Part 1248) (Part 1249) (Part 1250) (Part 1251) (Part 1252) (Part 1253) (Part 1254) (Part 1255) (Part 1256) (Part 1257) (Part 1258) (Part 1259) (Part 1260) (Part 1261) (Part 1262) (Part 1263) (Part 1264) (Part 1265) (Part 1266) (Part 1267) (Part 1268) (Part 1269) (Part 1270) (Part 1271) (Part 1272) (Part 1273) (Part 1274) (Part 1275) (Part 1276) (Part 1277) (Part 1278) (Part 1279) (Part 1280) (Part 1281) (Part 1282) (Part 1283) (Part 1284) (Part 1285) (Part 1286) (Part 1287) (Part 1288) (Part 1289) (Part 1290) (Part 1291) (Part 1292) (Part 1293) (Part 1294) (Part 1295) (Part 1296) (Part 1297) (Part 1298) (Part 1299) (Part 1300) (Part 1301) (Part 1302) (Part 1303) (Part 1304) (Part 1305) (Part 1306) (Part 1307) (Part 1308) (Part 1309) (Part 1310) (Part 1311) (Part 1312) (Part 1313) (Part 1314) (Part 1315) (Part 1316) (Part 1317) (Part 1318) (Part 1319) (Part 1320) (Part 1321) (Part 1322) (Part 1323) (Part 1324) (Part 1325) (Part 1326) (Part 1327) (Part 1328) (Part 1329) (Part 1330) (Part 1331) (Part 1332) (Part 1333) (Part 1334) (Part 1335) (Part 1336) (Part 1337) (Part 1338) (Part 1339) (Part 1340) (Part 1341) (Part 1342) (Part 1343) (Part 1344) (Part 1345) (Part 1346) (Part 1347) (Part 1348) (Part 1349) (Part 1350) (Part 1351) (Part 1352) (Part 1353) (Part 1354) (Part 1355) (Part 1356) (Part 1357) (Part 1358) (Part 1359) (Part 1360) (Part 1361) (Part 1362) (Part 1363) (Part 1364) (Part 1365) (Part 1366) (Part 1367) (Part 1368) (Part 1369) (Part 1370) (Part 1371) (Part 1372) (Part 1373) (Part 1374) (Part 1375) (Part 1376) (Part 1377) (Part 1378) (Part 1379) (Part 1380) (Part 1381) (Part 1382) (Part 1383) (Part 1384) (Part 1385) (Part 1386) (Part 1387) (Part 1388) (Part 1389) (Part 1390) (Part 1391) (Part 1392) (Part 1393) (Part 1394) (Part 1395) (Part 1396) (Part 1397) (Part 1398) (Part 1399) (Part 1400) (Part 1401) (Part 1402) (Part 1403) (Part 1404) (Part 1405) (Part 1406) (Part 1407) (Part 1408) (Part 1409) (| | |

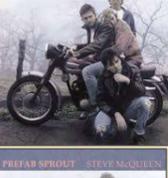
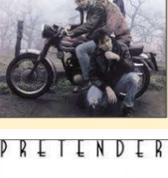
| | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|--------------------------|---|------|----------|------|-----|---|---|--|
| | ONRLY ONES | ベイビーズ・ゴット・ガン |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | US | | | |
| | ORANGE JUICE | |  | 1982 | ネオアコ | レコード | UK | | | |
| | ORANGE JUICE | リップ・イット・アップ |  | 1982 | ネオアコ | レコード | UK | | | |
| | ORANGE JUICE | |  | 1984 | ネオアコ | レコード | UK | | | |
| | ORCHESTRAL MANOEUVRES | エレクトロニック・ファンタジー |  | 1980 | エレクトロニック | レコード | 日本 | OMDの記念すべきファーストアルバム、エレポップの伝説的名盤。クラフトワークのライブに衝撃を受け、シンセ音楽に目覚めたという彼ら。この作品はその衝撃を自分たちの手でも再現すべく制作されたデビュー盤(80年)にして最もクラフトワークの影響をダイレクトに反映した作風。キャリア的にもやや異色か。ファミコン仕様の電子音が縦横無尽に網羅され、硬質でサイバーな世界観を構築。この後開花するポップセンスはまだ未熟で、全体的にミニマルな展開、如何にもEARLY NEW WAVEといった趣だが、これが原点であり、始まりなわけだから語る上では外せない重要作 | | |
| | ORCHESTRAL MANOEUVRES | オーケストラ・マヌーヴァーズ・イン・ザ・ダーク |  | 1981 | エレクトロニック | レコード | US | 大ヒット曲「エノラゲイの悲劇」を入れたアメリカ仕様のアルバム？日本盤と5曲が違う。 | | |
| | OTIS REDDING | オーティスブルー |  | 1965 | ソウル | レコード | ドイツ | ソウル・シンガーのオーティス・レディングの3枚目のアルバムで、多くの批評家がレディングの最初の偉大なアルバムと言われている。1965年4月と7月に収録され、同年9月15日に発売されました。オーティス・ブルーには、1964年12月に亡くなったレディングのアイドル、サム・クックの3曲のカバーが収録されている。彼らのスタイルはもっと違ってはいたはずがない。滑らかに調理し、レディング生と嘆服。しかし、レディングの「シェイク」と「変化は来る」のバージョンは、クックの音とメッセージがレディングの南部の魂の音を形作るのにどのように役立ったかを示しています。レディングの歌は、B.B.キングの「ロックミーベイビー」とモータウンヒット「マイガール」のカバーだけでなく、これで表現力の新しいレベルに達します。 | | |
| | OZZY OSBOURNE | ブリザード・オブ・オズ 血塗られた英雄伝説 |  | 1980 | ハードロック | レコード | US | 80年代、メタル界に輝く大明星となったオズのサバース・オズボーンは、豪華な復活劇となったアルバム。当時はアルバム名であるブリザード・オブ・オズがバンド名と思われており、RAINBOWのポップ・テイズリー、元ユーライア・ヘープのリー・カーズレイク、そして元クワイエット・ライオットのランディ・ローズという凄まじいメンバーが揃っていました。悪魔的なジャケットはサバース時代のオジーを彷彿させましたが、ドラマチックでキャッチーな80年代型ハード・ロックの衝撃は本当に大きかったと思います。ランディの生涯で最も優れているとされるソロを含む「ミスター・クロウリー」、そしてその後のオジーとランディの運命を予見しているかの様なせつない名バラード「グッバイ・トゥ・ロマンス」等、全曲が鳥肌立つメロディを備えた高性能ハード・ロック・アルバムとなっています。 | Side A 1. アイ・ドント・ノウ 5:16 2. クレイジー・トレイン 4:56 3. グッバイ・トゥ・ロマンス 5:35 4. ディー・ア・ディー 0:49 5. スーサイド・ソリューション 4:18 | Side B 1. ミスター・クロウリー<死の番人> 5:02 2. ノー・ボー・ナム・ピーズ 3:52 3. レヴエレイション 6:09 4. スティール・アウェイ 3:28 |
| | OZZY OSBOURNE | ダイアリー・オブ・ア・マッドマン |  | 1981 | ハードロック | レコード | US | 81年作、前作の衝撃的な復活からわずか1年、オジーのセカンドアルバム。良く知られている様に、本作がランディ・ローズの遺作となってしまい、その非凡なメロディ・センスと華麗なギター・プレイがますます冴え渡っていただけに、悲劇的なギター・ヒーローとして神格化されるのでした。ドラマチックなハード・ロック路線はそのまま踏襲され、ゴシック、オカルト調が更に強調されています。特にアルバム・タイトル曲のストリングスを交えた荘嚴な雰囲気は、最早オジーにしか成し得ない世界観を作っています。お約束のバラード、「Tonight」では80年代的なポップ・センスも見せています。 | Side A 1. オーヴァー・ザ・マウンテン 4:31 2. フライング・ハイ・アゲイン 4:44 3. ユー・キャン・キル・キル・ロックン・ロール 6:59 4. ビリーヴァー 5:16 | Side B 1. リトル・ドールズ 5:39 2. トゥナイト 5:50 3. S.A.T.O. 4:07 4. ダイアリー・オブ・ア・マッドマン 6:14 |
| | OZZY OSBOURNE | ジ・アザー・サイド・オブ・オジー |  | 1985 | ハードロック | レコード | 日本 | 1985年にリリースされた様々なライブ曲とB面曲を収録した日本語のみのコンピレーション・レコード。ミニアルバムや特典、輸入盤に収録されていた楽曲を再編集したオジーのアナザー・サイド的な作品。ランディ・ローズとジェイク・E・リーとの対比構成になっているのも興味深い。 | Side A 1. ミスター・クロウリー (LIVE) 2. アイ・ドント・ノウ (LIVE) 3. 自殺志願 (LIVE) 4. ルッキング・アット・ミー、ルッキング・アット・ユー 5. ユー・セッド・イット・オール | Side B 1. 月に吠える 2. ワン・アップ・ザ・"B" SIDE 3. スパイダー 4. パラノイド (LIVE) 5. 自殺志願 (LIVE) |
| | OZZY OSBOURNE | アルティメット・ライヴ・オジー |  | 1986 | ハードロック | レコード | 日本 | オジー・オズボーンの1986年発売のミニアルバム。4thソロアルバム「The Ultimate Sin」からの楽曲のライブバージョンが3曲収録されたもの。もともと英米で「ULTIMATE LIVE OZZY」のタイトルで発売されたピクチャーディスクを元にして、日本で制作されたアルバム。1曲目「Never Know Why」この曲のライブはスタジオバージョンよりも何倍もカッコよく感じさせてくれる。 | Side A 1. 罪と罰 The Ultimate Sin 3:44 | Side B 1. ネバー・ノウ・ホワイ 4:29 2. アンク・ゴッド Thank God For The Bomb 3:57 |
| | OZZY OSBOURNE | トリビュート〜ランディ・ローズに捧ぐ |  | 1987 | ハードロック | レコード | 日本 | 1987年に発表した初代ギタリスト、ランディ・ローズが在籍していた時代の貴重なライブ盤。1982年に死去したランディ・ローズに捧げる意味で、ローズ在籍時のライブが収録された。「スーサイド・ソリューション」でのワイルドなギター・ソロ・タイムではクラシカルなイメージの強いランディのメタル・ギタリストとしての本領が存分に堪能できます。本作の最後に収録された「ディー (ランディ・ローズ・スタジオ・アウト・テイク)」は、アルバム「ブリザード・オブ・オズ〜血塗られた英雄伝説」(1980年)収録曲「ディー」のレコーディングの様子を録音したもので、ローズの肉声も入っておりファンにとっては聴かせたいもの。本作からシングル・カットされた「クレイジー・トレイン」のライブ・ヴァージョンは、全英シングルチャートで99位に達した。 | DISC 1 Side A 1. アイ・ドント・ノウ 5:40 2. クレイジー・トレイン 5:19 3. ビリーヴァー 5:08 4. ミスター・クロウリー<死の番人> 5:37 | DISC 2 Side A 1. スーサイド・ソリューション 7:46 2. アイアン・マン 2:50 3. チルドレン・オブ・ザ・グレイヴ 5:57 4. パラノイド 2:59 |
| P | PALE FOUNTAINS | パシフィック・ストリート |  | 1984 | ネオアコ | レコード | 日本 | 84年のデビュー作。近年ではオジー・オズの最重要作にまで挙げられている作品ですが、おおよそネオ・アコと呼ばれるグループは、このアルバムの臭いをおおきく持っています。その影響力の大きさははかりきれません。演奏もまだまだで、ヴォーカルも不安定、ベースや弦などのオーケストラ楽器を効果的に導入しているものの、そのアレンジは部分的に未消化なところすら感じられます。しかし、それらの「未完成」な部分から生まれる青さすら感じさせる瑞々しさは他では得難い魅力になっているのも紛れもない事実。この「切なさ」がネオ・アコなんですよ。ベースの入り方や雰囲気、ニック・ヘイワードの「風のミラクル」に良く似ているので、そちらが好きな人は特にオススメ。10. のスティール・ドラマがトロピカルな雰囲気いい、ノー・シンセサイザーの80年代サウンドの結晶のサウンド。 | Side A 1. 青春はいちどだけ 2. サムシング・オン・マイ・マインド 3. 悲しみの風景 4. 南へ急ごう 5. サチュラル | Side B 1. フェイスフル・ピロウ Pt.1 2. ノー・ボー・ナム・ピーズ Pt.1 3. 金曜日は別れのとき 4. 恋はつかのま 5. 美園の少女 6. フェイスフル・ピロウ Pt.2 |
| | PALE FOUNTAINS | フロム・アクロス・ザ・キッチン・テーブル |  | 1985 | ネオアコ | レコード | UK | 1985年リリースのアルバム・ファウンテンズのセカンドアルバム。本作をプロデュースしたのは、ライティング・シーズのイアン・プロウディだ。ペイル・ファウンテンズの1stは、サウンドに広がりがありホーンやストリングスも巧みに使用し、どこか映画音楽的なサウンドだったが、2ndである本作は、かなり粗さを残したライブ感を大切に作りになっている。どっちが好きかは人それぞれだが、初めて聴いたとき、まるで違うバンドの音のように聴こえたのは確かだ。しかし、今聴くとソング・ライティングのスタイルは、まさしくマイケル・ヘッドのものだし、それほど違和感がない。ただ分かるのは、イアンがよりダイナミズムを大切に録音をしたんだらうということだ。それが完全に功を奏しているかという点、僕はもう少しポータルに膨らみを持たせてもよかったんじゃないかなと思う。ネオアコなのか、ギター・ポップなのかという議論に近いものだと思う。これはそのうちこの観点で言 | Side A 1. シェルター 2. ストール・ザ・ラヴ 3. ジーンズ・ノット・ハブニング 4. パイスフル・シーヴス 5. リミット 6. 27 ウェイズ・トゥ・ゲット・バック・ホーム | Side B 1. フリーズド・アーケイド 2. ジーンズ・アー・ザ・シンクス 3. イッツ・オンリー・ハード 13ドロー・ミニ・クローサー 14ターン・オン・ユア・ラヴライト 15ユー・ガット・ホワット・アイ・ウオント 16フリーダム |
| | PARAMOUNTS | ホワイト・シェイズ・オブ・R&B |  | | ロック | CD | 日本 | 後のプロコル・ハルム結成した「ゲイル・ブルッカー」「ロビン・トロー」が在籍したプロコル・ハルムの前身となるバンド、パラマウントズの編集盤(録音は63~65年)。ゲイル・ブルッカー「ロビン・トロー」が60年代中期に初めて組んだモッズ・バンドで、当時としては本格的な実力派R&Bバンドであった。プロコル・ハルムの「青い影」の原題をもじったタイトルでも分かる。1曲目「ボイズ・アイヴイー」をはじめとするカヴァー物のユニゾン・コーラスに在時の熱気が蘇る。 | 01ボイズ・アイヴイー 02アイ・フィール・グッド・オール・オーバー 03リトル・ビティ・プリティ・ワン 04ア・サー・ティン・ガール 05アイム・ジ・ワン・フォー・ラヴズ・ユー 06イット・ウオント・ビー・ロング 07パッド・ブラッド 08ドゥ・アイ | 09ブルー・リボンス 10カッティン・イン 11ユー・ネヴァー・ハド・イット・ソー・グッド 12ドンチャ・ライク・マイ・ラヴ 13ドロー・ミニ・クローサー 14ターン・オン・ユア・ラヴライト 15ユー・ガット・ホワット・アイ・ウオント 16フリーダム |

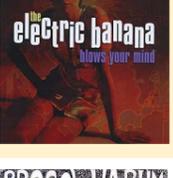
| | | | | | | | | | |
|--------------------------|---------------------|---|-------------|------|------|---|--|---|--|
| PARIS | パリ・デビュー! |  | 1976 | レコード | 日本 | 76年作、日本ではあの渋谷陽一氏が大絶賛した事で一躍ハード・ロックのスーパー・グループとして話題になったパリスのデビュー・アルバムです。70年代ハード・ロック界には実に魅力的なバンドが登場しましたが、パリスもツェペリンの再来、そして新世代感覚のハード・ロックとしてブルースだけに頼らないダイナミズムを生み出したパリスは今聴いても新鮮です。英国ハードとして聴いてしまいがちですが、アメリカのバンドであった事も新鮮でした。パリスは元FLEETWOOD MACのポプ・ウェルチ、元JETHRO TULLのグレン・コートニック、そして元NAZZ、更にCHEAP TRICKのリック・ニールセンとトム・ピーターソンが在籍していたFUSEでの活動も知られているトム・ムーニーのトリオ編成となり、ジミー・ペイジよりもメタリックなリフ、ロバート・プラントばりのボーカルリフ、そして強力なリズム・セクションが魅力となっています。元FLEETWOOD MACのメンバーも2人を記録したベスト・アルバム。パット・ベネターはエレクトロ・ポップ中心の時代に、ストレートなロックが新鮮で、ディープな雰囲気も漂っていました。"80年代のハードロックの音はこのアルバム"という最高の基準・リファレンスを提示してくれた。Patのボーカルばかりにいきがちだが、旦那であるNeil Giraldoのギターも最高で、Megadethの元ギタリストであるMarty Friedmanが、B面3の「嵐が丘」のギターソロを、人生で最も感動したソロと話していた。また、何となく最初ヒットしたA面2の「ユー・ベター・ラン」のカバーに驚きました。ラスカルズをカバーしてのヒットは、だぶん「高鳴る心」のデビッド・キャシディ以来じゃないかと思うと同時に、まさかこんなギンギンにリメイクされるなんて! また、「嵐が丘」を聴いた驚きはそれ以上で、ケイト・ブッシュをカバーする「モリス」が聴くことが想像できなかった。原曲のイメージと | Side A 1. ブラック・ブック BLACK BOOK 2. レジジョン RELIGION 3. スターゲージ STARGAGE 4. 美しき若者達 BEAUTIFUL YOUTH 5. ナザレイン NAZARENE | Side B 1. 狭き門 NARROW GATE (LA PORTE ETROITE) 2. ソリテアー SOLITAIRE 3. ブレスレス BREATHELESS 4. ロック・オブ・エイジズ ROCK OF AGES 5. レッド・レイン RED RAIN | |
| PAT BENATAR | 危険な恋人 |  | 1980 | ロック | レコード | 日本 | 1980年リリースの2ndアルバム。全米チャート2位を記録したベスト・アルバム。パット・ベネターはエレクトロ・ポップ中心の時代に、ストレートなロックが新鮮で、ディープな雰囲気も漂っていました。"80年代のハードロックの音はこのアルバム"という最高の基準・リファレンスを提示してくれた。Patのボーカルばかりにいきがちだが、旦那であるNeil Giraldoのギターも最高で、Megadethの元ギタリストであるMarty Friedmanが、B面3の「嵐が丘」のギターソロを、人生で最も感動したソロと話していた。また、何となく最初ヒットしたA面2の「ユー・ベター・ラン」のカバーに驚きました。ラスカルズをカバーしてのヒットは、だぶん「高鳴る心」のデビッド・キャシディ以来じゃないかと思うと同時に、まさかこんなギンギンにリメイクされるなんて! また、「嵐が丘」を聴いた驚きはそれ以上で、ケイト・ブッシュをカバーする「モリス」が聴くことが想像できなかった。原曲のイメージと | Side A 1. トリート・ミー・ライト 2. ユー・ベター・ラン(危険な恋人) 3. ハートの叫び 4. 強気で愛して 5. 暗黒の子供たち | Side B 1. リトル・パラダイス 2. フォロー・ユー 3. 嵐ヶ丘 4. 恋のプリズナー 5. 冷たしないで |
| PAT MCGLYNN'S & SCOTTIES | あの娘はアイドル |  | 1977 | ポップス | レコード | 日本 | ベイシティーローラーズから脱退したパット・マッグリが結成したスコッティーズのファーストアルバム。 | | |
| PATRICK SIMMONS | メロウ・アーケイド |  | 1983年 | AOR | レコード | 日本 | 1983年作品。ドゥービー・ブラザーズのパトリック・シモンズが82年解散の1年後に発表した初ソロ・アルバム。生粋のカリフォルニア・サウンド全開の80'sを代表するウエスト・コースト・ロック名盤ドゥービー・ファンはもちろん、AORファンも魅了する聴きどころ満載の爽快な作品。ドゥービー・ブラザーズは土埃の舞うようなストレートなアメリカンロックを得意とするTom Johnstonとアーバンでこぼれたサウンドを得意とするPatrick Simmonsの二人のバランスが素晴らしい。オリジナル曲に加えてHuey Louisの「Don't Make Me Do It」、The Chi-Litesの「Have You Seen Her」を取り上げているところがユニーク。 | Side A 1. 愛のストリート 2. ソー・ロング 3. ドント・メイク・ミー・ドゥ・ワイト 4. 風に消えたさよなら 5. トゥー・ロング | Side B 1. ノックン・アット・ユア・ドア 2. リトル・ラブ 3. 恋はせつなく 4. スー・サッド 5. ドリーム・アバウト・ミー |
| PATTI SMITH | ホーセス |  | 1975年12月13日 | パンク | レコード | 日本 | 1975年作品。パティ・スミスが初のソロ・アルバムにして、時代・年代を問わず最も人気の高い作品。1975年にニューヨークの伝説的ライブ・ハウスCBGBでのライブが高い評判を呼び、設立されたばかりのアリスター・レコードと契約。元ヴェルヴェット・アンダーグラウンドのジョン・ケイルをプロデューサーに迎え、ジム・ヘンドリックスが作ったエレクトリック・レディ・スタジオでレコーディングを行い、ジャケットに使われているポートレイトは、パティ・スミスの元恋人にして写真家ロバート・メイブルソフが撮影。当時のニューヨークでしかありえないこのような恵まれた環境で、この見事なアート作品とも言うべきアルバムは作られた。このアルバムの幕開けは、ヴァン・モリソンの名曲を独自の解釈と天才的な歌詞で再構築した「グローリア」で、次第に昂揚していく痛快なドライブ感は無二のものと言える。ミニマルなロック・ロールをベースにした音楽的なイメージが積み重ね | Side A 1. グローリア 5:57 (ヴァン・モリソンが在籍したザ・ゼムの曲) 2. レッド・ビーチ 3:26 3. パードランド 9:15 4. フリー・マネー 3:52 | Side B 1. キン・バリー 4:27 2. ブレイク・アット・アップ 4:04 3. ランド 9:25 4. エレジー 2:57 |
| PATTI SMITH | ホーセス |  | 1975年12月13日 | パンク | CD | 日本 | | CDボーナストラック 9曲目 マイ・ジェネレーション 3:16 (ザ・フーの曲) | |
| PATTI SMITH | イースター |  | 1978年3月3日 | パンク | レコード | US | パティ・スミスが1978年に「パティ・スミス・グループ」名義で発表したアルバム。スミスのアルバムとしては通算3作目に当たる。ブルース・スプリングスティーンと共作し全米13位を記録するヒットとなった「ピコーズ・ザ・ナイト」を収録したサード・アルバム。これまでライブやレコーディングをともにしてきたパティ・スミス・グループとしての充実ぶりが反映され、クオリティの高い楽曲と一体感溢れる演奏を聴かせる。全米20位獲得して著名人からも賛美されるなどある種のポピュラリティを獲得した作品ながらその舌鋒に衰えのないヒリヒリした傑作。(| Side A 1. テイル・ヴィクトリー 2:50 2. スペース・モンキー 4:06 3. ピコーズ・ザ・ナイト 3:25 4. ゴースト・ダンス 4:44 5. ベイブログ 1:30 | Side B 1. ロックン・ロール・ニガー 3:25 2. プリヴレッジ "Privileg 3:29 3. ウィ・スリー 4:18 4. 25階 4:03 5. ハイ・オン・リベリオン 2:37 6. イースター 6:15 |
| PAT TRAVERS | メイキン・マジック |  | | レコード | 日本 | | | | |
| PAUL MAURIAT | グレイテストヒットズリフレクション18 |  | 1975年 | レコード | 日本 | | ポール・モーリア・グランド・オーケストラの代表曲を収めたアルバム。日本独自編集により1975年にLP盤で発売されたベスト盤。 | Side A 1. オリーブの首飾り 2. 涙のトゥカータ 3. エエグ海の真珠 4 恋はみずいろ 5. シバの女王 6. 月夜のあやつり人形 7. 天使のセレナード 8. この胸のときめきを 9. 重いノクターン | Side B 1. そよ風の誘惑 2. サンシャイン 3. イエスタデイ・ワンス・モア 4. ヘイ・ジュード 5. やさしく歌って 6. 雪が降る 7. コンドルは飛んで行く 8. この胸のときめきを 9. ラスト・ワルツ |
| PAUL McCARTNEY | マッカートニー |  | 1970年4月17日 | ロック | レコード | US | 70年作。賞金論議が巻き起こった前作から1年、ポール・マッカートニーのソロ・デビュー作。まるでデモ・トラック集の様なサウンドの貧弱さ、無駄とも思えるインスト・ナンバーが多く含まれる構成等、それらは偉大なバンドのメンバーのソロ作とは許され難いものとされた。ロックの歴史の大きな節目となった70年とビートルズ解散という大事件で発売された本作への期待が落胆や消沈になった。お手軽にお手製のものを集めて作ってみたい的な見方でいいのか?聴き込めば聴き込む程、天才と言われる所以、そして何故このインストが必要だったのか、聴き手にそれぞれの思いを想起させるアルバムだと思います。美しすぎる切ないバラード、「ジャンク」は身の回りのカラクタを歌っているのにも関わらず、僕達はビートルズ以上の期待を胸に膨らませるのですが、わずか2分足らずの小曲となっている。驚くべきシンガー・ソングライターとしての王冠のソロ・アルバムは2分半のインストと! | Side A 1. ラヴリー・リンダ 2. ザット・ウッド・ビー・サムシング 3. パレンティン・デイ 4. デイ・アゲイ 5. 燃ゆる太陽の如く/グラス 6. ジャンク 7. 男はとってもしないもの Man We Was Lonely | Side B 1. ウー・ユー 2. ママ・ミス・アメリカ 3. テディ・ボーイ 4. シンガロング・ジャンク 5. 恋することのどこかしこ 6. クリーン・アクロア |
| PAUL McCARTNEY | (ペーパーズリブ仕様) マッカートニー |  | 1970年4月17日 | ロック | CD | 日本 | | | |
| PAUL McCARTNEY | ラム |  | 1971年5月17日 | ロック | レコード | 日本 | 71年作。賞金論議が巻き起こった前作から1年、ポール・マッカートニーのソロ・デビューのアルバム。前作以上に奥方リンダの活躍が目立つ様になり、この時期のポールの充実ぶりもそのままサウンドに現れたものとなっています。ほぼ全てを一人の手で作った前作に比べると、後にWINGSのメンバーとなるデニー・シーウェル、他にもデヴィッド・スピノザ、ヒュー・マクランケンをサポートに迎えていて、バンド・サウンドも格段に魅力的なものとなっています。その最たるものがソロ名義としては初のシングル全米No.1となった「アングル・アルパート〜ハルセイ提督」と思われ、ニューヨーク・フィルハーモニック・オーケストラを導入したゴージャスなポップ・ソングでしょう。編成のよさからいって、ソロ・アルバムとしての最高傑作たる美しき、美し | Side A 1. トゥ・ミー・ピープル 2. 3本足 - "3 Legs" 3. ラム・オン 4. デイ・アゲイ 5. アングル・アルパート〜ハルセイ提督 6. スマイル・アウェイ | Side B 1. 故郷のこころ - "Heart of the Country" 2. モンクバリー・ムーン・デライト 3. 出たおいでよ、お嬢さん - "Eat at Home" 4. ロング・ヘアード・レディー 5. ラム・オン 6. バック・シート |
| PAUL McCARTNEY | (ペーパーズリブ仕様) ラム |  | 1971年5月17日 | ロック | CD | 日本 | | | |
| PAUL McCARTNEY & WINGS | ワイルドライフ |  | 1971年12月7日 | ロック | レコード | US | 「Ram」のリリースから7ヶ月定らずで、再びバンド「ウイングス」を結成。当初のメンバーはポール・マッカートニー、リンダ・マッカートニーの2人に「Ram」でドラマーを務めていたデニー・シーウェルと元ムーディー・ブルースのデニー・レインでした。ウイングスは1971年12月18日にアルバム「Wild Life」でイギリスのチャートに初めて名を連ねた。アルバムに収録された8トラックのうち5曲は1テイクのみの録音で、バンドは3日で大半のレコーディングを終了、すべての工程を終るまでに要した日数も2週間に満たなかった。収録曲のひとつはカヴァー(ミックシー&ルヴィアが1957年初頭にアメリカで放ったヒット曲「Love Is Strange」のテンポを落としたもの)だったが、シングルであるがゆえに心地良いこのアルバムには「Tomorrow」、「Some People Never Know」といった、見過ごされがちだが優れた楽曲も含まれており、ウイングスのサウンドの幅が広がった。このアルバムは、1973年に発表された「ウイングスのセカンド・アルバム」からのリマスターを含め、30曲レコーディング、これを当初2枚組で発売する予定もあったが、レコード会社の反対により曲を絞って発売。シングル「My Love」がヒットし、その後にアルバムが出た追い風もあり、チャートでは「ザ・ビートルズ1967年〜1970年」を追い抜き、3週間に渡って第1位を記録するという、前作を大きく上回り、双方が揃ってナンバー・ワンとなる。成功を収めアメリカだけで50万枚以上のセールスを記録した。ギリスでは、アルバム・チャートで最高位第5位となる。ヘンリー・マカロックとデニー・レインによるギター・ワークや、デニーとリンダ・マッカートニーのコーラス・ワークなどに支えられ、どの曲にも、これまでの諸作以上に無駄のないアレンジが施されている。アルバムの最後を飾るトラックも、4つの楽曲から構成される、1.1分のミニ・アルバムである。 | Side A 1. マンボ 2. ビップ・バップ 3. ラヴ・イズ・ストレンジ 4. ワイルド・ライフ | Side B 1. サム・ピープル・ネヴァー・ノウ 2. アイ・アム・ユア・シンガー 3. ビップ・バップ・リンク 4. トゥモロウ 5. ディア・フレンド 6. マンボ・リンク |
| PAUL McCARTNEY & WINGS | レッド・ローズ・スピードウェイ |  | 1973年4月30日 | ロック | レコード | 日本 | | Side A 1. ビッグ・バーン・ベッド 3:50 2. マイ・ラブ 4:08 3. ゲット・オン・ザ・ライト・シング 4:16 4. ワン・モア・キッス 2:29 5. リトル・ラム・ドラゴンフライ 6:20 | Side B 1. シング・レ・ビジョン 1:53 2. ホン・ザ・ナイト 3:37 3. ルーパ 4:23 4. ドレヘー ホールド・ミー・タイト/レイジー・ダイナマイト/ ハンズ・オブ・ラヴ/パワー・カット 11:16 |

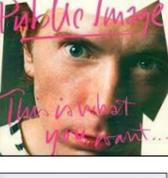
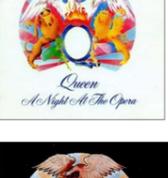
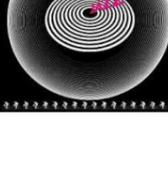
| | | | | | | | | | |
|------------------------------|------------------------------|---|------|----------|------|------|---|---|--|
| PAUL YOUNG | シークレット・オブ・アソシエーション |  | 1985 | ロック | レコード | 日本 | 1985年作。ポールヤングの最大のヒット曲「エヴリタイム・ユー・ゴー・アウェイ」が全米1位を含むセカンドアルバム。アルバムとしても全英1、全米19位獲得 | Side A 1. バイト・ザ・バンド 4:29 2. エヴリタイム・ユー・ゴー・アウェイ 5:23 3. プレイハウス・ダウン 5:06 4. エッジ・オブ・ラヴ 4:32 5. 哀しみのソルジャー Soldier's Things 6:20 | Side B 1. 心の道標 Everything Must Change 5:34 2. メモリーズ Tomb of Memories 3:52 3. ワン・ステップ・フォワード 3:41 4. ホット・ファン 4:26 5. 恋の終末 This Means Anything 3:13 6. チェインズ I Was in Chains 5:42 |
| PEAL HARBOR & THE EXPLOSIONS | 真珠湾誘惑作戦 |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 1980年発売のパール・ハーバーのファーストアルバム。パール・E・ゲイツが率い、サンフランシスコの壮大な伝統である劇場用ロック(チューブスなど)で、パール・ハーバー&ザ・エクスプロージョンズは70年代後半のSFシーンに爆発し、ワーナーブラザーズと契約を結びました。これよりも真つ赤な70年代後半のベイエリアのクラブシーンのより良い肖像画を求めることはできませんデビッド・カーネによってプロデュースされたレコードには、ゲイツさんの好意で惜しまない禁止された態度で、スタイル的にすべてが少しあります。残念ながら、プリテンダーズのデビューと同じ日に発売され、商業的に火がつくことはありませんでしたが、パワー・ポップ名盤! | Side A 1. ドライヴイン 2. You Got It (Release It) 3. 戻ってこないで 4. そのまま頑張ってください | Side B 1. Shut Up & Dance 2. ビッグワン 3. 愛のためにそんなに 4. 自分自身をつかむ 5. アップ&オーバ |
| PEAL HARBOR & THE EXPLOSIONS | 真珠湾誘惑作戦 |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | US | | | |
| PENETRATION | ムービング・ターゲット |  | 1978 | パンク | CD | ドイツ | UKはニューカッスル発の70'sパンクバンドPenetrationの78年作品。出だしを聞いてハードロックのようだと感じた。他にもハードロック風が多く、リッチー・ブラックモアやマイケル・シエンカーや思わせるギター・ソロまである。ポップ・ナンバーやレゲエ・ビートの曲もあるが、とてもパンクロックとは言い難い。更に長髪の男性メンバーもいた事から、当初はパンクスから小馬鹿にされていたようだ。 パンクが否定したはずのハードロックをベースとして、独特のメロディライン、凝った曲展開を見せるサウンドはユニークだと思うが、シングル・デビュー以来、元ゴングのマイク・ハウレットがプロデュースを担当していたのも、そうした点を見込んだからではないのだろうか。ホーリン・マレイのボーカルは、ハードロック | Side A ・Future Daze ・Life's A Gamble ・Lovers Of Outrage ・Vision ・Silent Community ・Stone Heroes | Side B ・Movement ・Too Many Frie ・Reunion ・Nostalgia ・Freemoney |
| PERE UBU | ザ・モダン・ダンス |  | 1978 | ニューウェイブ | レコード | イタリア | ペル・ウブ(Pere Ubu)は、オハイオ州クリーヴランドで1975年に結成されたアメリカのポストパンク・バンド。100キロは下らない巨漢、デヴィッド・トーマス率いるアヴァンギャルド・ガレージ・パンク・バンド。1978年のデビューアルバム。一貫した社会批判的な視線と、変幻自在なフリー・ミュージックの音像は、暴力的でありながらも同時にきわめてE.U.的なアート感をも孕んでおり、初期の段階では本国アメリカよりもイギリスで人気があった。 | Side A 1. かみ合わない協定 Nonalignment Pact 2. モダン・ダンス 3. 笑い Laughing 4. 街の心波 Street Waves 5. 中国の放射線 Chinese Radiation | Side B 1. 人生なんてばからしい Life Stinks 2. ビッグワン 3. 私の頭上に Over My Head 4. センティメンタル・ジャーニー 5. 私の機嫌をとって Humor Me |
| PERE UBU | ダブ・ハウジング |  | 1978 | ニューウェイブ | レコード | UK | 70年代から活動する、奇才David Thomas率いるUS屈指のカルト・アヴァン・ガレージ・ポスト・パンク・バンド、PERE UBUの1978年リリースの2ndアルバム! | Side A 1. Navy 2:43 2. On The Surface 2:40 3. Dub Housing 3:40 4. Caligan's Mirror 3:48 5. Thriller! 4:35 | Side B 1. I, Will Wait 1:46 2. Drinking Wine Spodydy 2:44 3. (Pa) Ubu Dance Party 4:47 4. Blow Daddy-o 3:37 5. Codex4:56 |
| PETER AND GORDON | (ペーパースリブ仕様)ピーター・アンド・ゴードン・プラス |  | 1964 | ブリッシュビート | CD | 日本 | 英国フォーク・ロック・デュオ、ピーター・アンド・ゴードンの1964年1stアルバム。「愛なき世界」のヒットで知られる二人組、ピーター・アッシュヤーとゴードン・ウェイラーのデュオ、ピーター・アンド・ゴードンのデビュー・アルバム。1964年、英米でナンバーワン・ヒットになったデビュー曲「愛なき世界」(ポール・マッカートニーがビートルズ・デビュー前に作っていたもので、1964年にジェーン・アッシュヤーの自宅であつたという間に完成させたといわれる大名曲です)や、最初のシングル3枚はレノン&マッカートニーからプレゼントされた曲だった。シングル曲などを追加しての復刻。英米両国のチャートを制覇した「愛なき世界」ほか、名曲ぞろい。 | 01. ルシール 02. ファイヴ・ハンドレッド・マイルズ (500マイルも離れて) 03. イフ・アイ・ワー・ユー 04. プリティ・メアリ (可愛いメアリ) 05. トラブル・イン・マインド (心の痛み) 06. ア・ワールド・ウィザウト・ラヴ (愛なき世界) 07. テル・ミー・ハウ 08. ユー・ドント・ハフ・トゥ・テル・ミー (恋の嘘つばち) 09. リーヴ・マイ・ウーマン・アローン 10. プレイ・ト・ドント・レイン (02:07) | |
| PETER AND GORDON | イン・タッチ・ウィズ・ピーター・アンド・ゴードン・プラス |  | 1964 | ブリッシュビート | CD | 日本 | 1964年発表の2ndアルバムに、同時期のシングルなどを追加して復刻。当時最も英国的なジャケットと言われたという、街角の電話ボックスをあしらったアルバム。デビュー曲「愛なき世界」から立て続けに3曲ポール・マッカートニーから曲を提供された彼らだったが、ポールが当時ピーター・アッシュヤーの妹、ジェーン・アッシュヤーと付き合っていた為と言われる、4枚目のシングルでは、ジェーン・アッシュヤーと「アイ・ゴー・ラヴ・ユー」を取り上げた。本作にはその曲が収録されている。ピーター・アッシュヤーはグループ解散後、プロデューサーに転向、ジェームス・テイラー等を手掛けた。デュオの代表曲として有名な「ア・ワールド・ウィザウト・ラヴ」ほか、声質を活かした歌唱と洗練されたサウンドが印象的だ。 | 01. フレイト・ドント・レイン (02:07) 02. ランド・オブ・オーデン (03:00) 03. ア・メス・オブ・ブルース (02:38) 04. トゥ・リトル・ラヴ・バース (02:13) 05. パー・ラ・アレン (02:48) 06. アイ・ス・ティル・ラヴ・ユー (02:33) 07. ア・ドント・ウオント・トゥ・シー・ユー・アゲイン (逢いたくないさ) (02:03) 08. マイ・ベイビー (02:26) 09. ウォウ・ワー・アゲイン (03:06) 10. ラヴ・ミー・ベイビー (02:16) 11. ドント・ビ・ビ・ミー 12. ディズ・ドント・ストップ 13. フーズ・ラヴィング・ユー 14. ホワット・ユー・ゴナ・ドゥ・バウト・イット 15. クライミング・イン・ザ・レイン 16. ハーティン・イズ・ラヴィング 17. クライト・トゥ・ミー 18. サム・ワン・エイント・ライト 19. エニ・ディ・ナウ 20. プロクン・プロミス 21. ホエン・ザ・ブラック・オブ・ユア・アイズ・ターン・ト・ブルー | |
| PETER AND GORDON | ハーティン・アンド・ラヴィン・プラス |  | 1965 | ブリッシュビート | CD | 日本 | ジェントルなイメージはそのままにサウンドの幅を広げた1965年に英国でリリースされた3rdアルバム。そのアルバムに同時期のシングルとEPからのナンバーを追加収録した日本独自編集による魅力的な1枚。大ヒット曲「トゥ・ノウ・ユー・イズ・トゥ・ラヴ・ユー」(つるの恋)やキャロル・キングとバカラック絡みの「クライミング・イン・ザ・レイン」と「エニ・ディ・ナウ」等の名曲や、ドイツ語曲の「ワンダー」「リーベ・ゲルック・ウント・トロイエ」等の聴きどころ満載のアルバム。失恋ソングが多い。 | 11. ドント・ビ・ビ・ミー 12. ディズ・ドント・ストップ 13. フーズ・ラヴィング・ユー 14. ホワット・ユー・ゴナ・ドゥ・バウト・イット 15. クライミング・イン・ザ・レイン 16. ハーティン・イズ・ラヴィング 17. クライト・トゥ・ミー 18. サム・ワン・エイント・ライト 19. エニ・ディ・ナウ 20. プロクン・プロミス 21. ホエン・ザ・ブラック・オブ・ユア・アイズ・ターン・ト・ブルー | |
| PETER FRAMPTON | フランプトン・カムズ・アラヴ! |  | 1976 | ハードロック | レコード | 日本 | 76年リリース作、それまで地道な活動を続けていたピーター・フランプトンが、北米で年間200公演というツアーを敢行、その模様を当時2枚組ライブとしてリリースしました。彼のアイドル的人気と、ポップなメロディがジワジワとチャートを駆け上り、結果的には全世界で2500万枚を売り上げるモンスター・アルバムとなりました。ロックのライブ・アルバムと言えど、という位の定番作ともなりましたが、ロックの楽しさを教えてくれるという意味でもキラキラしたナンバーが揃った名盤です。本作をきっかけに、洋楽、ロックを聴き始めた人も多かったのではないのでしょうか。ハード・ロックというよりは、ポップ・ロックという認識がされていますが、ロック・ショーとしてのダイナミズムや、ワクワク、ウキウキといったキーワードが並ぶキャッチーさが、当時の少年少女を夢中にさせたという意味では、やはり無類の天才な1枚だと思えます。 | | |
| Peter Gabriel | Peter Gabriel |  | 1977 | オルタナティブ | レコード | UK | 1970年代にはプログレッシブ・ロック・バンド『ジェネシス』のボーカリストで活躍し脱退しソロとして初のアルバム。全英7位、全米38位。キング・クリムゾンのロバート・フリップがギタリストとして参加。イギリスのデザイナー集団ヒプノシスによるジャケットにちなんで「Car」という呼ばれ方もしている。ジェネシスから解放された感じで、ここではピーター・ガブリエルの伸び伸びとした感じが伺える。ピーター・ガブリエルの驚異のボーカリエーションが堪能出来ます。シアトリカルな作風も残っていますが、これ以降ほとんど試みていないので、ある意味貴重かも。 | | |
| Peter Gabriel | ピーター・ガブリエル II |  | 1978 | オルタナティブ | レコード | 日本 | この前作にあたる初ソロ作の内容に納得できなかったといわれるピーター・ガブリエルが、納得できるメンバーとともにプロジェクトを組み制作に入ったといわれるのが本作セカンド・アルバム(1978年発表)。プロデュースはロバート・フリップ。ジェネシスの延長線上にあった前作とは違い、ピーター・ガブリエル独自の音楽性を確立した一枚といえるだろう。のちに顕著となるワールド・ミュージック的要素にも注目。全10位、全米45位 | | |
| Peter Gabriel | ピーター・ガブリエル III |  | 1980 | オルタナティブ | レコード | UK | ・80年作、ピーター・ガブリエルのソロ第3弾。海外ではビジュアルデザインのよる溶けたピーターのジャケットにちなんで「Melt」として有名です。初の全英No.1を記録した1枚でもあり、当時の英国ニュー・ウェイブ・シーンにも見事リンクしたサウンドが、以降のキャリアの強力な地盤ともなる。 プロデュースにはスティーヴ・リリーホワイトが迎えられ、時代の最先端を行くサウンドの確立をしながらも、大衆性と実験性を両立させた事も革新的で、ピーター・ガブリエルの最高傑作と言っても良い出来栄。 盟友フィル・コリンズ、前作ではプロデューサーを暗闘していたロバート・フリップ、トニー・レヴィン、ケイト・ブッシュ、ポール・ウェラー等の豪華なゲスト陣を迎え、リズムの強調とメロディの進化が本作を今だに名盤としています。 作風面でも大きな変化が見られ、これまで肉感的なものが多かったのに比べ | | |
| Peter Gabriel | ピーター・ガブリエル III |  | 1980 | オルタナティブ | レコード | US | | | |
| Peter Gabriel | ピーター・ガブリエル IV |  | 1982 | オルタナティブ | レコード | US | 全英6位、全米28位 | | |

| | | | | | | | | | |
|--------------------|--------------------------------------|---|-------|----------|------|----|---|---|--|
| Peter Gabriel | SO |  | 1986 | オルタナティブ | レコード | 日本 | ピーター・ガブリエルの4枚目のアルバムで全英1位、全米2位と全世界で一番売れたアルバム。 | | |
| Peter Gabriel | ショック・ザ・モンキー |  | 1982 | オルタナティブ | レコード | UK | | | |
| PETER HAMMILL | フルズ・メイト |  | 1971年 | | レコード | 日本 | 1971年発表。イギリスのプログレッシブ・ロック・バンドVDGG(ヴァジツ・ダニ・グランド・ジェネレーター)の創設者でシンガー・ソングライターで優れた詩人であり、ギタリスト。VDGGの中心人物で、その後、孤高のシンガー・ソングライターとして活躍するピーター・ハミルの記念すべきソロ・デビュー作。ソロ作でありながらVDGGのメンバーがバックを務めるなど、グループの作品とは表裏一体の存在とも言えるバラエティー豊かなサウンドが魅力。バンド結成以前に書かれた曲と、バンドには不向きと判断された楽曲で構成されている。キング・クリムゾンのロバート・フリップが強くファンキーなワウワウギターも珍しいが、フリップが完全に脇役になってしまう(フリップは精神的な部分でハミルから影響を受けている)ピーター・ハミルの歌声の存在感は他を圧倒している。楽曲は今もライブでの定番となっている。『Vision』を聴くと、その精々がわかる。 | Side A 1. インベリアル・ツェペリン 2. キャンドル 3. ハッピー 4. ソリチュード 5. ヴィジョン 6. リ・アウェイキング | Side B 1. サンシャイン 2. チャイルド 3. サマー・ソング・イン・ジ・オートム 4. ウェイキング 5. ザ・パース 6. アイ・ワンス・ロウト・サム・ホエムズ |
| PETER, PAUL & MARY | ビター・ポール & マリーのすべて |  | 1969年 | ポップス | レコード | 日本 | 1960年代アメリカのフォークグループ。ピーター・ヤローウ(Peter Yarrow)、ノエル・ポール・ストウキー(Noel Paul Stookey)とマリー・トラヴァース(Mary Travers)のトリオで1961年にビター・ポール & マリーを結成。彼らの初のベストアルバム。この後にシリーズ2がリリースされる。60年代にベトナム反戦のメッセージを全世界に送り出した。ヒット曲は「悲しみのジェット・プレーン」「500マイルも離れて」「くよくよするなよ」「パフ」「風に吹かれて」「悲しみのジェット・プレーン」等がある。 | Side A 1. Gone With The Rainbow 2. Lemon Tree 3. 500 Miles 4. Don't Think Twice, It's All Right 5. Early Morning Rain 6. Too Much Of Nothing Side B 1. Puff 2. Tell It On The Mountain 3. All My Trials 4. The Times They Are A-Changin' | Side C 1. Cruel War 2. Sometime Lovin' 3. No Other Name 4. Blowin' In The Wind 5. Hush-A-Bye 6. Rolling Home Side D 1. I Dig Rock And Roll Music 2. When The Ship Comes In 3. Tiny Sparrow 4. It's Been A Long Time |
| PETE TOWNSHEND | エンプティ・グラス |  | 1980 | ロック | レコード | 日本 | 1980年のソロ3枚目のアルバム。キース・ムーンの死を契機に、とりまく環境をはじめ大きな変化を遂げたタウンゼントが放った実質的な初のソロ作。プロデューサーにクリス・トーマスを迎え、参加メンバーもその後の活動において重要な位置を占める顔ぶれが参加。全英1位、全米5位を獲得しソロ・キャリアの中では最高のセールスを記録した。 | | |
| PET SHOP BOYS | ウエスト・エンド・ガールズ |  | 1986 | エレクトロニクス | レコード | US | | | |
| PFM | 幻の映像 |  | 1973 | プログレ | レコード | 日本 | イタリア出身のプレミアータ・フォルネリア・マルコーニの、'73年発表のデビュー・アルバム。ユーロ・ロックの先駆者の存在であり、イタリアの甘美なプログレ・サウンドの頂点とも言えるべきPFMのサード・アルバムで、本作により世界デビューとなり、プロデューサーの当時キング・クリムゾンの頭脳であったピーター・シンフィールドの英語と助言により、プレミアータ・フォルネリア・マルコーニというバンド名から改名しています。(母国イタリアでは引き続きフル・ネームが使用している)クラシカルな構成と、ハード・ロックにも通じるダイナミズムと高揚感、更にイタリア特有の甘くせつないメロディが絡むというなんとも美しい一枚です。美しく響き、欧州独特の空気に溢れた名盤です。「オールド・レイン」他、全7曲収録。 | | |
| PHIL SEYMOUR | フィル・セイモア |  | 1980 | パワーポップ | レコード | US | 名曲「I'M ON FIRE」、「GIRLS」で知られるパワー・ポップ・バンド、DWIGHT TWILEY BANDのドラマー。ウエスト・コーストの爽やかな風と共に流れだす永遠のパワー・ポップ・クラシック「PRECIOUS TO ME」!!「BOBBY FULLER FOUR」「I FOUGHT THE LOW」の1曲目に収録されている「LET HER DANCE」最高カヴァー!!ピアノの弾け具合も最高な「BABY IT'S YOU」!!ブギーなロックンロール「DON'T BLOW YOUR LIFE AWAY」!!疾走感満点のポップ・パンク傑作「WE DON'T GET ALONG」など、全曲高水準の名曲が詰め込まれた全11 | | |
| PIGBAG | ビッグバッグ |  | 1982 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | | | |
| PILOT | パイロット |  | 1974 | ロック | レコード | 日本 | がつて売れる前のベイ・シティ・ローラーズに在籍したデヴィッド・ベイドンとビル・ライアルの再会をきっかけに、パイロットというバンドが結成される。英国産ナンバー・ワン・パワー・ポップ・バンド、パイロットの記念すべきデビュー・アルバム。ビートルズが開拓したメロディアスロック路線にパワー・ポップ感を足し、バンドメンバーから続く見事なブリティッシュポップロックの継承者です。プロデューサーはアラン・パーソンズが手がけ、1stアルバム『パイロット』をリリース。シングル「マジック」がいきなり全英11位・全米5位となる。キャッチーでポップな楽曲は大衆から支持される。イアン・ペアンソン(ギター、ベース、ボーカル)は、契約時期の事情等から1975年加入とされてきたが、実際にはデビュー前から正式メンバーである。パイロットは1974年~1977年にイギリスで数奇な運命を辿ったポップ・ロックバンドである。この二枚目以外にその期間に3枚のアルバムがあり計4枚、2ndアルバム1975年発売『Second Flight』。アルバムより先行の75年1月発売のシングル「January」は全英1位を記録した。さらに75年4月シングル「Call Me Round」発売。こちらもかなり良い曲だが全英34位止まりとなる。そして、翌5月に上記先行シングル二曲を含むこの2ndアルバム『Second Flight』を発表。特にシングルカットされた二曲は詩曲の分かり易さと、サビにクラブが入るお決まりの高揚感が珠玉。ただ、アルバムはあまり売れず、英48位止まりで失速。その結果二人のソングライターを持つパイロット内部でメンバー間の対立が深まり、KEY/VOのライオールが脱退。残ったバンドはその後2枚の秀逸なアルバムを出す。やはりさほど売れずに自然消滅の憂き目にあう。 | 1. ぼれる微笑み 2. マジック 3. 幸せを求めて 4. 僕のそばにいて 5. ラヴリー・レディ 6. スナッカー・オア・レイター 7. ドント・スピーク・ラウドリー 8. 月への想い 9. ネヴァー・ギヴ・アップ 10. 青空に向けて 11. アイリスおばさんの詩 12. ユー・マイ・ナンバー1 13. ラヴ・イズ 14. コール・ミー・ラウンド 15. 北緯55度・西経3度 / 55 Degrees North 3 Degrees West 16. トゥー・ユー・アロング 17. ドゥー・ミー・グッド 18. ハード・イット・オール・ビフォア 19. バッド・トゥー・ミー 20. きみの愛 / You're Devotion 21. ジェニエアリ 22. 精進のかはら / Quiet Place | |
| PILOT | セカンド・フライト |  | 1974 | ロック | レコード | 日本 | | | |
| PILOT | セカンド・フライト |  | 1974 | ロック | CD | 日本 | | | |
| PINK FAIRIES | (ペーパーズ・スリーブ仕様)ネヴァー・ネヴァー・ランド |  | 1971 | ロック | CD | 日本 | 71年発表の1st。ファンタジックなジャケットが印象的だ。本作はサイケ要素の強いグループではあるが、ハード・ロック的なアプローチも目立ち引き締まった演奏を聞かせる。またトウインクを含めたツイン・ドラムスという形態に興味がいける。ではあるが、残念ながらその特性を生かした重層的なリズムはほとんど聞かれず、結果として本作の後トウインクは脱退する。結成メンバーはポール・ルドルフ(g, vo)、ダンカン・サンダーソン(b, vo)、ラッセル・ハンター(dr)、トウインク(Dr, vo)の4人。1. はガレーン色が濃厚なストレートなハード・ロックであり、彼らの代表曲の一つ。2. はゆるゆるとした美しいメロディを聞かせるサイケ・ポップなバラード。3. もハードなギターが印象的な曲。キャッチーなギター・フレーズが耳に残る。5. は妙に懐かしい感じのするメロディが印象的な曲。このグループの懐の深さをよく表している。72年発表のセカンド・アルバム。サイケデリック・ロックとヘヴィ・ロックを融合させた。英国アンダーグラウンド・シーンを代表するカルト・バンドのセカンド・アルバム。オリジナル・メンバーのトウインクの脱退によりトリオ編成となり、フリーキーなロックンロールを展開。元ムーブのトレバー・パートンがゲスト参加。 | 1. ドウ・イット 04:15 2. ヘヴンリー・マン 03:42 3. セイ・ユー・ラヴ・ミー 03:48 4. ウォー・ガール 04:35 5. ネヴァー・ネヴァー・ランド 06:55 6. トラック1・サイド2 04:41 7. トール 59 | 8. ティー・ネイジ・レベレ 05:21 9. アンクル・ハリーズ・ラスト・フリーク・アウト 10:51 10. ドリム・イズ・ジャスト・ビギニング 以下、CDボーナストラック 11. ザ・スネイク 03:59 12. ドウ・イット(シングル・エディット) 03:05 13. ウォー・ガール 04:35 14. アンクル・ハリーズ・ラスト・フリーク・アウト(ファースト・ヴァージョン) 12:24 |
| PINK FAIRIES | (ペーパーズ・スリーブ仕様)ホワット・ア・パンチ・オブ・スウィーティーズ |  | 1972 | ロック | CD | 日本 | | | |
| PINK FLOYD | 夜明けの口笛吹き |  | 1967 | プログレ | レコード | 日本 | 67年作、記念すべきピンク・フロイドのデビュー・アルバムです。良く知られているように、当時のフロイドは完全にシド・バレットのバンドであり、本作も3曲を除き全てがシド作のナンバーとなっています。シドのねじれたポップ・センスが、エコー・マシーン等の使用により、スペース・ロックと呼ばれる奇妙なサウンドを成立させています。後の英国プログレ勢と比べると、最もサイケな側面が強い一枚ですが、これもシドの唯一無比の個性であったと思います。アート・ロックと呼ばれたのも頷けます。 | Side A 1. 天の支配 "Astronomy Domine" 2. ルーシファー・サム 3. マチルダ・マザー 4. フレミング 5. パウ・R・トゥク・H 6. 神経衰弱 7. Take Up Thy Stethoscope And Walk | Side B 1. 星空のドライブ "Interstellar Overdrive" 2. 地の精 "The Gnome" 3. 第24章 "Chapter 24" 4. 黒と緑のかかし "Scarecrow" 5. バイク 6. シー・エミリー・プレイ |

| | | | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------|---|------------|---------------|------|----|---|---|---|
| PLIMSOUKS | エヴリホエア・アット・ワンス |  | 1982 | ニューウェイブ | CD | 日本 | プリムソールズのセカンドアルバム。 | 1. Shaky City 2:27 2. Magic Touch 3:19 3. Oldest Story In The World 3:19 4. Lie, Beg, Borrow And Steal 2:45 5. Play The Breaks 4:17 6. How Long Will It Take 2:30 | 7. A Million Miles Away 3:34 8. My Life Ain't Easy 2:37 9. Inch By Inch 3:15 10. I'll Get Lucky 2:42 11. Everywhere At Once 3:19 12. Hobo 3:21 |
| PRAYING MANTIS | 戦慄のマントリス |  | 1981 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 81年作。本作をリリースした後、なんと10年も沈黙を守る事となったブレイン・マンティスのデビュー・アルバム。当時アイアン・メイデン、サクソン、デフ・レパード、ガール等のバンドと共にNWOBHMの急先鋒として期待されていましたが、彼等が一番叙情的でポップ、しかもどこかミステリアスな存在でした。シン・リジィのメロディに影響を受けたであろう部分もありますが、哀愁メロディがハード・ポップ調に流れる様はかなりのインパクトがありました。今改めて聴くとヘヴィ・メタルとしか呼ばれなかったのが実に不公平な気がします。メロディ・ハードという言葉も存在しなかった時代、この1枚がその歴史の扉を開けたと言っても過言ではないと思います。 | Side A 1. チューテッド 2. オール・オブ・ザ・ナイト 3. ランニング・フォー・トゥモロー 4. リッチ・シティ・キッズ 5. ラヴァーズ・トゥ・ザ・グレイヴ | Side B 1. パニック・イン・ザ・ストリート 2. ビーズ・オブ・ユア・エゴ 3. フラワー・オブ・ウィズ・スーサイド 4. チルドレン・オブ・ジ・アース |
| PRINCE AND THE REVOLUTION | パープル・レイン |  | 1984 | ロック | レコード | 日本 | 伝説的映画のサウンドトラックである本作は、プリンスの代表作として名盤。1983年6月7日米国ミネアポリス生まれ。本名プリンス・ロジャー・ネルソン。独学で音楽を始め、10代半ばにしてギター、キーボード、ドラムス、ベースなどさまざまな楽器をマスター。78年に『フォー・ユー』でデビュー。セクシャルな歌詞と奇抜なファッション、独創性にあふれた音楽で脚光を集め、ブラック・コンテンポラリーの中心的存在となる。『ダーティ・マインド』(80年)あたりからの過度の肉体露出や性的表現から「異端のイメージ」が定着していった。主演映画『パープル・レイン』(84年)とそのサウンドトラックが大ヒットを記録し、80年代最高の大スターに。シングルカットされた「ビートに抱かれて」が「レット・ゴー・クレイジー」の2曲もシングル・チャートで1位となり、プリンスは全米でのボックス・オフィス、アルバム、シングル各ジャンルで通算7枚目の最高記録を達成。1984年最高。 | Side A 1. レッツ・ゴー・クレイジー 04:39 2. テイク・ミー・ウィズ・ユー 03:54 3. ビューティフル・ワン 05:14 4. コンピューター・ブルー 03:59 5. ダーリン・ニッキー 04:14 | Side B 1. ビートに抱かれて 05:52 2. ダイ・フォー・ユー 02:49 3. ベイビー・アム・ア・スター 04:24 4. コンピューター・ブルー 08:41 |
| PRINCE AND THE REVOLUTION | アラウンド・ザ・ワールド・イン・ア・デイ |  | 1985年4月22日 | ロック | レコード | US | プリンス通算9作目の2枚組超大作。プリンスの最高傑作との呼び声も高い。見事なバランスと完成度を誇る作品。無駄を削ぎ落とし一曲目からスタイリッシュで聴き手を覚醒させる。「コロコロのファンク」と言われる事があるのだが、ちょっと違う。むしろ、抑え目で地味に光るポップ作品がオムニバスになっているアルバムである。中でも、4曲目の「The Ballad Of Dorothy Parker」と14曲目の「The Cross」が特に好きだ。前者は恐ろしくスライのファミリー・アフェアを下敷きにした、ローズ・ピアノをメインにした温かみのあるファンク・ナンバーなのだが、このパターンは彼にしか作れないだろう。曲調に対してベースが非常にソリッドであり、こういうバランス感覚が、プロフェッショナル。後者は、異色の開放的なロック調のパラードなのだが、プリンスが作ると、大仰でなく品が良い。ソウ | Side A 1. アラウンド・ザ・ワールド・イン・ア・デイ 03:28 2. ベイズリー・パーク 04:41 3. コンディション・オブ・ザ・ハート 06:48 4. ラズベリー・ベレー 03:33 5. タンバリン 02:46 | Side B 1. アメリカ 03:42 2. ポップ・ライヴ 03:43 3. ザ・ラダー 05:27 4. テンプレーション 08:18 |
| PRINCE | サイン・オブ・ザ・タイムズ |  | 1987年3月30日 | ロック | レコード | 日本 | プリンス通算9作目の2枚組超大作。プリンスの最高傑作との呼び声も高い。見事なバランスと完成度を誇る作品。無駄を削ぎ落とし一曲目からスタイリッシュで聴き手を覚醒させる。「コロコロのファンク」と言われる事があるのだが、ちょっと違う。むしろ、抑え目で地味に光るポップ作品がオムニバスになっているアルバムである。中でも、4曲目の「The Ballad Of Dorothy Parker」と14曲目の「The Cross」が特に好きだ。前者は恐ろしくスライのファミリー・アフェアを下敷きにした、ローズ・ピアノをメインにした温かみのあるファンク・ナンバーなのだが、このパターンは彼にしか作れないだろう。曲調に対してベースが非常にソリッドであり、こういうバランス感覚が、プロフェッショナル。後者は、異色の開放的なロック調のパラードなのだが、プリンスが作ると、大仰でなく品が良い。ソウ | ディスク: 1 1. サイン・"O"・ザ・タイムズ 04:57 2. プレイ・イン・ザ・サンシャイン 05:05 3. ハウスクワイック 04:41 4. ドロシー・バーカーのパラード 04:01 B面 1. イット 05:09 2. スターフィッシュ・アンド・コーヒーマン 02:50 3. スロウ・ラヴ 04:22 4. ホット・シング 05:39 | ディスク: 2 A面 1. ユー・ガット・ザ・ルック 03:47 2. イフ・アイ・ウォズ・ユア・ガールフレンド 05:01 3. ストレインジ・リレイションシップ 04:01 4. プレイズ・オブ・ユア・マン 06:29 B面 1. イット 05:09 2. ビューティフル・ナイト 09:01 3. アド 06:31 |
| PRINCE | ザ・ヒッツ2 |  | 1985年6月15日 | ロック | CD | 日本 | '93年発売のベスト・アルバム「ザ・ヒッツ」に「パープル・レイン」他、全18曲収録。彼のヒットシングルとファンのお気に入りからなる2枚で発売。ディスク1とディスク2は別々にリリースされ、それぞれ「The Hits 1」と「The Hits 2」というタイトルでリリースされたが、B-Sidesディスクはフルセットを購入することによってのみ入手できた。別々のヒッツ・ディスクとフル・セットはすべて同じ日にリリースされた。The Hits/The B-Sidesのほとんどの曲(A面とB面)は、編集された単一の形式で表現されています。ザ・ヒッツ/ザ・Bサイドが全米で19位、全英4位となり、各2枚の順位は、全米では Hits 1は46位、Hits 54は 位、全英では Hits 1は5位、Hits 2は5位となるが、プリンスが亡くなった後再び全米4位と売れた。 | 1. 戦慄の貴公子 2. ダーティ・マインド 3. ウォー・ビー・ユア・ラヴァー 4. ヘッド 5. ドゥ・ミー・ベイビー 6. デリリアス 7. リトル・レッド・コルヴェット 8. ダイ・フォー・ユー 9. ラズベリー・ベレー | 10. イフ・アイ・ウォズ・ユア・ガールフレンド 11. KISS 12. ビーチ 13. ユー・ガット・ルック 14. SEXY MF 15. ゲット・オフ 16. クリーム 17. ポープ 18. パープル・レイン |
| POLICE | アウトランドス・ダムール |  | 1978年11月2日 | パンク | レコード | UK | ポリスのデビュー・アルバム。『ロック・ザ・シー』や『キック・アゲインスト・スワン・ソング・ユー』など、バンドの幕開けを飾るに相応しいヒットシングルが収録されている。スティンクが長年作っていた楽曲がこのアルバムの大半を占めている。後に「マナー・ジャーク」になるマイルズ・コーブランド(スチュアート・コーブランドの兄)が「ロクサーヌ」を聴いて気に入り、インディーズで発売される予定であったアルバムを、A&Mに持ち込まれた。「ロクサーヌ」をシングル・カットした時はチャートの上位には食い込まず、アルバムは「キャン・スタンド・ルー・ジ・ユー」との同時発売になった。アルバム・タイトルは最初『ポリス・ブルー・タリティー』で、警官に扮したポリスのメンバーが女性を尋問している構図のジャケット写真になる予定であった。後に、「無法者 (outlaws)」と「特殊部隊員 (commandos)」からの造語と「愛の (Amour)」を意味するフランス語を組み合わせた「アウトランドス・ダムール」に | Side A 1. キャン・スタンド・ルー・ユー 4:44 2. ソー・ロンリー 4:49 3. ロクサーヌ 3:12 4. ホール・イン・マイ・ライヴ 4:52 5. ビーナッツ 3:58 | Side B 1. キャン・スタンド・ルー・ジ・ユー 2:58 2. トゥルース・ヒッツ・エヴリバディ 2:53 3. 俺達の世界 Born in the 50's 3:40 4. サリは恋人 Be My Girl - Sally 3:22 5. マソコ・タンガ 5:40 |
| POLICE | アウトランドス・ダムール |  | 1978年11月2日 | パンク | レコード | 日本 | | | |
| POLICE | アウトランドス・ダムール |  | 1978年11月2日 | パンク | CD | 日本 | | | |
| POLICE | 白いレガッタ |  | 1979年10月5日 | パンク | レコード | 日本 | 1979年にリリースされたポリスのセカンドアルバム。イギリスにおいて人気を得てはじめての彼らは、様々なアイデアを録音に取り入れた。アルバム録音中にバンドの人気に火がつき、イギリスにおいてはこのアルバムが初の1位(4週間)に輝いた。収録曲「孤独のメッセージ - Message in a Bottle」は、世界的に大ヒットした楽曲として著名。「ウォーキング・オン・ザ・ムーン」もシングルカットされ、イギリスで1位になっている。1stは当時のパンクブームを利用するため、あえて粗雑さや荒々しい作りになっていてPOLICE本来の高度で洗練された演奏、音楽性はとどき垣間見える程度で隠されていた。また3rd以降のアルバムからはシンプルでよりポップな感じになっていったが、初期のパンクッシュな勢いは薄れてしまった。しかしこのアルバムは初期の熱意と後期のテクニカルな演奏という両方の特徴を具に両立し | Side A 1. 孤独のメッセージ Message in a Bottle 4:51 2. 白いレガッタ Regatta de Blanc 3:06 3. イッツ・オールライト・フォー・ユー 3:13 4. プリンク・オン・ザ・ナイト 4:16 5. 死の誘惑 - Deathwish 4:13 | Side B 1. ウォーキング・オン・ザ・ムーン 5:02 2. トゥルース・ヒッツ・エヴリバディ 2:57 3. ひとりぼっちの夜 The Bed's Too Big Without You 4:26 4. コンタクト 2:38 5. ダズ・エブリワン・ステア 3:52 6. ノー・タイム・ディス・タイム 3:17 |
| POLICE | 白いレガッタ |  | 1979年10月5日 | パンク | CD | 日本 | | | |
| POLICE | ゼニヤッタ・モンダッタ |  | 1980年10月3日 | ロック | レコード | UK | 1980年にリリースされたポリスの3作目のアルバム。全英1位、全米5位。タイトルは造語で、その由来には諸説ある。サウンド的には、以前から取り入れていたレゲエ・フルーバーがより濃厚になるとともに、中近東〜アフリカといったエキゾチック風のフレーズが顔をのぞかせていて、後の「ゴースト・イン・ザ・マシーン」「シンクロニシティ」に繋がる要素が表れ始めている。バンドの歴史から見れば、まさに過渡期的な作品になっている。当時は違和感のあったコミカルな(7)も、スティンクが後年、非英語圏の音楽へと接近していったことを思うと、音感主体の歌詞含めむしろ納得がいくのだから不思議なもの。シングルカットした「高校教師」は、スティンクが高校の教育実習生だった体験を基にして製作された曲や、「ドゥッドゥ・デ・ダダ」が大ヒットした曲を収録。 | Side A 1. 高校教師 2. Don't Stand So Close to Me 4:04 3. 世界は悲しすぎる Driven to Tears 3:20 4. 君がなすべきこと When the World Is Running Down, You Make the Best of What's Still Around 3:38 4. カナリアの悲劇 Canary in a Coalmine 2:26 5. 果てなき妄想 Voices Inside My Head 3:53 6. ボムズ・アウェイ 3:09 | Side B 1. ドゥッドゥ・デ・ダダ 4:09 2. ビハインド・マイ・キャメル 2:54 3. スーツケースの流れる者 Man in a Suitcase 5:02 4. シヤドゥズ・イン・ザ・レイン 5:02 5. もう一つの終止符 The Other Way of Stopping 3:22 |
| POLICE | ゴースト・イン・ザ・マシーン |  | 1981年10月2日 | ロック | レコード | UK | 1981年にリリースされたポリスの4作目のアルバム。それ以前のポリスにはなかった、暗く陰鬱(いんうつ)で一貫したテーマをもつ本作は、ほぼすべてのナンバーで、現代政治とテクノロジー文化のマイナス面を取り上げている。唯一の例外は「Every Little Thing She Does Is Magic」で、この完璧なポップ・ソングはラジオでヒットした。その他のナンバーはさまざまな問題を扱っている。抑圧に抵抗しようとする潜在的願望、ほとんど工業化されていない世界の放棄、毎日爆撃のように浴びせられる過剰なまでの言葉とイメージ、個人的な意見や政治的な主張を通すためにしばしば振られる暴力。それらが、ポリスにとっついでに濃密な、何層にも音を重ねたアレンジで表現されている。アンディ・サマーズのギターラインはこれまで以上に優美で、スティンクのベースはキーボードやバックスで使ったサウンドとミックスしながら軽くつきまわす。それをうまくまとめた全米1位を獲得したラストアルバム。 | Side A 1. マテリアル・ワールド 2:59 2. マジック 3. Every Little Thing She Does Is Magic 4:22 4. インヴィジブル・サン 3:44 4. ハングリー・フォー・ユー 2:53 5. 破壊者 Demolition Man 5:57 | Side B 1. トゥ・マッチ・イン・フォーメーション 3:43 2. リビュー・オブ・ユア・セルフ 3:10 3. ワン・ワールド 4:47 4. オメガマン 2:48 5. ミス・グラデーション 3:34 6. 暗黒の世界 - Darkness 3:14 |
| POLICE | シンクロニシティ |  | 1983年6月1日 | ロック | レコード | UK | 1983年発表、全米・全英アルバムチャート1位獲得。ポリス5作目にして初めて全米1位を記録したアルバム。⑦Every Breath You Take「見つめていたい」(全米1位)、⑧King Of Pain(全米3位)、⑨Synchronicity II(全米16位)、⑩Wrapped Around Your Finger(全米8位)が大ヒットした。前作に続きヒュー・パジャムとの共同プロデュースにより、独特の空間づくりに成功している。前半部は小作品集と言った趣きだが、やや異色なのがアンディの「マザー」リトル・フィートやレオン・ラッセルのバリのスワンプロックでインパクト大。後半部⑥以降はじっくり聴かせる5分前後の曲で締められており、ポリスの履歴のハイライトとも取れるアルバムの内容である。本作のコンセプトは、イギリス人と日本人は、職種も異なるが、同じ心算のアルミ | Side A 1. シンクロニシティI 3:23 2. ウォーキング・オン・ユア・フットステップ 3:36 3. オア・マイ・ゴッド 4:02 4. マザー 3:05 5. ミス・グラデーション 1:59 6. シンクロニシティII 5:02 | Side B 1. 見つめていたい Every Breath You Take 4:13 2. キング・オブ・ペイン 4:59 3. アラウンド・ユア・フィンガー 5:13 4. サハラ砂漠でお茶を Tea in the Sahara 4:19 |
| POP | ゴー |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | US | LAで結成されたTHE POPのメジャー・リリース作(通算2作目)。メジャーからのリリースだからか、わりと大げさなアレンジの曲が多いですが、やはりA2「Shakeaway」につける。この疾走感最高。B5「Legal Tender Love」などその名の通りPOPな曲があるのに、全体的には、ほんやりした印象になっているのが残念。しかし「Shakeaway」1曲だけでも価値ある1枚。 | Side A 1. Under The Microscope 2. Shakeaway 3. Beat Temptation 4. She Really Means That Much To Me 5. I Want To Touch You | Side B 1. Waiting For The Night 2. Go! 3. Falling For Carmen 4. Maria 5. Legal Tender Love |

| | | | | | | | | | |
|----------------|--------------|---|---------|---------|------|----|--|---|---|
| POP | ゴー |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | LAで結成されたTHE POPのメジャーリリース作(通算2作目)。メジャーからのリリースだからか、わりと大げさなアレンジの曲が多いですが、やはりA2「Shakeaway」につける。この疾走感最高。B5「Legal Tender Love」などその名の通りPOPな曲があるのに、全体的には、ほんやりした印象になっているのが残念。しかし「Shakeaway」1曲だけでも価値ある1枚。 | Side A 1. Under The Microscope 2. Shakeaway 3. Beat Temptation 4. She Really Means That Much To Me 5. I Want To Touch You | Side B 1. Waiting For The Night 2. Go! 3. Falling For Carmen 4. Maria 5. Legal Tender Love |
| POP GROOP | 最後の警告 |  | 1979 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | 気と美しさが交差する、奇跡のエクストリーム・バンド=THE POP GROUP。ヴォーカルの鬼オマー・スチュワート率いる、UKプリストルで結成されたこのバンドが産み落としたデビュー・アルバムにして歴史的な問題作となったポスト・パンクの大名盤「最後の警告」。斬新かつオリジナリティ溢れるサウンド、パンクのアイディュードをベースに置きながらファンク・パンク・フリー・ジャズなどが渾然一体となって混沌としたサウンドであり、加えてプロデューサーであるデニス・ボーヴェルによるダブ処理により、極めて攻撃的で怒りと奇立ちに満ちた独自の革新的なレベ・ミュージックへと昇華した作品。 | Side A 1. 戦火は消えない Thief Of Fire 2. スノー・ガール Snowgirl 3. 外人部隊の叫び Blood Money 4. サヴェージ・シー Savagely Sea 5. 狂気の時 We Are Time | Side B 1. 言葉は裏切り Words Disobey Me 2. 兵士のあがき Don't Call Me Pain 3. 人類回帰 The Boys From Brazil 4. 夢を売ってやんな Don't Sell Your Dreams |
| POSITIVE NOISE | 闇の囁き |  | 1981 | オルタナティブ | レコード | 日本 | バンドは1979年にロスミッドルツ(ボーカル)、彼の兄弟グラブミッドルツ(ギンボード、ボーカル)、フレイザーミッドルツ(ベースギター、ボーカル)、ラッセルブラックス(ギター、ボーカル)によって結成されました。とレガフ(ドラム)。彼らの最初のリリースされた素材は、1980年のStatikレーベルコンピレーションEP Second City Statikの2つのトラック(「Refugees」と「The Long March」)で、1981年のStatikの2つのシングルで、どちらもトップ10ヒットでした。UK Independent Chartに掲載されています。デビューアルバム「闇の奥」は1981年5月にリリースされ、その後ロスは短命のレジャープロセスを結成し、ブラックスがリードボーカルを引き継いだ。Heart of Darknessは独立チャートの4番でピークに達し、バンドのセカンドアルバムであるChange of Heart(1982)もチャートで21番に達し、また、彼は1985年に3枚目の最後のアルバムであるDistant Firesをリリースした。 | | |
| POWER STATION | パワーステーション |  | 1985 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | デュラン・デュランのジョン・テイラーとアンディ・テイラー、シックのトニー・トンプソン、それにロバート・パーマーの4人が集まり1985年にリリースされた画期的なプロジェクト。特有のド派手なドラム・サウンドを中心にロックとファンクのエッセンスをドッキングしながらアンディのハードなギター・プレーとパーマーの歌声が相まって迫力十分のサウンドが繰り広げられている。T. レックスのカバー、5曲目の「ゲット・イット・オン」が聞き所でしょう。その後翌1986年に第2作「Living In Fear」を発表後に解散した。 | | |
| PREFAB SPROUT | スティーヴ・マックイーン |  | 1985 | ネオアコ | レコード | US | 1985年リリースのプリファブ・スプラウトのセカンド・アルバム。プリファブ・スプラウトはパディ・マクアールンが弟と1977年に活動を開始したバンドで一般的にはネオアコに位置づけられている。プロデューサーはなんとトーマスドルビーだった。瑞々しさ、初々しさ、懐かしさ、清らかさが同居するポップな1枚。この作品は楽器や歌に耳を傾けて、雰囲気でも聴くにしても良質な作品だと思う。女性コーラスを加工したり、シンセサイザーもさりげなく生演奏とうまく溶け込んでいる。このアナログとデジタルのバランス、音の作りも派手過ぎず、素朴過ぎる事も無い。隙間に吹く風のような空気感もとても世界観にマッチして、をしてくると思うけど、やはり曲そのものもとても良い。彼らのアルバムの中でも傑作で名盤だ。 | Side A 1. ファロン・ヤング 2. ボニー 3. アベタイト 4. ホエン・ラヴ・ブレイクス・ダウン 5. グッド・バイ・シル・ノ・1(ジョニー・ジョニー) 6. ハレルヤ | Side B 1. リヴァー 2. ホーシ・アラウンド 3. ディザイアー 4. ブルーベリー・パイ 5. エンジェル |
| PREFAB SPROUT | スティーヴ・マックイーン |  | 1985 | ネオアコ | CD | 日本 | 1985年リリースのプリファブ・スプラウトのセカンド・アルバム。プリファブ・スプラウトはパディ・マクアールンが弟と1977年に活動を開始したバンドで一般的にはネオアコに位置づけられている。プロデューサーはなんとトーマスドルビーだった。瑞々しさ、初々しさ、懐かしさ、清らかさが同居するポップな1枚。この作品は楽器や歌に耳を傾けて、雰囲気でも聴くにしても良質な作品だと思う。女性コーラスを加工したり、シンセサイザーもさりげなく生演奏とうまく溶け込んでいる。このアナログとデジタルのバランス、音の作りも派手過ぎず、素朴過ぎる事も無い。隙間に吹く風のような空気感もとても世界観にマッチして、をしてくると思うけど、やはり曲そのものもとても良い。彼らのアルバムの中でも傑作で名盤だ。 | 1. ファロン・ヤング 2. ボニー 3. アベタイト 4. ホエン・ラヴ・ブレイクス・ダウン 5. グッド・バイ・シル・ノ・1(ジョニー・ジョニー) | 6. ハレルヤ 7. リヴァー 8. ホーシ・アラウンド 9. ディザイアー 10. ブルーベリー・パイ 11. エンジェル |
| PRETENDERS | 愛しのキッズ |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | US | プリテンダースのデビュー・アルバム。物語は、スコットランドのロックバンド「ザ・キンクス」の「Stop Your Sobbing」のカヴァーを収録したファースト・シングルからのリリースから始まった。この曲は全米Top 40ヒットを記録、続くシングル「Kid」も同じくTop 40に入る。その後、彼女たちはプリテンダースの最も有名な曲の一つとなる「Brass In Pocket」を発表、輝かしいギターのリズムと甘美なコーラスがリードするこの曲は、プリテンダースをまさに別次元へと押し上げ、UK、アイルランド、スウェーデン、南アフリカで1位を、オーストラリアやベルギー、カナダ、フランス、ニュージーランドなどでTop 5を果した。アメリカでも14位を記録、MTVで放映された7番目のミュージック・ビデオとなるなど、大きな成功を収めることとなった。このデビュー・アルバム「PRETENDERS」は現在でも非常に高い評価を受けており、1980年のベスト・アルバムとして、現在も高い評価を受けている。 | Side A 1. Precious 3:37 2. The Phone Call 2:30 3. Up The Neck 4:28 4. Tattooed Love Boys 3:00 5. Space Invader 3:27 6. The Wait 3:37 7. Stop Your Sobbing 2:39 | Side B 1. Kid 3:07 2. Private Life 6:27 3. Brass In Pocket 3:05 4. Lovers Of Today 5:52 5. Mystery Achievement 5:24 |
| PRETENDERS | 愛しのキッズ |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | | Side A 1. プレシャス 2. フォン・コール 3. アップ・ザ・ネック 4. ラヴ・ボーイズ 5. スペース・インヴェイダー 6. ザ・ウェイト 7. ストップ・ユア・ソブニング | Side B 1. 愛しのキッズ 2. プライベート・ライフ 3. 恋のブラッ・イン・ポケット 4. 涙のラヴァーズ 5. ミステリー |
| PRETENDERS | プリテンダース II |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | US | 81年にリリースされた2枚目のアルバム。このアルバムからもA面6とB面2がヒットした。前作の勢いを踏襲しつつも音劇的に凝って来たのが特徴で、A面2ではマイル通りの「鞭打つ」効果音が挿入されている。中盤のフリーキーなパートからJamの様なエンディングに雪崩込む様が最高で、James Honeymanの自由度の高いギターとPete Fardonのベースの疾走感の有る絡みにChristieのラ・カルでもオスを感じさせるMCが乗る。手に汗握る展開にのっけから惹きつけられる。#6のクッパの過度に女性を感じさせないのに愛らしいボーカルも見事好感がある。B面1、3は曲劇的にJamesも参加しておりギター・フレーズから曲を構築して行ったと感じさせる程Jamesのギターが重要な曲。このアルバムを最後にギターのジェームス・ハニーマン・スコットとベースのピーター・ファドンの相次いでドラッグにより死去してしまふ。 | Side A 1. The Adulress 3:58 2. Bad Boys Get Spanked 4:07 3. Message Of Love 3:28 4. I Go To Sleep 2:57 5. Birds Of Paradise 4:16 6. Talk Of The Town 2:45 | Side B 1. Pack It Up 3:52 2. Bad Waste Not Want Not 3:46 3. Day After Day 3:47 4. Jealous Dogs 5:38 5. The English Roses 4:31 6. B Louie Louie 3:29 |
| PRETENDERS | 情熱のロックン・ロード |  | 1984年1月 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | プリテンダースの3作目。全英17位・全米5位。ハニーマン・スコットの解雇やギター・ジェームス・ハニーマン・スコットのドラッグ死により活動停止を余儀なくされ、KinksのRay Daviesさんとの結婚～出産を挟みメンバー探しと並行して本作レコーディングも続け復活作・最高傑作となる。全曲が新メンバーでの録音では無く、元Rockpileのギター・Billy Bremner、Rumoreのベース・Andrew Bodner等、の協力を得て録音となる。A面1「情熱のロックン・ロード(Middle Of The Road)」は、全英81位・全米19位。冒頭のドラムとギター、中間部のハーモニカが印象的なロックン・ロール。A面2「チェイン・ギャング(Back On The Chain Gang)」は、全英17位・全米5位。意味の感じられない掛け声コーラスがうまくはまっています。A面5「愛に抱かれて(Show Me)」は、全米28位。流れるような曲調が感動的な曲。B面3「ラヴ・ボーイズ」は、全英49位・全米83位。このアルバムは、プリテンダースのデビュー・アルバム「最後の警告」から、リーダーであるケン・ハマー(G)とロニー・アトキンス(Vo)を中心のキャリアの長いバンド。北欧らしきどこか漂う晴らしいメロディーの数々とエモーションで力強い正統派ヘビーメタルサウンドはとて魅力的。本作はそんな彼らの出世作となった1984年発表の(デビューミニアルバムに続く)2ndアルバム。これ以降キャッチーでメロディアスな要素を強める彼らですが、本作では正統派のメロディックなヘビーメタル/パワーメタルを展開しています。次作以降に顕著になる彼らのメロディメイカー振りも既に十二分に発揮された。80年代正統派ヘビーメタルの名盤です。荘厳なA①の後に、ザクザクとしたギターとドラマティックな展開にメロディアスなサビメロでバワフルに突き進む、若きロニーが力強いリードボーカルを放つ「情熱のロックン・ロード」は、全英17位・全米5位。意味の感じられない掛け声コーラスがうまくはまっています。A面5「愛に抱かれて(Show Me)」は、全米28位。流れるような曲調が感動的な曲。B面3「ラヴ・ボーイズ」は、全英49位・全米83位。このアルバムは、プリテンダースのデビュー・アルバム「最後の警告」から、リーダーであるケン・ハマー(G)とロニー・アトキンス(Vo)を中心のキャリアの長いバンド。北欧らしきどこか漂う晴らしいメロディーの数々とエモーションで力強い正統派ヘビーメタルサウンドはとて魅力的。本作はそんな彼らの出世作となった1984年発表の(デビューミニアルバムに続く)2ndアルバム。これ以降キャッチーでメロディアスな要素を強める彼らですが、本作では正統派のメロディックなヘビーメタル/パワーメタルを展開しています。次作以降に顕著になる彼らのメロディメイカー振りも既に十二分に発揮された。80年代正統派ヘビーメタルの名盤です。荘厳なA①の後に、ザクザクとしたギターとドラマティックな展開にメロディアスなサビメロでバワフルに突き進む、若きロニーが力強いリード | | |

| | | | | | | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|---|------|------------|------|----|--|---|---|
| PRETTY THINGS | (ペーパースリーブ仕様)S.F.ソロウ (デジタルリマスター) |  | 1968 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 68年作アルバム。The WhoのTommyより先にリリースした史上初のロックオペラの先駆けのコンセプト作品で、KINKSにも多。英EMI移籍第1弾にして、THE WHO『TOMMY』やKINKS『ARTHUR』に大きな影響を与えた歴史的名盤。そのWHOのビートル・タウンゼントは本作を4日間も聴き続けたという話がある。ELECTRIC BANANA期とも呼ばれるサイケデリックなフリーク・ビートが詰まった一枚。当時は商業的には成功しませんでした。時が過ぎその創作性の高さで名盤として評価されている。内容は、1. はキャッチーなアコギのフレーズ、フラワー・モード満載のコーラス、メロトロント、この時代のおいしい部分を取り出したかのような曲。2. はフラワーでヒースフルな曲。曲展開も複雑だが、メロディそのものはかなりポップであり楽しめる。3. 4. もこの手のサイケ・ポップ・グループとしては流石な上乗りの曲展開も巧み。そしてポップである。5. 彼らの本来のR | 1. S.F.ソロウの誕生 S. F. Sorrow Is Born 2. プレスレット Bracelets 3. お早う She Says Good Morning 4. 悲しみは果てなく Private Sorrow 5. 風船は燃えている Balloon Burning 6. 人生の果て Death | ここからレコードのB面 7. バロン・サタデー Baron Saturday 8. 旅路 The Journey 9. I See You 10. 運命のつたずら Well Of Destiny 11. 僅かなこと Trust 12. 淋しい男 Loneliest Person 13. 老人は行く Old Man Going 14. CDボーナストラック 以下、CDボーナストラック 14. デイフェクティング・グレイ [オリジナル・アセット・レコーディング] 15. ミスター・イヴェイジョン 16. サーク・ザ・タイム |
| PRETTY THINGS | S.F.ソロウ (デジタルリマスター) |  | 1968 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | | 以下、ペーパースリーブのみ追加ボーナストラック 18. ウォーキング・スルー・マイ・ドリームス (ボーナス・トラック) 19. お早う [ライブ 1969] (ボーナス・トラック) 20. アレキサンダー [ライブ 1969] | |
| PRETTY THINGS | (ペーパースリーブ仕様)バラシュート (デジタルリマスター) |  | 1970 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 1970年リリースのブリタニッシュビートの5枚目のアルバム。ローリングストーンズ紙の1970年度のNO.1アルバムに選出された。S.F. SorrowがPretty ThingsのSgt. Pepper, Magic Mystery Tour, Yellow Submarineを1つにまとめたものなら、Parashuteは彼らのより簡潔なWhite AlbumとAbbey Roadです。これは単なるタイムラインの比較ではありません。ザ・ブリタニッシュビートは、ロンドンのアビー・ロード、ファーフォーと同じスタジオで、ビートルズのエンジニア、ノーマン・スマイスがプロデュースしたこの魅力的なLPを作った。「The Good Mr. Square」は、ビートルズが「Because」で誇りに思っていた3部構成のハーモニーを再現している。2曲後、グループはAbbey Roadのサイド2にある有名なもののように、短く相互接続された3曲の組曲を組み立てます。ペーシストのウォーリー・アレンの「Sickle Clown」は、そのトピックの音楽的価値を「Yes, Blues」が「Happiness」 | 1. シーン1 2. グッド・ミスター・スクエア 3. 彼女は背が高かった、彼女は高かった 4. イン・ザ・スクエア 5. 手紙 6. 雨 7. ミス・フェイの後悔 8. 真夜中のサーカスからの叫び声 | レコードはここからB面 9. グラス 10. シルク・クラウンズ 11. シーズ・アラヴァー (彼女は恋人です) 12. ホワット・ザ・ユース 13. バラシュート 以下、CDボーナストラック 14. ウォーキング・スルー・ブルース 15. 10月26日 16. コールド・ストーン 17. ストーン・ハーテッド・ママ 18. サーク・ザ・タイム |
| PRETTY THINGS | バラシュート (デジタルリマスター) |  | 1970 | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | | | |
| PRETTY THINGS | シングルズ |  | | ブリタニッシュビート | CD | 日本 | 「The Pretty Things 1967-1971」は、サウンドの変化が激しかった激動の時期、1967年～1971年にリリースされたシングルを集めたもの。60年代後半は、バンドがビートル・ロックから音楽性方向転換した時期で、そのサウンドは衝撃的、トリップしたリフに、大胆な曲展開、狂気を感じさせる、妖しいサウンドでありながら、ヴォーカルやコーラスワークはメロディアスで、単なる「ヘンな曲」で終わってはいない。まだプログレの時代が到来していないころから、これほど大胆でトリッキーなサウンドを作り上げていたことに驚嘆する。だが、アルバムは、セールス的には成功しておらず、作品の内容よりもバンドの中心人物、ディック・テイラーが、デビュー前のローリング・ストーンズに在籍していたことが過大に知られているように感じる。しかし、この時期は、バンドに負けないほどの「プロダクション」の名手、ザ・プロダクションズの名手、彼らが60年代後半に、全米トップ10に、アルバムが売れなくなっていったためバンドの活動資金を稼ぐため、映画音楽を担当する際、エレクトリックバナナという変名で製作されており、そのバンドでリリースした数枚のアルバムから寄せ集められたのがこの作品。フィル・メイによる小説、小説を書くようなものらしいが、そこに残されたサウンドはヤツツケ仕事ではなく素晴らしい作品があります。1967年にこの編集盤がそのままブリタニッシュ・シングスの名義のアルバムとして出しても何の違和感も無い。むしろこれが素晴らしい、曲としては「S.F.ソロウ」以上といってもいいくらい、ヘビーサイケありサイケポップありの充実したアルバムとなっています。あのトゥインクが参加した曲も多数含まれていて、時期的にも、S.F.ソロウと、無関係な作品 | 1. デイフェクティング・グレイ 2. ミスター・イヴェイジョン 3. トーキング・アバウト・ザ・グッド・タイムズ 4. ウォーキング・スルー・マイ・ドリームズ 5. プライヴェート・ソロウ 6. バルーン・バーニング | 7. ゴッド・ミスター・スクエア 8. ブルー・サージ・ブルース 9. 10月26日 10. コールド・ストーン 11. サーク・ザ・タイム 12. サーク・ザ・タイム 13. ストーン・ハーテッド・ママ |
| PRETTY THINGS [ELECTRIC BANANA] | ブロー・ユア・マインド |  | | | CD | 日本 | 「The Pretty Things 1967-1971」は、サウンドの変化が激しかった激動の時期、1967年～1971年にリリースされたシングルを集めたもの。60年代後半は、バンドがビートル・ロックから音楽性方向転換した時期で、そのサウンドは衝撃的、トリップしたリフに、大胆な曲展開、狂気を感じさせる、妖しいサウンドでありながら、ヴォーカルやコーラスワークはメロディアスで、単なる「ヘンな曲」で終わってはいない。まだプログレの時代が到来していないころから、これほど大胆でトリッキーなサウンドを作り上げていたことに驚嘆する。だが、アルバムは、セールス的には成功しておらず、作品の内容よりもバンドの中心人物、ディック・テイラーが、デビュー前のローリング・ストーンズに在籍していたことが過大に知られているように感じる。しかし、この時期は、バンドに負けないほどの「プロダクション」の名手、ザ・プロダクションズの名手、彼らが60年代後半に、全米トップ10に、アルバムが売れなくなっていったためバンドの活動資金を稼ぐため、映画音楽を担当する際、エレクトリックバナナという変名で製作されており、そのバンドでリリースした数枚のアルバムから寄せ集められたのがこの作品。フィル・メイによる小説、小説を書くようなものらしいが、そこに残されたサウンドはヤツツケ仕事ではなく素晴らしい作品があります。1967年にこの編集盤がそのままブリタニッシュ・シングスの名義のアルバムとして出しても何の違和感も無い。むしろこれが素晴らしい、曲としては「S.F.ソロウ」以上といってもいいくらい、ヘビーサイケありサイケポップありの充実したアルバムとなっています。あのトゥインクが参加した曲も多数含まれていて、時期的にも、S.F.ソロウと、無関係な作品 | [1] Alexander [2] It'll Never Be Me [3] I Love You [4] Gray Skies [5] What's Good For The Goose [6] If I Needed Somebody [7] Street Girl | [8] Blow Your Mind [9] Eagle's Son [10] I See You [11] Love, Dance And Sing [12] Danger Signs [13] Walking Down The Street [14] A Thousand Ages From The Sun [15] Rave Up |
| PROCOL HARUM | 青い影 |  | 1967 | | CD | 日本 | 1967年リリース、プロコル・ハラムのデビューアルバム。全英1位、米5位を獲得したファースト・シングル曲(M-1)「青い影」は当時の英盤には未収録で、US盤に収録された。ゲイリー・ブルッカーのソウルフルなヴォーカル、ロビン・トローワのギター奏法、マシュー・フィッシャーのオルガンとブルッカーのピアノによる2重奏、B.J.ウィルソンのドラム・プレイと、どれを取っても不可欠な最高のアンサンブルが織りなすデビュー盤は、アルバム・ハイライトというべきM-7、フィッシャー作のM-10でのドラマチックな展開をはじめ、全体を通して名盤の誉れ高い趣が感じられる | 1. 青い影 2. 征服者 3. シー・ワンダード 4. フォロイング・ミー 5. メイベル 6. セルデス 7. クリスマス・キャメル | 8. 万華鏡 9. サラダ・デイズ 10. グッド・キャプテン・クラック 11. ヴァルブルグスの後悔 12. ライム・ストリート・ブルース(ボーナス・トラック) 13. ホルバーク(ボーナス・トラック) 14. ムッシュ・アーマンド(ボーナス・トラック) 15. ブルース・オール・ザ・タイム |
| PRODUCERS | PRODUCERS |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | US | アトランタ出身のパワー・ポップ・バンドPRODUCERSの81年にリリースしたファーストアルバム。ストレートなアプローチを主体とし、音楽性はナックやシューズにも通じる。トム・ワークマンの音作りは戦略として悪くなかったと思うが、いまひとつナックの様なインパクトがなくブレイクにはならなかった。85年にはサードアルバムを出す解散となる。その後、2001年に再結成したアルバムが発売し話題となった。 | Side A 1. What He Got? 3:11 2. I Love Lucy 3:52 3. Who Do You Think You Are 2:45 4. Life of Crime 3:30 5. Certain Kinda Girl 2:52 6. You Go Your Way 2:16 | Side B 1. What She Does to Me 3:47 2. Body Language 2:48 3. Sensations 3:32 4. Here's to You 3:05 5. Boys Say When, Girls Say Why 2:43 6. The End 2:46 |
| PROFESSIONALS | 炸裂 |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | セックス・ピストルズ解散後、ステイヴ・ジョーンズ(a)とポール・クック(ds)が結成したバンド「プロフェSSIONALS」の唯一のアルバム。ファーストにしてラスト・アルバム。後のパワーポップに繋がるキャッチーな楽曲やサウンドが炸裂する。シンプルながらもエネルギー溢れる作品だ。キャッチーな楽曲/サウンドは後年、パワー・ポップの文脈で評価を得た。 | Side A 1. ザ・マグニフィセント 2. ベイオラ 3. ノーザン・スライド 4. フライ・デイト・スクエア 5. キック・ダウン・ザ・ドアーズ | Side B 1. リトル・ボーイズ 2. オール・ザ・ウェイ 3. クレセント 4. マッドハウス 5. トゥー・ファート・トゥ・フォール |
| PROFESSIONALS | (ペーパースリーブ仕様)炸裂 |  | 1981 | ニューウェイブ | CD | 日本 | | | |
| PROPAGANDA | シークレット・ウィッシュ |  | 1985 | ニューウェイブ | レコード | 日本 | ドイツはデュッセルドルフで結成された5人組のエレポップ・バンド。アバを意識したところからもうかがえる徹底したポップセンスとドイツらしい重厚なエレクトロニクス。フランキー・ゴーズ・トゥー・ハリウッドの世界的成功に続かたでトレヴァー・ホーンによって世に送り出された、プロパガンダ85年発表のファースト・アルバムにして唯一のZTT期オリジナル・アルバム『A Secret Wish(ア・シークレット・ウィッシュ)』。ZTTスタッフと送り出した幻想のデビューアルバム。UKアルバムチャート16位を獲得。ヒット曲「マフーゼ」と「不思議の国のデュエル」を収録。84年のデビュー曲でフリッツ・ラングのカルト映画「ドクトル・マフーゼ」を題材にするというあたりのゴシック趣味が渾然となり、本国はもとより、イギリスやフランスでも大々的な記録をした。 | Side A 1. Dream Within A Dream 2. The Murder Of Love 3. Jewel 4. Duel 5. Frozen Faces | Side B 6. P-Machinery 7. Sorry For Laughing 8. Dr. Mabuse 9. The Chase 10. Strength To Dream |
| Psychedelic Furs | ザ・サイケデリック・ファーズ |  | 1980 | ニューウェイブ | レコード | UK | 1980年のファーストアルバム。ポスト・パンクの新星の一つとしてデビューした彼ら。ヨーロッパとデガダンの入り混じった極めてシュールで文学的な音楽。パンクの不毛性を批判し、しかし音としてはあきらかにパンク以後しかありえなかった音を鳴らした。サクセスも大きくフィーチャーされている。まだ6人組時代のファースト。混沌として切ないメロディー、サイケとプログレがごちゃ混ぜになったサウンドは、まさに『美しき混沌』と呼ぶにふさわしい。一枚目なのに完成度が高く、名曲、佳曲が多い。加えてロックのパワーも迫力もある。若かりしFURSのエナジーが感じられる傑作だ。 | Side A 1. India 2. Sister Europe 3. Imitation of Christ 4. Fall 5. Pulse 6. We Love You | Side B 1. Wedding Song 2. Blacks/Radio 3. Flowers 4. Susan's Strange 5. Soap Commercial 6. Mack the Knife |
| Psychedelic Furs | トーク・トーク・トーク |  | 1981 | ニューウェイブ | レコード | US | 1981年リリースのセカンドアルバム。全英30位を記録。このセカンドはベスト盤といえるほど良曲揃いで「プリティ・イン・ピンク」「シー・イズ・マイン」「ダム・ウェイターズ」といった代表曲が入っている。パンクの影響をモロに受けたであろう彼だが、曲自体はかなりポップである。ポップな曲にリチャード・ハトラのしゃべり声のボーカルがミスマッチしていて、退廃的というかアンニュイな雰囲気を出しているのだけ、それが彼らの特徴でもある。サードアルバムはトッド・ラングレンのオーバー・プロデュースでミーハーチックになってしまっているが、こちらはファーストアルバムに引き続いてステイブ・リリー・ホワイトが担当、とにかくムダを省いたシンプルなサウンド構築で彼らのすべてを引き出した傑作である。特にA1の曲からインスパイアされてアメリカ映画「プリティ・イン・ピンク」が制作されたことが有名になり、88年にシネマ・グラフィックと、再リリースされた。 | Side A 1. Pretty In Pink 2. Mr. Jones 3. No Tears 4. Dumb Waiters 5. She Is Mine | Side B 1. Into You Like A Train 2. It Goes On 3. So Run Down 4. I Wanna Sleep With You 5. All Of This & Nothing |
| Psychedelic Furs | ミッドナイト・トゥ・ミッドナイト |  | 1987 | ニューウェイブ | レコード | UK | 86年リリースの5枚目のアルバム。全英アルバム・チャート12位を記録。アメリカでも29位と、彼らのアルバムの中では最も売れた作品。メンバーはリチャードとティム・ハトラ兄弟とギター・ジョン・アッシュトン(3人となり、スタジオ・ミュージシャン参加で作品を作成するという事態になってしまうが、しかしこの頃の彼らは86年の「プリティ・イン・ピンク」の大ヒットにより波に乗っていた(本盤にはB5に収録)。プロデューサーにローリング・ストーンズとの仕事でも有名なクリス・キムジーを迎え、メリハリのあるロック・サウンドを作り上げています。もうメンバーにはサクセス・プレイヤーがいないのに、やけにサクセスをフィーチャーした曲が多いのは、それが彼らのアイデンティティだからでしょう。 | Side A 1. Heartbreak Beat 2. Shock 3. Shadow In My Heart 4. Angels Don't Cry | Side B 1. Midnight To Midnight 2. One More Word 3. Torture 4. All Of The Law 5. Pretty In Pink |
| PUBLIC IMAGE LTD | パブリックイメージ |  | 1978 | オルタナティブ | レコード | 日本 | 1978年リリースのファーストアルバム。セックス・ピストルズを脱退したジョン・ライオンを中心に結成された彼らが、ポスト・パンクの先陣を切って世に問うた衝撃のデビュー・アルバム。ロック的なものから意図的に離れ、レゲエ/ダブを大胆に取り入れた斬新なサウンドは、ビートルズの幻影を追いかけた聴衆をざざ笑うかのようにその革新性を提示した。来るべきシーンを切り開いた重要な問題作として、いまだに強烈なインパクトを放ち続ける作品。しかしこの作品が同時代のミュージシャンや一部のロックの聞き手に与えた影響力はすさまじく、この後パンクロックは単純なR&Rビートからニューウェイブと呼ばれる多様なスタイルを持つ実験的な音楽に変化していった。全曲が革命的とも言える出来だが、いま聞いても新鮮なのはアルバムラストに納められた『FODDERSTOMP』。レゲエのスタイルの曲で、D.I.B.の手法を用いた。そのスタイルは無難な音楽では無く、 | Side A 1. テーマ 2. レジヨン I 3. レジヨン II 4. アナリサ | Side B 1. プリック・イメージ 2. ロー・ライフ 3. アタック 4. フォーダーストンプ |

| | | | | | | | | | | |
|---|------------------|--------------------|---|-------|---------|------|------|--|---|---|
| | PUBLIC IMAGE LTD | メタル・ボックス |  | 1979 | オルタナティブ | レコード | 日本 | 1979年リリースのセカンドアルバム。特殊仕様のため限定にせざるを得なかった缶入り12インチ3枚組のオリジナルから、曲順を入れかえて2枚組LPとして出したおたのスタンダード・エディション。それまでの音楽的手法から開放されたとも言えるアヴァンギャルドな音像とクリエイティビティは、のちのオルタナティブ・ロック・シーンにも大きな影響を与えた。まさに唯一無二の個性を放っていた時代の彼らが産み落とした先鋭的でスリリングな作品。 | Side A 1. アルバトロス 2. メモリーズ Side B 1. スワン・レイク 2. ポットーンズ 3. キャリアリング | Side C 1. ソーシャリスト 2. 墓場 3. スーツ Side D 1. バッド・ベイビー 2. ノー・バース 3. チャント 4. ラジオ 4 |
| | PUBLIC IMAGE LTD | メタル・ボックス |  | 1979 | オルタナティブ | レコード | US | | Side A 1. アルバトロス 2. メモリーズ Side B 1. スワン・レイク 2. ポットーンズ 3. キャリアリング | Side C 1. ソーシャリスト 2. 墓場 3. スーツ Side D 1. バッド・ベイビー 2. ノー・バース 3. チャント 4. ラジオ 4 |
| | PUBLIC IMAGE LTD | フラワーズ・オブ・ロマンス |  | 1981 | オルタナティブ | レコード | 日本 | 1981年リリースのサードアルバム。サウンドの要でもあった奇才ベーシストのジャー・ウーブルの脱退というアクシデントもありながら、その完成度から最高傑作とも謳われる3作目。プリミティブなリズムとイスラム風なコンセプトのもと、いち早くエスニックなテイストと独自の前衛性を融合させた内容は、ジョン・ライデンによる宗教性を伴った呪術的な世界観と新たなリズムの創成が相まって稀有な作品となった。 | Side A 1. フォー・インクローズド・ウォールズ 2. トラック 8 3. フェナジェン 4. フラワーズ・オブ・ロマンス 5. アンダー・ザ・ハウス | Side B 1. ハイミーズ・ヒム 2. ハンキング・ザ・ドア 3. コー・バック 4. フランシス・マサカー |
| | PUBLIC IMAGE LTD | ジス・イズ・ホワット・ユー・ウォント |  | 1984年 | オルタナティブ | レコード | 日本 | このアルバムのリリースを巡ってギタリストのキース・レヴィンと対立しキース・レヴィンとの確執(ジュニーの脱アヴァンギャルドが理解できなかったレヴィン)。で脱退するなか、その原因にもなった『Commercial Zone』を発売中止にしたうえで新たに制作しなおした4作目。ライデンらしい人を喰ったタイトルも秀逸な話題作であり問題作。プラスを大胆に採り入れたダンサブルなオープニングチューン「Bad Life」前2作と同様のアヴァンギャルドを期待した人には肩すかしするが、しかしこのアルバムはなんと『踊れるPIL』だ。『ライヴ・イン・TOKYO』で披露されていた「ソリティア」「バッド・ライフ」を正式にレコーディング。前年に発売され、英チャートの5位を記録したヒット・シングル「ラヴ・ソング」も収録。 | Side A 1. バッド・ライフ 2. ラヴ・ソング 3. ソリティア 4. タイ・ミー・トゥ・レングス・オブ・ザット | Side B 1. バードン 2. ホエア・アー・ユー 3. 1981 4. オーダー・オブ・デス |
| | PUBLIC IMAGE LTD | アルバム |  | 1986 | オルタナティブ | レコード | 日本 | 1986年リリースの6枚目のアルバム。スティーヴ・ヴァイ、トニー・ウィリアムス、ジョン・チャー・ベーカー、バーニー・ウォーレル、坂本龍一ら豪華なミュージシャンが参加し、ビル・ラズウェルがプロデュースを行なった5作目。バンドとしてのアイデンティティは薄れたものの、多彩なサウンドにのるパワフルなジョン・ライデンのヴォーカルが光る。ライデンという強烈な個性を引き立てながら、それをうまく料理するラズウェルの手腕に納得の作品。 | Side A 1. F.F.F. 2. ライズ 3. フィッシング 4. ラウンド | Side B 1. バグズ 2. ホーム 3. イーズ |
| Q | QUARTERFLASH | ミッドナイト・ウラッシュ |  | 1981 | ロック | レコード | 日本 | 81年作、あのゲフィンが当時大型新人として発掘したバンド、クォーターフラッシュのデビュー・アルバム。ジョン・レノンやドナ・サマーに引き続き、あのエイジアより先にゲフィンが猛プッシュしてリリースした事を考えると、カの入れようがわかるというものです。大ヒット・シングルとなった「Harden My Heart (ミスター・ハート)」は、今も80'sファンの胸を熱くする名曲だと思います。サクセス兼ヴォーカリストの紅一点、リンディ・ロスはバット・ベネターとも比較されましたが、そのせつなく響く美声は、巧みなソング・ライティングによるメロディと共に高性能ポップ・アルバムを完成させています。プロデュースはボストンのデビュー作にも関わったジョン・ポイラン。ウェストコースト・シーンの重鎮だけにAOR然としたサウンドとなっていますが、パイオニア・レコーズが、このアルバムをリリースするにあたり、レディ・ロスの音楽性を高く評価し、きらびやかなギターとハーモニー・コーラス、バラエティに富んだ音楽性は、ハード・ロックの未来をも予見していた気がします。グラム、プログレをも吸収しながら、キャッチーなメロディを作り上げるセンスはすでにここで開花しています。当時の英国ハードとしては、ブルースに頼らないロックを提示していたのも新鮮でした。ロック・スターとしての輝きと、ブライアン・メイの自家製ギターの個性的な音色、フレディの独特の歌唱はすでに個性を発揮しています。「キープ・ユアセルフ・アライヴ」、「ライアー」等に見られるリフやメロディは、確かにツェッペリン以降のプリティッシュ・ハードを大きく変える予感を感じさせる威力を持っていた。 | SIDE A 1. ミスティー・ハート 2. ファインド・アナザー・フル 3. クリカカル・タイムズ 4. ヴァレリー 5. トライ・トゥ・メイク・イット・トゥルー | SIDE B 1. ライト・カインド・オブ・ラヴ 2. クルージング・ウィズ・ザ・デュース 3. ラヴ・シュド・ビー・トゥー・カインド 4. ウィリアムズ・アヴェニュー |
| | QUEEN | 戦慄の女王 |  | 1973 | ハードロック | レコード | 日本 | 73年作、クイーン初のアルバムにして、彼等がヴィジュアルだけではなく、本格的ハード・ロック・バンドとしてその新しいセンスを遺憾なく発揮した大傑作です。初期の彼等の作品の最高傑作として挙げる人が多い。日本では女性人気が多かったが、このアルバムで男性ロック・ファンが多くなった。全体がコンセプチュアルな構成となっていますが、各曲が独立した美しさとダイナミズムを誇っています。メタリックな質感や、グラム、そしてプログレ的構成と、当時の英国ロックを彼等なりに総括、そして完全にオリジナルなサウンドとして鳴らしているのが見事。本作のアーティストック、かつグラマラスな作風が、次作で一気にポップに開花していますが、この路線でもう1枚作って欲しかった。とにかく全編躍るの程の妖しい色気に満ちた、問答無用のハード・ロック。 | SIDE A 1. 炎のロックンロール - Keep Yourself Alive (ブライアン・メイ) 3:47 2. ドゥーイング・オール・ライト (ブライアン・メイ/スタップェル) 4:09 3. グレイト・キング・ラット (フレディ) 5:42 4. マイ・フェアリー・キング (フレディ) | SIDE B 1. ライアー (フレディ) 6:25 2. ザ・ナイト・カムズ・ダウン(ブライアン) 4:23 3. モダン・タイムス・ロックン・ロール (ロジャー) 1:48 4. サン・アンド・ドーター(ブライアン) 3:23 5. ジーザス (フレディ) 3:44 6. 輝ける7つの海 - Seven Seas of Rhye... (フレディ) 1:16 |
| | QUEEN | クイーン II |  | 1974 | ハードロック | レコード | 日本 | 74年作、クイーン初のセカンド・アルバムにして、彼等がヴィジュアルだけではなく、本格的ハード・ロック・バンドとしてその新しいセンスを遺憾なく発揮した大傑作です。初期の彼等の作品の最高傑作として挙げる人が多い。日本では女性人気が多かったが、このアルバムで男性ロック・ファンが多くなった。全体がコンセプチュアルな構成となっていますが、各曲が独立した美しさとダイナミズムを誇っています。メタリックな質感や、グラム、そしてプログレ的構成と、当時の英国ロックを彼等なりに総括、そして完全にオリジナルなサウンドとして鳴らしているのが見事。本作のアーティストック、かつグラマラスな作風が、次作で一気にポップに開花していますが、この路線でもう1枚作って欲しかった。とにかく全編躍るの程の妖しい色気に満ちた、問答無用のハード・ロック。 | サイドホワイト 1. プロセッショ (ブライアン) 1:13 2. 父よりチホ - Father to Son (ブライアン) 6:13 3. ホワット・クイーン (ブライアン) 4:35 4. サム・デイ・ワン・デイ (ブライアン) 4:22 5. ルーザー・イン・ジ・エンド (ロジャー) 4:06 | サイドブラック 1. オウガ・バトル(フレディ) 4:08 2. フェアリー・フェアリー The Fairy Feller's Master-Stroke (フレディ) 2:40 3. ネヴァー・モア (フレディ) 1:18 4. マーチ・オブ・ザ・ブレイク・クイーン (フレディ、ロジャー) 6:32 5. ファニー・ハク・ラヴ・イズ (フレディ) 2:51 6. 輝ける7つの海 (フレディ) 2:48 |
| | QUEEN | シアー・ハート・アタック |  | 1975 | ハードロック | レコード | 日本 | 74年作、クイーン初の3作目。イギリスでは評価が落ちていたが、そんな彼等への見方を一気に変えたのが本作であり、アメリカでも「クイーン・クイーン」の大ヒットにより知名度を上げる事になる。それまでどこかマニアックに響いていた彼等の幅広い音楽性が、ここでは大衆的なポップ・センスで昇華され、ハード・ロックからヴォードヴィル、フォー・キッシュな魅力まで、どれも彼等の個性として受け入れられた。特に前述の「クイーン・クイーン」はグラム・ロックの体裁を取りながら、一過性で終わらないポップ・ソングとしての完成度を誇っていた。メタリカがカヴァーする「ストーン・コールド・クレイジー」は完全なメタル・ナンバーであり、「ブライオン・ロック」は三味線型ハード・ロック、「ナウ・アタイム・ヒア」は早くもハード・ポップ・スタイルを確立。これらのナンバーが、70年代のプリティッシュ・ハードの最新型として、イギリスを越えて、またアメリカでも大ヒットを記録した。また、このアルバムは、クイーン初の全編躍るの程の妖しい色気に満ちた、問答無用のハード・ロック。 | SIDE A 1. ブライオン・ロック (ブライアン/フレディ) 5:11 2. キラー・クイーン (フレディ) 3:00 3. テニメント・ファンスタ (ロジャー) 2:46 4. フリック・オブ・ザ・スター(フレディ) 3:17 5. 谷間のゆり - Lily Of The Valley (フレディ) 1:44 6. ナウ・アタイム・ヒア (ブライアン) 4:18 | SIDE B 1. 神々の業 - In The Lap Of The Gods (フレディ) 3:22 2. ストーン・コールド・クレイジー(クイーン) 2:16 3. ティア・フレンズ(ブライアン) 1:08 4. ミスファイア(ブライアン) 1:49 5. リロイ・ブライオン(フレディ) 2:15 6. シー・メイズ・ミー(ブライアン) 4:09 7. 神々の業 (リヴィンゲッド) - In The Lap Of The Gods Revisited(フレディ) 3:46 |
| | QUEEN | シアー・ハート・アタック |  | 1975 | ハードロック | CD | US | | | |
| | QUEEN | オペラ座の夜 |  | 1975 | ハードロック | レコード | 日本 | 75年の4作目。最高傑作として挙げられる1枚。それまで批評家達からはソッポを向かれていた彼等が、ビートルズに並ぶ国民的バンドとして認知された瞬間、と言ってもいいかもしれない。日本ではアイドル的人気はピークを迎えていた中だったので、その熱のギャップに驚くばかりだが、彼等の音楽性の進化に必死についていこうとしていた人達も当然はいたのではないだろうか。革新的な部分はむしろ録音技術にあっただけで、バラエティに富んだナンバーの全てが、それまでのプリティッシュ・ロックの総決算といった感がある。ハード・ロックからジャズ、ヴォードヴィル、フォークに至るまで、クイーン流美学とポップ・センスで彩られ、まさしくビートルズ同様、時代を超えて愛されるロック・アルバムだ。 | SIDE A 1. テス・オントゥー・レグズ (フレディ) 3:43 2. うつろな日曜日 - Lazing On A Sunday Afternoon (フレディ) 1:07 3. アイム・イン・ラヴ・ウィズ・マイ・カー (ロジャー) 3:05 4. マイ・ベスト・フレンド (ブライアン) 3:30 5. スウィート・レディ(ブライアン) 4:03 7. シーサイド・ランデヴュー - Seaside Rendezvous (フレディ) 2:15 | SIDE B 1. 預言者の唄 (The Prophet's Song)ブライアン 8:21 2. ラヴ・オブ・マイ・ライフ - Love Of My Life (フレディ) 3:39 3. グッド・カンパニー (Good Company)ブライアン 3:23 4. ボヘミアン・ラブソニー(Bohemian Rhapsody)フレディ 6:00 5. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン (God Save The Queen) 編曲:ブライアン 1:18 |
| | QUEEN | 華麗なるレース |  | 1976 | ハードロック | レコード | 日本 | 76年の5作目のアルバム。前作の「オペラ座の夜」が「7年ぶりに」なるような大規模なアルバム・タイトルとジャケット・ワーク、各メンバーが持ち寄った強烈な個性のぶつかり合いによる構成は、クイーン初の初期を完結させる名盤として今も輝々と輝いている。ロイ・トーマス・ベーカーから離れ、初のバンドによるプロデュースが更に個性的にしている。前作の完璧な流れの美しさよりも、バラエティに富んだバンドのポップ指向に重要性を見出した。この手法は以降のクイーン・サウンドの要となっていく。ゴスペルを意識した大バード「愛にすべてを」、日本語詞による「手をとりあって」、彼等がビートルズと並ぶほどのメロディで証明される事にもなった「懐かしいラヴァー・ボーイ」等、代表曲が並ぶ。ブライアン・メイお得意のハード・フキとなったオープニング曲や、フレディ抜きではありえなかったワグネル・ヴォードヴィルからの影響も色を添えています。また、このアルバムは、クイーン初の全編躍るの程の妖しい色気に満ちた、問答無用のハード・ロック。 | SIDE A 1. タイム・ア・マザー・ダウン(ブライアン) 4:47 2. テイク・マイ・プレス・アウェイ(フレディ) 5:08 3. ロング・アウェイ(ブライアン) 3:33 4. ミリオネア・ワルツ (フレディ) 4:54 5. ユー・アンド・アイ (ジョン) 3:25 | SIDE B 1. 愛にすべてを - Somebody To Love (フレディ) 4:56 2. ホワット・マン (ブライアン) 4:59 3. 懐かしいラヴァー・ボーイ - Good Old Fashioned Lover Boy(フレディ) 2:54 4. さまよい (ロジャー) 3:45 5. 手をとりあって (ブライアン) 5:57 - Teo Torriatte (Let Us Cling Together |
| | QUEEN | 世界に捧ぐ |  | 1977 | ハードロック | レコード | 日本 | 77年の6作目のアルバム。本作こそが世界的ロック・シーンで大規模な変革を遂げたアルバムであると思います。時代はパンク旋風が吹き荒れる中、クイーンはロック・ビジネスの象徴として槍玉に挙げられていた筈。事実英国では前2作がチャートNo.1を誇っていたが、本作は4位。最終的にはアメリカでの高評価が目立つアルバムとなった。また、彼等の永遠のアンセム「We Will Rock You」、「We Are The Champions」の二大名曲を含んでいるにも関わらず意外な結果だったが、大作主義を捨てポップでバラエティに富んだ曲無しアルバム作りを完成させた。元々はサード・アルバムのアウトテイクだったロジャー作の「Sheer Heart Attack」は当時のパンクを意識したものや、「Fight From The Inside」は以降のクイーン・サウンドを予見したアメリカン・ハードへの歩み寄りが見られる。クイーンは80年代のハード・ロックの離れぬメロディを生み出した。本作は70年代のハード・ロックの離れぬメロディを生み出した。 | SIDE A 1. ウィ・ウィル・ロック・ユー (ブライアン) 2:01 2. 伝説のチャンピオン - We Are The Champion (フレディ) 2:59 3. シアー・ハート・アタック (ロジャー/フレディ) 3:26 4. オール・デッド (ブライアン) 3:10 5. 永遠の翼 - Spread Your Wings (ジョン) 4:34 6. 秘めた炎 - Fight From The Inside (ロジャー) 3:03 | SIDE B 1. ゲット・ダウン・メイク・ラヴ (フレディ) 3:51 2. うつろな人生 - Sleeping On The Sidewalk (ブライアン) 3:06 3. 恋のゆくえ - Who Needs You (ジョン) 3:05 4. イッツ・レイト (ブライアン) 6:28 5. マイ・メランコリー・ブルース (フレディ) 3:29 |
| | QUEEN | 世界に捧ぐ |  | 1977 | ハードロック | CD | オランダ | | | |
| | QUEEN | ジャズ |  | 1978 | ハードロック | レコード | 日本 | 78年の7作目のアルバム。以降のクイーン・サウンドと比べても全く見劣りのない完成度を誇っている。ロイ・トーマス・ベーカーがプロデュースに復帰し、カラフルかつバラエティに富んだ構成を作り上げていて、かつて「オペラ座の夜」で構築したような美的感覚よりも、より大陸的なポップ・センスを展開しているのが見事だ。前作、「世界に捧ぐ」ですでにこの方法論は試されていたが、シングル・ヒットが狙えるナンバーばかりが揃いながら、全体のトータル・イメージを崩す事無く、最初から最後まで飽きさせずに楽しませてくれるのがクイーンの本質であったと思います。ハード・ロックから文字通りジャズ的な要素、80年代のハード・ポップ・ナンバー、そしてニュー・ウェイヴの要素まで、全てがクイーンとしか言いようのない整合性を持っていて、今改めて聴いても驚かされる。彼等のキャリスマを本作を通じて、反響的に、と、思えるならば、それは70年代のハード・ロックの離れぬメロディを生み出した。 | SIDE A 1. マスター・ファ (フレディ) 3:03 2. フット・ボトム・ガールズ (ブライアン/フレディ) 4:14 3. ジェラシー (フレディ) 3:14 4. パインクル・レース (フレディ) 3:04 5. うちひしがれて - If You Can't Beat Them (ジョン) 4:15 6. レット・ミー・エンターテイン・ユー (フレディ) 3:01 | SIDE B 1. テッド・オン・タイム (ブライアン) 3:23 2. セヴン・デイズ (ジョン) 2:30 3. ドリーマーズ・ボール - Dreamer's Ball (ブライアン) 3:30 4. ファン・イット (ロジャー/フレディ) 3:29 5. 去りがたき家 - Leaving Home Ain't Easy (ブライアン) 3:15 6. ドント・ストップ・ミー・ナウ (フレディ) 3:29 7. モア・オブ・ザット・ジャズ (ロジャー) 4:12 |

| | | | | | | | | | |
|------------|----------------|---|-------|---------------|------|----|--|--|---|
| QUEEN | ザ・ゲーム |  | 1980 | ハードロック | レコード | 日本 | 80年の遺産8作目のアルバムで、彼等の以降のサウンドを決定付けた重要作。彼等のキャリアを無理やり三期に分けるとすると、デビューから5作目の「華麗なるレース」までの大作主義が初期、「世界に捧ぐ」と「ジャズ」の世界的スタジアム・バンドとしての王道ハード・ロック路線を突き進めた中期、そして本作以降ダンス・ミュージックにも目を向けた事により、幅広いポップ・フィールドでの圧倒的支持を得た後期と言える。コンパクトなポップ・シングルを寄せ集めた様なアルバム構成は、彼等の4人の強力な個性が見事なバランスで保たれ、不思議な統一感でまとめられているのがまず奇跡的だ。初のシンセ導入も、彼等のドラマティックな面を違和感無く彩っている。ジョン・レノンに「シンセは偉業を築いた」と言われる「愛」という名の欲望...元々はマイケル | SIDE A 1. プレイ・ザ・ゲーム (フレディ) 3:30 2. ドラゴン・アタック (ブライアン) 4:18 3. 地獄へ道連れ -Another One Bites The Dust (ジョン) 3:35 4. 夜の天使 -Need Your Loving Tonight (ジョン) 2:50 5. 愛という名の欲望 -Crazy Little Thing Called Love (フレディ) 2:44 | SIDE B 1. ロック・イット (ロジャー) Taylor 4:33 2. 自殺志願 -Don't Try Suicide (フレディ) 3:52 3. スウィート・シスター (ブライアン) 3:33 4. カミング・スーン (ロジャー) 2:51 5. セイヴ・ミー (ブライアン) 3:50 |
| QUEEN | ザ・ゲーム |  | 1980 | ハードロック | レコード | 日本 | | | |
| QUEEN | ジュエルズ |  | 2004 | ハードロック | CD | 日本 | 2004年、日本編集によるベスト・アルバム。木村拓哉主演のフジテレビ系ドラマ『プライド』テーマ曲に使用された「ボーン・トゥ・ラヴ・ユー」や「ボヘミアン・ラプソディ」「ウィ・ウィル・ロック・ユー」ほか、全16曲すべてがヒット曲やタイアップ曲だ。1974年の「キラー・クイーン」から故フレディ・マーキュリーの没後に発表された『メイド・イン・ヘヴン』(1995)の3曲まで、新旧バランスのとれた選曲がなされており、もちろんそれらすべてが名曲ぞろい。クイーンの幅広い音楽性を本作1枚で語り尽くすことは不可能だが、その絢爛豪華な世界に足を踏み入れるには最適な入門編アルバムだ。 | 1. ボーン・トゥ・ラヴ・ユー (フレディ) 4:50 2. ウィ・ウィル・ロック・ユー (ブライアン) 2:01 3. 伝説のチャンピオン -We Are the Champions (フレディ) 3:01 4. ドント・ストップ・ミー・ナウ (フレディ) 3:29 5. トゥー・マッチ・ラヴ・ウィル・キル・ユー (ブライアン) 4:19 6. レット・ミー・リヴ (クイーン) 4:45 7. マイ・ベスト・フレンド (ジョン) 2:50 | 8. アンダー・プレッシャー (クイーン/デヴィッド・ボウイ) 3:56 9. RADIO GA GA (ロジャー) 5:48 10. 愛にすべてを -Somebody to Love (フレディ) 4:56 11. キラー・クイーン (フレディ) 2:59 12. 地獄へ道連れ -Another One Bites the Dust (ジョン) 3:34 13. 愛という名の欲望 -Crazy Little Thing Called Love (フレディ) 2:42 |
| QUEEN | クイーン ライヴ・キラーズ |  | 1979 | ハードロック | レコード | 日本 | クイーン初のライブ・アルバム。1979年8月22日に発売。チャートは全英3位、米チャートは最高位16位を記録。音源のほとんどは1979年ケルンやミンヘンなどを回ったドイツ公演から選ばれている。彼らの70年代を総括したような華麗なステージがそのままパッケージされている。フレディの伸びのある歌声と安定したリズム感、観客を引き込むテクニックが完璧で盛り上げている。ブライアンのギターは何時も安定感抜群で、ここでの演奏も完璧だ。オープニングのWe will rock youのロックンロール感にあふれるリフとスリリングなソロパートに既に引き込まれる。バラードのSpread your wingは名演だ。グループ全員がエネルギーあふれていた初期のクイーン期のロックンロールの疾走感が感じられるアルバムだ。その後、アルバムについて、ブライアンとロジャーがラジオ番組出演時に一部の収録曲にギターを自主録音した2006年リリースのライブ・アルバム『クイーン・ライヴ・オン・ステージ』からリミックスした曲入りEP。デビュー当時からアイアン・メイデンやジュダス・プリーストといったヨーロッパのヘビーメタルからの影響が強く、既に今作からもそれが色濃く出ています。音質はやや粗く、曲も4曲しか収録されていませんが、このアルバムを構成している4曲の楽曲の完成度の見事さ、他の追随を許さない、極めて高いオリジナリティ溢れるヘビーメタルアルバムで、おもしろい身震いをしてしまうほど。ポーカーに比べ、様式美を奏するすばらしいリフの嵐、聴く者の琴線に響くインギター、また、スコット・ロックンフィールド(RIP)を軸とする的確なリズム隊、どこを切り取ってもメタル！このバンドはその後、正統派の香りはのこしつつも、スペースワールド的かつ壮大・荘厳なる楽曲(『ウォーニング』など)によって、一挙にメタル界に覇をふるった。このアルバムは、その進歩はもはや他は追いつけぬ。言いつ | Disc 1 SIDE A 1. ウィ・ウィル・ロック・ユー 2. レット・ミー・エンターテイン・ユー 3. デス・オン・トゥ・レックス 4. キラー・クイーン 5. バイシクル・レース 6. アイム・イン・ラヴ・ウィズ・マイ・カー 7. ゲット・ダウン・メイ・ラヴ 8. マイ・ベスト・フレンド SIDE B 1. ナウ・アイム・ヒア 2. キー・トゥ・エデン Disc 2 SIDE A 1. Queen Of The Reich (女王の国) 2. ナイトライダー | Disc 2 SIDE A 1. ドント・ストップ・ミー・ナウ 2. 永遠の翼 3. プライム・ロック SIDE B 1. ボヘミアン・ラプソディ 2. タイム・マシーナ・ダウン 3. シア・ハート・アタック 4. ウィ・ウィル・ロック・ユー 5. 伝説のチャンピオン 6. ゴッド・セイヴ・ザ・クイーン (インストルメンタル) |
| QUEENSRÿCE | クイーンズライチ |  | 1983年 | | レコード | 日本 | 1983年にクイーンズライチが自主レーベル「206レコーズ」からリリースした4曲入りEP。デビュー当時からアイアン・メイデンやジュダス・プリーストといったヨーロッパのヘビーメタルからの影響が強く、既に今作からもそれが色濃く出ています。音質はやや粗く、曲も4曲しか収録されていませんが、このアルバムを構成している4曲の楽曲の完成度の見事さ、他の追随を許さない、極めて高いオリジナリティ溢れるヘビーメタルアルバムで、おもしろい身震いをしてしまうほど。ポーカーに比べ、様式美を奏するすばらしいリフの嵐、聴く者の琴線に響くインギター、また、スコット・ロックンフィールド(RIP)を軸とする的確なリズム隊、どこを切り取ってもメタル！このバンドはその後、正統派の香りはのこしつつも、スペースワールド的かつ壮大・荘厳なる楽曲(『ウォーニング』など)によって、一挙にメタル界に覇をふるった。このアルバムは、その進歩はもはや他は追いつけぬ。言いつ | Side A 1. Queen Of The Reich (女王の国) 2. ナイトライダー | Side B 1. Blinded (盲目の行進) 2. The Lady Wore Black (喪服の女) |
| QUIET RIOT | メタル・ヘル |  | 1983 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 83年作、LAメタルの繁栄と衰退を象徴するアルバムであり、80年代ハード・ロックが持っていたキラキラした毒気と甘さが同居した大名盤。ランディ・ローズの急逝により、70年代に2枚のアルバムを残し消えていったバンドを復活させ、カヴァー・ブームのはしりともなったキャッチーでカラッとしたサウンドは、この時のお手本的内容となっています。クワイエット・ライオットの名前自体はその後のいろいろな意味で語り草となり、一発屋としてのイメージが大きく残りましたが、本作の持つウキウキ度は今聴いても鮮度は薄れていない気がします。 | Side A 1. メタル・ヘル 2. カモン・フィール・ザ・ノイズ 3. ドント・ワナ・レット・ユー・ゴー 4. スリック・ブラック・キャデラック 5. ラヴズ・ア・ピッチ | Side B 1. プレスレス 2. ラン・フォー・カヴァー 3. バトル・アックス 4. レット・ゲット・クレイジー 5. サンダーバード |
| QUIET RIOT | コンディション・クリティカル |  | 1984 | ハードロック/ヘヴィメタル | レコード | 日本 | 83年にリリースした復活後第2弾作。ビッグ・ヒットとなった前作を踏襲せず、ゴッド会社の思惑により、前作で得た成功を失わない為に、路線を維持した結果裏目となったアルバム。ただ、それ程当時の彼等はキャッチーなメタル・ソングを作っていたので解るが、ただ賞味期限がそろそろきていた感も否めない。スペンサー・プロファアの手腕が光るアルバム・タイトル曲のビッグなドラマ・サウンドも引き継がれている。キャッチーな歌メロ、カルロス・サヴァーノのフラッシュなギターとタイトなリズム隊の組み合わせは、80年代のメタルのプロタイプとして完全に機能しているが、そもそもが一過性のブームとも言えたポップ・メタルが、本作以降より華麗に、より過激に変貌していったのは、インパクトが強ければ強い程、その鮮度の期限は短命であるのが宿命だった。彼等は進化より現状維持を優先し、本失敗と言ふのはあまりにも過激な結果になってしまったが、ただ、駐在 | Side A 1. 時代の証し -Sign Of The Times 2. クレイジー・ママ -Mama Weer All Crazee Now 3. パーティー・オールナイト 4. 癡狂のクワイエットライオット -Stomp Your Hands, Clap Your Feet 5. 勝利の味 -Winners Take All | Side B 1. コンディション・クリティカル 2. スクリーム&シャウト 3. レッド・アラート 4. バッド・ボーイ 5. ボーン・トゥ・ロック |